

# 食品ロスに関する県民意識調査

## 報 告 書

令和 8 年 2 月

秋 田 県



# 目 次

I. 調査の概要	1
II. 回答者の属性	4
III. 調査結果	6
i 調査結果の概要	6
ii 調査結果の詳細	9
<b>1 食品ロスへの関心について</b>	
1. 1 食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。	10
1. 2 食品ロスがSDGsの目標になっていることを知っていますか。	13
1. 3 食生活などで「もったいない」と感じるのはどんなときですか。	16
1. 4 賞味期限を過ぎた食品をどのようにしていますか。	21
<b>2 家庭での食品ロス削減の取組について</b>	
2. 1 料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていること や工夫していることはありますか。	24
2. 2 料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。	30
2. 3 食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。 .....	35
2. 4 最近の1か月間に捨ててしまった生鮮食品を教えてください。	41
2. 5 未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまったことはありますか。捨ててしまったと きの理由を教えてください。	45
<b>3 買い物での食品ロス削減の取組について</b>	
3. 1 買い物の頻度は、次のどれにあたりますか。	51
3. 2 買い物をするとき、どのようなお店を選びますか。	54
3. 3 買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることは ありますか。	60
3. 4 棚の手前から商品をとる「てまえどり」を知っていますか。また、実践していますか。 .....	66
<b>4 外食での食品ロス削減の取組について</b>	
4. 1 お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準の1つとして いますか。	69
4. 2 外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。..	72
4. 3 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ったことはありませ るか。	78
4. 4 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由は次 のどれにあたりますか。	81

4. 5	宴会や会食において、最初の30分間と最後の10分間は離席せずに食事を楽しむ「3010運動」を知っていますか。また、宴会等で呼びかけたことはありますか。..	88
4. 6	最近の1年間に於いて、宴会や会食において、「3010運動」を呼びかけられたことがありますか。また、呼びかけられたときは、実践しましたか。.....	91
<b>5 災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について</b>		
5. 1	長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることはありますか。.....	94
<b>6 フードバンク活動などについて</b>		
6. 1	「フードバンク活動」や「フードドライブ」を知っていますか。.....	101
6. 2	フードバンク活動（フードドライブ）を実施している団体に対して、食料品の提供や支援をしたことがありますか。.....	104
<b>7 資源やエネルギーの有効活用などについて</b>		
7. 1	食べ残したのちについて有効利用等する取組を行ってれば教えてください。...	106
7. 2	地球温暖化についてどの程度、興味や関心がありますか。.....	110
7. 3	取り組んでいることについて教えてください。.....	113
7. 4	住宅用太陽光発電設備を設置する予定がありますか。.....	119
7. 5	環境に配慮した「カーボン・オフセット商品」を購入したいと思いませんか。.....	122
7. 6	知っている、秋田県温暖化対策課等の施策について教えてください。.....	125
7. 7	地球温暖化の防止に向けて、県にどのような取組を期待しますか。.....	131
IV.	クロス集計結果（参考）.....	138
V.	参考資料：その他回答内容一覧.....	144

## I. 調査の概要

### 1 調査の目的

県民の食品ロスに関する意識や行動等の実態を把握し、秋田県食品ロス削減推進計画の見直し等に活用することを目的に実施する。

### 2 調査の内容

- (1) 食品ロスへの関心について
- (2) 家庭での食品ロス削減の取組について
- (3) 買い物での食品ロス削減の取組について
- (4) 外食での食品ロス削減の取組について
- (5) 災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について
- (6) フードバンク活動などについて
- (7) 資源やエネルギーの有効活用などについて
- (8) あなたご自身について

### 3 調査の設計

- (1) 調査対象者：県内に居住する満 18 歳以上の男女
- (2) 標 本 数：3,000 人
- (3) 標本抽出方法：全県 25 市町村の選挙人名簿を基にした層化無作為抽出法
- (4) 調 査 方 法：往復郵送による無記名アンケート方式（インターネット回答併用）
- (5) 調 査 期 間：令和 7 年 9 月 24 日（水）～10 月 22 日（水）
- (6) 調 査 機 関：株式会社フィデア情報総研

### 4 回収結果

- (1) 調査票回収数：1,862 件（回 収 率：62.1%）
- (2) 有効回答数：1,862 件（有効回収率：62.1%）

### 5 集計・分析に当たって

- (1) 調査結果の数値は原則として回答率（%）で表記している。
- (2) 回答数の母数は、その質問項目に関する回答者の数であり、「n = 」と表記している。  
また、複数回答可の質問についても回答者の数としている。
- (3) 集計は、小数点以下第 2 位を四捨五入し、小数点以下第 1 位まで表記してある。このため、各回答率を合計しても 100.0%とならない場合がある。また、複数回答可の質問では、回答者数に対する回答率のため、各回答率の合計は 100.0%を超える場合がある。
- (4) 報告文やグラフ等の表現は、可能な限り調査票の表現を用いたが、スペースなどの関係から、一部省略した表現としている場合がある。
- (5) 「その他」の回答内容については、誤字等を訂正しているため、掲載文は回答の原文とは異なる場合がある。

# I. 調査の概要

## 6 標本抽出

(1) 母集団全体から一部を抽出する標本調査では、母集団全体を対象とする調査に比べ、何らかの誤差が生じる。本調査では、標本回収率 50%、信頼度 95%、標本誤差 2.5%と設定し、3,000 人の標本を抽出した。

(2) 無作為抽出した場合の誤差は、次の式によって求められる。

$$(\text{標本誤差}) = k \sqrt{\frac{(M-n)}{(M-1)} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

M : 母集団

n : 有効回答数

k : 信頼率による定数\*

p : 回答比率

\*一般的に信頼率 95%とすることが多く、その場合、k=1.96 となる。

(3) 「信頼度」95% (k=1.96) の「標本誤差」は次の表の通りである。

回答比率 標本数	10%	20%	30%	40%	50%
3,500	±1.0	±1.3	±1.5	±1.6	±1.7
3,000	±1.1	±1.4	±1.6	±1.8	±1.8
2,000	±1.3	±1.8	±2.0	±2.1	±2.2
1,000	±1.9	±2.5	±2.8	±3.0	±3.1
500	±2.6	±3.5	±4.0	±4.3	±4.4

(4) 例えば、全体の 40%から「知っている」という回答が得られた場合、95%の確率で母割合（県民が「知っている」と考える割合）を 40%±1.8%の範囲内に含むことを意味する。

つまり、本調査における全体の 40%という結果は、県民全体ではおおむね 38.2%～41.8%の範囲にあると推定される。

## 7 標本内訳

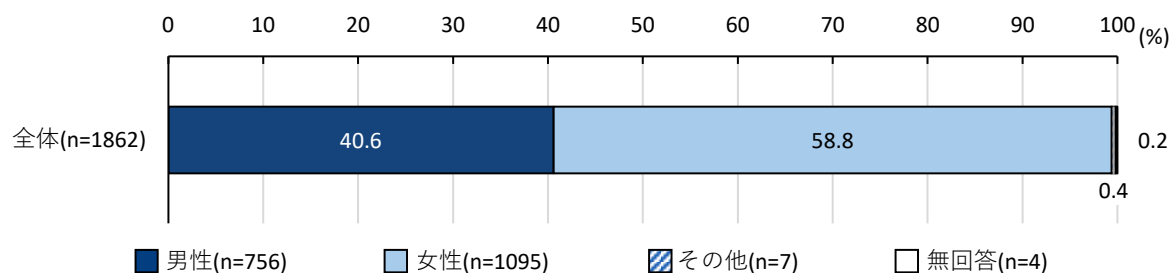
各市町村の満 18 歳以上の人口の構成比に応じて、3,000 の標本を比例分配した。

地域名	市町村名	標本数
【 全 県 】		3,000
鹿角地域	鹿角市	89
	小坂町	15
北秋田地域	大館市	217
	北秋田市	94
	上小阿仁村	6
山本地域	能代市	158
	藤里町	9
	三種町	48
	八峰町	21
秋田地域	秋田市	959
	男鹿市	80
	五城目町	27
	八郎潟町	18
	潟上市	102
	井川町	14
	大潟村	10
由利地域	由利本荘市	232
	にかほ市	73
仙北地域	大仙市	244
	仙北市	77
	美郷町	58
平鹿地域	横手市	266
雄勝地域	湯沢市	133
	羽後町	43
	東成瀬村	7

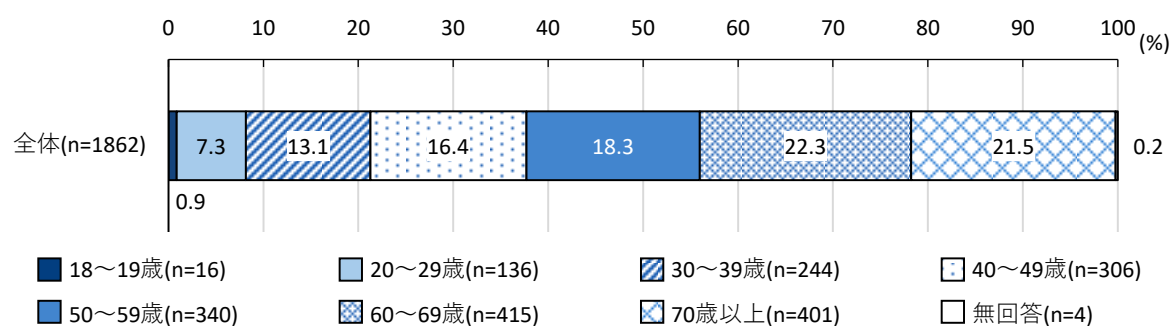
## II. 回答者の属性

### II. 回答者の属性

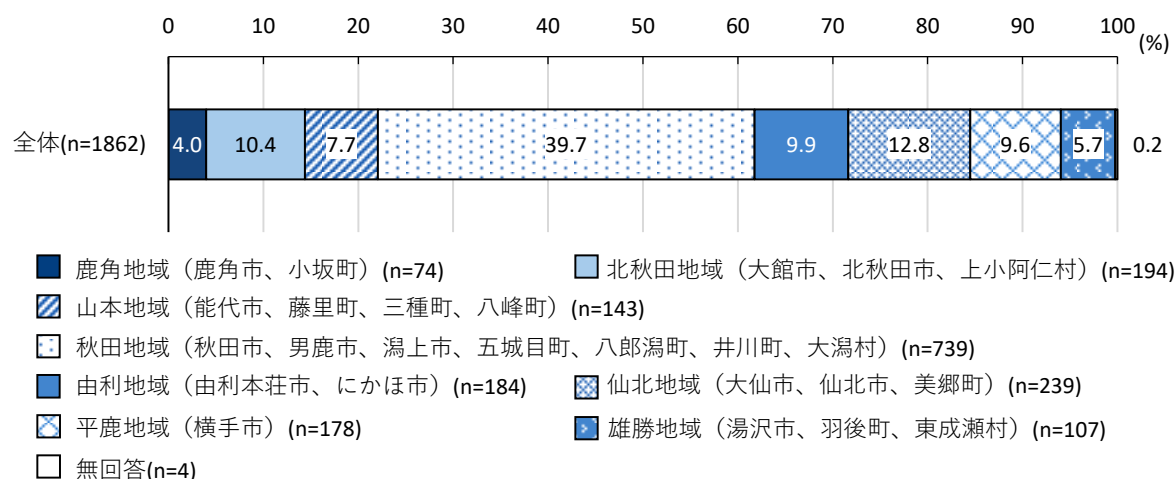
#### ◆性別



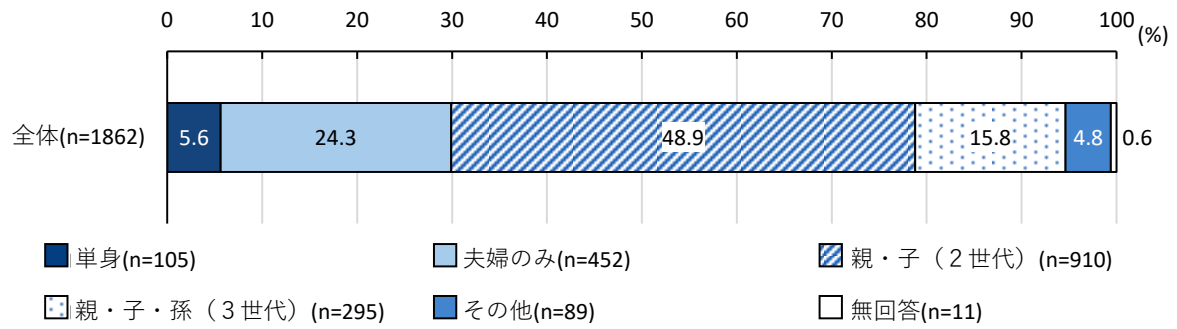
#### ◆年齢



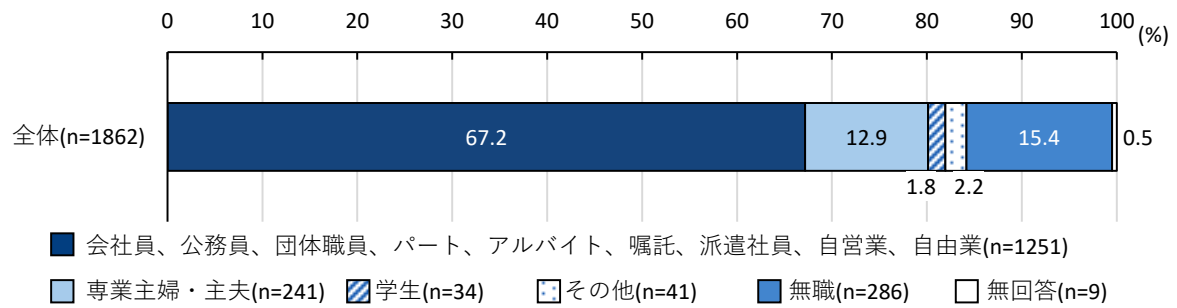
#### ◆居住地域



◆家族構成



◆職業



※「会社員、公務員、団体職員、パート、アルバイト、嘱託、派遣社員、自営業、自由業」については、以降の本文中およびグラフ内では「会社員等」と表記する。

### Ⅲ. 調査結果

#### Ⅲ. 調査結果

##### i 調査結果の概要

###### (1) 全体

本調査の結果から、食品ロスが社会的な課題であることについては9割以上が認知しており、食品ロス削減がSDGsの目標となっていることについても一定程度の認知がみられるなど、食品ロスに関する問題意識は広く認識されている。また、賞味期限や日常生活における判断については、状況に応じて対応していると回答が多く、食品を無駄にしない意識が一定程度浸透している様子がうかがえる。

具体的な行動面をみると、家庭や買い物、外出といった日常のさまざまな場面において、食べきれない量を意識する、残さず食べる、冷凍保存を活用するなど、取り組みやすい行動を中心に食品ロス削減の取組が広がっている。一方で、生鮮食品の廃棄や、未開封・未使用の食材の廃棄も一定程度発生している。

また、取組状況を属性別にみると、家庭内の管理や備蓄食品の活用などについては、中高年層で比較的高い傾向がみられる一方、若年層では取組が十分に定着していない項目もみられる。さらに、「フードバンク活動」や「3010運動」、「カーボン・オフセット商品」等の認知や活用については限定的であり、認知と実際の活用との間に差がある状況が示されている。

このように、本調査からは、食品ロス削減に対する意識は一定程度高いものの、行動の定着や取組の広がりには分野や層による違いがうかがえる。

###### (2) 食品ロスへの関心について (P10~P23)

食品ロスが問題となっていることについて、回答者の9割以上が認知しており、食品ロス削減がSDGsの目標になっていることについては、約7割が認知している。

普段の食生活などで「もったいない」と感じる場面としては、「腐敗や期限切れなどにより食べ物を捨てる時」を挙げている回答者が最も多く、次いで「食品廃棄に関するニュースを見たとき」などが続いている。

また、賞味期限切れの食品については、「見た目や匂いで判断して食べている」および「あまり気にせず食べている」の割合が合わせて9割程度を占めており、賞味期限に対して一律に廃棄するのではなく、状況に応じて判断している様子がうかがえる。

**(3) 家庭での食品ロス削減の取組について (P24～P50)**

家庭での食品ロス削減に向けた取組についてみると、料理を作る際や保存の場面では、「冷凍保存の活用」を行っている人と回答している人が7割程度と最も多く、次いで「作り過ぎない」が6割弱となっている。一方で、特に取り組んでいないとする回答はごく少数にとどまっている。

また、食事の際には、「食べきれ的分だけ取り分ける」や「残さず食べる」といった行動を心がけているとする回答がともに6～7割程度を占めている。

冷蔵庫内の食品管理については、「賞味期限を過ぎてもすぐには捨てず、自分で食べられるか判断している」が7割程度と多く、「こまめな確認」や「整理・収納の工夫」を行っている人も一定割合みられる。

一方、直近1か月間に生鮮食品を「全く捨てていない」とする回答は2割程度にとどまり、また、未開封・未使用の食材・食品を廃棄した理由としては、「保存していることを忘れ、傷んでしまった」が5割で最も高い割合となっている。

なお、年齢別にみると、調理や保存、冷蔵庫内の食品管理に関する取組については、若年層に比べて中高年層で割合が高い傾向がみられるほか、生鮮食品を「全く捨てていない」とする回答は高年齢層で多い傾向にある。

**(4) 買い物での食品ロス削減の取組について (P51～P68)**

買い物の頻度については、「週3、4回程度」が5割弱と最も多く、買い物をする際に選ぶ店としては、「距離が近い店」や「買いたい物が安く手に入る店」を挙げる回答が6割前後、「品揃えがよい店」が5割程度となっている。

食品ロス削減を意識した買い物行動としては、「割引商品の購入」が6割程度と最も多く、次いで「食べきれる量を購入する」や「買い物リストを作成する」といった行動がともに4～5割程度を占めている。一方で、特に取り組んでいないとする回答はごく少数にとどまっている。

また、「てまえどり」については、8割以上が認知している一方で、「認知していて、かつ、実践している」人は4割弱にとどまっている。なお、属性別にみると、「てまえどり」について、若年層で実践している割合が高い一方、高年齢層では認知していても実践していない割合が高い傾向がみられる。

**(5) 外食での食品ロス削減の取組について (P69～P93)**

外食時、店を選ぶ際に食品ロス削減の取組を選択基準の一つとしているとする回答は2割程度にとどまっている。一方、外食時の行動としては、「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」や「残さず食べる」といった行動を心がけているとする回答が7割前後となっており、個々の行動レベルでは食品ロス削減を意識している様子が見える。

また、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰った経験については、「持ち帰ったことがない」が8割程度と多いが、そのうち7割は「食べきれなかったことがない」「飲食店を利用していない」と回答している。なお、「持ち帰るという発想がなかった」や「衛生的に気になる」などを挙げる回答も一定割合みられる。

さらに、宴会や会食における食品ロス削減の取組である「3010運動」の認知度は2割弱となっており、実際に呼びかけられた経験がある人は1割未満にとどまっている。

### Ⅲ. 調査結果

#### (6) 災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について (P94～P100)

備蓄食品を無駄にしないために行っていることについては、「定期的に賞味期限を確認している」と回答している人が5割弱と最も多く、次いで「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用している」が4割弱となっている。一方で、「特に何もしていない」とする回答も3割程度を占めている。

なお、属性別にみると、男性や若年層、単身世帯、学生では「特に何もしていない」とする回答が比較的多い一方、年齢が高い層では、期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用するなど、備蓄食品を計画的に管理・活用している傾向がみられる。

#### (7) フードバンク活動などについて (P101～P105)

フードバンク活動やフードドライブについて、6割弱が認知しており、属性別にみると、男性や18～19歳で認知が低い傾向にある。

また、フードバンク活動（フードドライブ）を実施している団体に対して、実際に食料品の提供や支援を行った経験があるとする回答は1割未満にとどまっており、多くは支援経験がない状況となっている。

#### (8) 資源やエネルギーの有効活用などについて (P106～P137)

食べ残したものの有効利用に関する取組についてみると、「特に取り組んでいることはない」とする回答が8割弱と最も多く、家庭での堆肥化など、食べ残しを資源として活用する取組は1割程度にとどまっている。一方、地球温暖化に対する意識については、「非常に興味・関心がある」または「興味・関心がある」とする回答を合わせると7割程度を占めており、一定の関心が示されている。

日常生活における環境配慮行動については、「マイバッグやマイバスケットの持参」が8割以上と最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」が5割程度、「省エネ家電やエコカーの優先購入」が4割弱となっており、比較的取り組みやすい行動を中心に実践が進んでいる状況がうかがえる。「特に取り組んでいることはない」とする回答はごく少数となっている。

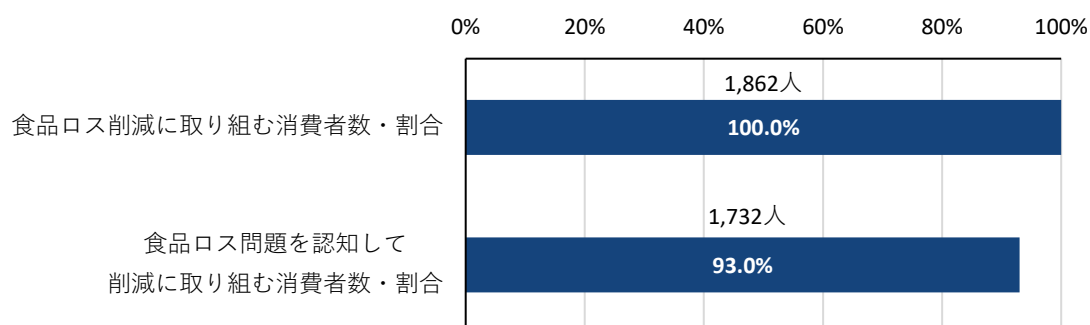
また、「カーボン・オフセット商品」については、2割弱の認知にとどまり、積極的に購入している人はごく少数となっている。

県の地球温暖化対策に関する施策の認知については、「知っている施策はない」とする回答が7割程度となっている。一方で、地球温暖化防止に向けて県に期待する取組としては、「省エネ家電やエコカーの購入への補助」や「住宅の断熱改修への補助」、「地球温暖化や省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」などを挙げる回答が4～6割程度となっている。

ii 調査結果の詳細

食品ロス削減に取り組む消費者の人数・割合※1 : 1,862人 (100.0%)

食品ロス問題を認知して削減に取り組む消費者の人数・割合※2 : 1,732人 (93.0%)



※1 全回答者のうち、「食品ロス削減に取り組んでいない人」を除いた人数・割合

※2 問1. 1でAまたはBを選択した者のうち、「食品ロス削減に取り組んでいない人」を除いた人数・割合

「食品ロス削減に取り組んでいない人」の算出方法

1. 4 (A)、2. 1 (F)、2. 2 (D)、2. 3 (E)、3. 3 (G)、3. 4 (CまたはD)、4. 1 (B)、4. 2 (F)、4. 5 (BまたはC)、4. 6 (BまたはC)、5. 1 (F)をすべて選択している者。

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。	A よく知っている B ある程度知っている
1.4 あなたは、賞味期限を過ぎた食品をどのようにしていますか。	A 賞味期限が切れたものは捨てている
2.1 あなたは、料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていることや工夫していますか。	F 取り組んでいることはない
2.2 あなたは、料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。	D 気をつけていることはない
2.3 あなたは、食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。	E 取り組んでいることはない
3.3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか。	G 取り組んでいることはない
3.4 あなたは、棚の手前から商品をとる「てまえどり」を知っていますか。また、実践していますか。	C 「てまえどり」は知っているが、実践していない D 「てまえどり」は知らず、実践していない
4.1 あなたは、お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準の1つとしていますか。	B していない
4.2 あなたは、外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。	F 気をつけていることはない
4.5 あなたは、宴会や会食において、最初の30分間と最後の10分間は離席せずに食事を楽しむ「3010運動」を知っていますか。また、宴会等で呼びかけたことはありますか。	B 「3010運動」を知っているが、宴会等で呼びかけたことはない C 「3010運動」を知らない
4.6 最近の1年間に於いて、宴会や会食において、「3010運動」を呼びかけられたことがありますか。また、呼びかけられたとき	B 呼びかけられたことがあるが、実践しなかった C 呼びかけられたことはない
5.1 あなたは、長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることはありますか。	F 何もしていない

### Ⅲ. 調査結果

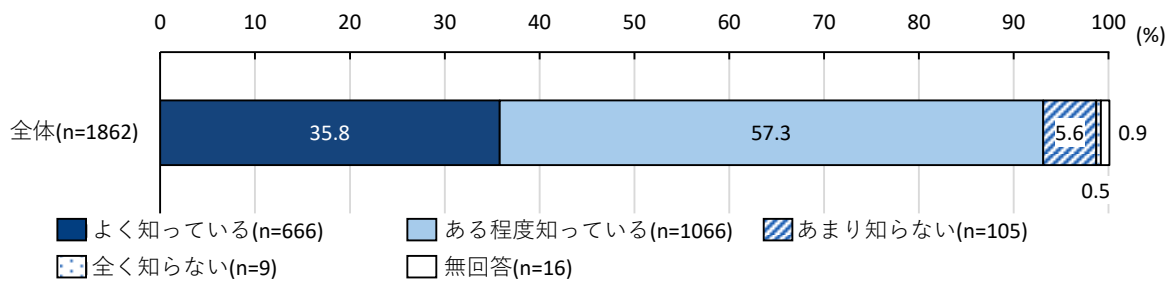
#### 1 食品ロスへの関心について

1. 1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。（1つだけに○）

##### 【全体】

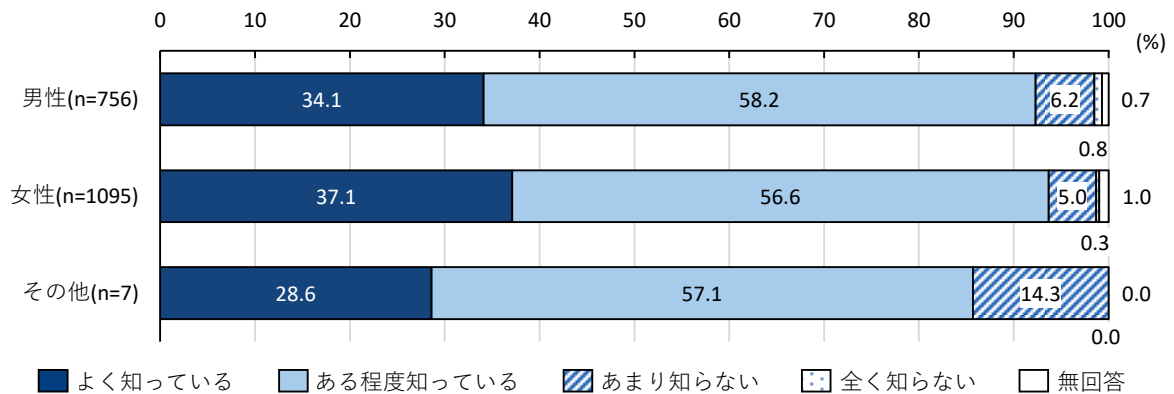
「ある程度知っている」の割合が57.3%で最も高く、次いで「よく知っている」(35.8%)、「あまり知らない」(5.6%)などの順で続いている。

また、「よく知っている」と「ある程度知っている」を合わせた割合（以下『知っている』）は93.1%、「あまり知らない」と「全く知らない」を合わせた割合（以下『知らない』）は6.1%であり、回答者の9割が食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを認知している。



##### 【性別】

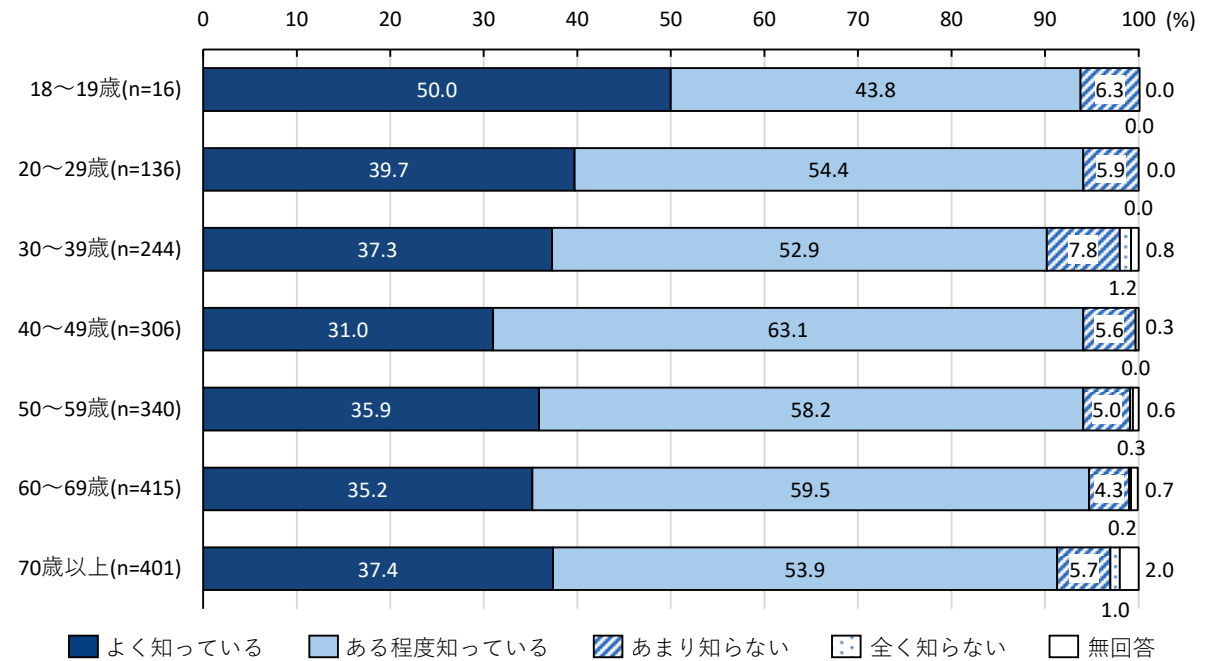
性別にみると、『知っている』の割合は、男女ともに9割を占めており、性別による大きな差はみられない。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても『知っている』の割合が9割を占めており、『知らない』の割合を上回っている。

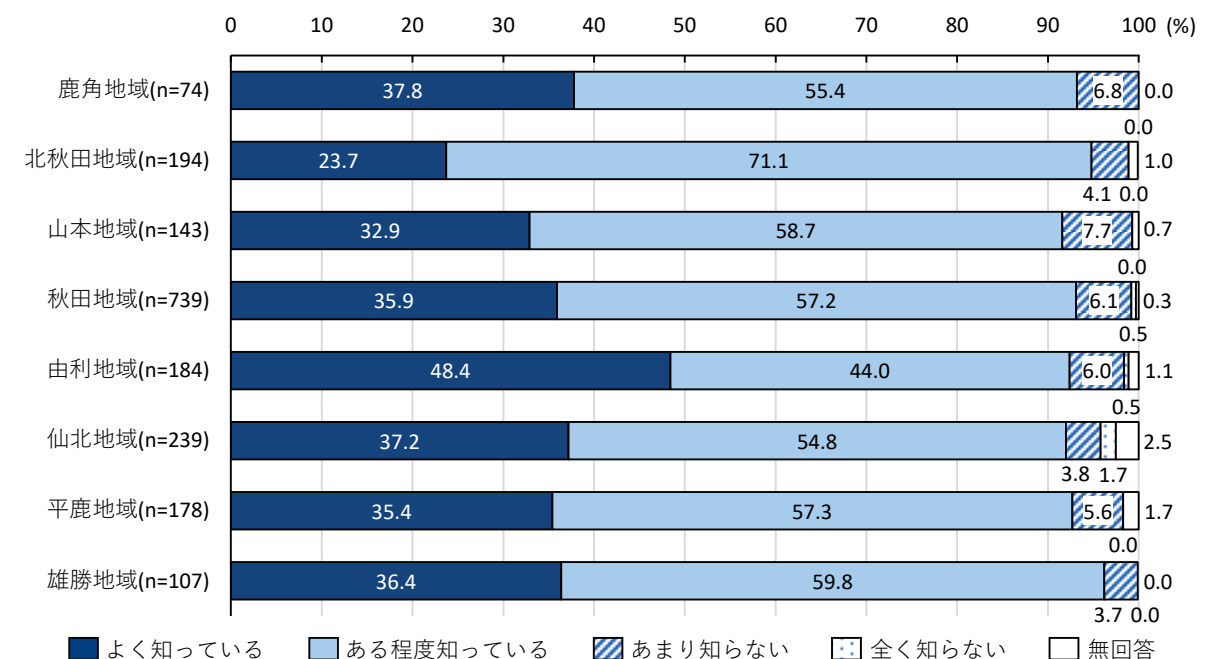
「よく知っている」の割合は、18～19歳では5割台であり比較的高い一方、20歳以上ではいずれも3割台となっている。



【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても『知っている』の割合が9割を占めており、『知らない』の割合を上回っている。

「よく知っている」の割合は、由利地域が4割台で最も高く、北秋田地域が2割台で最も低くなっている。他6地域では3割台となっている。

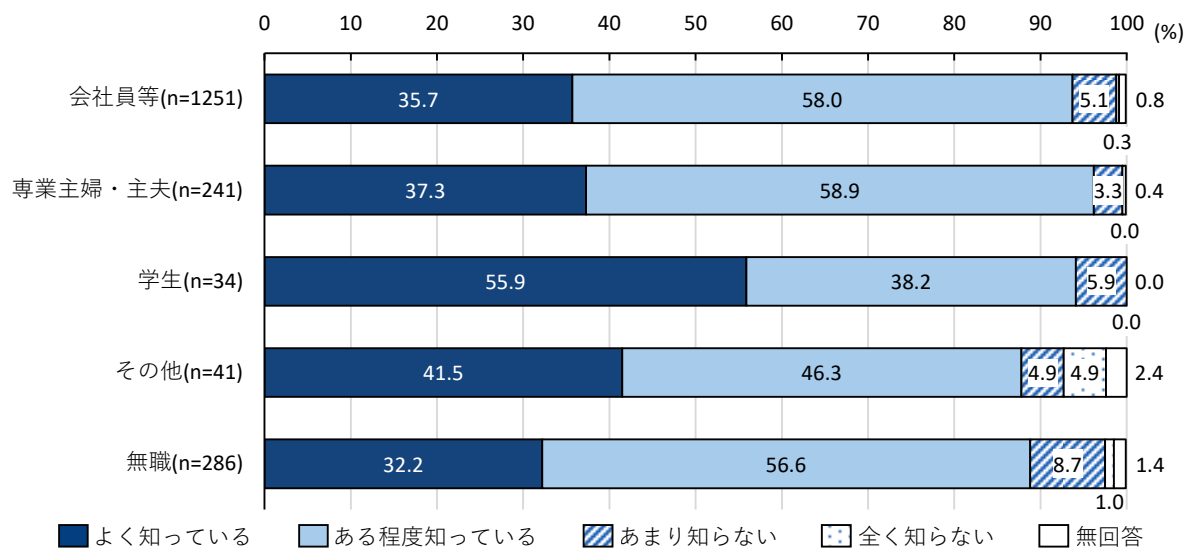


### Ⅲ. 調査結果

#### 【職業別】

職業別にみると、『知っている』の割合は、その他および無職では8割台、他3区分ではいずれも9割を占めている。

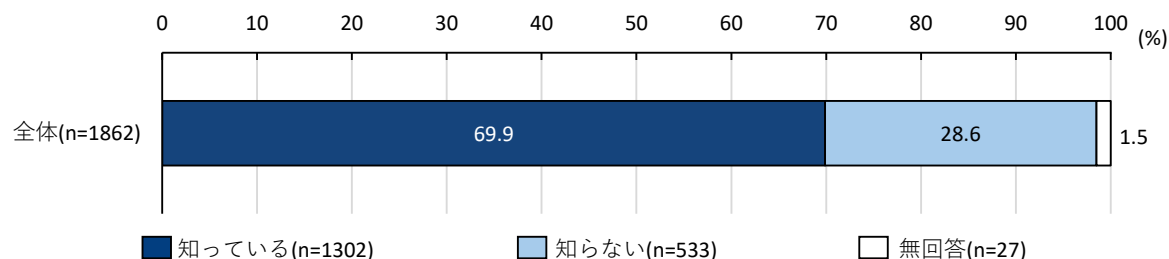
また、「よく知っている」の割合は、学生では5割台であり比較的高い一方、他4区分では3～4割台となっている。



1. 2 あなたは、食品ロスがSDGs※の目標になっていることを知っていますか。(1つだけに○)

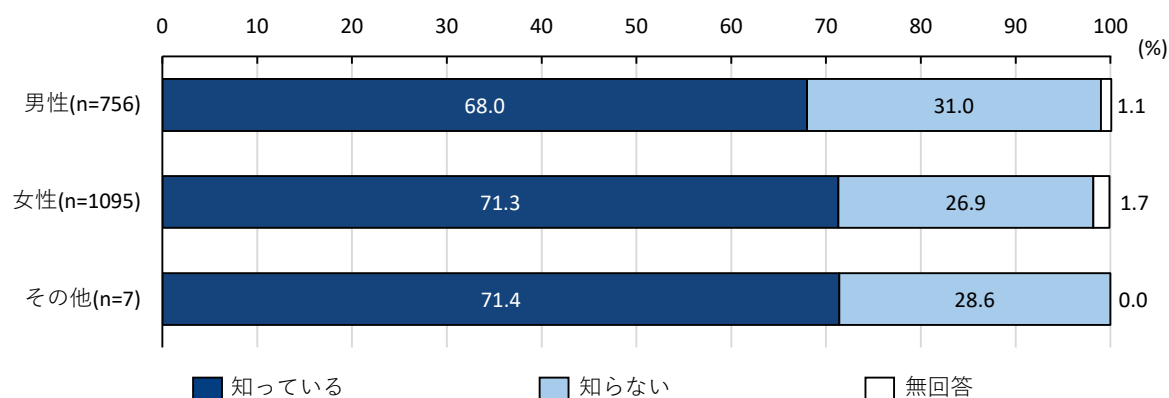
【全体】

「知っている」は69.9%、「知らない」は28.6%となっており、回答者の約7割が、食品ロスがSDGsの目標になっていることを認知している。



【性別】

性別にみると、「知っている」の割合は、男女ともに7割前後となっており、性別による大きな差はみられない。

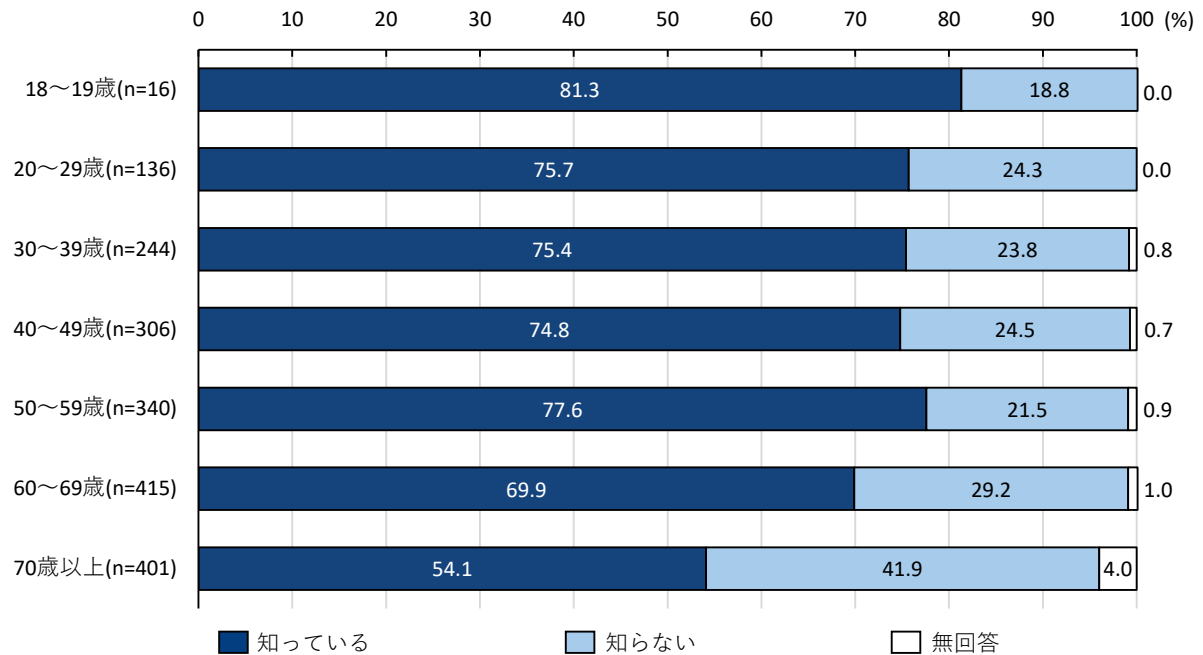


※SDGsとは、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す17の国際目標です。

### Ⅲ. 調査結果

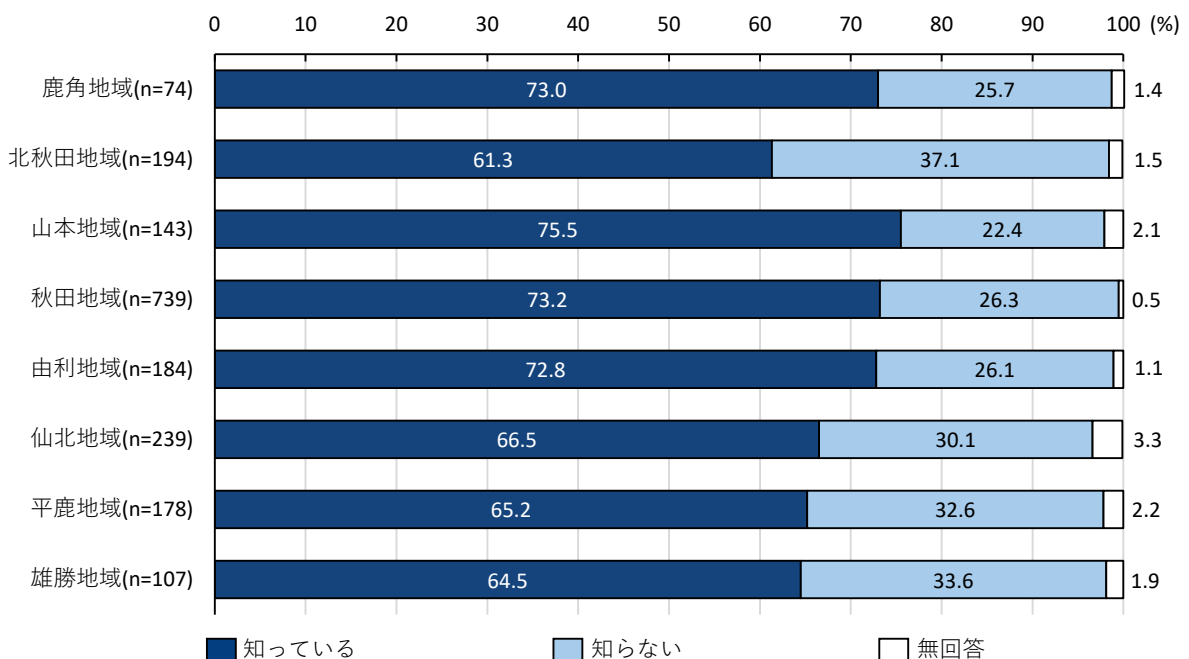
#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「知っている」の割合が「知らない」を上回っており、18～19歳が8割台で最も高く、20～59歳では7割台、60歳代では6割台、70歳以上では5割台となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向にある。



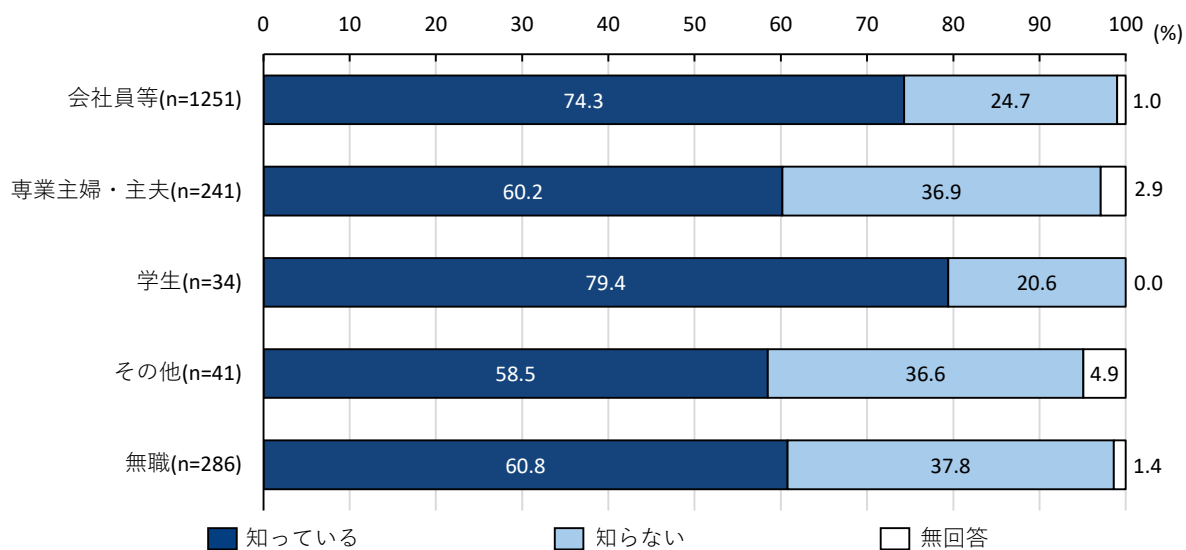
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「知っている」の割合が「知らない」を上回っており、鹿角地域、山本地域、秋田地域、由利地域の4地域では7割台、他4地域では6割台となっている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「知っている」の割合が「知らない」を上回っており、会社員等および学生では7割台、専業主婦・主夫および無職では6割台となっている。



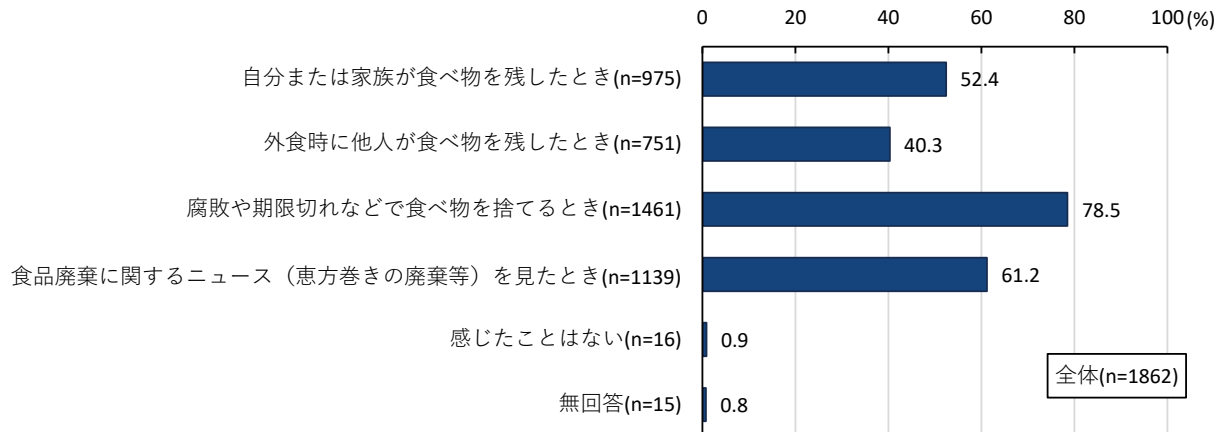
### Ⅲ. 調査結果

#### 1. 3 あなたは、食生活などで「もったいない」と感じるのはどんなときですか。(当てはまるものすべてに○)

##### 【全体】

「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」の割合が78.5%で最も高く、次いで「食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき」（61.2%）、「自分または家族が食べ物を残したとき」（52.4%）、「外食時に他人が食べ物を残したとき」（40.3%）の順で続いている。

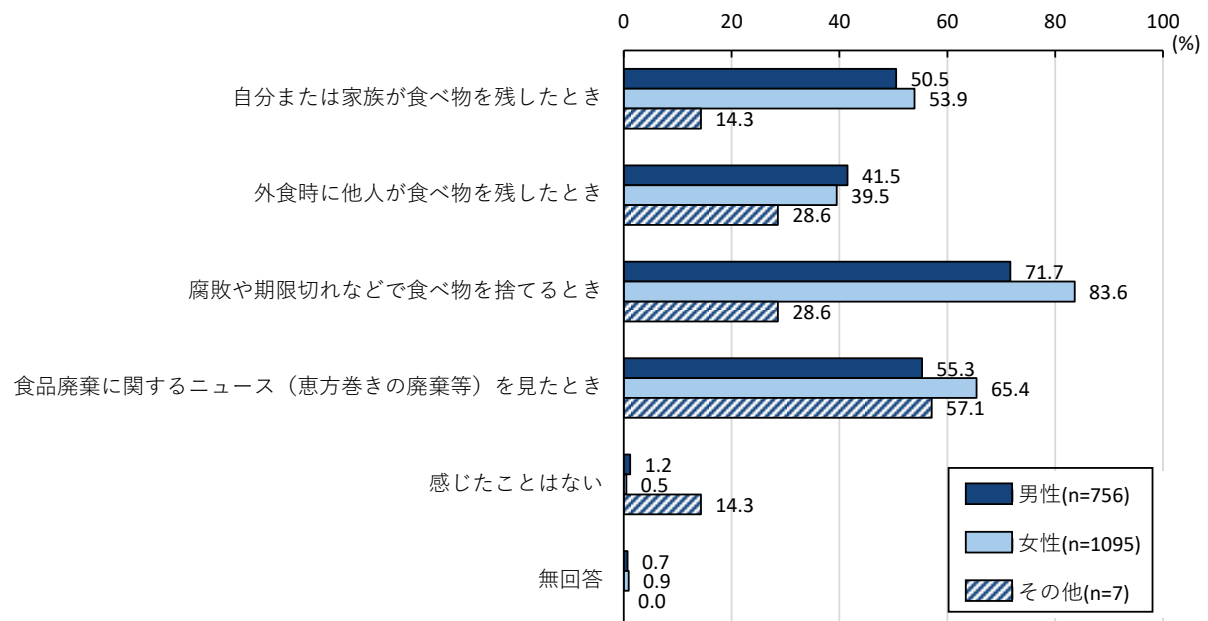
一方、「感じたことはない」は0.9%となっている。



##### 【性別】

性別にみると、男女ともに「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」の割合（男性：71.7%、女性：83.6%）が最も高く、次いで「食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき」（男性：55.3%、女性：65.4%）、「自分または家族が食べ物を残したとき」（男性：50.5%、女性：53.9%）の順で続いている。

また、「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」（男性：71.7%、女性：83.6%）および「食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき」（男性：55.3%、女性：65.4%）では、いずれも女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。

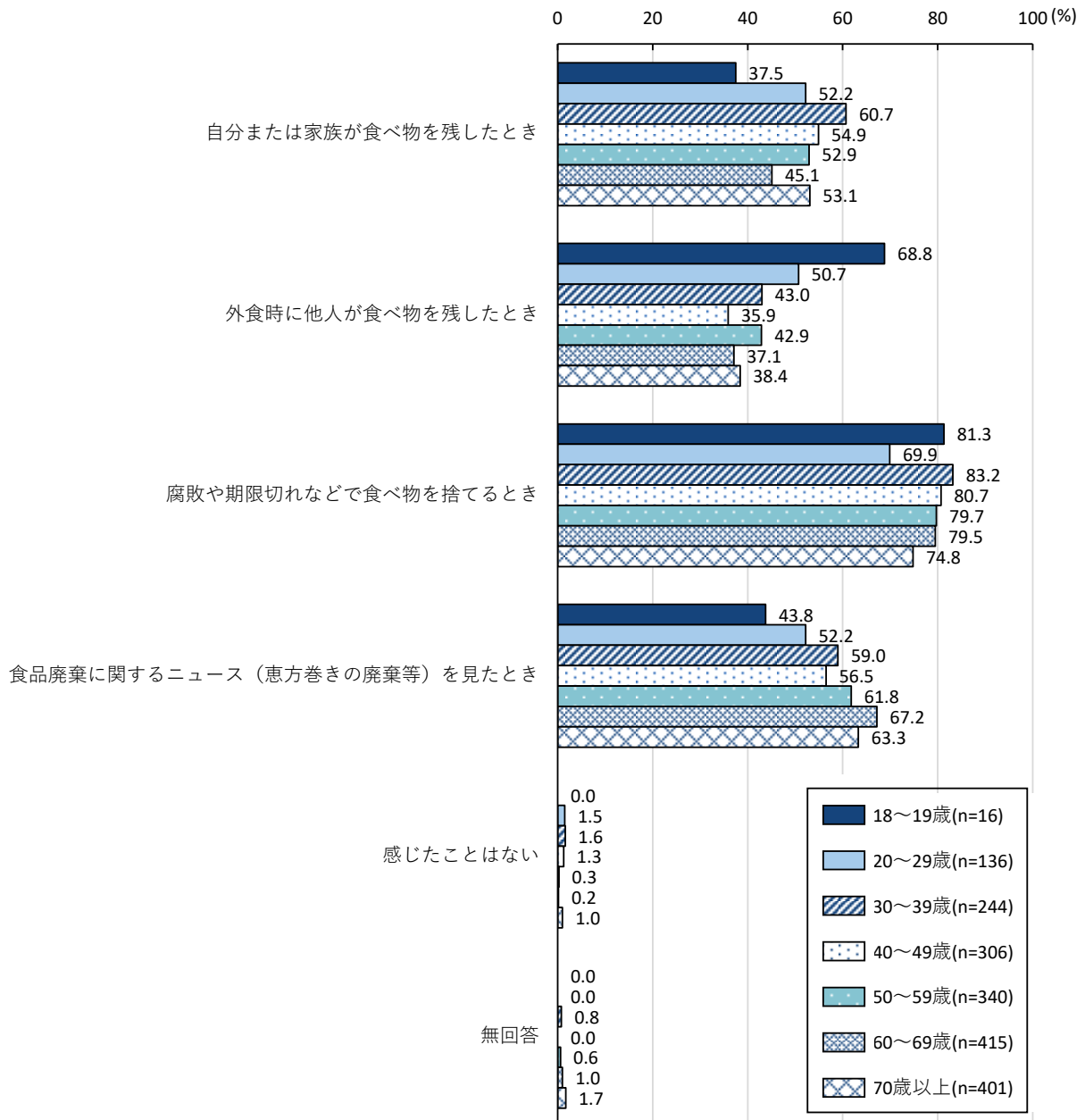


【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てる時」の割合が最も高く、

また、「外出時に他人が食べ物を残したとき」の割合は、18～19歳（68.8%）および20歳代（50.7%）において、全体の割合（40.3%）を10.0ポイント以上上回っており、若年層で高い傾向がみられる。

一方、「食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき」の割合は、18～19歳（43.8%）において全体の割合（61.2%）を10.0ポイント以上下回っており、20～49歳では5割台、50歳以上では6割台となっており、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。



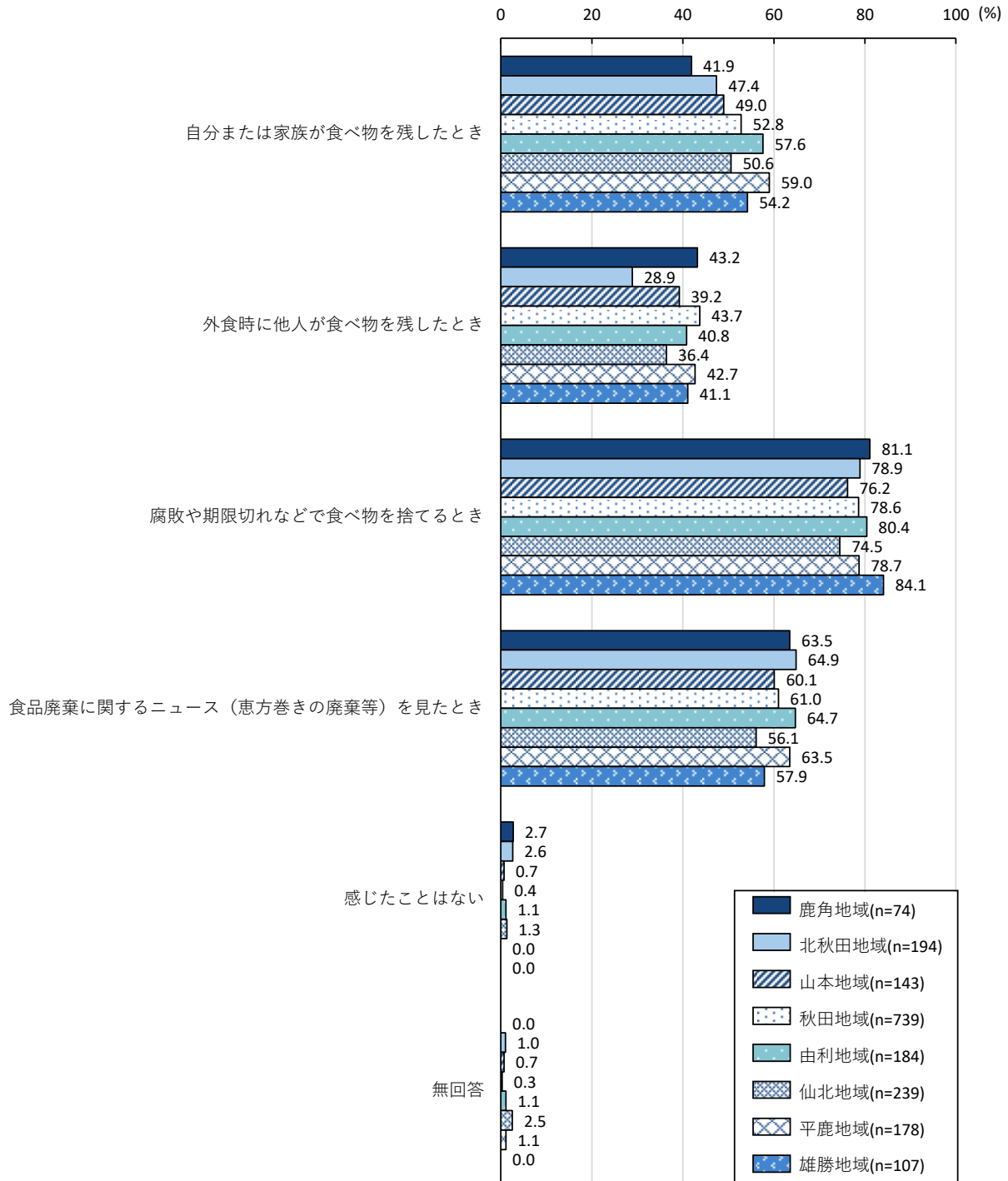
### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てる時」の割合が最も高くなっている。

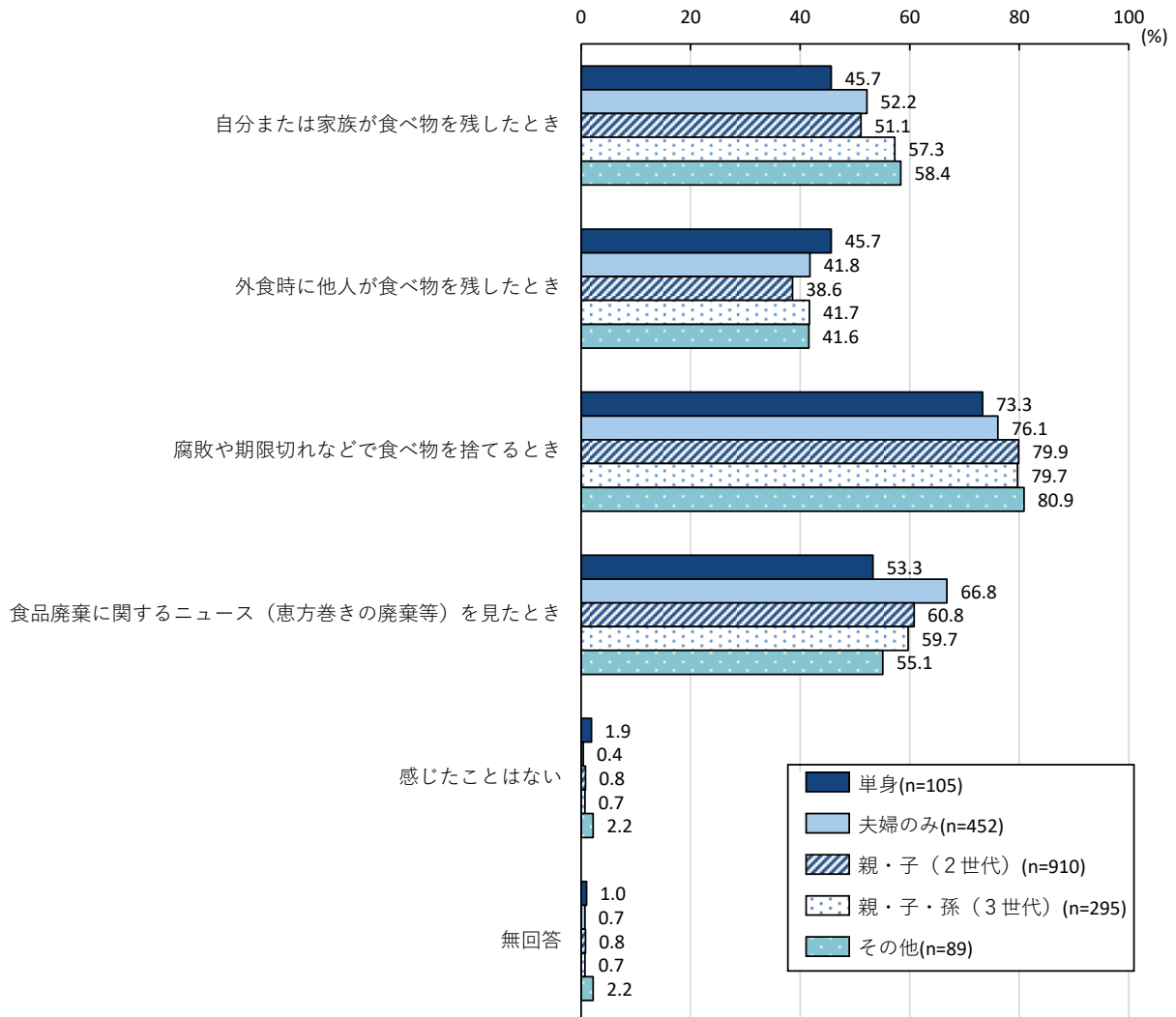
「自分または家族が食べ物を残したとき」の割合は、県北の3地域（鹿角地域、北秋田地域、山本地域）はいずれも4割台となっており、特に鹿角地域（41.9%）では全体の割合（52.4%）を10.0ポイント以上下回っている。一方、他5地域ではいずれも5割台となっている。

また、「外食時に他人が食べ物を残したとき」の割合は、北秋田地域（28.9%）が全体の割合（40.3%）を10.0ポイント以上下回っている。

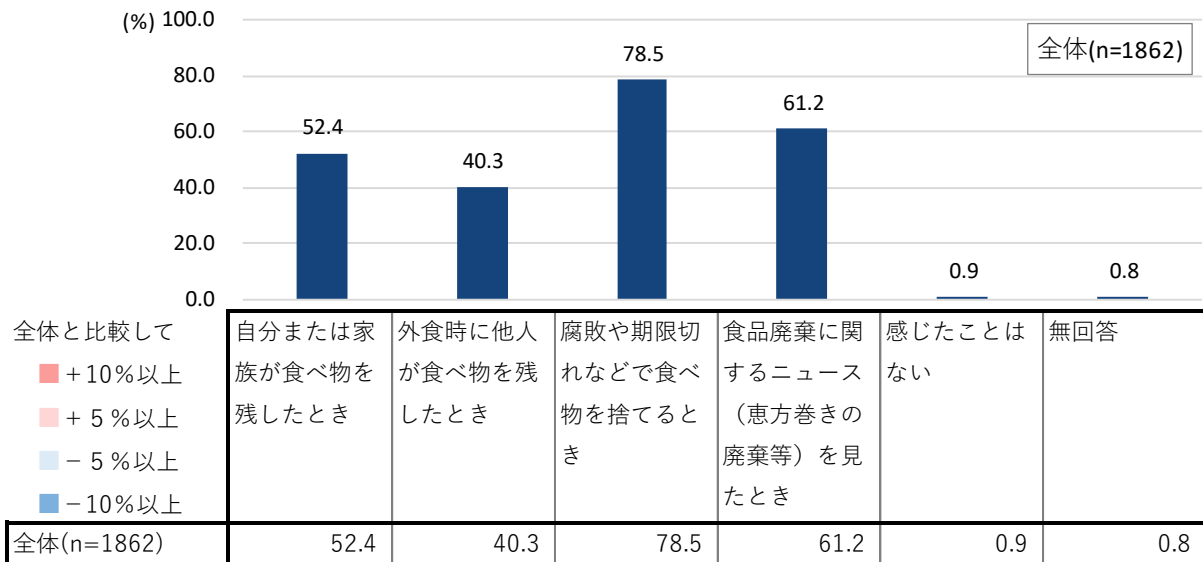


【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」の割合が最も高くなっている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	50.5	41.5	71.7	55.3	1.2	0.7
女性(n=1095)	53.9	39.5	83.6	65.4	0.5	0.9
その他(n=7)	14.3	28.6	28.6	57.1	14.3	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	37.5	68.8	81.3	43.8	0.0	0.0
20～29歳(n=136)	52.2	50.7	69.9	52.2	1.5	0.0
30～39歳(n=244)	60.7	43.0	83.2	59.0	1.6	0.8
40～49歳(n=306)	54.9	35.9	80.7	56.5	1.3	0.0
50～59歳(n=340)	52.9	42.9	79.7	61.8	0.3	0.6
60～69歳(n=415)	45.1	37.1	79.5	67.2	0.2	1.0
70歳以上(n=401)	53.1	38.4	74.8	63.3	1.0	1.7

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	41.9	43.2	81.1	63.5	2.7	0.0
北秋田地域(n=194)	47.4	28.9	78.9	64.9	2.6	1.0
山本地域(n=143)	49.0	39.2	76.2	60.1	0.7	0.7
秋田地域(n=739)	52.8	43.7	78.6	61.0	0.4	0.3
由利地域(n=184)	57.6	40.8	80.4	64.7	1.1	1.1
仙北地域(n=239)	50.6	36.4	74.5	56.1	1.3	2.5
平鹿地域(n=178)	59.0	42.7	78.7	63.5	0.0	1.1
雄勝地域(n=107)	54.2	41.1	84.1	57.9	0.0	0.0

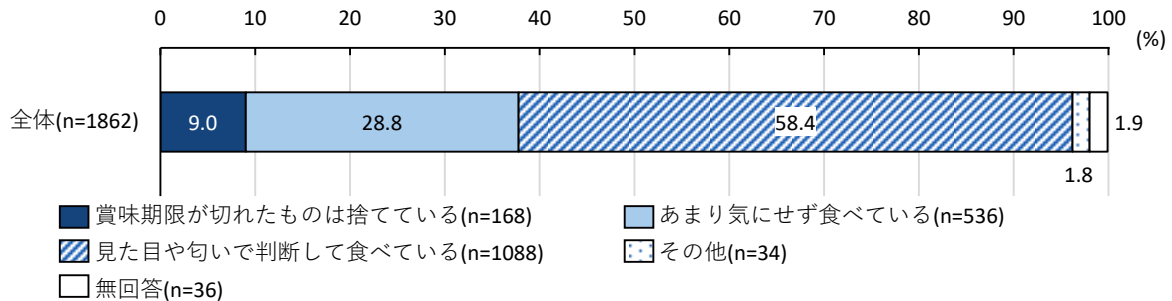
#### 家族構成別

単身(n=105)	45.7	45.7	73.3	53.3	1.9	1.0
夫婦のみ(n=452)	52.2	41.8	76.1	66.8	0.4	0.7
親・子(2世代)(n=910)	51.1	38.6	79.9	60.8	0.8	0.8
親・子・孫(3世代)(n=295)	57.3	41.7	79.7	59.7	0.7	0.7
その他(n=89)	58.4	41.6	80.9	55.1	2.2	2.2

1. 4 あなたは、賞味期限\*を過ぎた食品をどのようにしていますか。(1つだけに○)

【全体】

「見た目や匂いで判断して食べている」の割合が58.4%で最も高く、次いで「あまり気にせず食べている」(28.8%)、「賞味期限が切れたものは捨てている」(9.0%)の順で続いている。

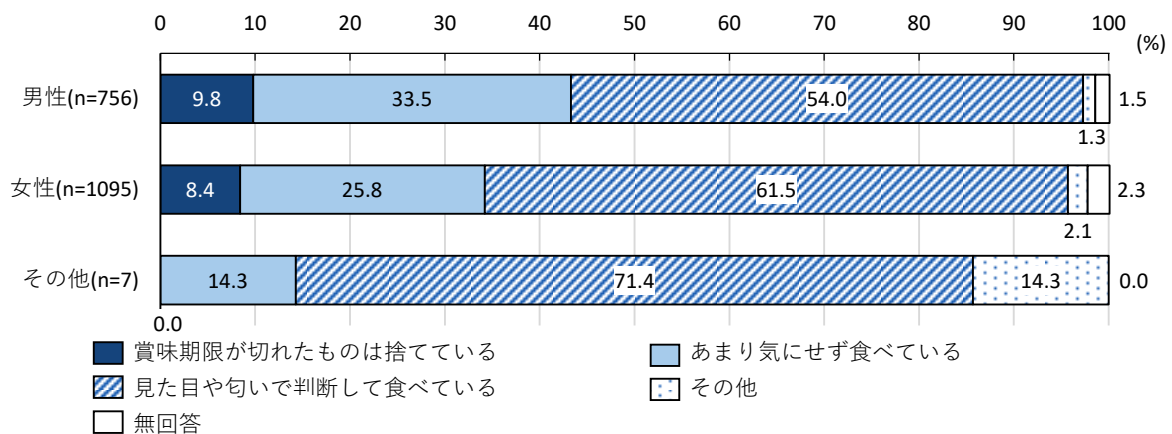


その他内容 (一部)

- 期限切れでも、数日経過であれば食べている (女性/70歳以上)
- 冷凍食品は食べます (男性/60~69歳)
- 賞味期限は参考程度にはしているが、臨機応変で (女性/70歳以上)
- 食品の種類によって判断 (男性/70歳以上)

【性別】

性別にみると、男女ともに「見た目や匂いで判断して食べている」の割合 (男性54.0%、女性:61.5%)が最も高く、次いで「あまり気にせず食べている」(男性:33.5%、女性:25.8%)、「賞味期限が切れたものは捨てている」(男性:9.8%、女性:8.4%)の順で続いており、性別による大きな差はみられない。



\*賞味期限：おいしく食べることができる期限

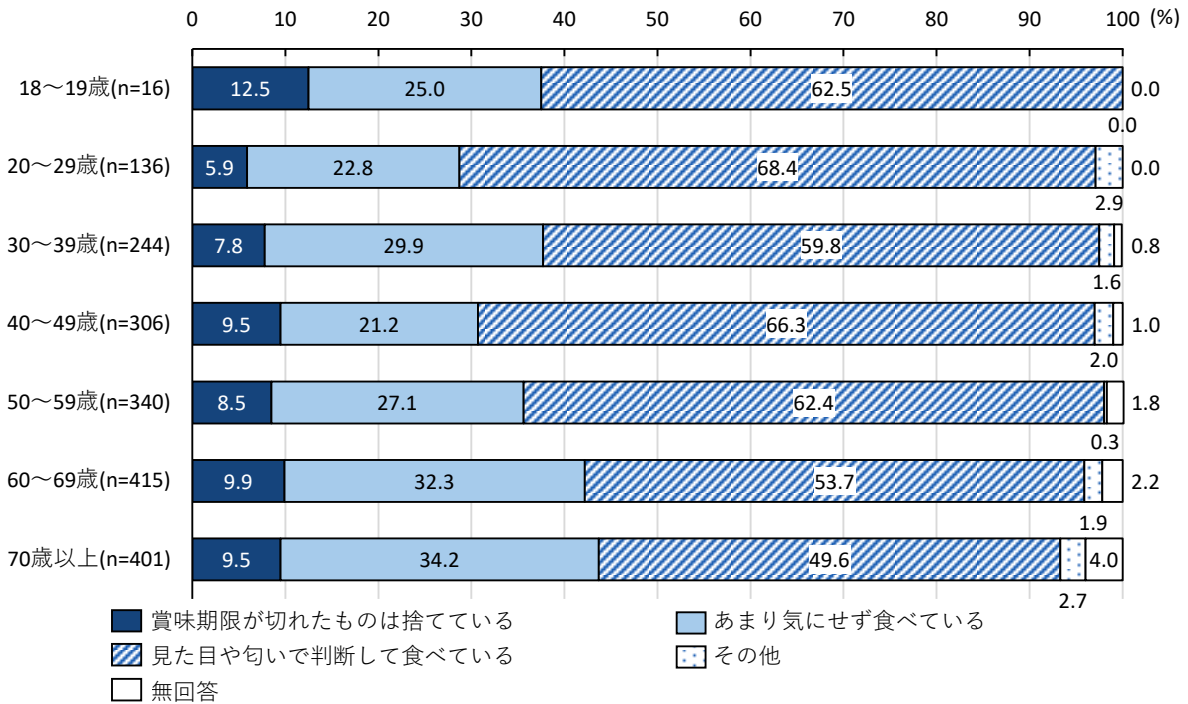
消費期限：過ぎたら食べない方がよい期限

### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

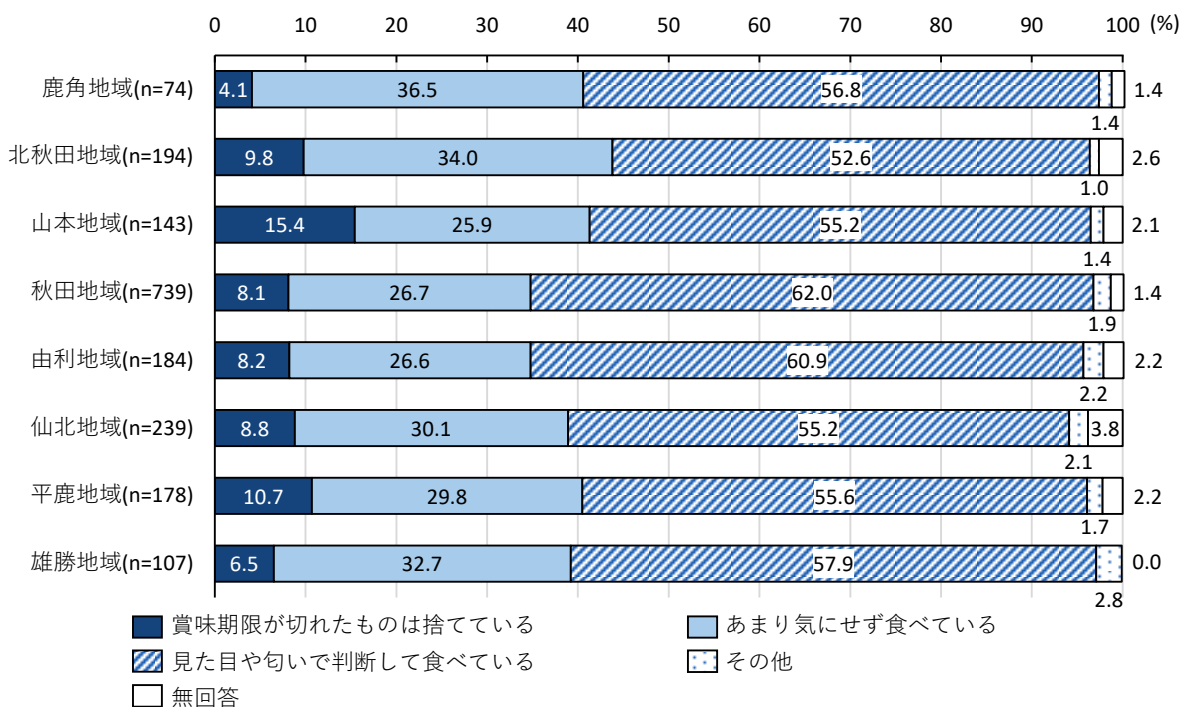
年齢別にみると、いずれの年齢においても「見た目や匂いで判断して食べている」の割合が最も高く、70歳以上では4割台、30歳代および60歳代では5割台、18～29歳および40～59歳では6割台になっている。

また、「見た目や匂いで判断して食べている」の割合は、20歳代(68.4%)が全体の割合(58.4%)を10.0ポイント以上上回っている。



#### 【地域別】

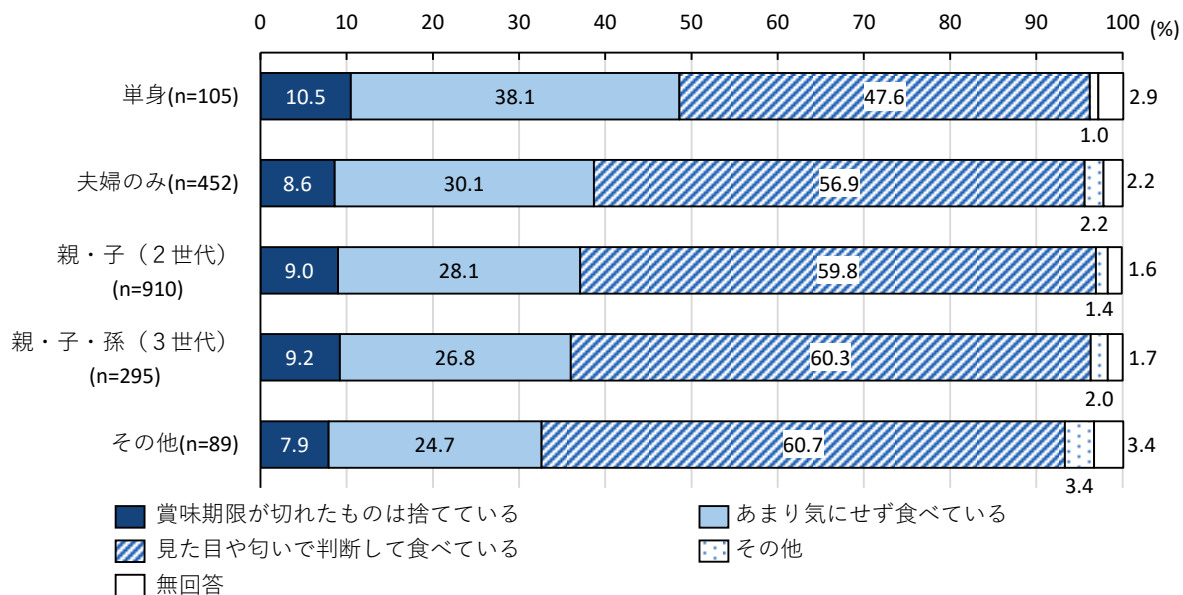
地域別にみると、いずれの地域においても「見た目や匂いで判断して食べている」の割合が5～6割台で最も高くなっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「見た目や匂いで判断して食べている」の割合が最も高く、単身では4割台、夫婦のみおよび親・子（2世代）では5割台、他2区分ではいずれも6割台となっている。

また、「見た目や匂いで判断して食べている」の割合は、単身（47.6%）が全体の割合（58.4%）を10.0ポイント以上下回っている。



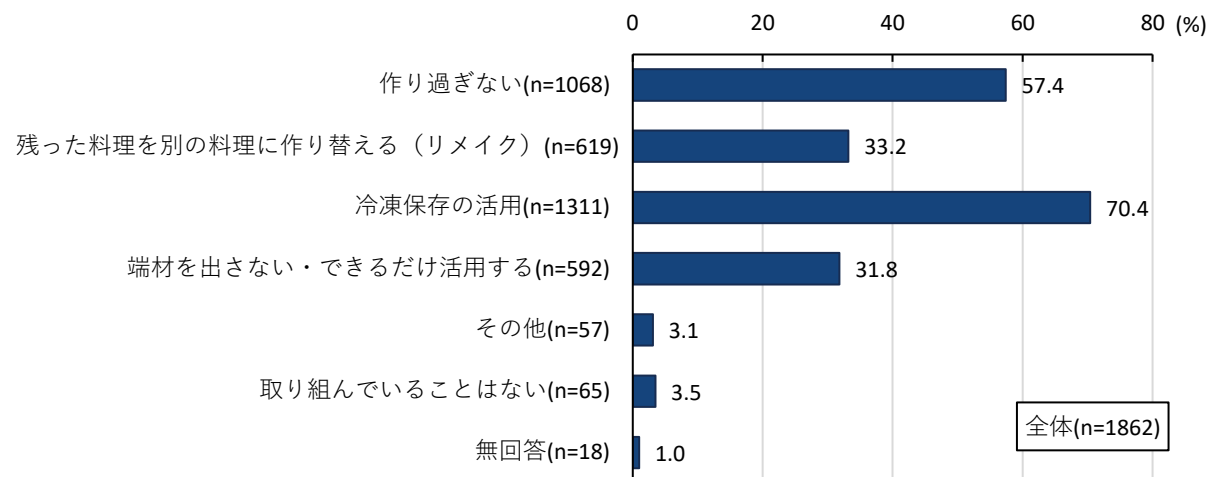
### Ⅲ. 調査結果

## 2 家庭での食品ロス削減の取組について

2. 1 あなたは、料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていることや工夫していることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

#### 【全体】

「冷凍保存の活用」の割合が70.4%で最も高く、次いで「作り過ぎない」(57.4%)、「残った料理を別の料理に作り替える(リメイク)」(33.2%)、「端材を出さない・できるだけ活用する」(31.8%)の順で続いている。一方、「取り組んでいることはない」は3.5%となっている。



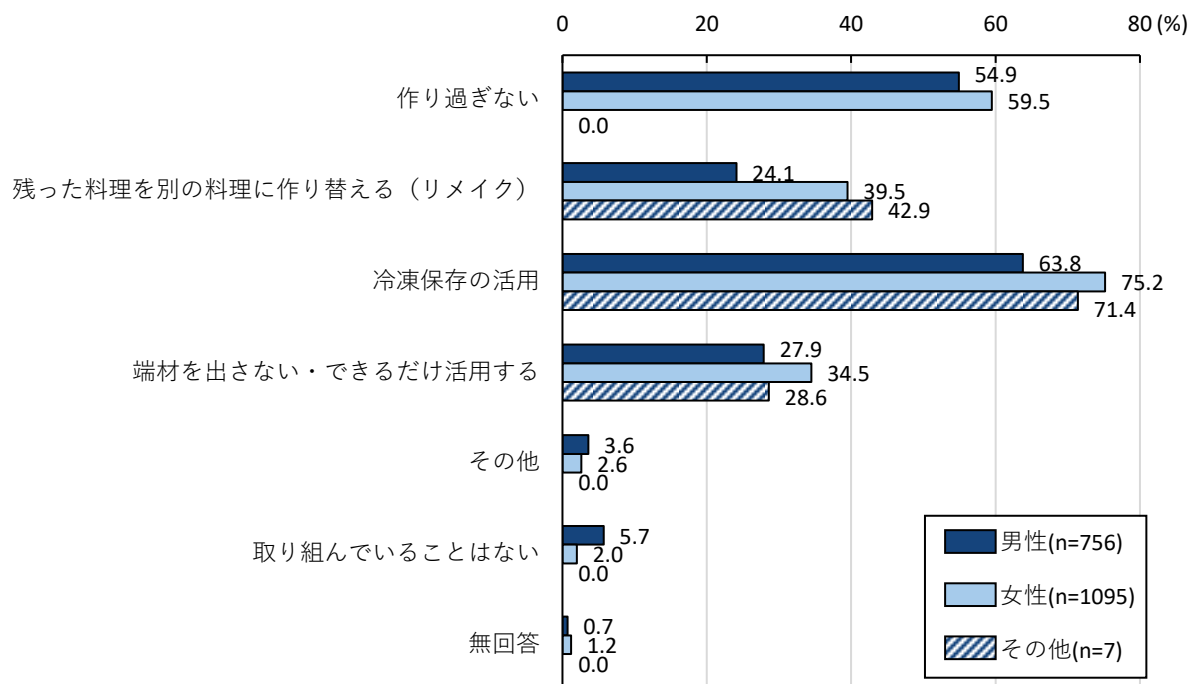
#### その他内容 (一部)

- 料理はほとんどしない (男性/60~69 歳)
- 買いだめしない (女性/60~69 歳)
- 余ったものは次の日に食べる (男性/50~59 歳)
- 極力食べきるようにする (男性/30~39 歳)
- おすそわけする (女性/60~69 歳)

【性別】

性別にみると、男女ともに「冷凍保存の活用」の割合（男性：63.8%、女性：75.2%）が最も高く、次いで「作り過ぎない」（男性：54.9%、女性：59.5%）が続いている。

また、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイク）」（男性：24.1%、女性：39.5%）および「冷凍保存の活用」（男性：63.8%、女性：75.2%）では、いずれも女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果

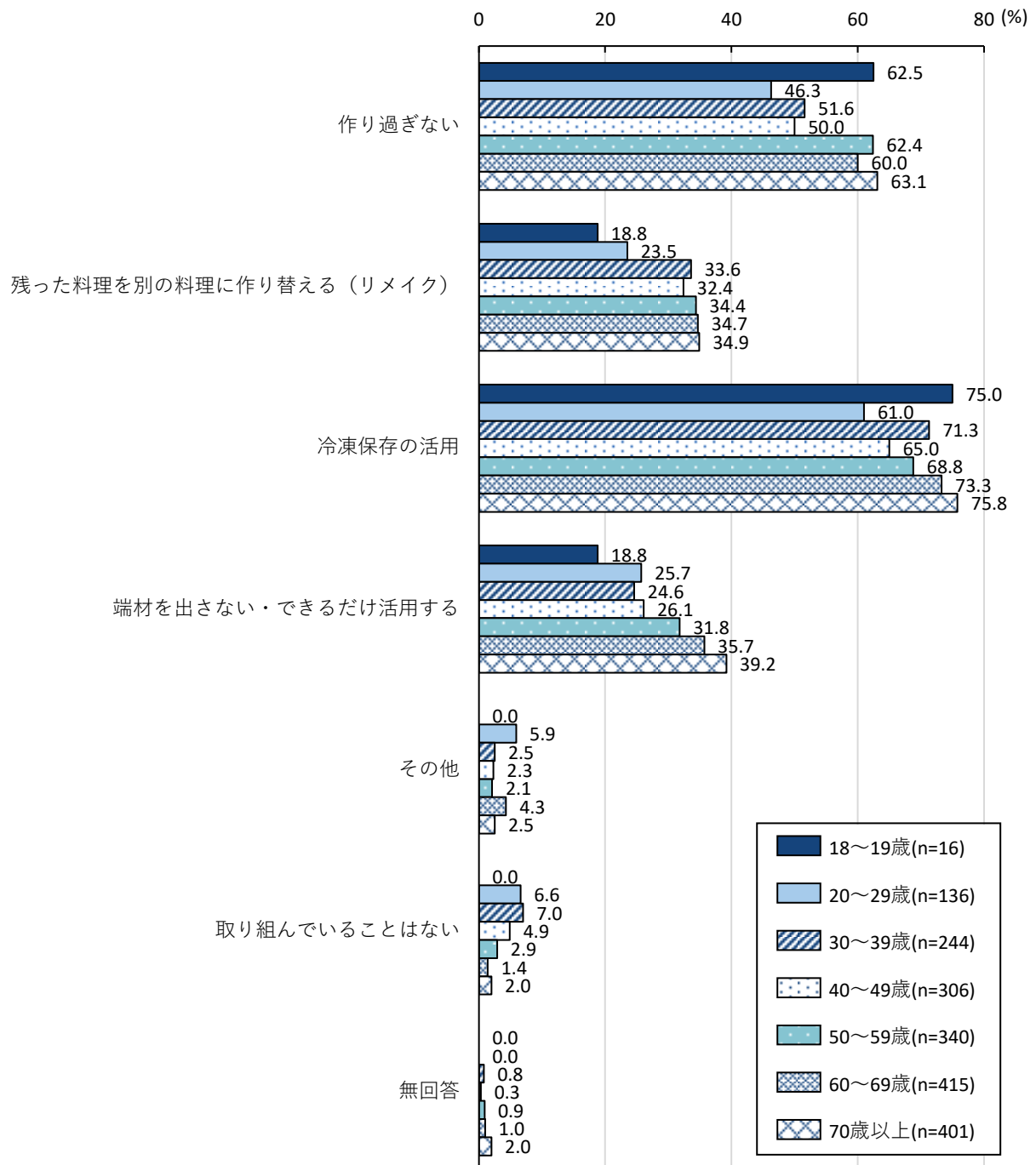
#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「冷凍保存の活用」の割合が最も高く、次いで「作り過ぎない」が高い割合となっている。「取り組んでいることはない」の割合はいずれも1割未満となっている。

「作り過ぎない」の割合は、20歳代では4割台、30歳代では5割台、50歳以上ではいずれも6割台となっており、中高年層で高い割合となっている。

「残った料理のリメイク」は、18～19歳では1割台、20歳代では2割台、30歳以上ではいずれも3割台となっており、若年層で低い割合となっている。

「端材を活用する」は、18～19歳では1割台、20～49歳では2割台、50歳以上ではいずれも3割台となっており、中高年層で高い割合となっている。

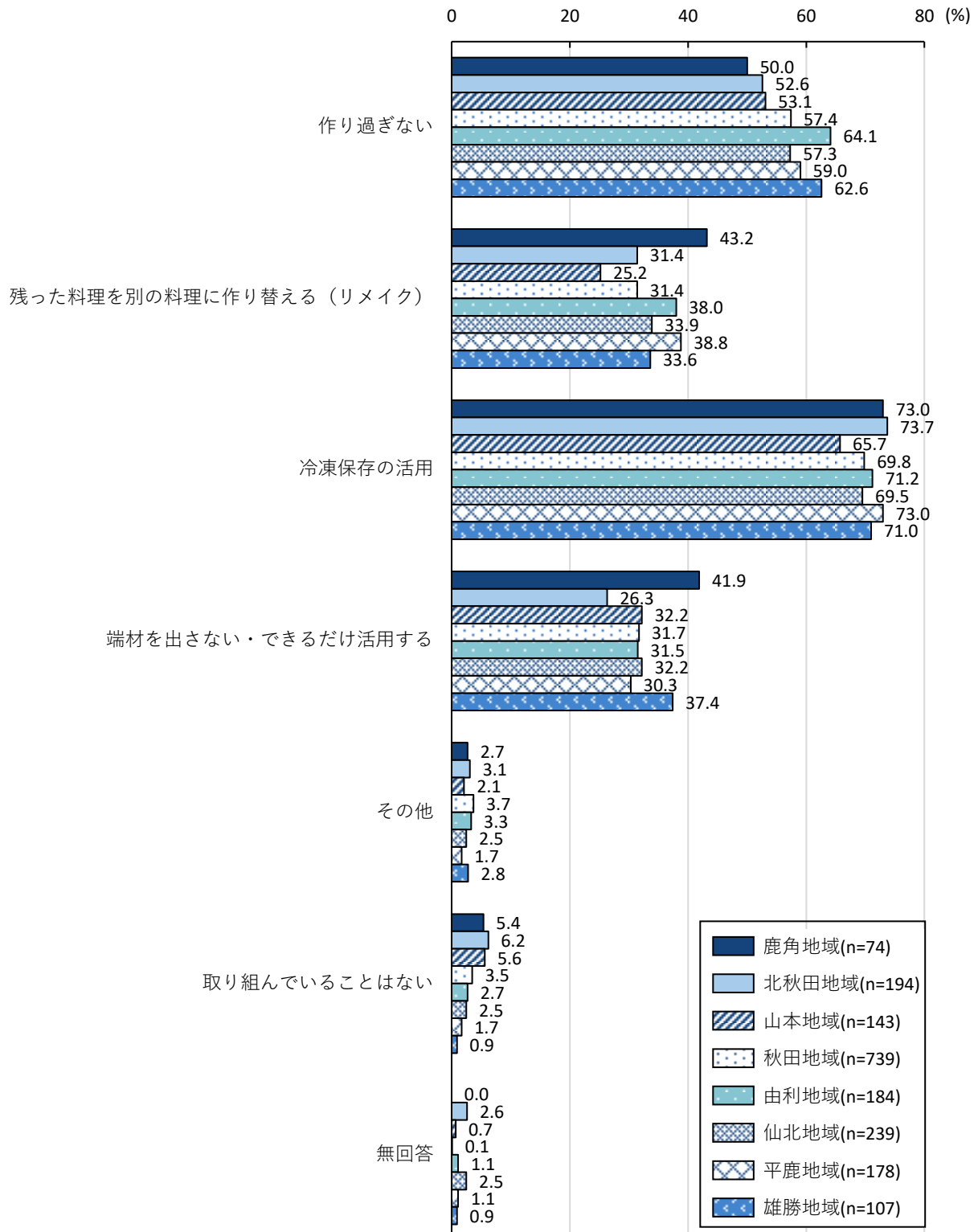


### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「冷凍保存の活用」の割合が最も高く、次いで「作り過ぎない」が2番目に高い割合となっている。「取り組んでいることはない」の割合はいずれも1割未満となっている。

また、鹿角地域では「残った料理を別の料理に作り替える（リメイク）」（43.2%）および「端材を出さない・できるだけ活用する」（41.9%）の割合がいずれも全体の割合（33.2%、31.8%）を10.0ポイント以上上回っている。

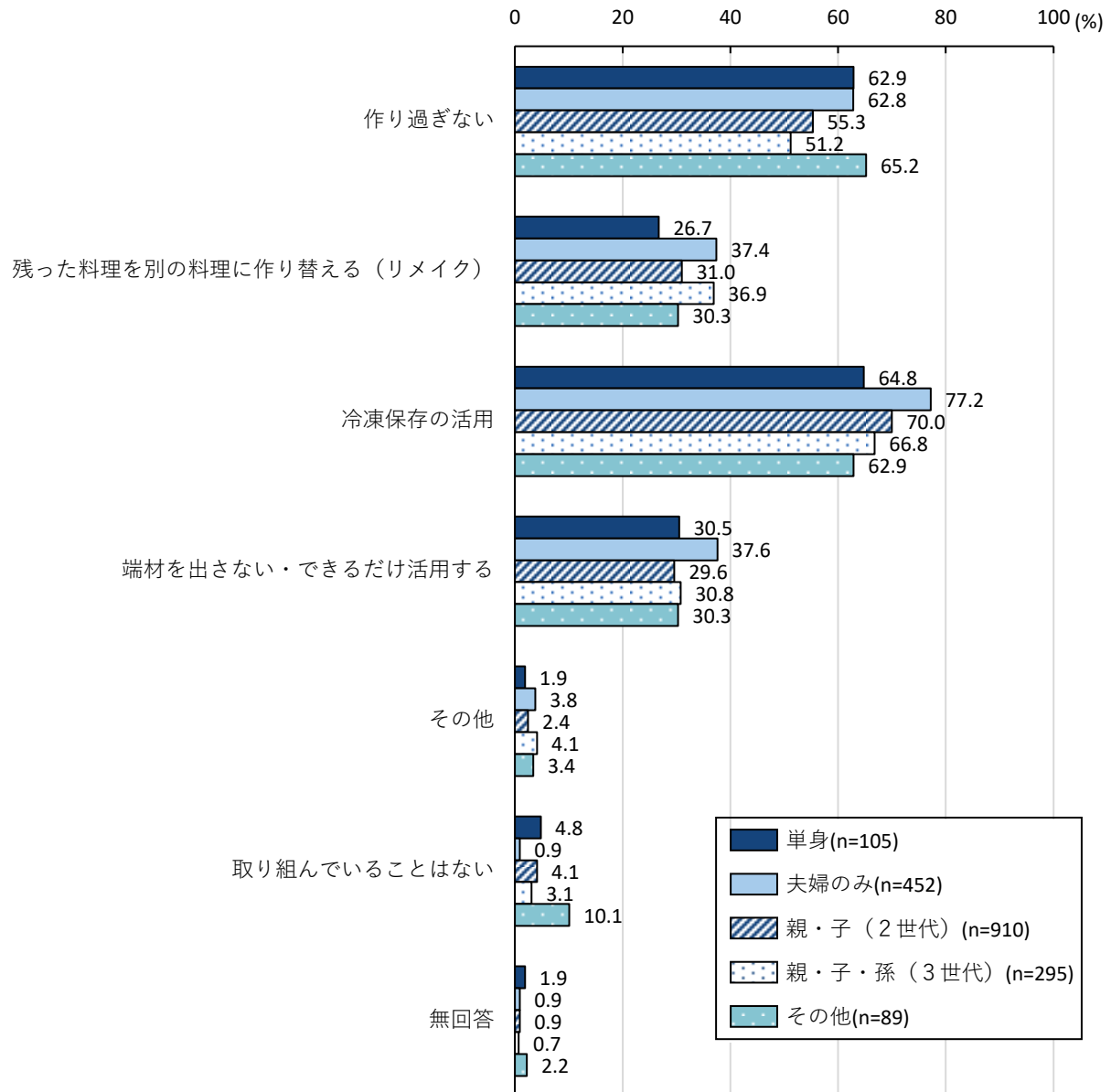


### Ⅲ. 調査結果

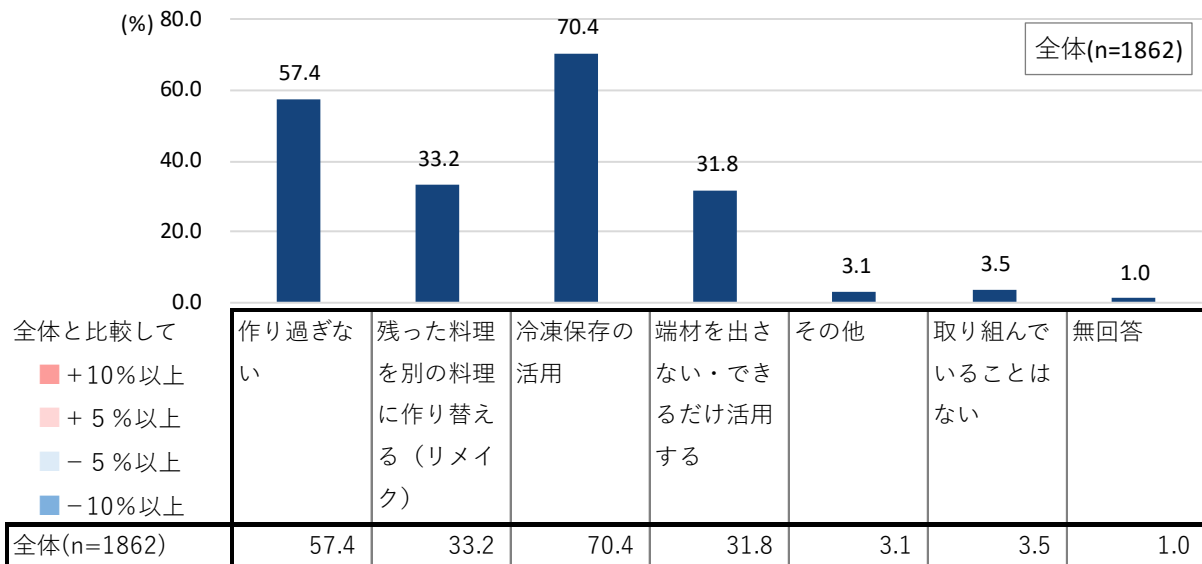
#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、その他を除くすべての区分では「冷凍保存の活用」、他4区分では「作り過ぎない」の割合が最も高くなっている。また、「取り組んでいることはない」の割合は、その他のみ1割台となっている。

「作り過ぎない」の割合は、単身、夫婦のみ、その他では6割台、親・子（2世代）や親・子・孫（3世代）では5割台となっており、少人数世帯のほうがやや高い割合となっている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	54.9	24.1	63.8	27.9	3.6	5.7	0.7
女性(n=1095)	59.5	39.5	75.2	34.5	2.6	2.0	1.2
その他(n=7)	0.0	42.9	71.4	28.6	0.0	0.0	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	62.5	18.8	75.0	18.8	0.0	0.0	0.0
20～29歳(n=136)	46.3	23.5	61.0	25.7	5.9	6.6	0.0
30～39歳(n=244)	51.6	33.6	71.3	24.6	2.5	7.0	0.8
40～49歳(n=306)	50.0	32.4	65.0	26.1	2.3	4.9	0.3
50～59歳(n=340)	62.4	34.4	68.8	31.8	2.1	2.9	0.9
60～69歳(n=415)	60.0	34.7	73.3	35.7	4.3	1.4	1.0
70歳以上(n=401)	63.1	34.9	75.8	39.2	2.5	2.0	2.0

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	50.0	43.2	73.0	41.9	2.7	5.4	0.0
北秋田地域(n=194)	52.6	31.4	73.7	26.3	3.1	6.2	2.6
山本地域(n=143)	53.1	25.2	65.7	32.2	2.1	5.6	0.7
秋田地域(n=739)	57.4	31.4	69.8	31.7	3.7	3.5	0.1
由利地域(n=184)	64.1	38.0	71.2	31.5	3.3	2.7	1.1
仙北地域(n=239)	57.3	33.9	69.5	32.2	2.5	2.5	2.5
平鹿地域(n=178)	59.0	38.8	73.0	30.3	1.7	1.7	1.1
雄勝地域(n=107)	62.6	33.6	71.0	37.4	2.8	0.9	0.9

#### 家族構成別

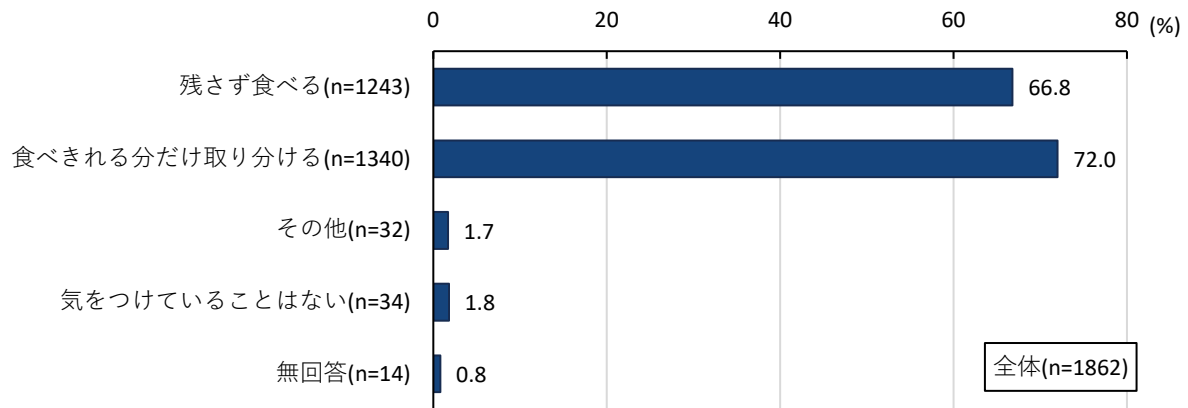
単身(n=105)	62.9	26.7	64.8	30.5	1.9	4.8	1.9
夫婦のみ(n=452)	62.8	37.4	77.2	37.6	3.8	0.9	0.9
親・子(2世代)(n=910)	55.3	31.0	70.0	29.6	2.4	4.1	0.9
親・子・孫(3世代)(n=295)	51.2	36.9	66.8	30.8	4.1	3.1	0.7
その他(n=89)	65.2	30.3	62.9	30.3	3.4	10.1	2.2

### Ⅲ. 調査結果

#### 2. 2 あなたは、料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

##### 【全体】

「食べきれ的分だけ取り分ける」の割合が72.0%で最も高く、次いで「残さず食べる」(66.8%)が続いている。「気をつけていることはない」は1.8%となっている。



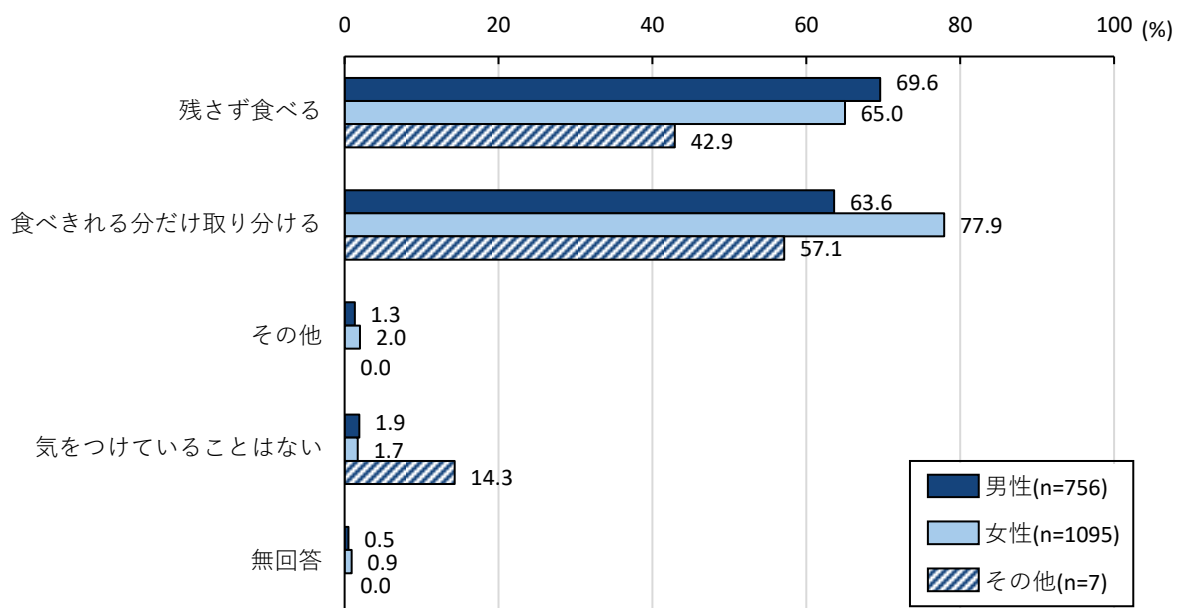
##### その他内容 (一部)

- 翌日以降も食べるようにしている (男性/60~69 歳)
- 家族と一緒に食べられるものを選んで共有する (女性/20~29 歳)
- 1人分ずつ皿に盛り付ける (女性/60~69 歳)
- 残ったら、冷凍する。食材は残さずに、使い切り加工してしまう (女性/40~49 歳)

##### 【性別】

性別にみると、男性では「残さず食べる」の割合が69.6%で最も高く、次いで「食べきれ的分だけ取り分ける」(63.6%)が続いている。一方、女性では「食べきれ的分だけ取り分ける」の割合が77.9%で最も高く、次いで「残さず食べる」(65.0%)が続いている。

「食べきれ的分だけ取り分ける」では、女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。



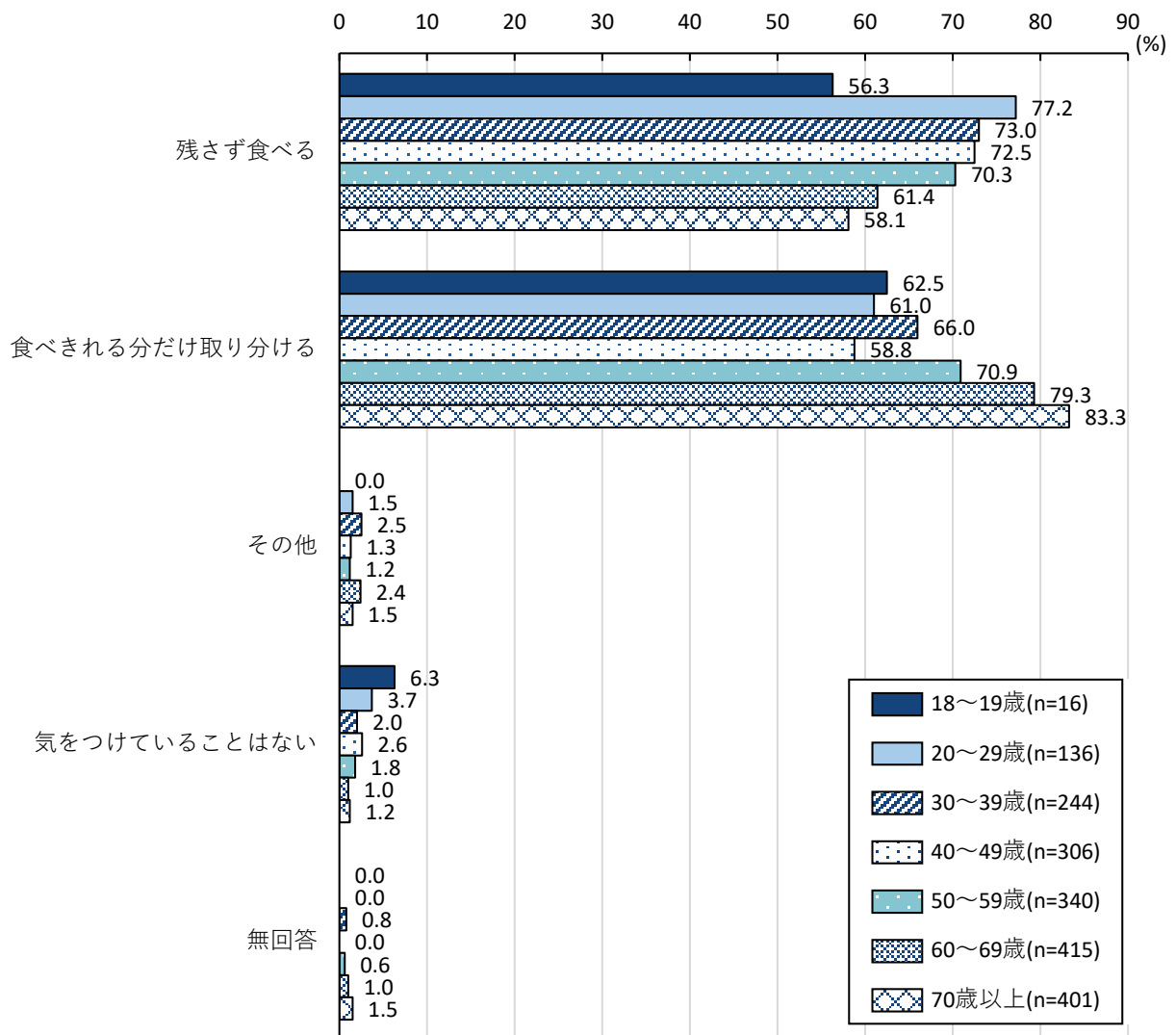
【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳および50歳以上では「食べきれる分だけ取り分ける」、20～49歳では「残さず食べる」の割合が最も高くなっている。

「残さず食べる」の割合は、20～59歳では7割台となっている一方、18～19歳では5割台、60歳代では6割台、70歳以上では5割台と、20歳未満および高年齢層でやや低くなっている。

一方、「食べきれる分だけ取り分ける」の割合は、18～49歳では6割前後、60歳代では7割台、70歳以上では8割台と、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

また、「気を付けていることはない」の割合はいずれの年齢層でも1割未満となっている。



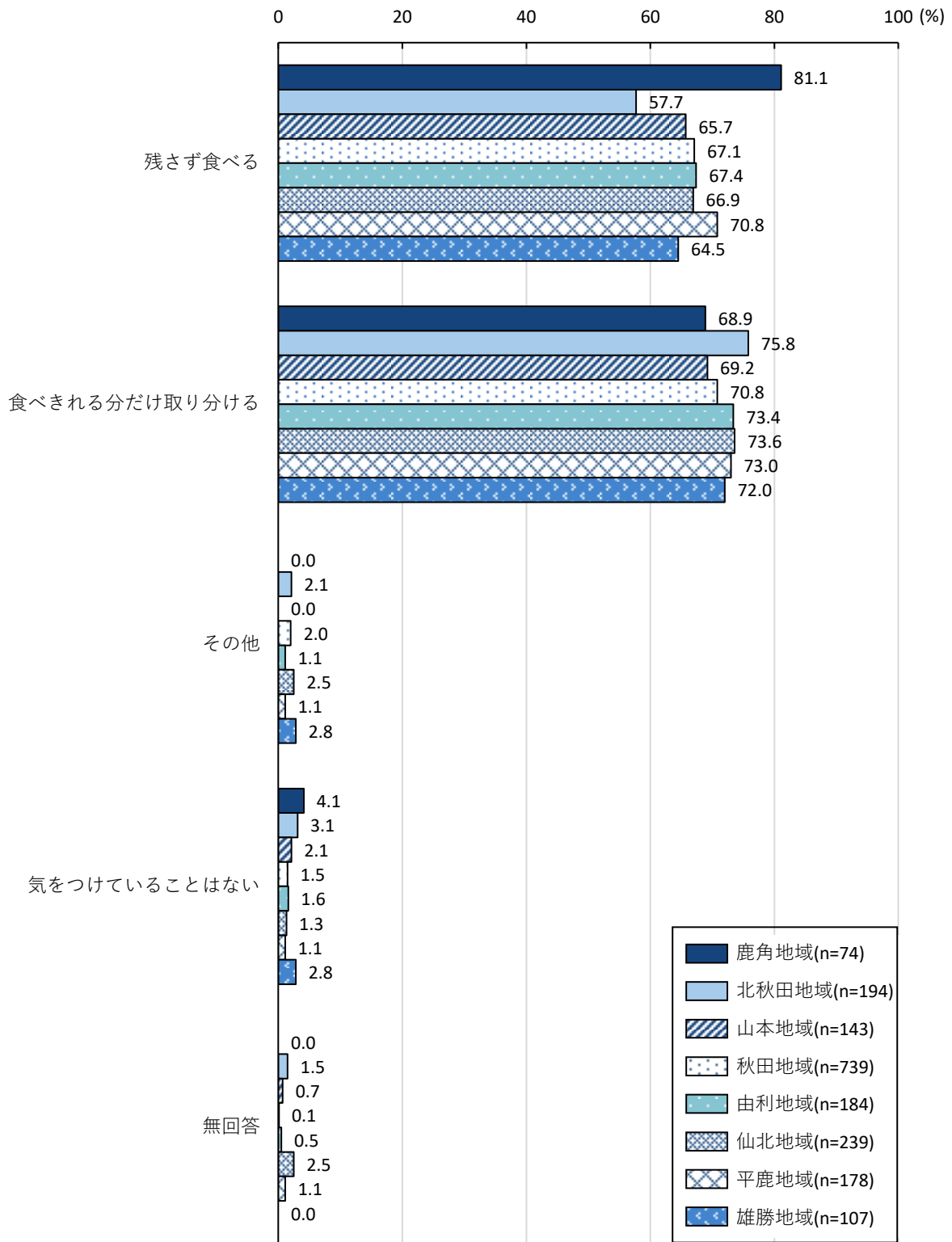
### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、鹿角地域では「残さず食べる」、他7地域では「食べきれ的分だけ取り分ける」の割合が最も高くなっている。

「残さず食べる」の割合は、鹿角地域（81.1%）が全体の割合（66.8%）を10.0ポイント以上上回っている。

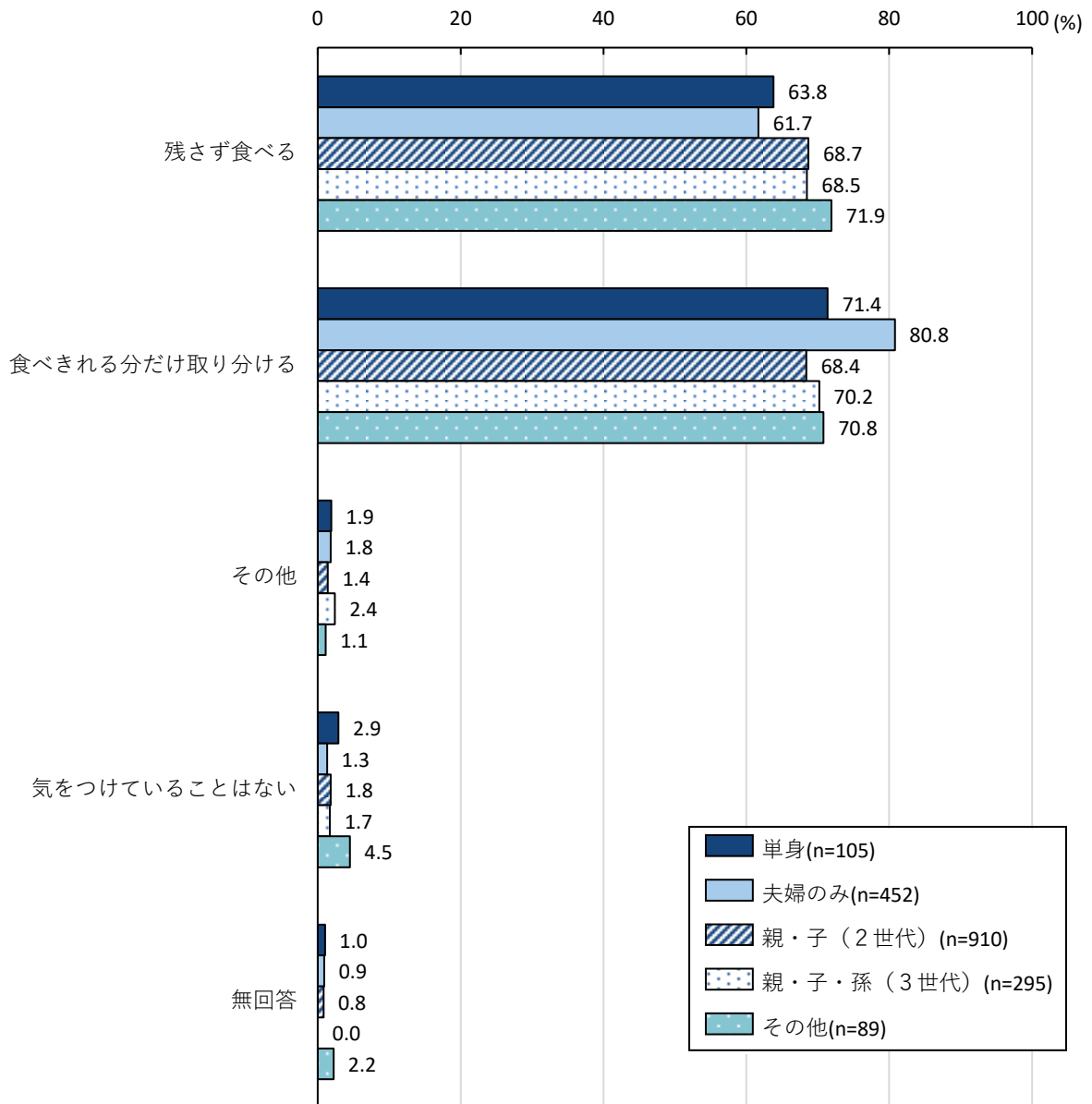
また、「気を付けていることはない」の割合はいずれの地域でも1割未満となっている。



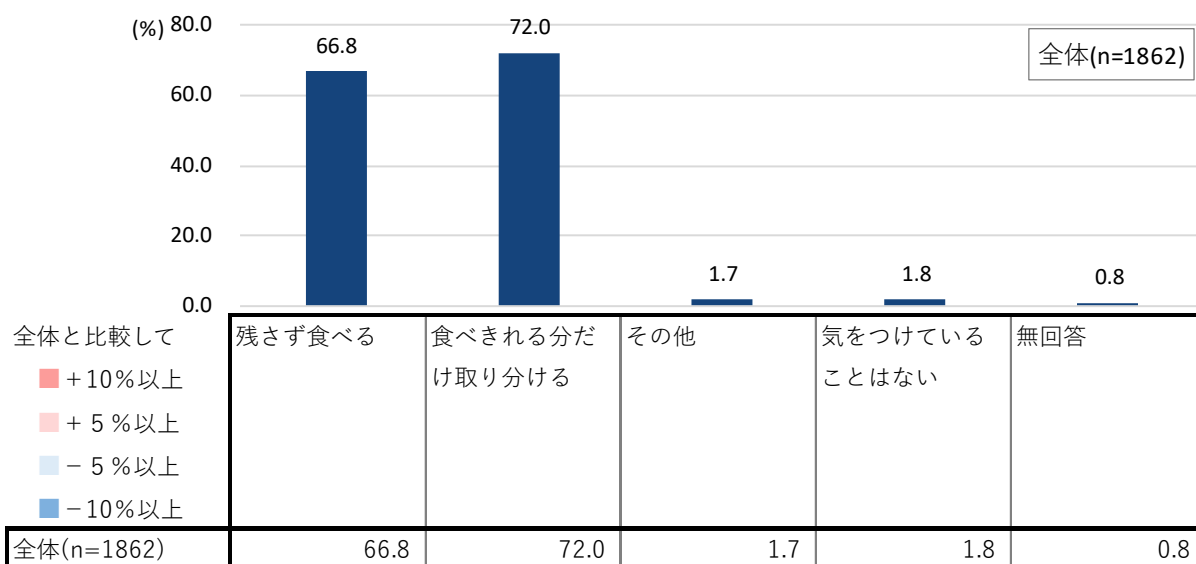
【家族構成別】

家族構成別にみると、単身および夫婦のみ、親・子・孫（3世代）では「食べきれる分だけ取り分ける」、他2区分では「残さず食べる」の割合が最も高くなっている。

また、「気を付けていることはない」の割合はいずれの区分でも1割未満となっている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	69.6	63.6	1.3	1.9	0.5
女性(n=1095)	65.0	77.9	2.0	1.7	0.9
その他(n=7)	42.9	57.1	0.0	14.3	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	56.3	62.5	0.0	6.3	0.0
20～29歳(n=136)	77.2	61.0	1.5	3.7	0.0
30～39歳(n=244)	73.0	66.0	2.5	2.0	0.8
40～49歳(n=306)	72.5	58.8	1.3	2.6	0.0
50～59歳(n=340)	70.3	70.9	1.2	1.8	0.6
60～69歳(n=415)	61.4	79.3	2.4	1.0	1.0
70歳以上(n=401)	58.1	83.3	1.5	1.2	1.5

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	81.1	68.9	0.0	4.1	0.0
北秋田地域(n=194)	57.7	75.8	2.1	3.1	1.5
山本地域(n=143)	65.7	69.2	0.0	2.1	0.7
秋田地域(n=739)	67.1	70.8	2.0	1.5	0.1
由利地域(n=184)	67.4	73.4	1.1	1.6	0.5
仙北地域(n=239)	66.9	73.6	2.5	1.3	2.5
平鹿地域(n=178)	70.8	73.0	1.1	1.1	1.1
雄勝地域(n=107)	64.5	72.0	2.8	2.8	0.0

#### 家族構成別

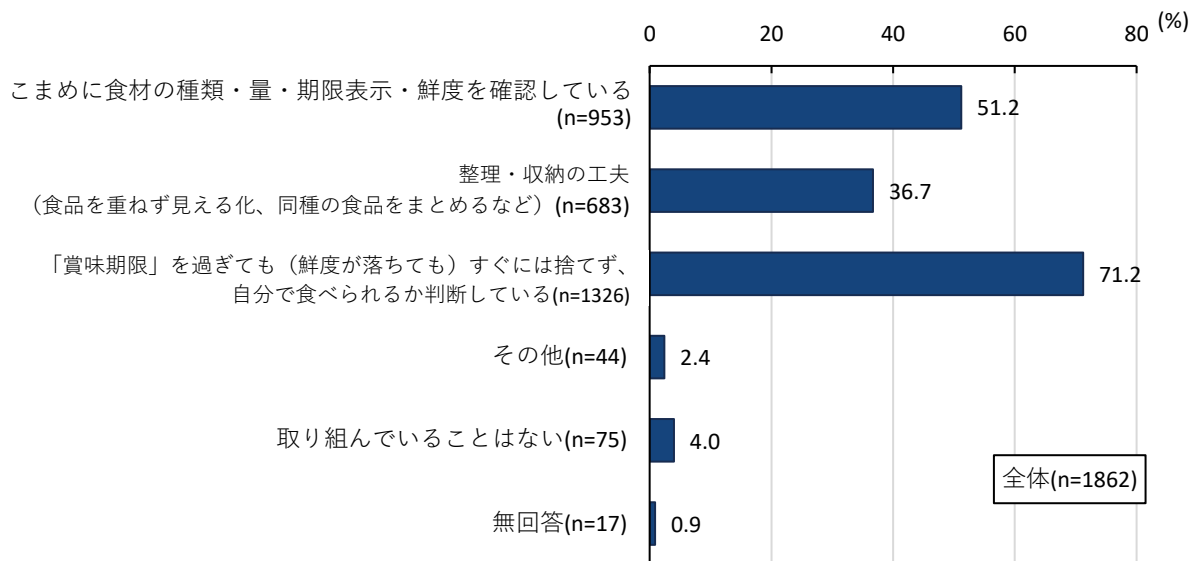
単身(n=105)	63.8	71.4	1.9	2.9	1.0
夫婦のみ(n=452)	61.7	80.8	1.8	1.3	0.9
親・子(2世代)(n=910)	68.7	68.4	1.4	1.8	0.8
親・子・孫(3世代)(n=295)	68.5	70.2	2.4	1.7	0.0
その他(n=89)	71.9	70.8	1.1	4.5	2.2

2.3 あなたは、食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

『「賞味期限」を過ぎても（鮮度が落ちてても）すぐには捨てず、自分で食べられるか判断している』（以下『賞味期限を過ぎてもすぐには捨てない』）の割合が71.2%で最も高く、次いで「こまめに食材の種類・量・期限表示・鮮度を確認している」（以下『こまめな食材の確認』）（51.2%）、「整理・収納の工夫（食品を重ねず見える化、同種の食品をまとめるなど）」（以下『整理・収納の工夫』）（36.7%）の順で続いている。

また、「取り組んでいることはない」は4.0%となっている。



その他内容（一部）

- 買いすぎない（女性／40～49歳）
- 週に1度くらい掃除しながら使い切る（男性／60～69歳）
- まとめ買いをした時は余分を小分けにして冷凍している（女性／30～39歳）
- 冷蔵庫を空にしてから買い物に行く（女性／30～39歳）
- レシートで食べ終えた食品をチェックする（女性／70歳以上）

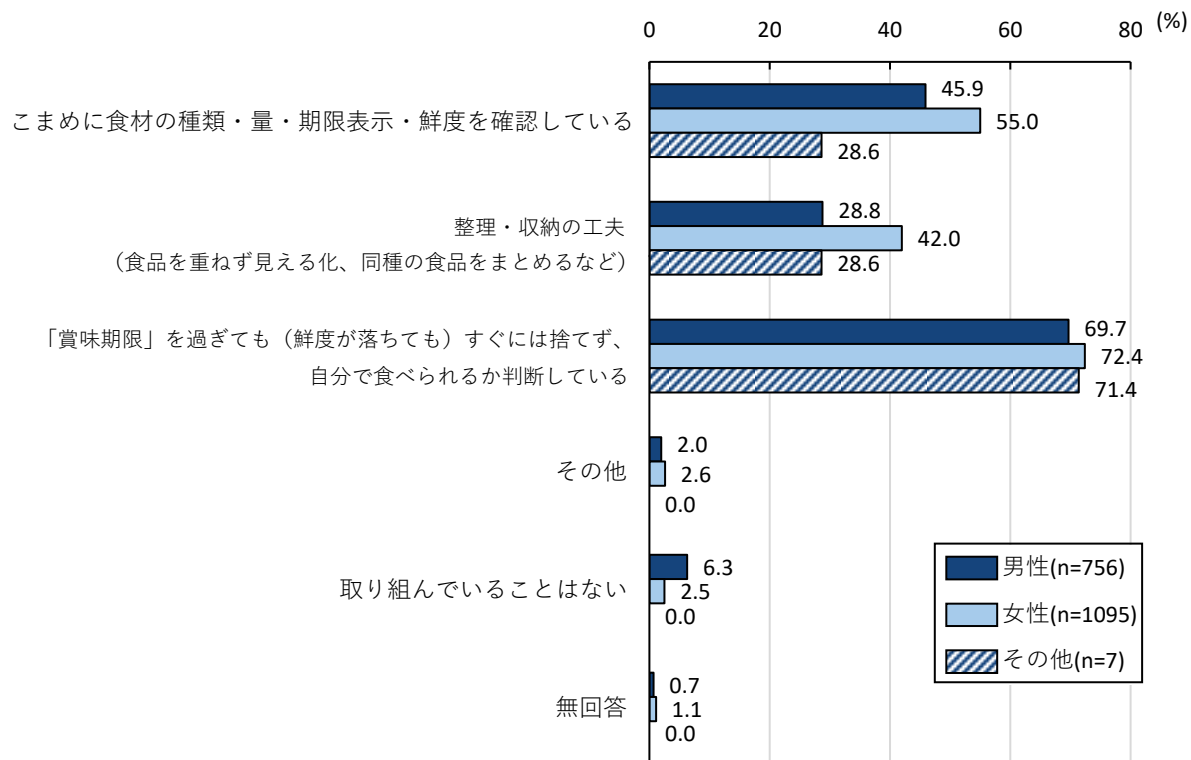
### Ⅲ. 調査結果

#### 【性別】

性別にみると、男女ともに『賞味期限を過ぎてもすぐには捨てない』の割合（男性：69.7%、女性：72.4%）が最も高く、次いで『こまめな食材の確認』（男性：45.9%、女性55.0%）、『整理・収納の工夫』（男性：28.8%、女性：42.0%）などの順で続いている。

また、『整理・収納の工夫』の割合は、女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。

「取り組んでいることはない」の割合は、男女ともに1割未満となっている（男性：6.3%、女性：2.5%）。

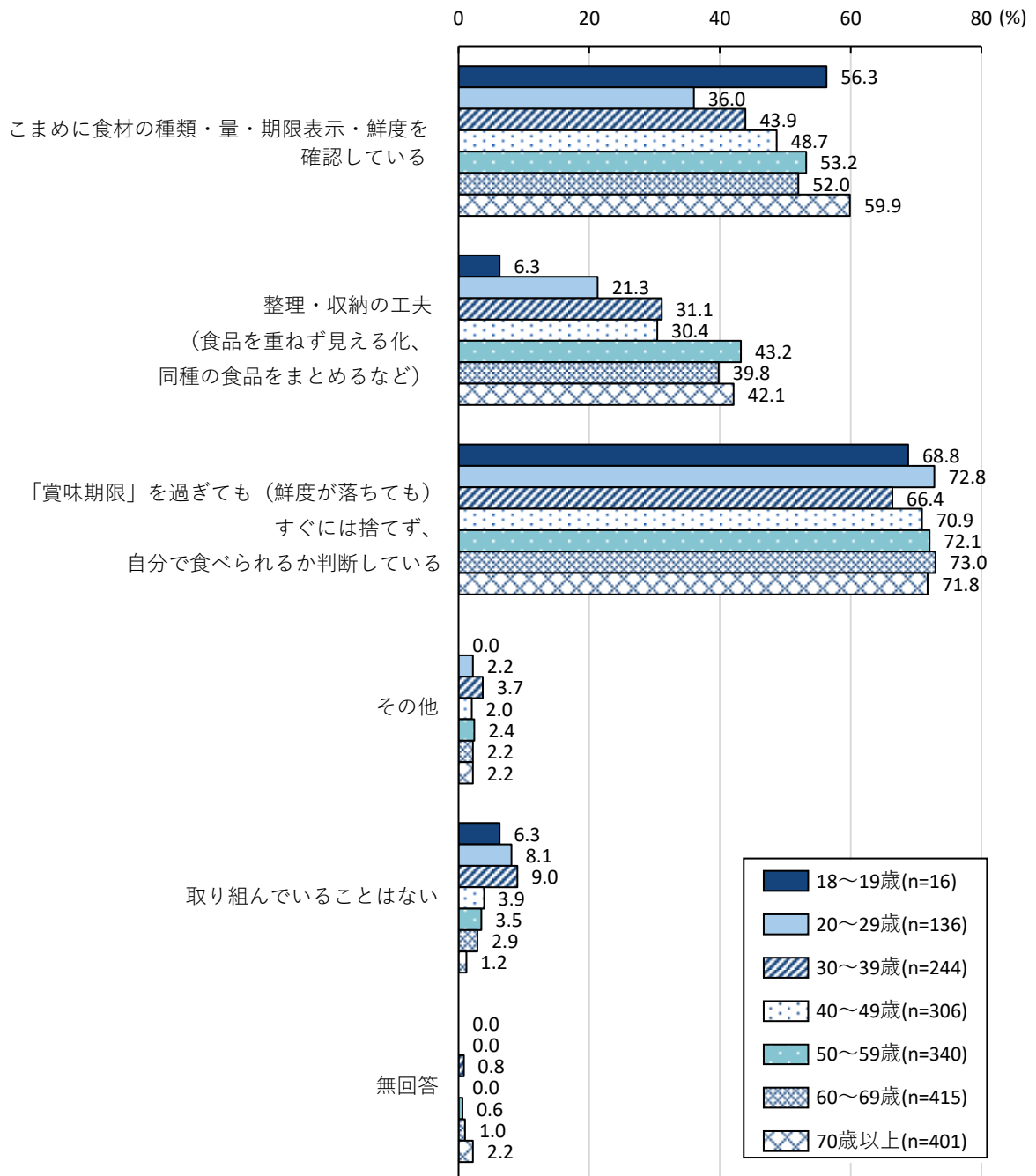


【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても『賞味期限を過ぎてもすぐには捨てない』の割合が最も高くなっている。

『こまめな食材の確認』の割合は、20歳代では3割台、30～49歳では4割台、50歳以上では5割台と、18～19歳および年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

また、『整理・収納の工夫』の割合は、18～19歳で1割未満、20歳代では2割台、30～49歳では3割台、50歳以上では4割前後と、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

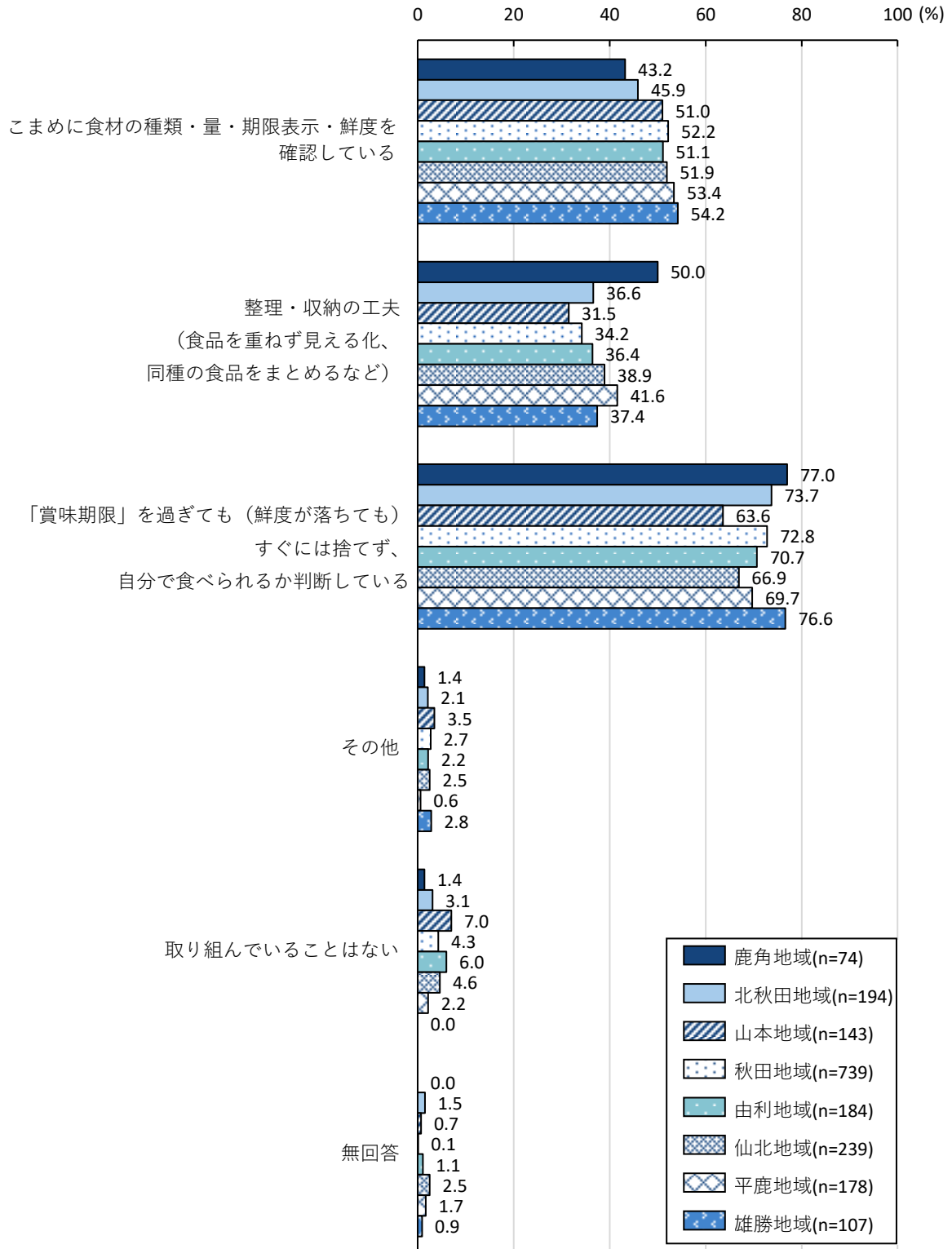


### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

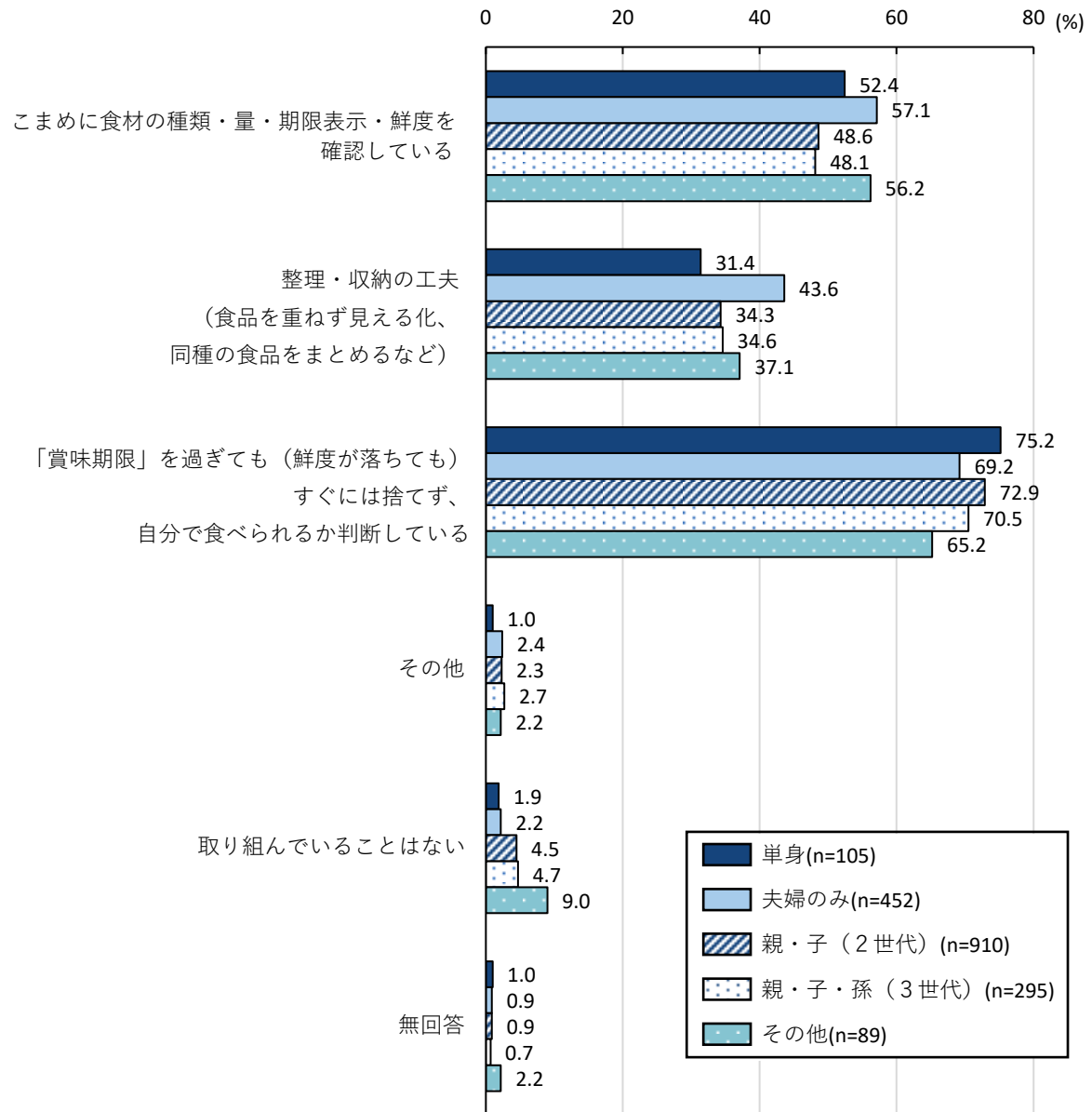
地域別にみると、いずれの地域においても『賞味期限を過ぎててもすぐには捨てない』の割合が最も高くなっている。

また、『整理・収納の工夫』の割合は、鹿角地域（50.0%）が全体の割合（36.7%）を10.0ポイント以上上回っている。

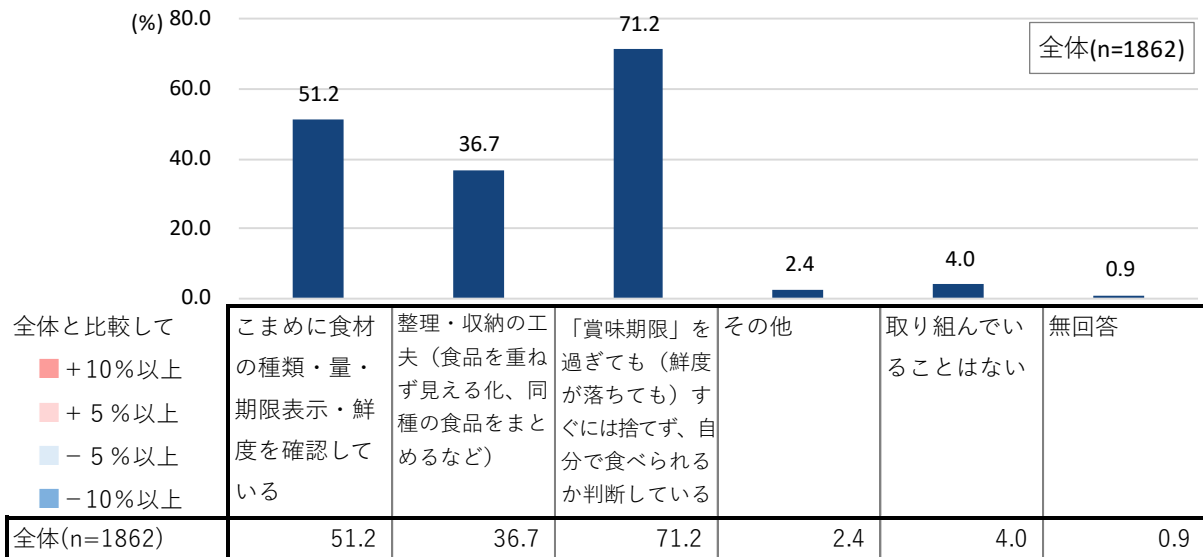


【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても『賞味期限を過ぎてもすぐには捨てない』の割合が最も高くなっている。



### Ⅲ. 調査結果



性別						
男性(n=756)	45.9	28.8	69.7	2.0	6.3	0.7
女性(n=1095)	55.0	42.0	72.4	2.6	2.5	1.1
その他(n=7)	28.6	28.6	71.4	0.0	0.0	0.0

年齢別						
18～19歳(n=16)	56.3	6.3	68.8	0.0	6.3	0.0
20～29歳(n=136)	36.0	21.3	72.8	2.2	8.1	0.0
30～39歳(n=244)	43.9	31.1	66.4	3.7	9.0	0.8
40～49歳(n=306)	48.7	30.4	70.9	2.0	3.9	0.0
50～59歳(n=340)	53.2	43.2	72.1	2.4	3.5	0.6
60～69歳(n=415)	52.0	39.8	73.0	2.2	2.9	1.0
70歳以上(n=401)	59.9	42.1	71.8	2.2	1.2	2.2

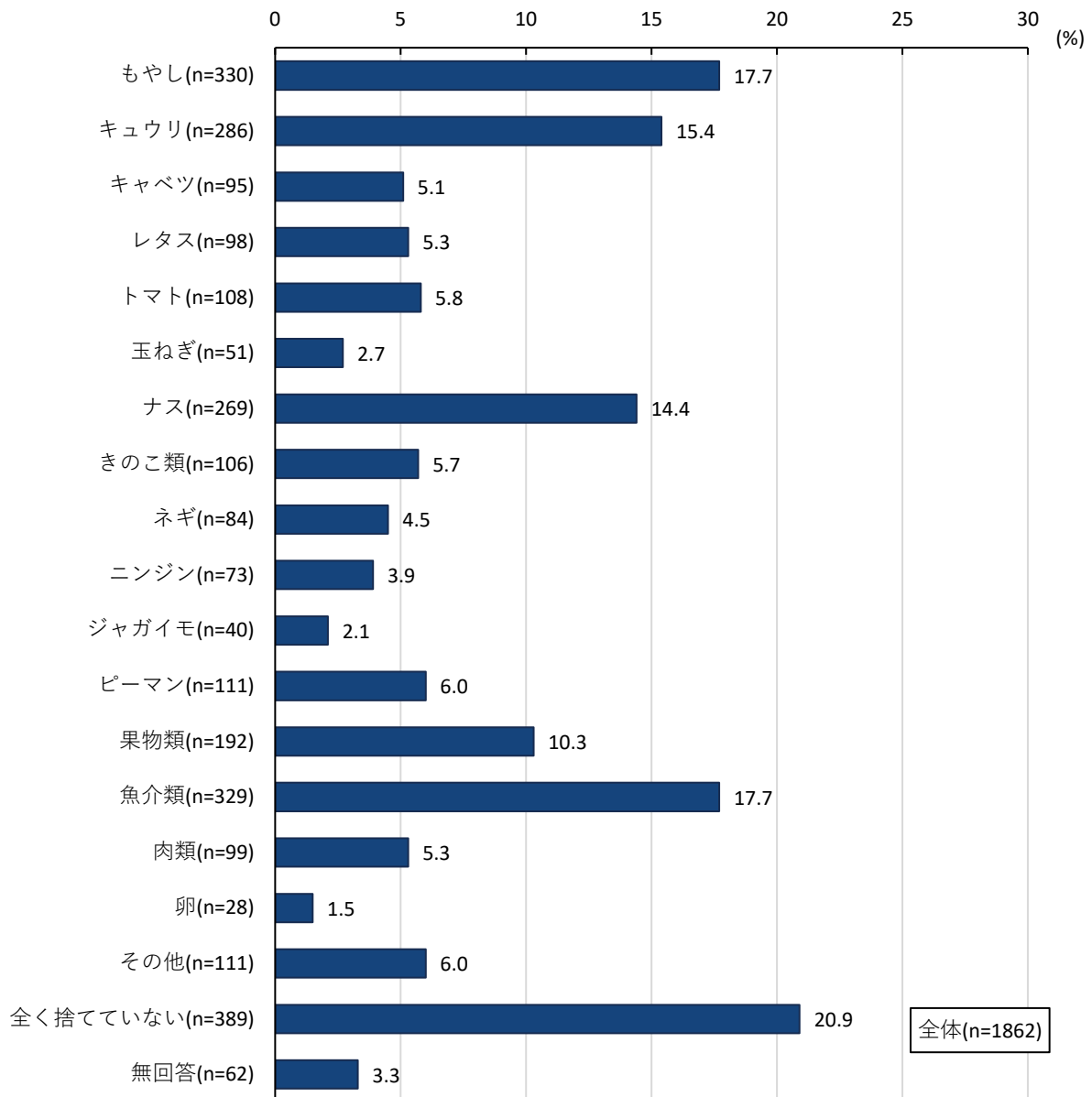
地域別						
鹿角地域(n=74)	43.2	50.0	77.0	1.4	1.4	0.0
北秋田地域(n=194)	45.9	36.6	73.7	2.1	3.1	1.5
山本地域(n=143)	51.0	31.5	63.6	3.5	7.0	0.7
秋田地域(n=739)	52.2	34.2	72.8	2.7	4.3	0.1
由利地域(n=184)	51.1	36.4	70.7	2.2	6.0	1.1
仙北地域(n=239)	51.9	38.9	66.9	2.5	4.6	2.5
平鹿地域(n=178)	53.4	41.6	69.7	0.6	2.2	1.7
雄勝地域(n=107)	54.2	37.4	76.6	2.8	0.0	0.9

家族構成別						
単身(n=105)	52.4	31.4	75.2	1.0	1.9	1.0
夫婦のみ(n=452)	57.1	43.6	69.2	2.4	2.2	0.9
親・子(2世代)(n=910)	48.6	34.3	72.9	2.3	4.5	0.9
親・子・孫(3世代)(n=295)	48.1	34.6	70.5	2.7	4.7	0.7
その他(n=89)	56.2	37.1	65.2	2.2	9.0	2.2

2.4 最近の1か月に捨ててしまった生鮮食品を教えてください。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「全く捨てていない」の割合が20.9%で最も高く、次いで「もやし」および「魚介類」（ともに17.7%）、「キュウリ」（15.4%）、「ナス」（14.4%）の順で続いている。



その他内容（一部）

- 自分で栽培しているため食べきれないことがある（女性/70歳以上）
- ゴーヤ、カボチャ（女性/60～69歳）
- ブロッコリー（女性/30～39歳）
- 納豆（女性/20～29歳）
- 豆腐（女性/50～59歳）

### Ⅲ. 調査結果

#### 【性別】

性別にみると、男性では「全く捨てていない」(25.7%)の割合が最も高く、次いで「魚介類」(22.5%)、「もやし」(13.6%)の順で続いている。

一方、女性では「もやし」(20.6%)の割合が最も高く、次いで「キュウリ」(18.9%)、「全く捨てていない」(17.4%)の順となっている。

順位	男性(n=756)	女性(n=1095)
1	「全く捨てていない」 25.7%	「もやし」 20.6%
2	「魚介類」 22.5%	「キュウリ」 18.9%
3	「もやし」 13.6%	「全く捨てていない」 17.4%
4	「ナス」 11.1%	「ナス」 16.9%
5	「果物類」 10.8%	「魚介類」 14.3%

#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～39歳では「魚介類」の割合が最も高く、次いで「全く捨てていない」が続いている。

40～59歳では「もやし」および「魚介類」が上位2位を占めている。

60歳以上では「全く捨てていない」の割合が最も高く、次いで「もやし」が続いている。

順位	18～19歳 (n=16)	20～29歳 (n=136)	30～39歳 (n=244)	40～49歳 (n=306)	50～59歳 (n=340)	60～69歳 (n=415)	70歳以上 (n=401)
1	「魚介類」 56.3%	「魚介類」 32.4%	「魚介類」 23.4%	「もやし」 20.3%	「魚介類」 20.9%	「全く捨てていない」 20.2%	「全く捨てていない」 31.4%
2	「全く捨てていない」 12.5%	「全く捨てていない」 14.0%	「全く捨てていない」 20.5%	「魚介類」 19.6%	「もやし」 19.4%	「もやし」 20.0%	「もやし」 19.0%
3	「キャベツ」 「ニンジン」 「ジャガイモ」 「果物類」 「その他」	「キュウリ」 「トマト」	「もやし」 「ナス」	「キュウリ」 15.7%	「全く捨てていない」 18.2%	「ナス」 16.9%	「キュウリ」 「ナス」
4				「全く捨てていない」 14.4%			
5	6.3%	「もやし」 「ナス」 8.8%	「キュウリ」 11.9%	「ナス」 13.7%	「ナス」 「果物類」 13.5%	「魚介類」 13.5%	「果物類」 11.0%

### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、秋田地域では「魚介類」、平鹿地域および雄勝地域では「ナス」の割合が最も高くなっている一方、他5地域ではいずれも「全く捨てていない」の割合が最も高くなっている。

また、平鹿地域の「ナス」の割合（24.7%）は、全体の割合（14.4%）を10.0ポイント以上上回っている。

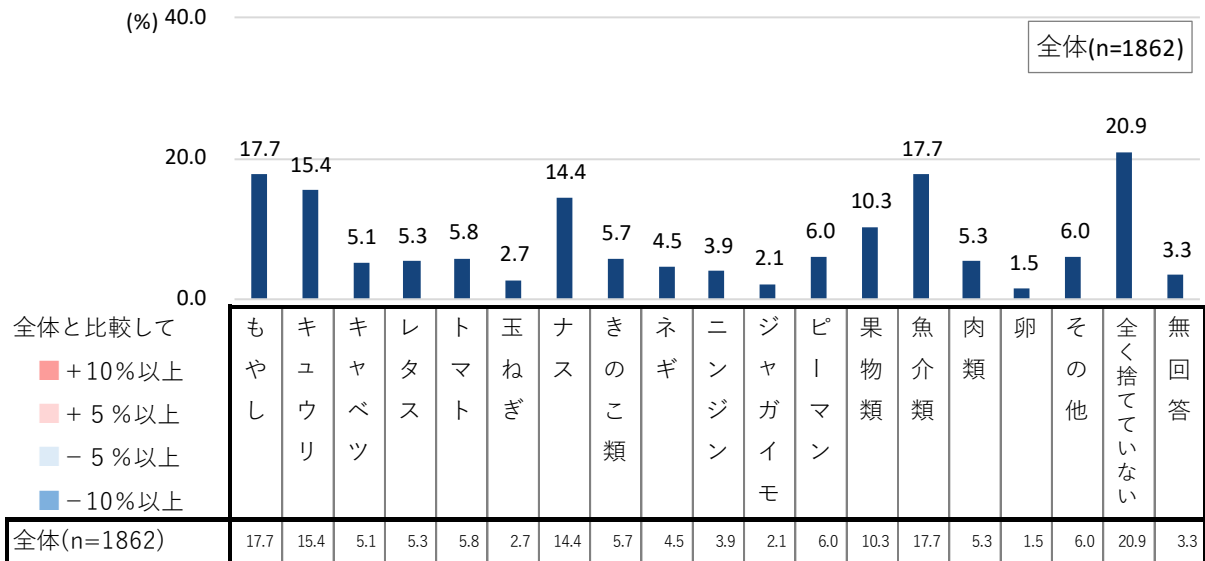
順位	鹿角地域 (n=74)	北秋田地域 (n=194)	山本地域 (n=143)	秋田地域 (n=739)	由利地域 (n=184)	仙北地域 (n=239)	平鹿地域 (n=178)	雄勝地域 (n=107)
1	「キュウリ」 「全く捨てて いない」 23.0%	「全く捨てて いない」 23.7%	「全く捨てて いない」 24.5%	「魚介類」 22.5%	「全く捨てて いない」 21.2%	「全く捨てて いない」 21.3%	「ナス」 24.7%	「ナス」 22.4%
2	23.0%	「もやし」 18.0%	「魚介類」 19.6%	「全く捨てて いない」 20.4%	「もやし」 20.1%	「もやし」 19.2%	「もやし」 22.5%	「キュウリ」 19.6%
3	「もやし」 20.3%	「果物類」 17.5%	「キュウリ」 14.7%	「もやし」 16.8%	「キュウリ」 19.0%	「ナス」 17.6%	「キュウリ」 20.8%	「魚介類」 17.8%
4	「ナス」 16.2%	「キュウリ」 16.5%	「もやし」 11.2%	「キュウリ」 11.6%	「ナス」 19.6%	「魚介類」 16.7%	「全く捨てて いない」 18.5%	「もやし」 15.9%
5	「その他」 10.8%	「ナス」 12.4%	「ナス」 9.8%	「ナス」 「果物類」 9.9%	「魚介類」 14.1%	「キュウリ」 15.5%	「魚介類」 12.9%	「全く捨てて いない」 14.0%

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、親・子（2世代）および親・子・孫（3世代）では「魚介類」の割合が最も高くなっている一方、他3区分ではいずれも「全く捨てていない」の割合が最も高くなっている。

順位	単身 (n=105)	夫婦のみ (n=452)	親・子（2世代） (n=910)	親・子・孫（3世代） (n=295)	その他 (n=89)
1	「全く捨てていない」 23.8%	「全く捨てていない」 25.2%	「魚介類」 18.9%	「魚介類」 19.7%	「全く捨てていない」 24.7%
2	「魚介類」 20.0%	「もやし」 18.4%	「全く捨てていない」 18.2%	「全く捨てていない」 19.0%	「魚介類」 16.9%
3	「もやし」 14.3%	「キュウリ」 「ナス」 15.5%	「もやし」 17.9%	「キュウリ」 18.6%	「キュウリ」 15.7%
4	「果物類」 11.4%		「キュウリ」 15.1%	「もやし」 18.3%	「もやし」 13.5%
5	「キュウリ」 「ナス」 9.5%	「魚介類」 13.9%	「ナス」 14.7%	「ナス」 15.6%	「果物類」 12.4%

### Ⅲ. 調査結果



性別	もやし	キウリ	キャベツ	レタ	トマト	玉ねぎ	ナス	きのこ類	ネギ	ニンジン	ジャガイモ	ピーマン	果物類	魚介類	肉類	卵	その他	全く捨てていない	無回答
全体(n=1862)	17.7	15.4	5.1	5.3	5.8	2.7	14.4	5.7	4.5	3.9	2.1	6.0	10.3	17.7	5.3	1.5	6.0	20.9	3.3
男性(n=756)	13.6	10.3	4.9	3.6	4.8	2.5	11.1	3.8	3.7	3.4	2.4	4.2	10.8	22.5	3.3	2.1	4.2	25.7	3.7
女性(n=1095)	20.6	18.9	5.2	6.5	6.6	2.8	16.9	6.9	5.1	4.3	2.0	7.2	10.0	14.3	6.8	1.1	7.1	17.4	3.0
その他(n=7)	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	28.6	0.0	0.0	14.3	28.6	14.3

年齢別	もやし	キウリ	キャベツ	レタ	トマト	玉ねぎ	ナス	きのこ類	ネギ	ニンジン	ジャガイモ	ピーマン	果物類	魚介類	肉類	卵	その他	全く捨てていない	無回答
18～19歳(n=16)	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	6.3	0.0	6.3	56.3	0.0	0.0	6.3	12.5	6.3
20～29歳(n=136)	8.8	10.3	4.4	1.5	10.3	2.2	8.8	2.9	5.1	5.1	1.5	2.2	8.1	32.4	4.4	0.7	7.4	14.0	5.1
30～39歳(n=244)	12.7	11.9	4.5	5.3	4.9	2.0	12.7	5.3	4.9	3.7	1.6	4.9	6.6	23.4	3.3	2.0	4.1	20.5	4.1
40～49歳(n=306)	20.3	15.7	4.6	4.9	5.9	3.3	13.7	5.6	3.3	3.3	2.6	5.9	6.5	19.6	4.9	1.6	7.2	14.4	4.6
50～59歳(n=340)	19.4	17.4	5.6	5.0	6.5	2.4	13.5	6.8	5.6	2.9	2.1	5.0	13.5	20.9	7.6	1.8	5.6	18.2	1.8
60～69歳(n=415)	20.0	16.4	4.3	5.8	5.1	2.7	16.9	7.7	4.3	5.3	2.2	5.8	13.0	13.5	6.5	2.2	7.2	20.2	1.4
70歳以上(n=401)	19.0	17.0	6.2	6.7	5.2	3.2	17.0	4.0	4.5	3.5	2.2	9.2	11.0	8.0	4.2	0.5	4.7	31.4	4.5

地域別	もやし	キウリ	キャベツ	レタ	トマト	玉ねぎ	ナス	きのこ類	ネギ	ニンジン	ジャガイモ	ピーマン	果物類	魚介類	肉類	卵	その他	全く捨てていない	無回答
鹿角地域(n=74)	20.3	23.0	2.7	5.4	6.8	5.4	16.2	2.7	4.1	2.7	2.7	9.5	9.5	8.1	2.7	1.4	10.8	23.0	2.7
北秋田地域(n=194)	18.0	16.5	3.6	5.7	6.2	3.6	12.4	3.1	4.1	4.1	4.1	4.6	17.5	10.8	6.2	0.0	6.7	23.7	6.2
山本地域(n=143)	11.2	14.7	9.1	2.8	4.2	2.1	9.8	7.7	7.7	1.4	1.4	7.7	8.4	19.6	5.6	2.1	7.0	24.5	5.6
秋田地域(n=739)	16.8	11.6	5.4	5.7	4.6	2.7	9.9	5.5	4.1	5.3	2.4	5.3	9.9	22.5	5.5	1.9	4.9	20.4	2.7
由利地域(n=184)	20.1	19.0	4.9	4.3	10.3	3.8	19.6	7.6	5.4	2.7	0.0	4.3	9.8	14.1	7.1	1.6	4.3	21.2	2.7
仙北地域(n=239)	19.2	15.5	4.6	4.6	7.1	2.5	17.6	4.2	5.4	2.1	1.7	6.3	8.4	16.7	2.9	1.7	9.2	21.3	2.9
平鹿地域(n=178)	22.5	20.8	4.5	6.2	5.6	0.6	24.7	7.9	3.4	3.4	2.2	9.0	9.6	12.9	4.5	0.6	3.9	18.5	2.2
雄勝地域(n=107)	15.9	19.6	3.7	6.5	4.7	1.9	22.4	6.5	2.8	5.6	1.9	5.6	10.3	17.8	7.5	1.9	6.5	14.0	3.7

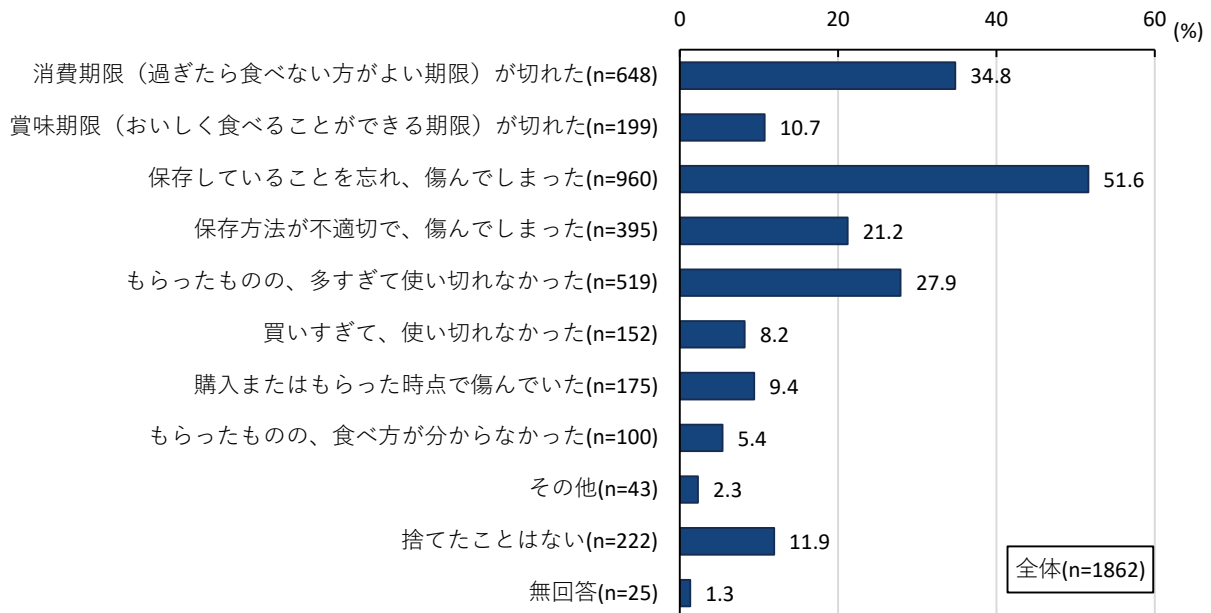
家族構成別	もやし	キウリ	キャベツ	レタ	トマト	玉ねぎ	ナス	きのこ類	ネギ	ニンジン	ジャガイモ	ピーマン	果物類	魚介類	肉類	卵	その他	全く捨てていない	無回答
単身(n=105)	14.3	9.5	7.6	3.8	4.8	5.7	9.5	3.8	6.7	1.0	2.9	6.7	11.4	20.0	4.8	1.9	4.8	23.8	1.9
夫婦のみ(n=452)	18.4	15.5	4.9	6.4	4.9	3.3	15.5	5.5	5.1	5.8	2.0	6.4	7.7	13.9	5.1	1.8	7.3	25.2	2.4
親・子(2世代)(n=910)	17.9	15.1	4.8	4.5	5.4	2.4	14.7	5.9	4.3	3.5	2.4	5.9	11.4	18.9	5.9	1.4	4.9	18.2	4.3
親・子・孫(3世代)(n=295)	18.3	18.6	5.8	6.1	8.5	1.7	15.6	5.4	3.7	3.7	2.0	5.8	9.8	19.7	3.4	0.7	7.5	19.0	2.4
その他(n=89)	13.5	15.7	3.4	6.7	6.7	2.2	10.1	6.7	4.5	3.4	0.0	4.5	12.4	16.9	7.9	3.4	6.7	24.7	3.4

2. 5 あなたは、未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまったことはありますか。捨ててしまったときの理由を教えてください。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「保存していることを忘れ、傷んでしまった」の割合が51.6%で最も高く、次いで「消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)が切れた」(34.8%)、「もらったものの、多すぎて使い切れなかった」(27.9%)の順で続いている。

また、「捨てたことはない」の割合は11.9%となっている。



その他内容(一部)

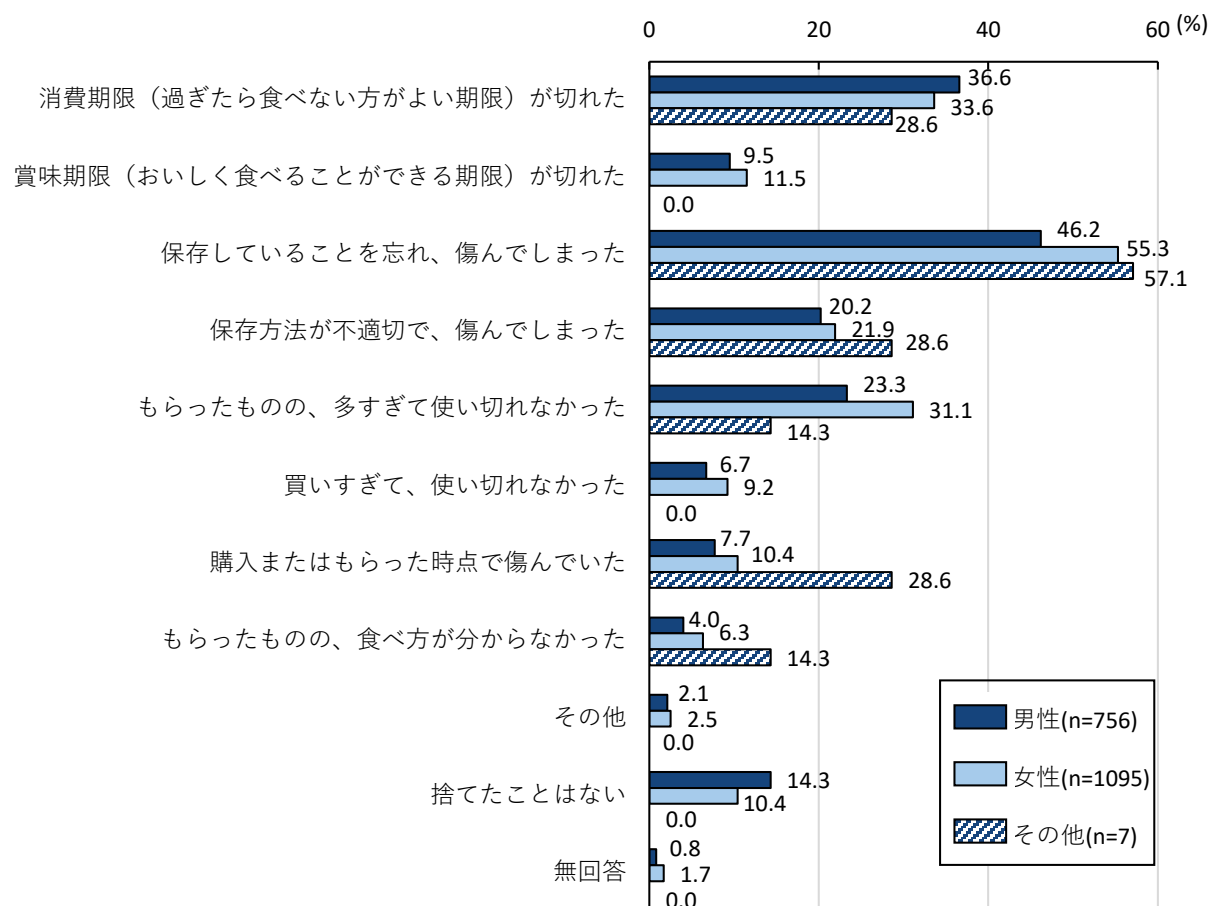
- 猛暑のため、クーラーの無い台所で料理したくでも出来なかった(女性/60~69歳)
- もらったものの、嫌いまたは食べられない食べ物だった(女性/30~39歳)
- 畑でピーマンがとれ過ぎたため(女性/70歳以上)
- 冷蔵庫が壊れていることに気づかず腐敗していた(男性/50~59歳)
- 仕事が忙しくなり、料理する時間がなくなって傷んでしまった(女性/50~59歳)

### Ⅲ. 調査結果

#### 【性別】

性別にみると、男女ともに「保存していることを忘れ、傷んでしまった」の割合（男性：46.2%、女性：55.3%）が最も高く、次いで「消費期限（過ぎたら食べない方がよい期限）が切れた」（男性：36.6%、女性：33.6%）、「もらったものの、多すぎて使い切れなかった」（男性：23.3%、女性：31.1%）の順で続いている。

また、「捨てたことはない」の割合は、男女ともに1割台となっている（男性：14.3%、女性：10.4%）。

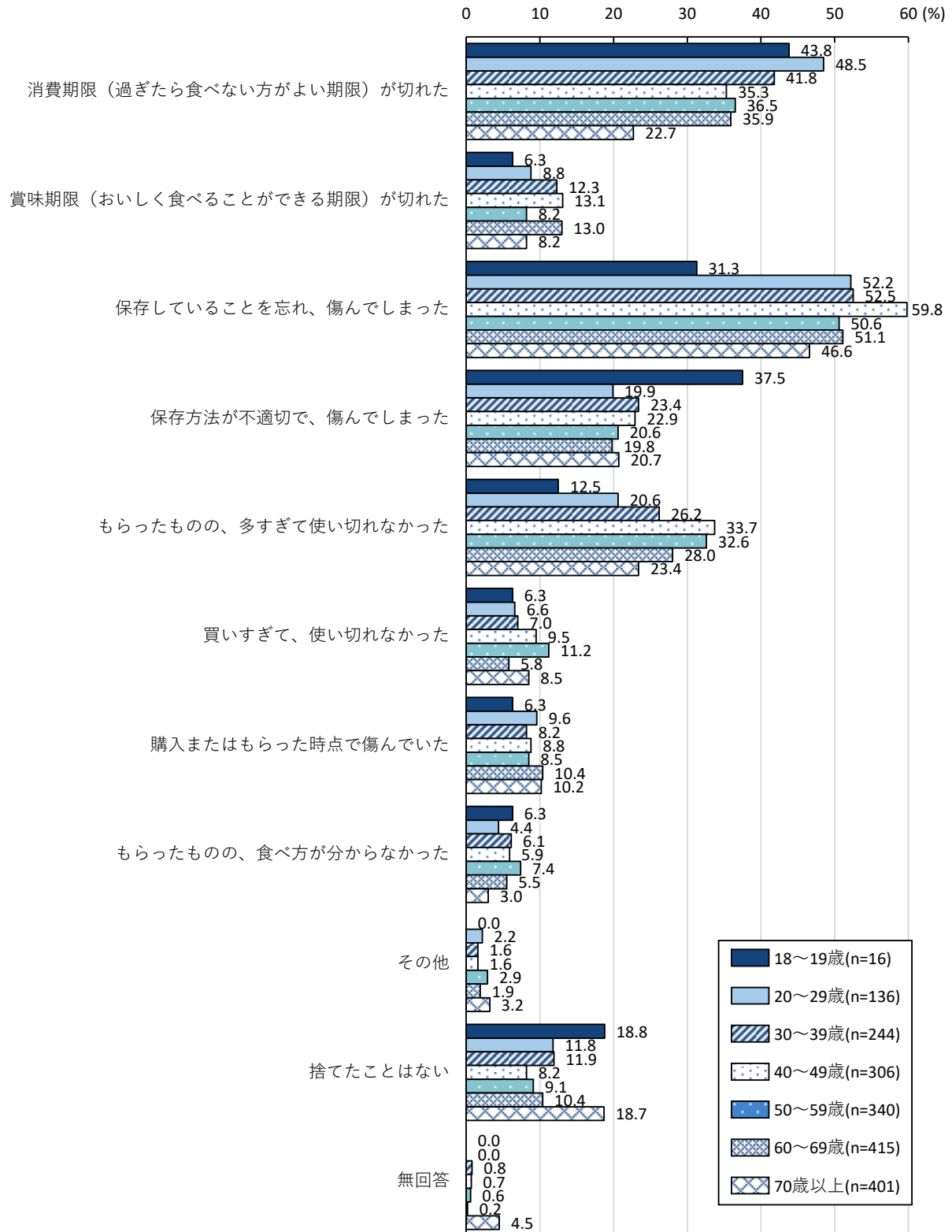


### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳では「消費期限（過ぎたら食べない方がよい期限）が切れた」、20歳以上では「保存していることを忘れ、傷んでしまった」の割合が最も高くなっている。

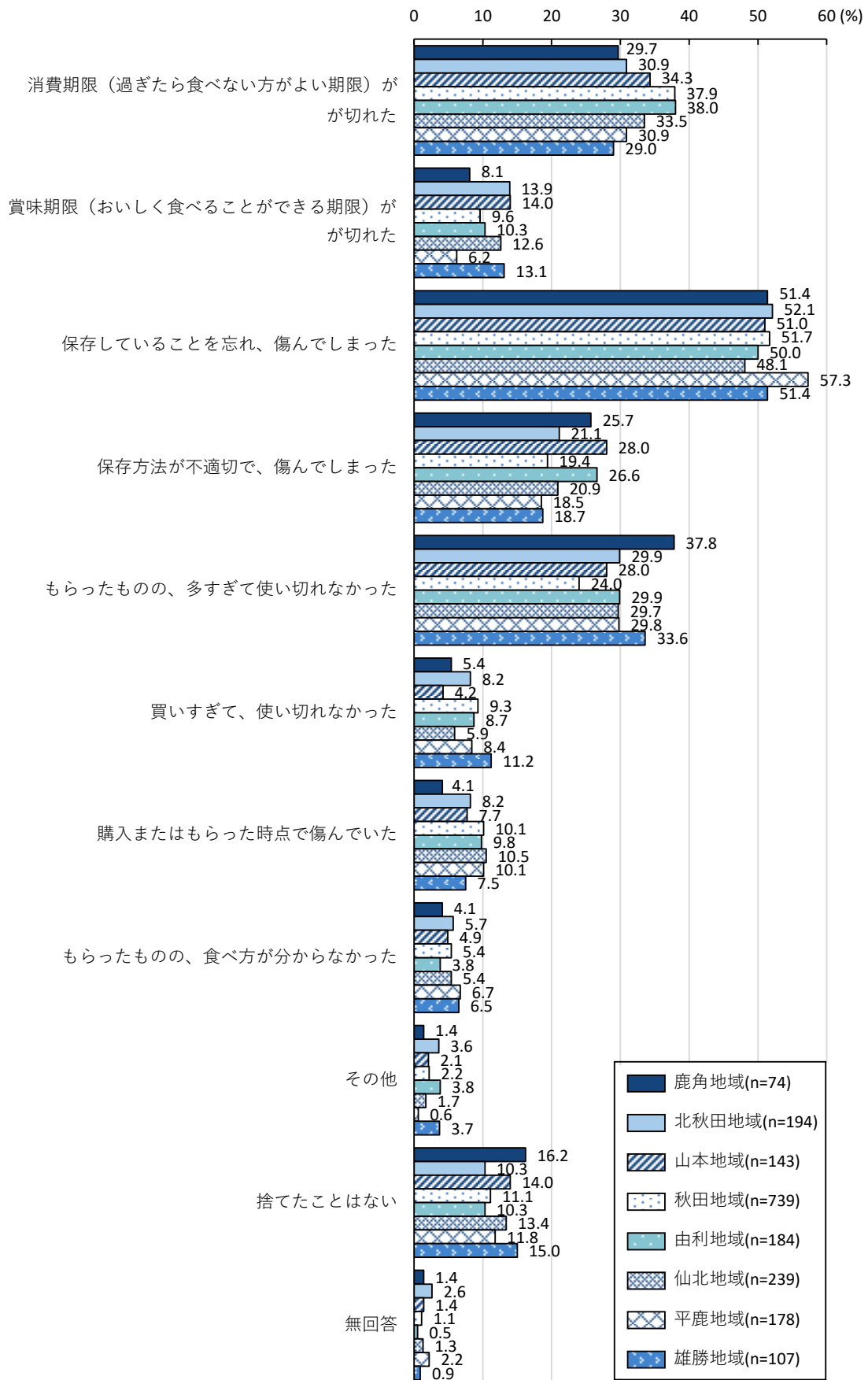
また、「消費期限（過ぎたら食べない方がよい期限）が切れた」の割合は、18～39歳では4割台、40～69歳では3割台、70歳以上では2割台となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向にある。



### Ⅲ. 調査結果

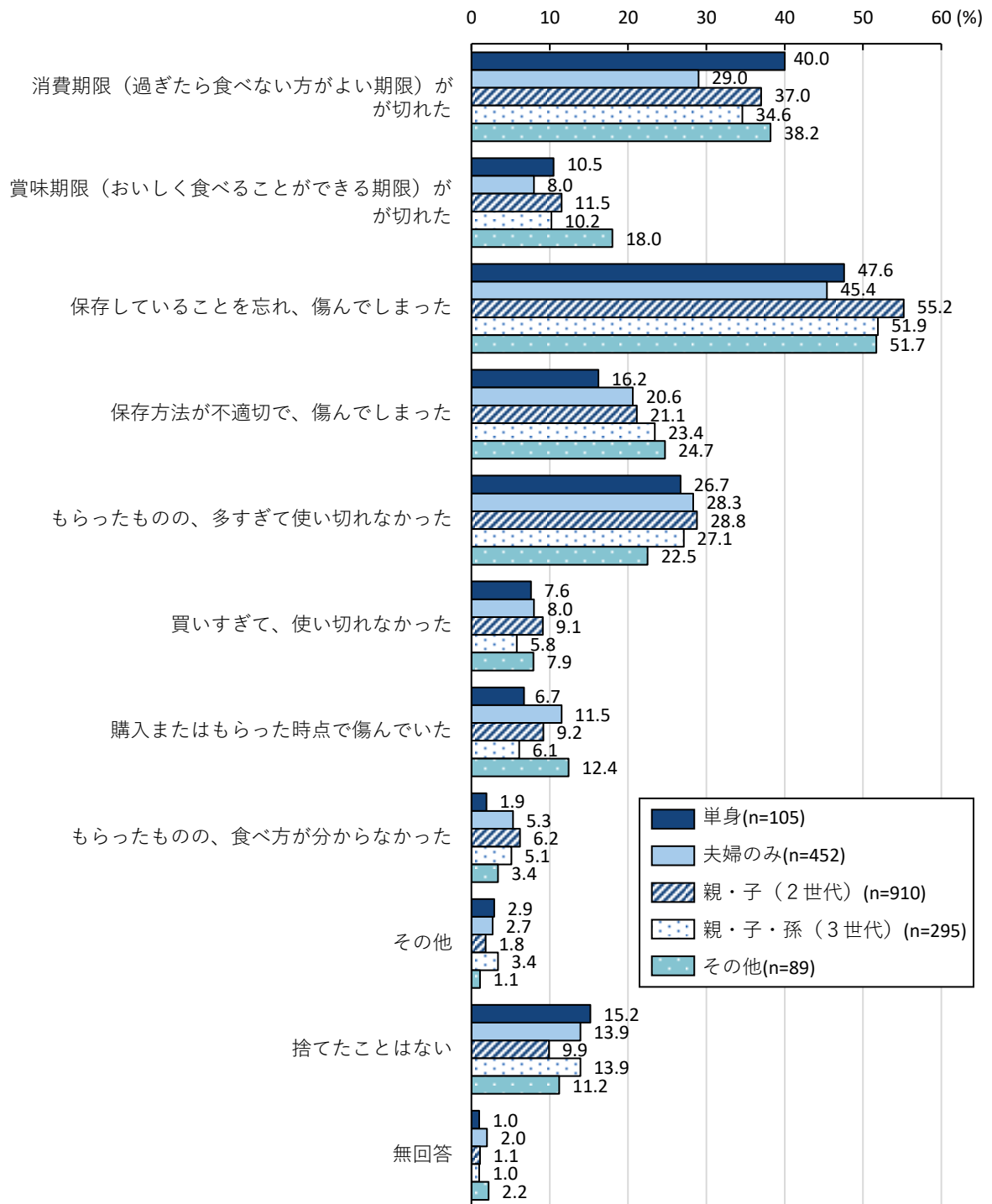
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「保存していることを忘れ、傷んでしまった」の割合が最も高くなっている。一方、「捨てたことはない」の割合は、いずれも1割台となっている。

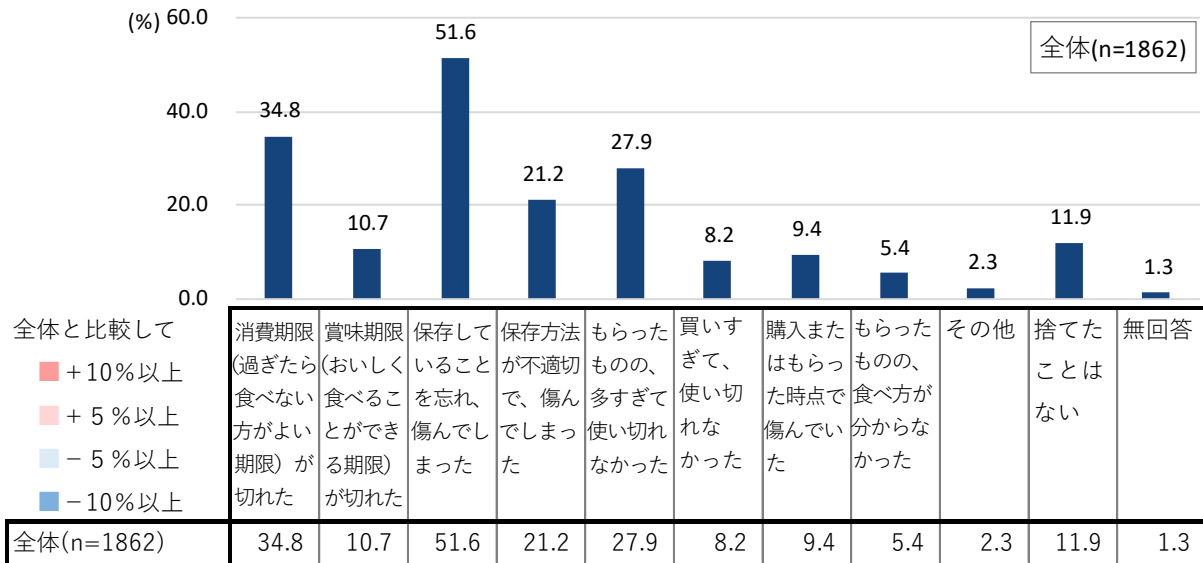


【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「保存していることを忘れ、傷んでしまった」の割合が最も高くなっている。一方、「捨てたことはない」の割合は、いずれも1割以下となっている。



### Ⅲ. 調査結果



性別	消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)が切れた	賞味期限(おいしく食べることができる期限)が切れた	保存していることを忘れて傷んでしまった	保存方法が不適切で、傷んでしまった	もらったものの、多すぎて使い切れなかった	買いすぎて、使い切れなかった	購入またはもらった時点で傷んでいた	もらったものの、食べ方が分からなかった	その他	捨てたことはない	無回答
全体(n=1862)	34.8	10.7	51.6	21.2	27.9	8.2	9.4	5.4	2.3	11.9	1.3
男性(n=756)	36.6	9.5	46.2	20.2	23.3	6.7	7.7	4.0	2.1	14.3	0.8
女性(n=1095)	33.6	11.5	55.3	21.9	31.1	9.2	10.4	6.3	2.5	10.4	1.7
その他(n=7)	28.6	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0

年齢別	消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)が切れた	賞味期限(おいしく食べることができる期限)が切れた	保存していることを忘れて傷んでしまった	保存方法が不適切で、傷んでしまった	もらったものの、多すぎて使い切れなかった	買いすぎて、使い切れなかった	購入またはもらった時点で傷んでいた	もらったものの、食べ方が分からなかった	その他	捨てたことはない	無回答
18～19歳(n=16)	43.8	6.3	31.3	37.5	12.5	6.3	6.3	6.3	0.0	18.8	0.0
20～29歳(n=136)	48.5	8.8	52.2	19.9	20.6	6.6	9.6	4.4	2.2	11.8	0.0
30～39歳(n=244)	41.8	12.3	52.5	23.4	26.2	7.0	8.2	6.1	1.6	11.9	0.8
40～49歳(n=306)	35.3	13.1	59.8	22.9	33.7	9.5	8.8	5.9	1.6	8.2	0.7
50～59歳(n=340)	36.5	8.2	50.6	20.6	32.6	11.2	8.5	7.4	2.9	9.1	0.6
60～69歳(n=415)	35.9	13.0	51.1	19.8	28.0	5.8	10.4	5.5	1.9	10.4	0.2
70歳以上(n=401)	22.7	8.2	46.6	20.7	23.4	8.5	10.2	3.0	3.2	18.7	4.5

地域別	消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)が切れた	賞味期限(おいしく食べることができる期限)が切れた	保存していることを忘れて傷んでしまった	保存方法が不適切で、傷んでしまった	もらったものの、多すぎて使い切れなかった	買いすぎて、使い切れなかった	購入またはもらった時点で傷んでいた	もらったものの、食べ方が分からなかった	その他	捨てたことはない	無回答
鹿角地域(n=74)	29.7	8.1	51.4	25.7	37.8	5.4	4.1	4.1	1.4	16.2	1.4
北秋田地域(n=194)	30.9	13.9	52.1	21.1	29.9	8.2	8.2	5.7	3.6	10.3	2.6
山本地域(n=143)	34.3	14.0	51.0	28.0	28.0	4.2	7.7	4.9	2.1	14.0	1.4
秋田地域(n=739)	37.9	9.6	51.7	19.4	24.0	9.3	10.1	5.4	2.2	11.1	1.1
由利地域(n=184)	38.0	10.3	50.0	26.6	29.9	8.7	9.8	3.8	3.8	10.3	0.5
仙北地域(n=239)	33.5	12.6	48.1	20.9	29.7	5.9	10.5	5.4	1.7	13.4	1.3
平鹿地域(n=178)	30.9	6.2	57.3	18.5	29.8	8.4	10.1	6.7	0.6	11.8	2.2
雄勝地域(n=107)	29.0	13.1	51.4	18.7	33.6	11.2	7.5	6.5	3.7	15.0	0.9

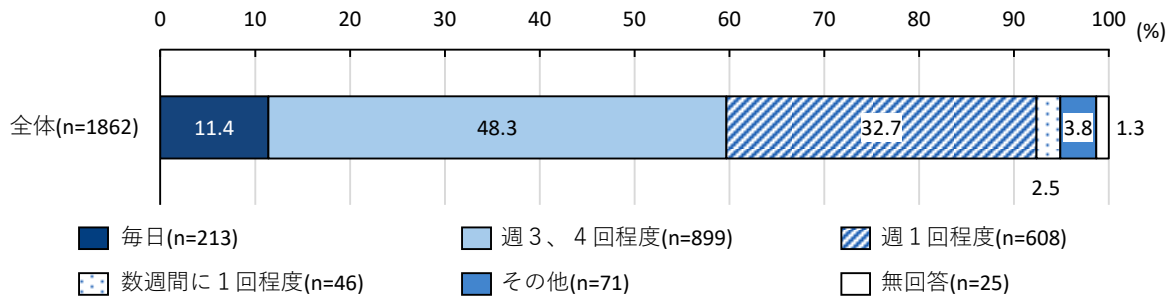
家族構成別	消費期限(過ぎたら食べない方がよい期限)が切れた	賞味期限(おいしく食べることができる期限)が切れた	保存していることを忘れて傷んでしまった	保存方法が不適切で、傷んでしまった	もらったものの、多すぎて使い切れなかった	買いすぎて、使い切れなかった	購入またはもらった時点で傷んでいた	もらったものの、食べ方が分からなかった	その他	捨てたことはない	無回答
単身(n=105)	40.0	10.5	47.6	16.2	26.7	7.6	6.7	1.9	2.9	15.2	1.0
夫婦のみ(n=452)	29.0	8.0	45.4	20.6	28.3	8.0	11.5	5.3	2.7	13.9	2.0
親・子(2世代)(n=910)	37.0	11.5	55.2	21.1	28.8	9.1	9.2	6.2	1.8	9.9	1.1
親・子・孫(3世代)(n=295)	34.6	10.2	51.9	23.4	27.1	5.8	6.1	5.1	3.4	13.9	1.0
その他(n=89)	38.2	18.0	51.7	24.7	22.5	7.9	12.4	3.4	1.1	11.2	2.2

### 3 買い物での食品ロス削減の取組について

3.1 あなたの買い物の頻度は、次のどれにあたりますか。(1つだけに○) なお、食料品の宅配も買い物として数えてください。

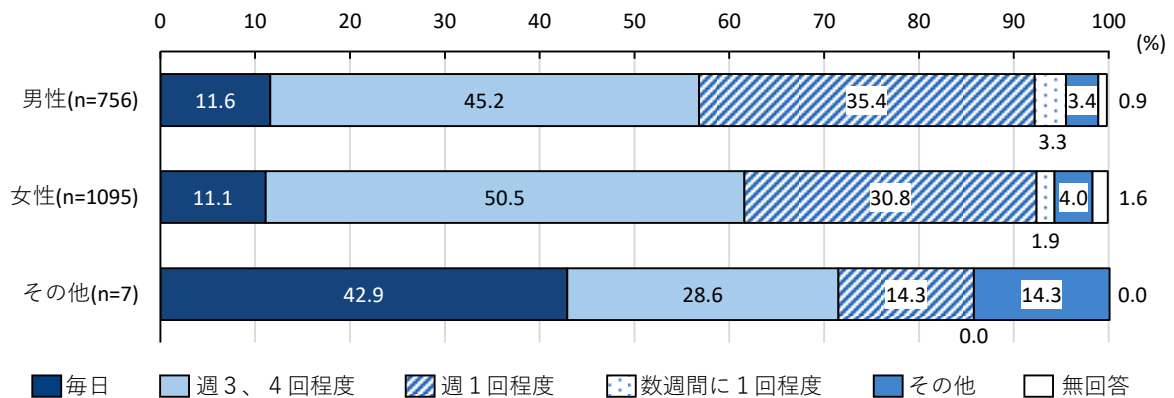
#### 【全体】

「週3、4回程度」の割合が48.3%で最も高く、次いで「週1回程度」(32.7%)、「毎日」(11.4%)の順で続いている。



#### 【性別】

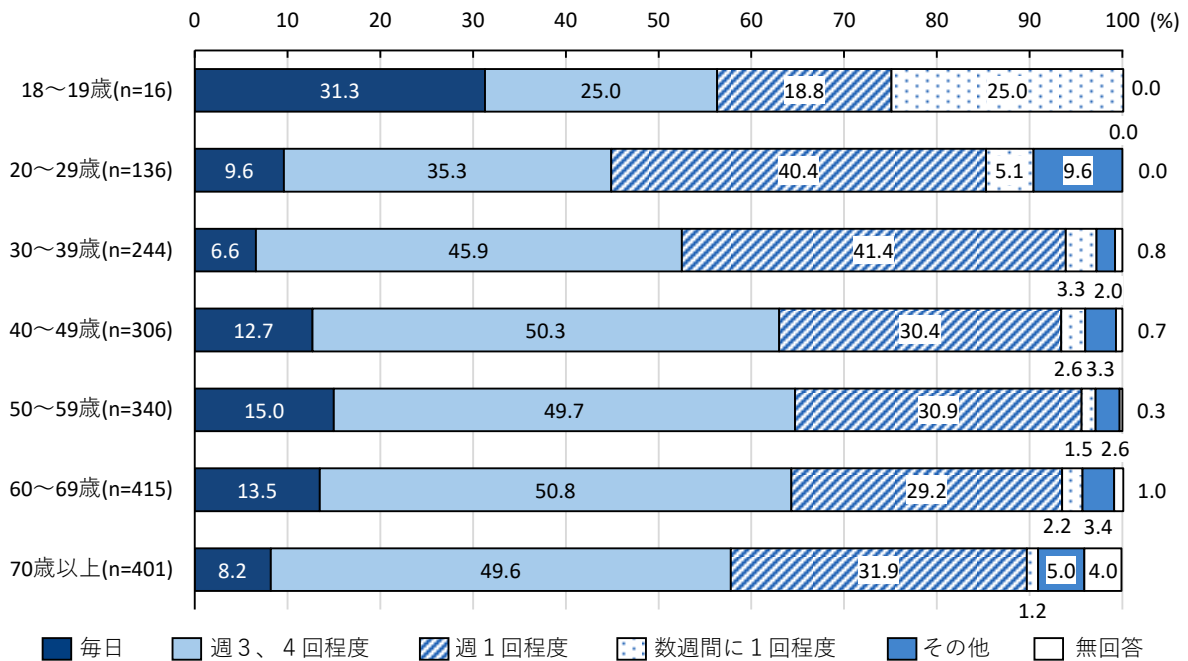
性別にみると、男女ともに「週3、4回程度」の割合（男性：45.2%、女性：50.5%）が最も高く、次いで「週1回程度」（男性：35.4%、女性30.8%）、「毎日」（男性：11.6%、女性：11.1%）の順で続いております、性別による大きな差はみられない。



### Ⅲ. 調査結果

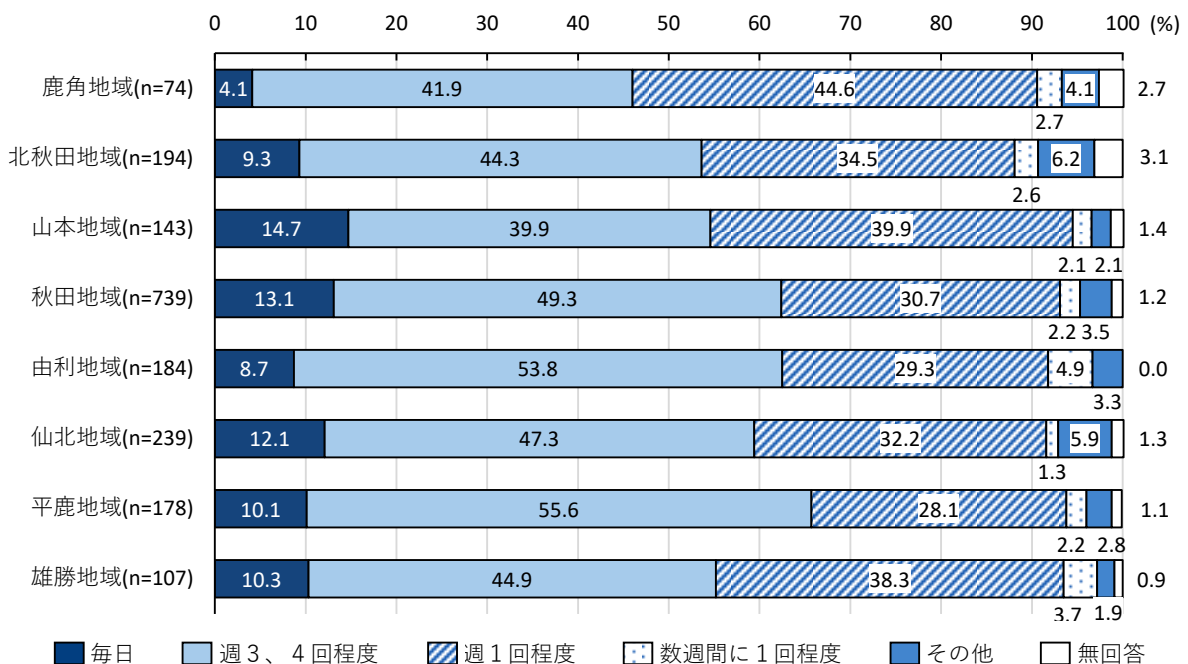
#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳では「毎日」、20歳代では「週1回程度」、30歳以上では「週3、4回程度」の割合が最も高くなっている。



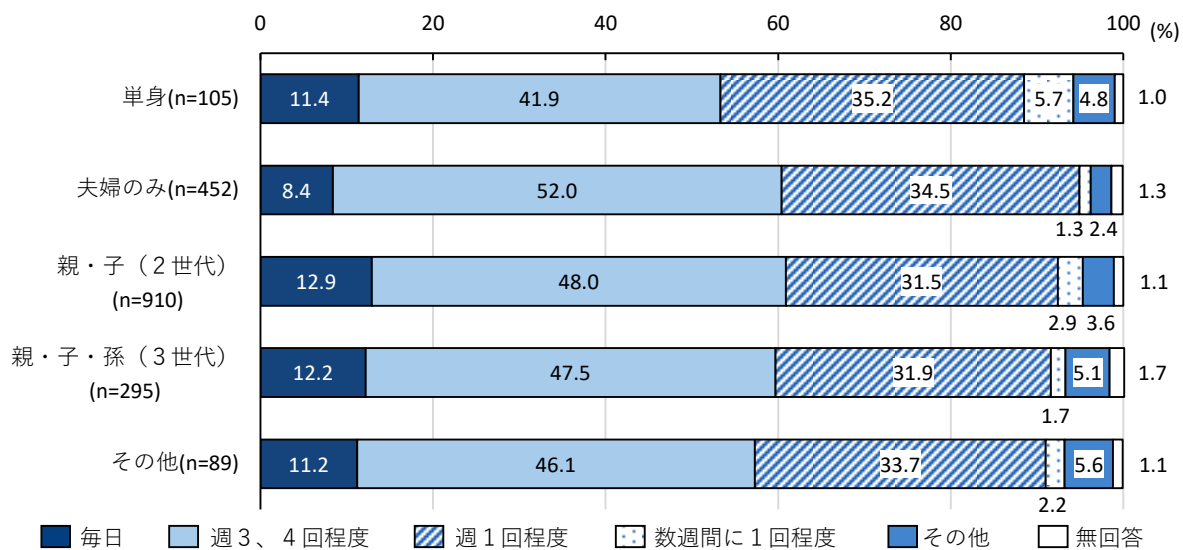
#### 【地域別】

地域別にみると、鹿角地域では「週1回程度」の割合が最も高く、山本地域では「週3、4回程度」および「週1回程度」が同率で最も高くなっている。他6地域ではいずれも「週3、4回程度」の割合が最も高くなっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「週3、4回程度」の割合が最も高く、次いで「週1回程度」、「毎日」の順で続いている。

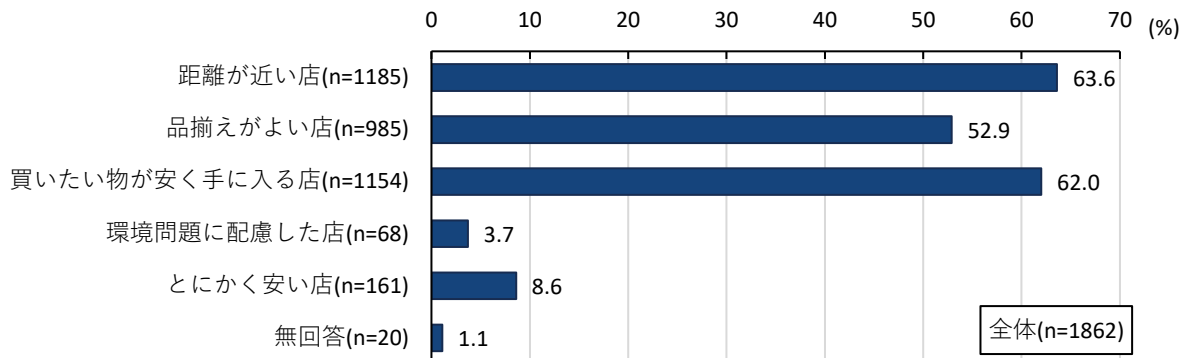


### Ⅲ. 調査結果

#### 3.2 あなたは、買い物をするとき、どのようなお店を選びますか。(当てはまるものすべてに○)

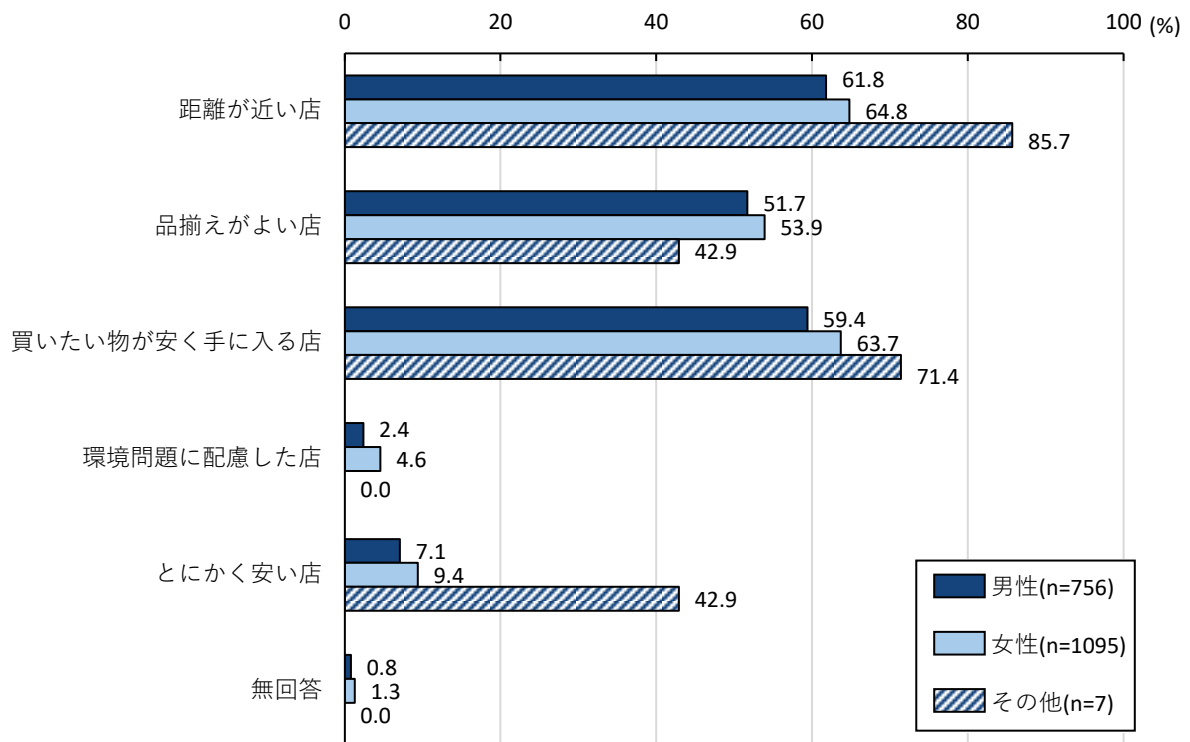
##### 【全体】

「距離が近い店」の割合が63.6%で最も高く、次いで「買いたい物が安く手に入る店」(62.0%)、「品揃えがよい店」(52.9%)の順で続いている。



##### 【性別】

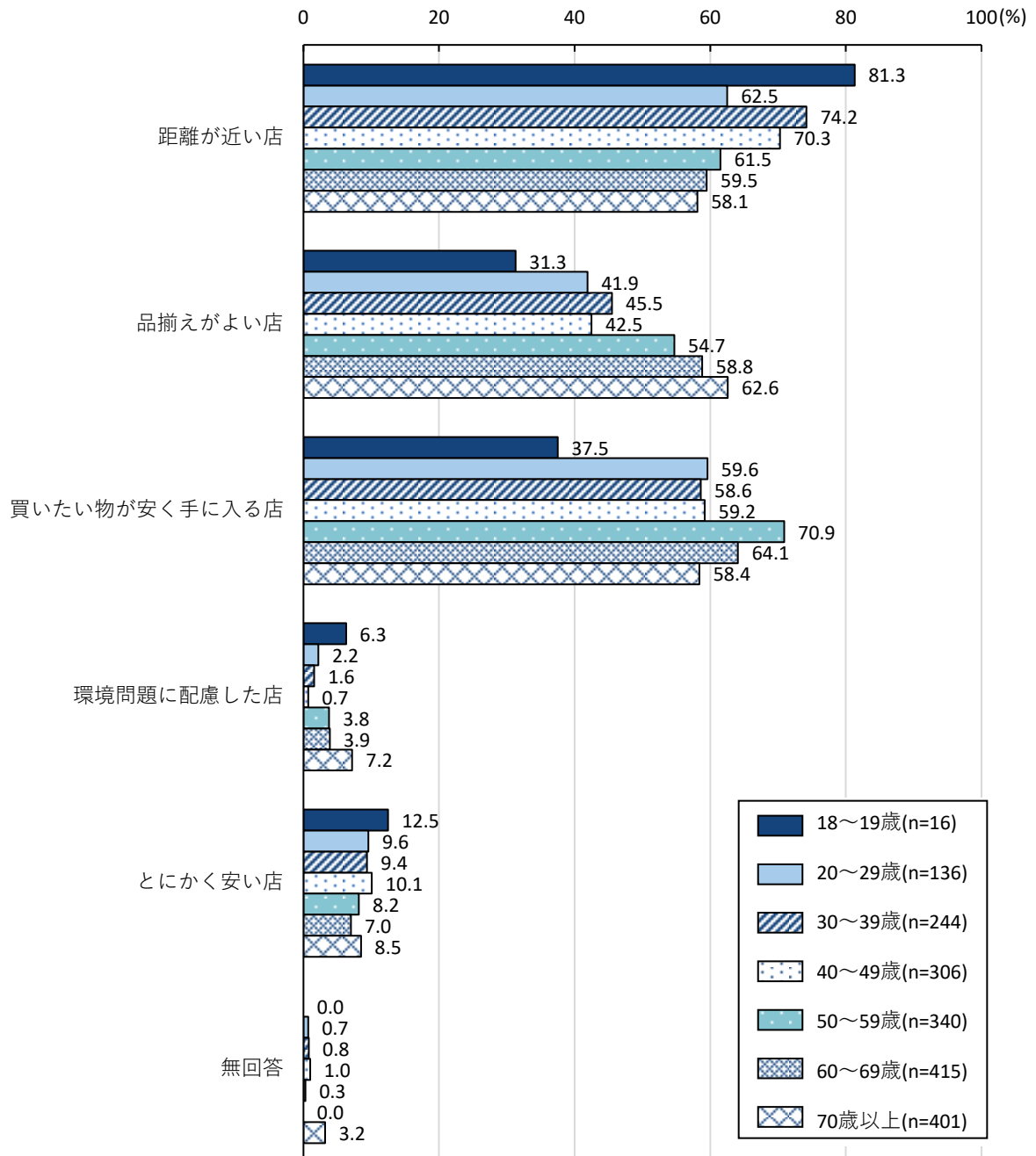
性別にみると、男女ともに「距離が近い店」の割合（男性：61.8%、女性：64.8%）が最も高く、次いで「買いたい物が安く手に入る店」（男性：59.4%、女性：63.7%）、「品揃えがよい店」（男性：51.7%、女性：53.9%）の順で続いております、性別による大きな差はみられない。



【年齢別】

年齢別にみると、18～49歳では「距離が近い店」、50～69歳では「買いたい物が安く手に入る店」、70歳以上では「品揃えがよい店」の割合が最も高くなっている。

「距離が近い店」の割合は、18～19歳では8割台、30～49歳では7割台、その他の年齢は6割前後となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向にある一方、「品揃えのよい店」では、18～19歳では3割台、20～49歳では4割台、50～69歳では5割台、70歳以上では6割台となっており、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

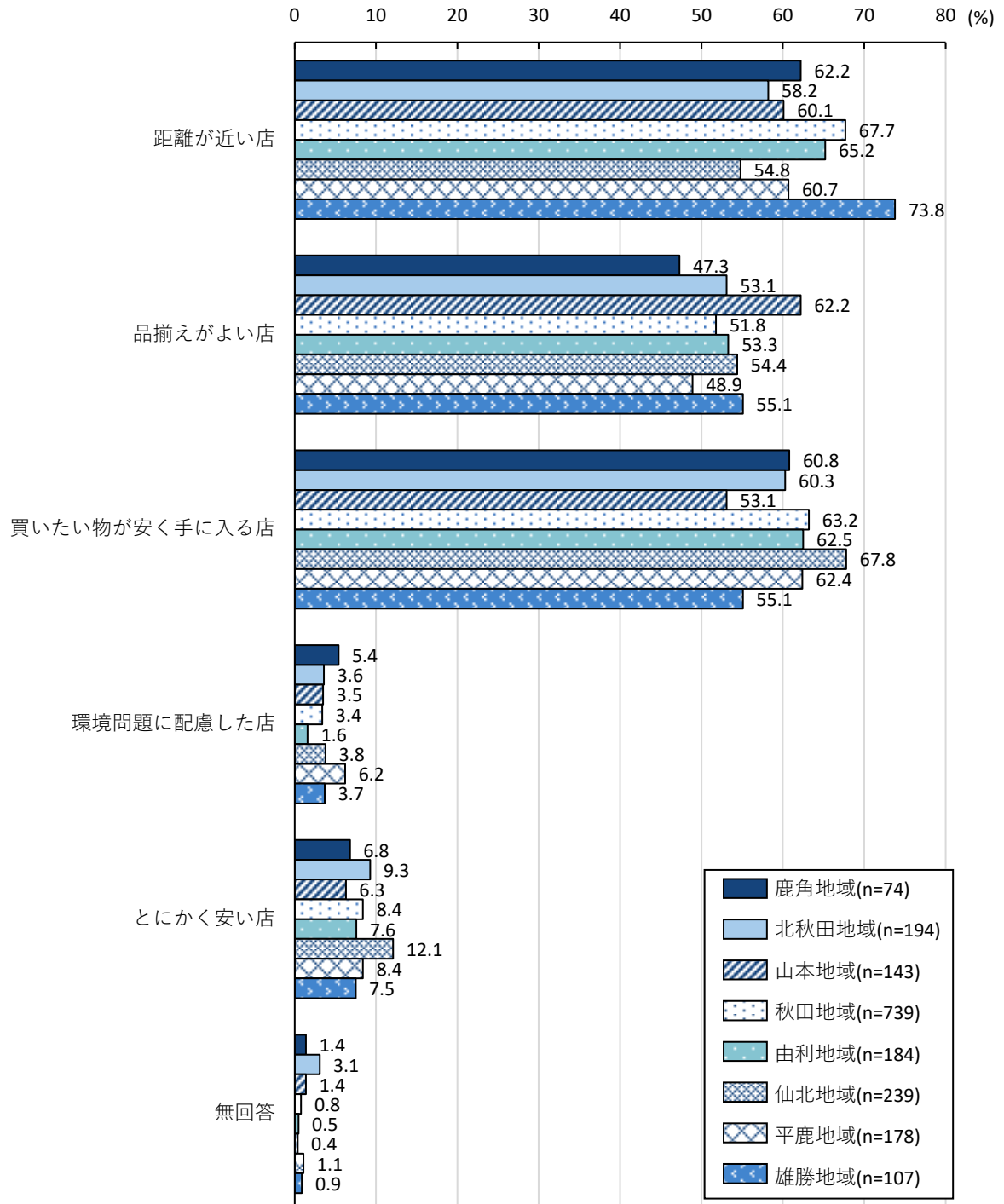


### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、北秋田地域および仙北地域、平鹿地域では「買いたい物が安く手に入る店」、山本地域では「品揃えがよい店」、他4地域では「距離が近い店」の割合が最も高くなっている。

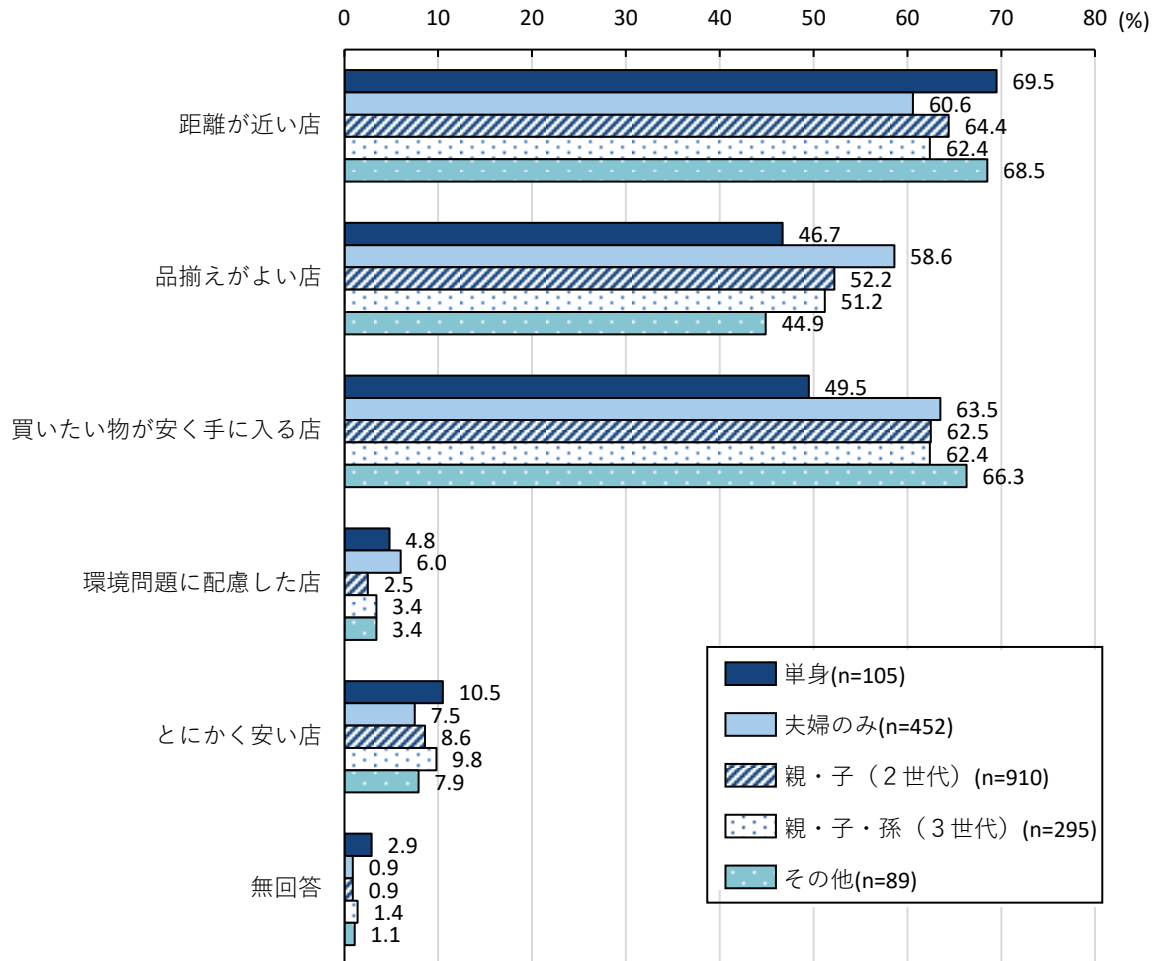
特に、「距離が近い店」の割合は、雄勝地域（73.8%）が全体の割合（63.6%）を10.0ポイント以上上回っている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、夫婦のみでは「買いたい物が安く手に入る店」、親・子・孫（3世代）では「距離が近い店」および「買いたい物が安く手に入る店」が同率で最も高くなっている。他3区分ではいずれも「距離が近い店」の割合が最も高くなっている。

また、「買いたい物が安く手に入る店」の割合は、単身（49.5%）が全体の割合（62.0%）を10.0ポイント以上下回っている。

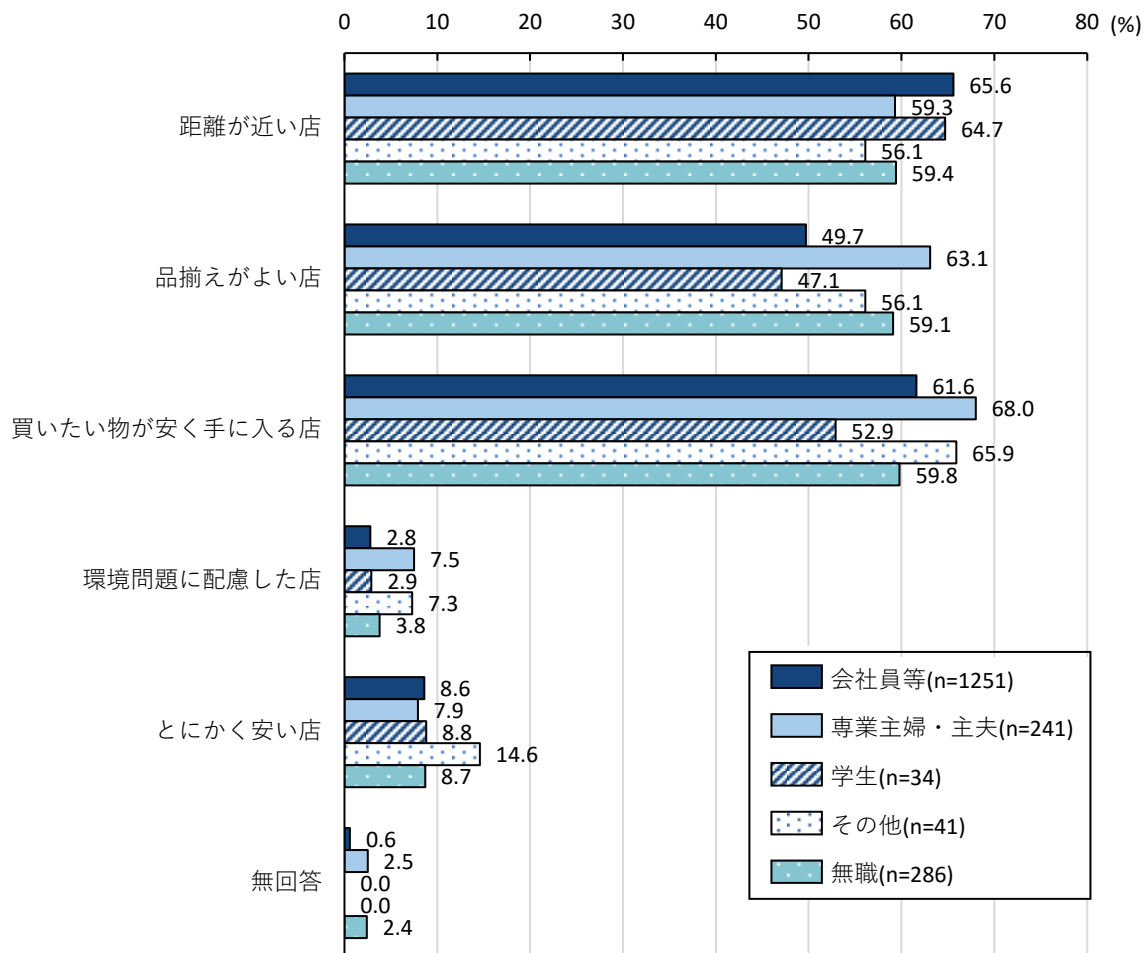


### Ⅲ. 調査結果

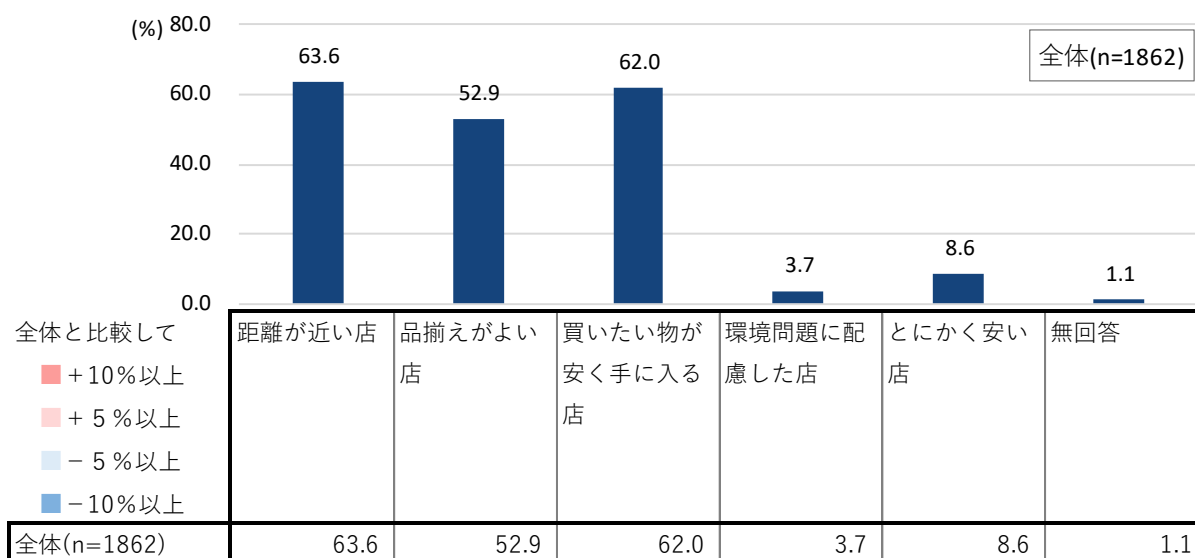
#### 【職業別】

職業別にみると、会社員等および学生では「距離が近い店」の割合が最も高く、他3区分ではいずれも「買いたい物が安く手に入る店」の割合が最も高くなっている。

また、「品揃えがよい店」の割合は、専業主婦・主夫（63.1%）が全体の割合（52.9%）を10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	61.8	51.7	59.4	2.4	7.1	0.8
女性(n=1095)	64.8	53.9	63.7	4.6	9.4	1.3
その他(n=7)	85.7	42.9	71.4	0.0	42.9	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	81.3	31.3	37.5	6.3	12.5	0.0
20～29歳(n=136)	62.5	41.9	59.6	2.2	9.6	0.7
30～39歳(n=244)	74.2	45.5	58.6	1.6	9.4	0.8
40～49歳(n=306)	70.3	42.5	59.2	0.7	10.1	1.0
50～59歳(n=340)	61.5	54.7	70.9	3.8	8.2	0.3
60～69歳(n=415)	59.5	58.8	64.1	3.9	7.0	0.0
70歳以上(n=401)	58.1	62.6	58.4	7.2	8.5	3.2

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	62.2	47.3	60.8	5.4	6.8	1.4
北秋田地域(n=194)	58.2	53.1	60.3	3.6	9.3	3.1
山本地域(n=143)	60.1	62.2	53.1	3.5	6.3	1.4
秋田地域(n=739)	67.7	51.8	63.2	3.4	8.4	0.8
由利地域(n=184)	65.2	53.3	62.5	1.6	7.6	0.5
仙北地域(n=239)	54.8	54.4	67.8	3.8	12.1	0.4
平鹿地域(n=178)	60.7	48.9	62.4	6.2	8.4	1.1
雄勝地域(n=107)	73.8	55.1	55.1	3.7	7.5	0.9

#### 家族構成別

単身(n=105)	69.5	46.7	49.5	4.8	10.5	2.9
夫婦のみ(n=452)	60.6	58.6	63.5	6.0	7.5	0.9
親・子(2世代)(n=910)	64.4	52.2	62.5	2.5	8.6	0.9
親・子・孫(3世代)(n=295)	62.4	51.2	62.4	3.4	9.8	1.4
その他(n=89)	68.5	44.9	66.3	3.4	7.9	1.1

#### 職業別

会社員等(n=1251)	65.6	49.7	61.6	2.8	8.6	0.6
専業主婦・主夫(n=241)	59.3	63.1	68.0	7.5	7.9	2.5
学生(n=34)	64.7	47.1	52.9	2.9	8.8	0.0
その他(n=41)	56.1	56.1	65.9	7.3	14.6	0.0
無職(n=286)	59.4	59.1	59.8	3.8	8.7	2.4

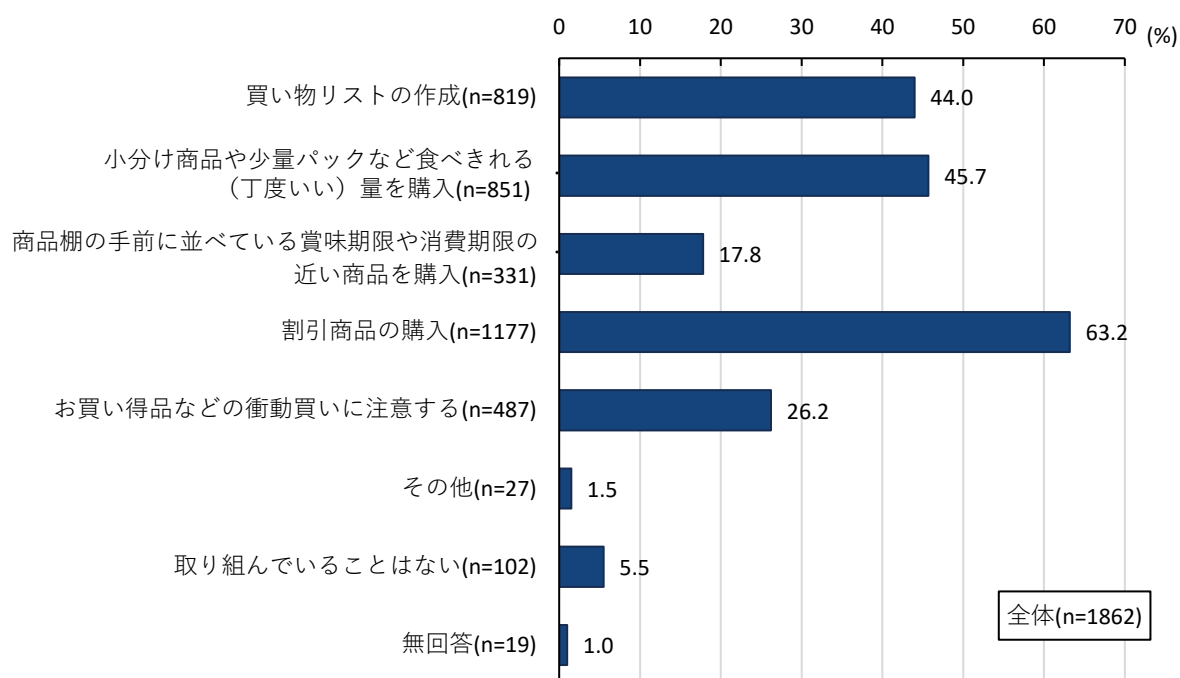
### Ⅲ. 調査結果

#### 3.3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

##### 【全体】

「割引商品の購入」の割合が63.2%で最も高く、次いで「小分け商品や少量パックなど食べきれ(丁度いい)量を購入」(以下『食べきれる量を購入』)(45.7%)、「買い物リストの作成」(44.0%)の順で続いている。

また、「取り組んでいることはない」の割合は5.5%となっている。



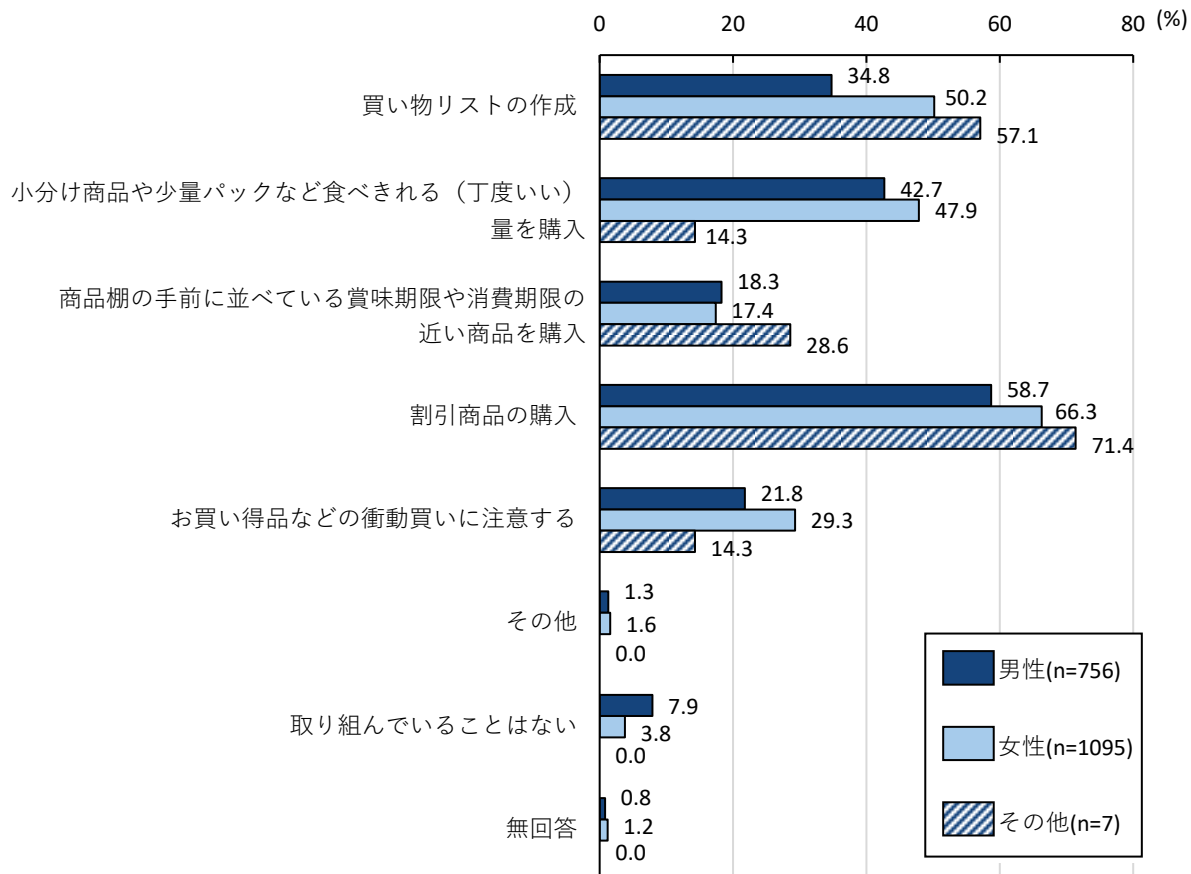
##### その他内容 (一部)

- その日必要な物を買う (女性/40~49歳)
- 作るものの予定を立てる (女性/40~49歳)
- 事前に家庭の冷蔵庫にあるものを確認 (男性/30~39歳)
- 冷凍庫の活用 (男性/40~49歳)

【性別】

性別にみると、男女ともに「割引商品の購入」（男性：58.7%、女性：66.3%）の割合が最も高くなっている。次いで、男性では『食べきれる量を購入』（42.7%）、「買い物リストの作成」（34.8%）の順で続いている一方、女性では「買い物リストの作成」（50.2%）、『食べきれる量を購入』（47.9%）の順で続いている。

また、「買い物リストの作成」（男性：34.8%、女性：50.2%）では、女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。



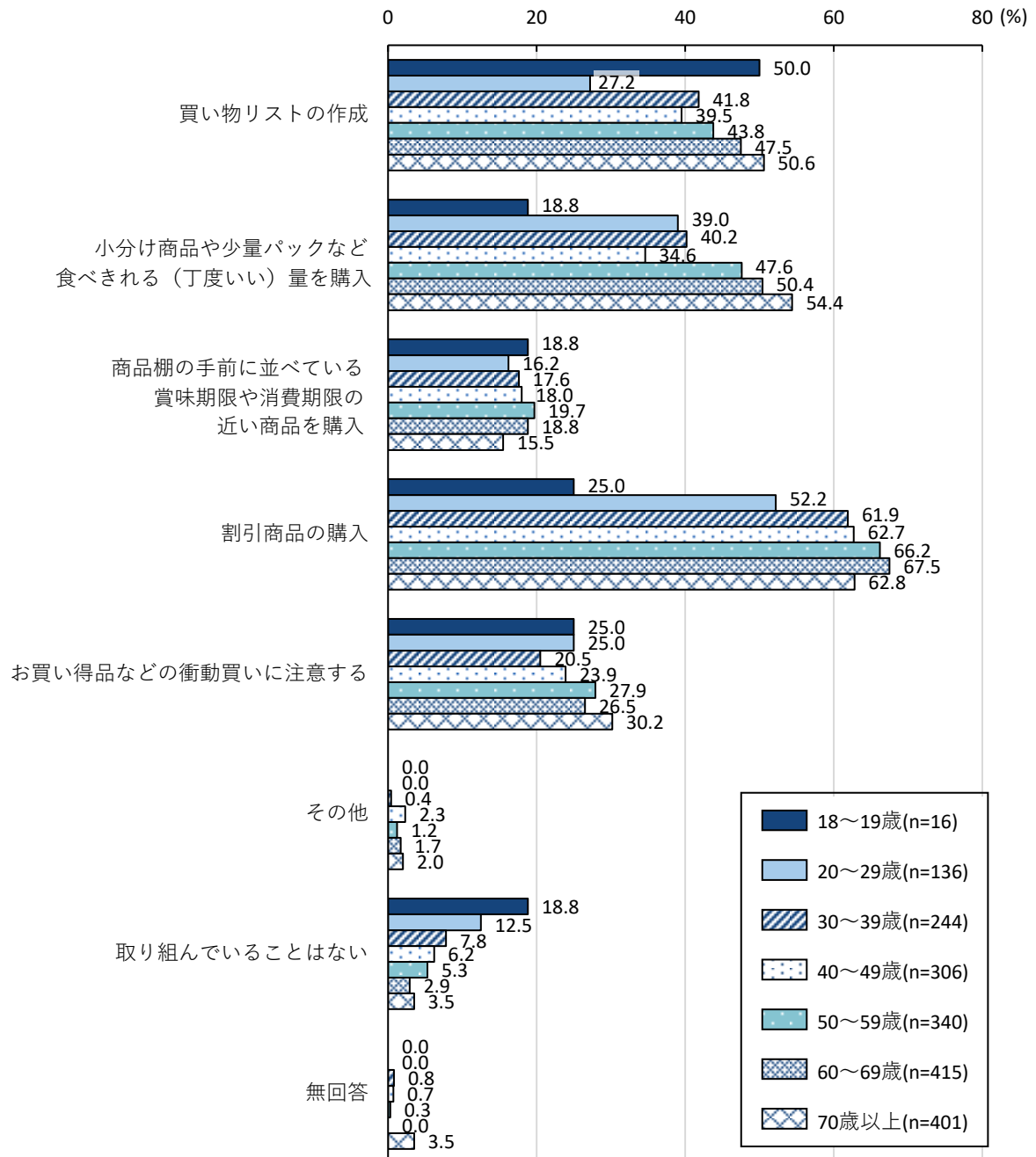
### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳では「買い物リストの作成」、20歳以上ではいずれも「割引商品の購入」の割合が最も高くなっている。

『食べきれない量を購入』の割合は、18～19歳では1割台、20～49歳では4割前後、50歳以上では5割前後となっており、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

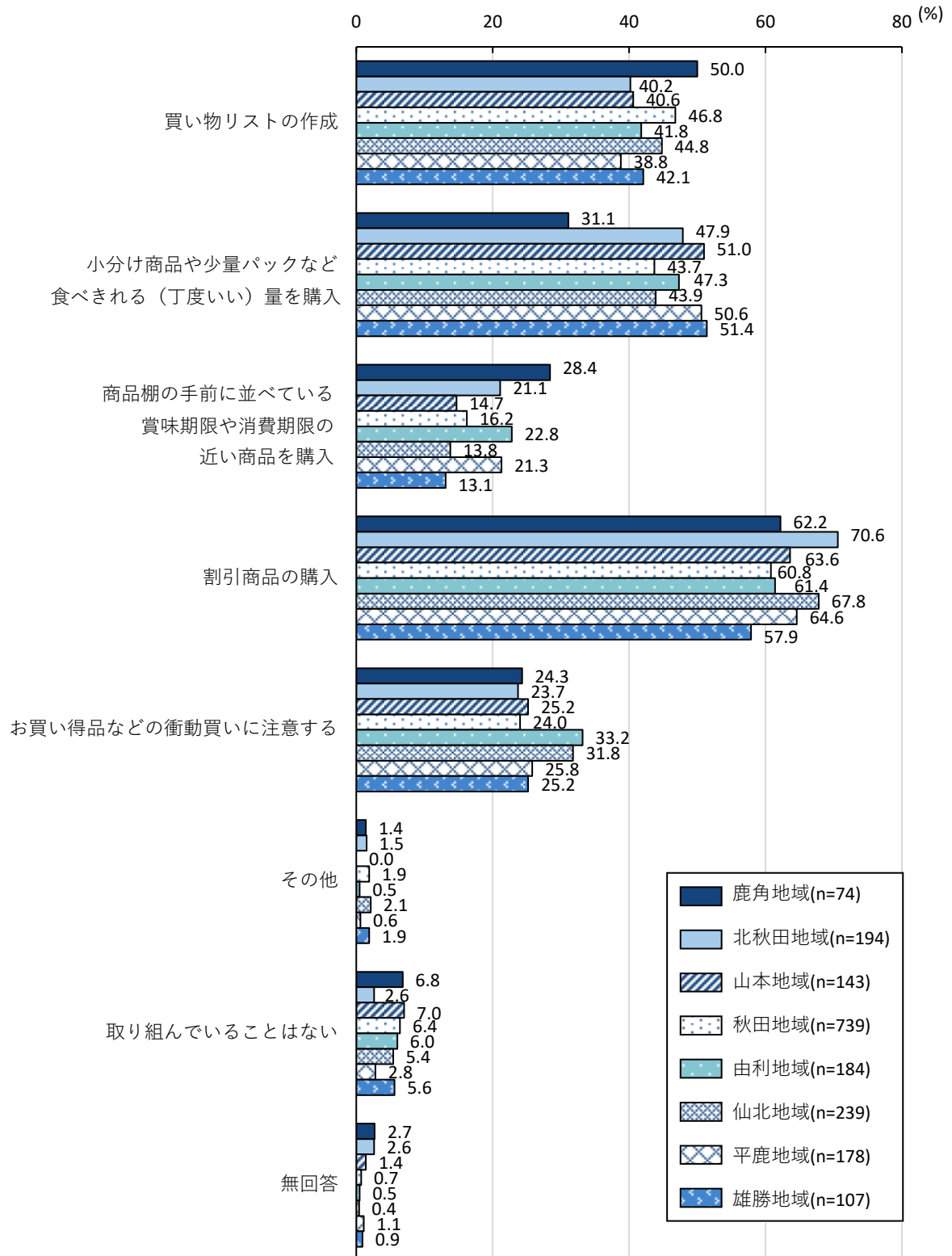
また、「取り組んでいることはない」の割合は、18～19歳（18.8%）が全体の割合（5.5%）を10.0ポイント以上上回っている。



【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「割引商品の購入」の割合が最も高くなっている。

また、鹿角地域では『食べきれる量を購入』の割合（31.3%）が全体の割合（45.7%）を10.0ポイント以上下回っている一方、「商品棚の手前に並べている賞味期限や消費期限の近い商品を購入」の割合（28.4%）では全体の割合（17.8%）を10.0ポイント以上上回っている。

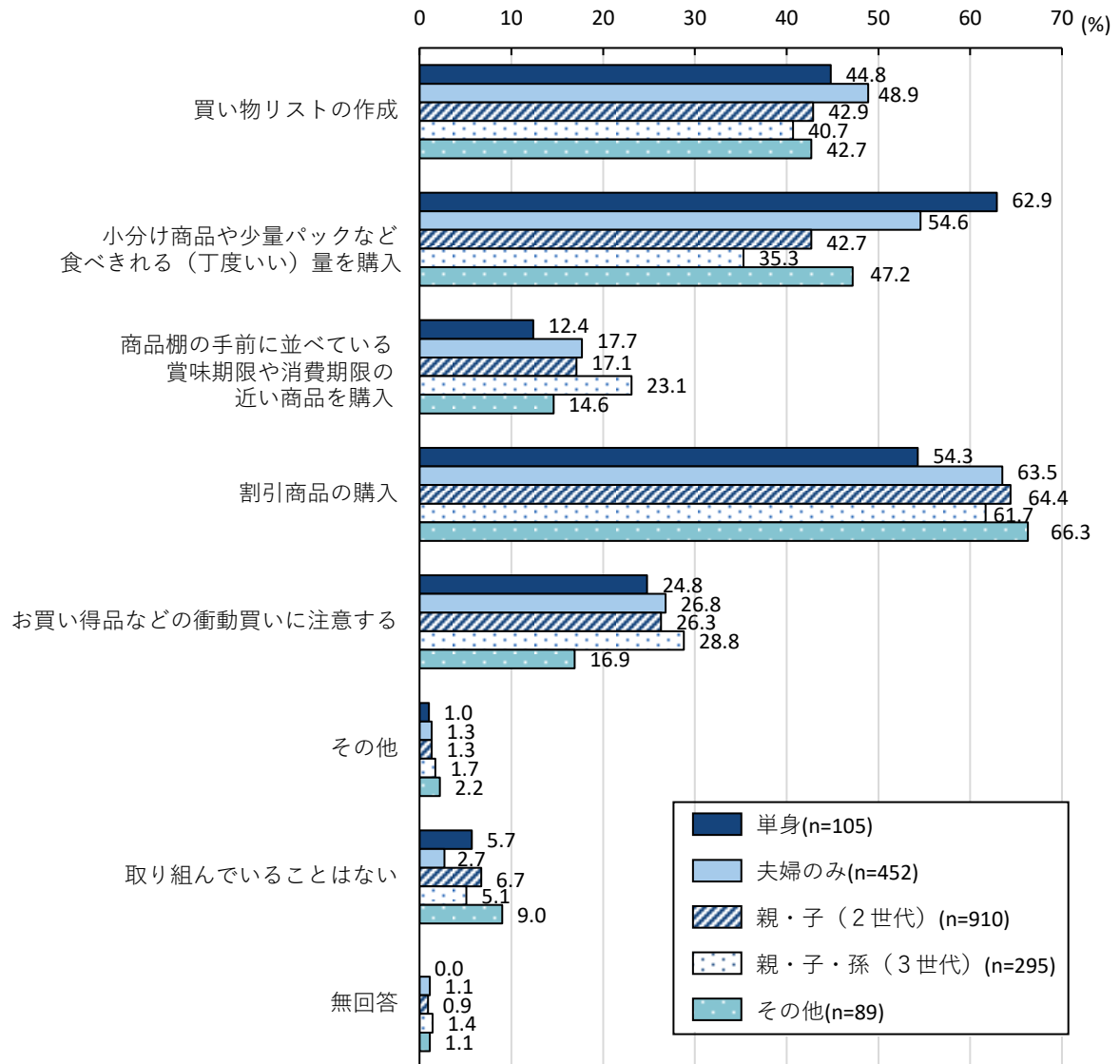


### Ⅲ. 調査結果

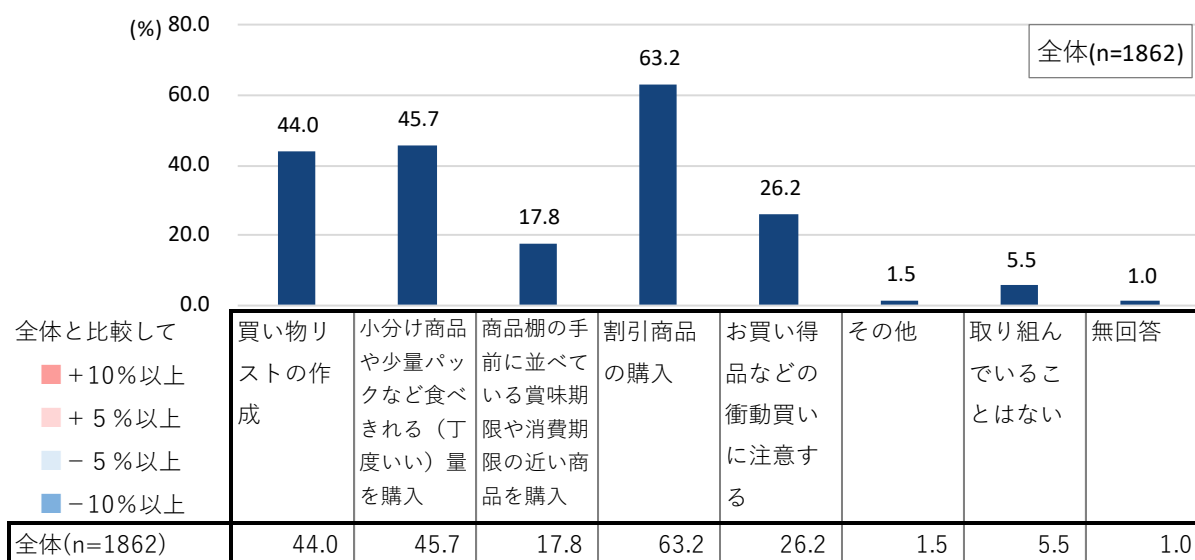
#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、単身では『食べきれる量を購入』、他4区分ではいずれも「割引商品の購入」の割合が最も高くなっている。

また、『食べきれる量を購入』の割合は、単身（62.9%）が全体の割合（45.7%）を10.0ポイント以上上回っている一方、親・子・孫（3世代）（35.3%）は全体の割合を10.0ポイント以上下回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	34.8	42.7	18.3	58.7	21.8	1.3	7.9	0.8
女性(n=1095)	50.2	47.9	17.4	66.3	29.3	1.6	3.8	1.2
その他(n=7)	57.1	14.3	28.6	71.4	14.3	0.0	0.0	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	50.0	18.8	18.8	25.0	25.0	0.0	18.8	0.0
20～29歳(n=136)	27.2	39.0	16.2	52.2	25.0	0.0	12.5	0.0
30～39歳(n=244)	41.8	40.2	17.6	61.9	20.5	0.4	7.8	0.8
40～49歳(n=306)	39.5	34.6	18.0	62.7	23.9	2.3	6.2	0.7
50～59歳(n=340)	43.8	47.6	19.7	66.2	27.9	1.2	5.3	0.3
60～69歳(n=415)	47.5	50.4	18.8	67.5	26.5	1.7	2.9	0.0
70歳以上(n=401)	50.6	54.4	15.5	62.8	30.2	2.0	3.5	3.5

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	50.0	31.1	28.4	62.2	24.3	1.4	6.8	2.7
北秋田地域(n=194)	40.2	47.9	21.1	70.6	23.7	1.5	2.6	2.6
山本地域(n=143)	40.6	51.0	14.7	63.6	25.2	0.0	7.0	1.4
秋田地域(n=739)	46.8	43.7	16.2	60.8	24.0	1.9	6.4	0.7
由利地域(n=184)	41.8	47.3	22.8	61.4	33.2	0.5	6.0	0.5
仙北地域(n=239)	44.8	43.9	13.8	67.8	31.8	2.1	5.4	0.4
平鹿地域(n=178)	38.8	50.6	21.3	64.6	25.8	0.6	2.8	1.1
雄勝地域(n=107)	42.1	51.4	13.1	57.9	25.2	1.9	5.6	0.9

#### 家族構成別

単身(n=105)	44.8	62.9	12.4	54.3	24.8	1.0	5.7	0.0
夫婦のみ(n=452)	48.9	54.6	17.7	63.5	26.8	1.3	2.7	1.1
親・子(2世代)(n=910)	42.9	42.7	17.1	64.4	26.3	1.3	6.7	0.9
親・子・孫(3世代)(n=295)	40.7	35.3	23.1	61.7	28.8	1.7	5.1	1.4
その他(n=89)	42.7	47.2	14.6	66.3	16.9	2.2	9.0	1.1

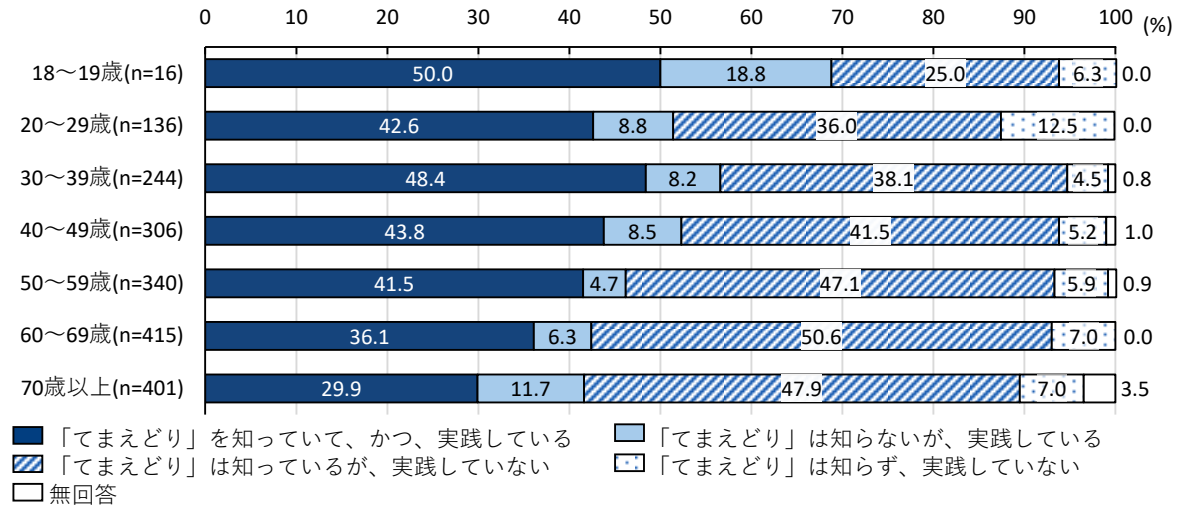


【年齢別】

年齢別にみると、18～49歳では『知っている、実践している』、50歳以上では『知っているが、実践していない』の割合が最も高くなっている。

また、『知っている』の割合は、いずれの年齢においても7～8割を占め、『知らない』の割合を上回っている。

『実践している』の割合は、18～49歳では5～6割台、50歳以上では4割台となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向にある。

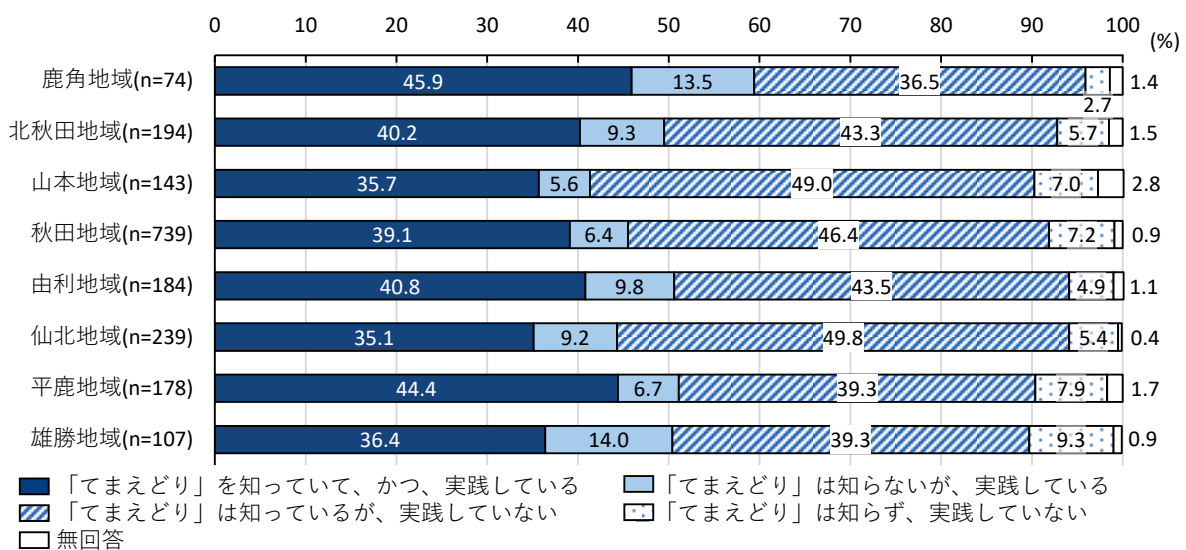


【地域別】

地域別にみると、鹿角地域および平鹿地域では『知っている、実践している』、他6地域ではいずれも『知っているが、実践していない』の割合が最も高くなっている。

また、『知っている』の割合は、いずれの年齢においても7～8割を占め、『知らない』の割合を上回っている。

『実践している』の割合は、鹿角地域および北秋田地域、由利地域、平鹿地域、雄勝地域の5地域では『実践していない』の割合を上回っている。一方、他3地域では『実践していない』が『実践している』を上回っている。



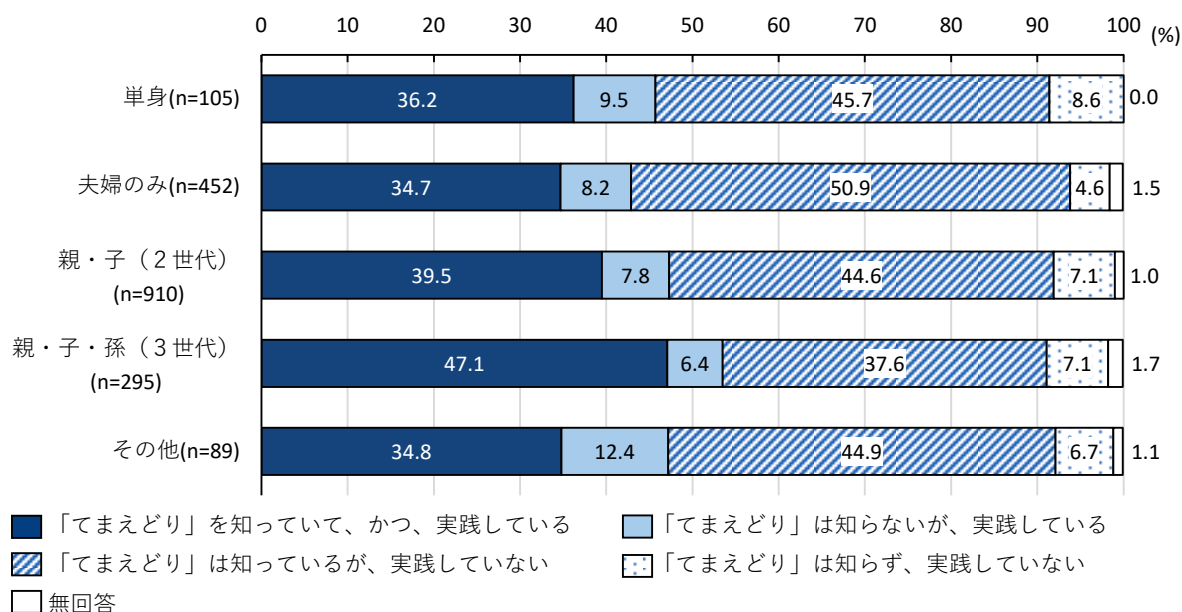
### Ⅲ. 調査結果

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、親・子・孫（3世代）では『知っている、実践している』、他4区分ではいずれも『知っているが、実践していない』の割合が最も高くなっている。

また、『知っている』の割合は、いずれの区分においても7～8割を占め、『知らない』の割合を上回っている。

『実践している』の割合は、親・子・孫（3世代）では『実践していない』の割合を上回っている。一方、他4区分では『実践していない』が『実践している』を上回っている。

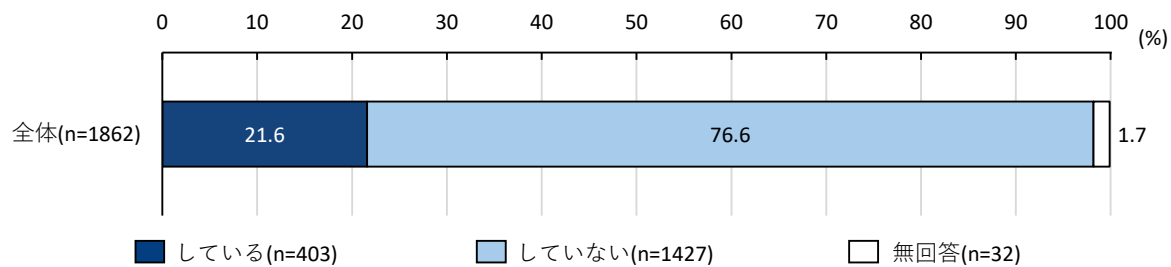


## 4 外食での食品ロス削減の取組について

4. 1 あなたは、お店を選ぶときに食品ロスを削減する取組を行っていることを選択基準の1つとしていますか。(1つだけに○)

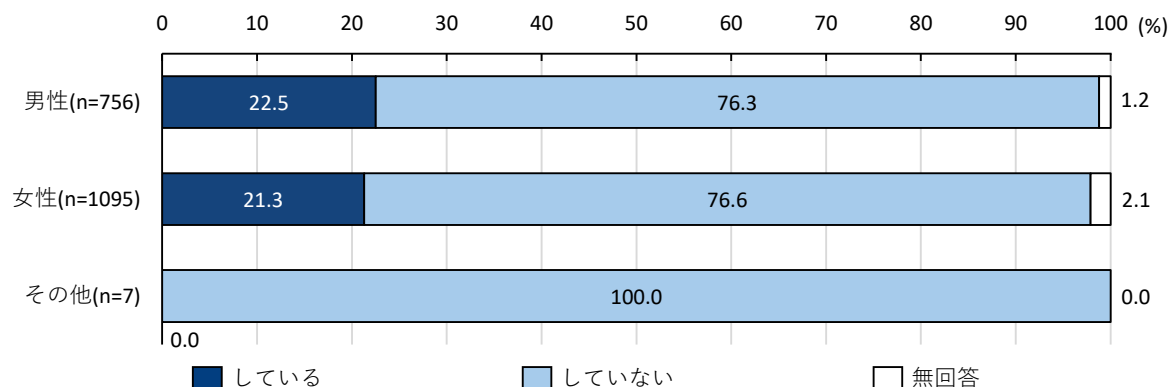
### 【全体】

「している」は21.6%、「していない」は76.6%となっている。



### 【性別】

性別にみると、「していない」の割合は、男女ともに7割を占めており（男性：76.3%、女性：76.6%）、性別による大きな差はみられない。

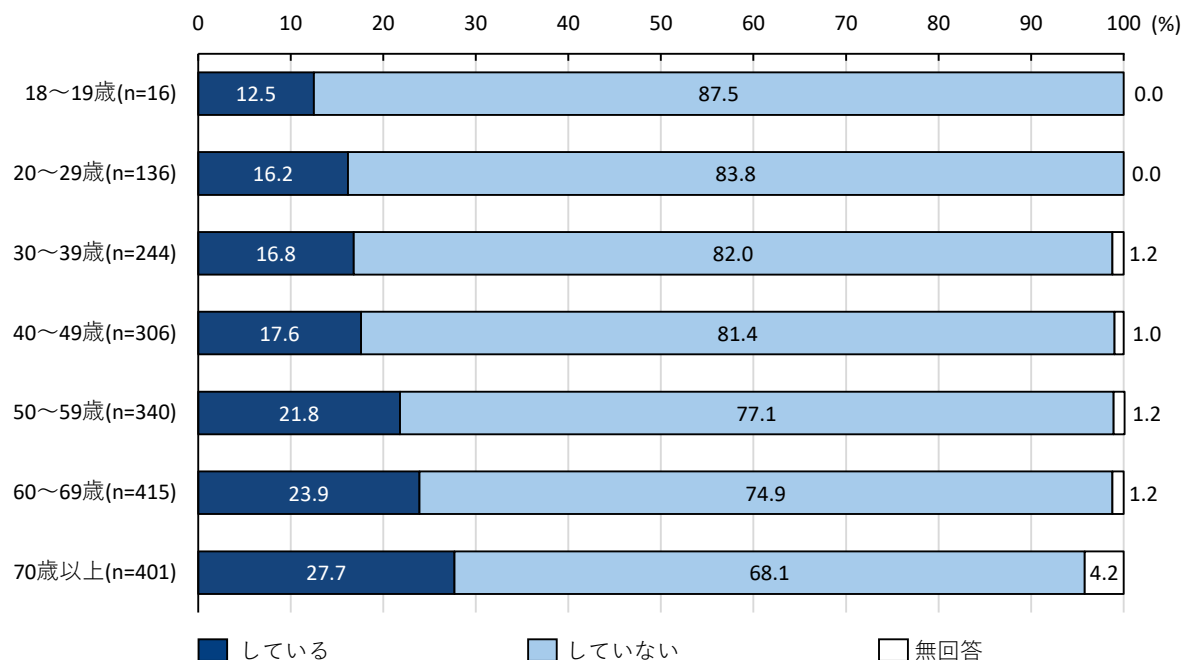


### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

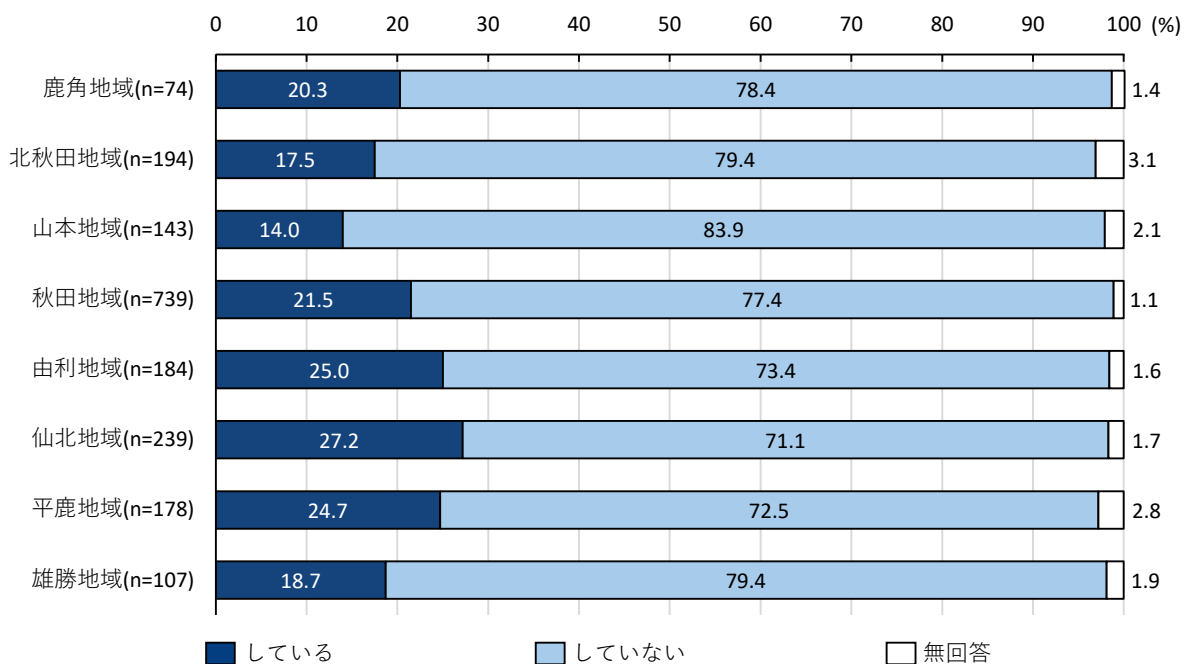
年齢別にみると、いずれの年齢においても「していない」の割合が「している」を上回っている。

また、「している」の割合は、18～49歳では1割台、50歳以上では2割台となっており、年齢が高い層ほど割合が高くなっている。



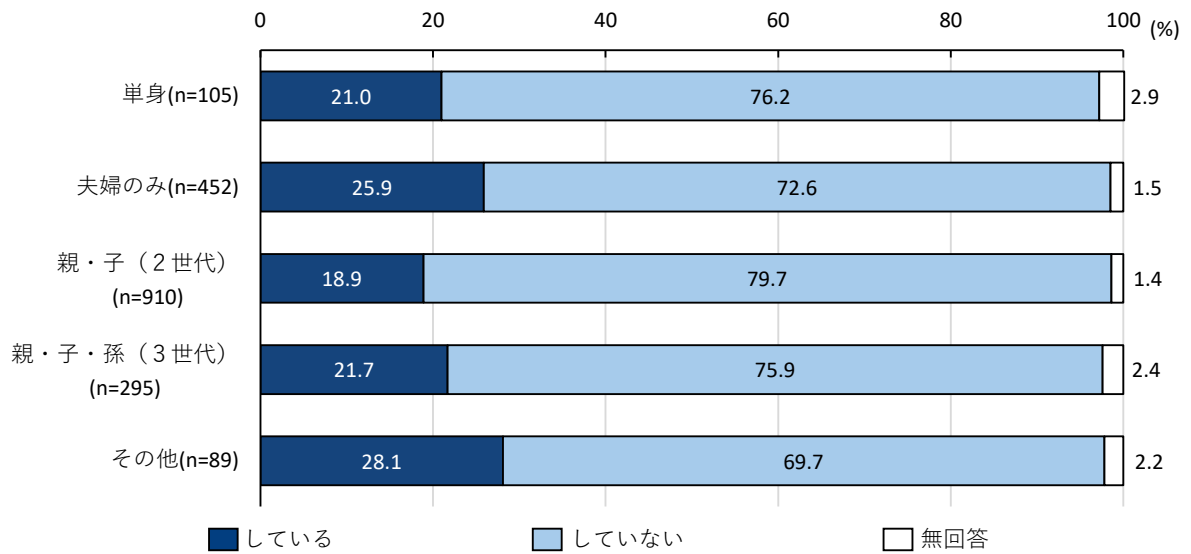
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「していない」の割合が7～8割台となっており、「している」を上回っている。



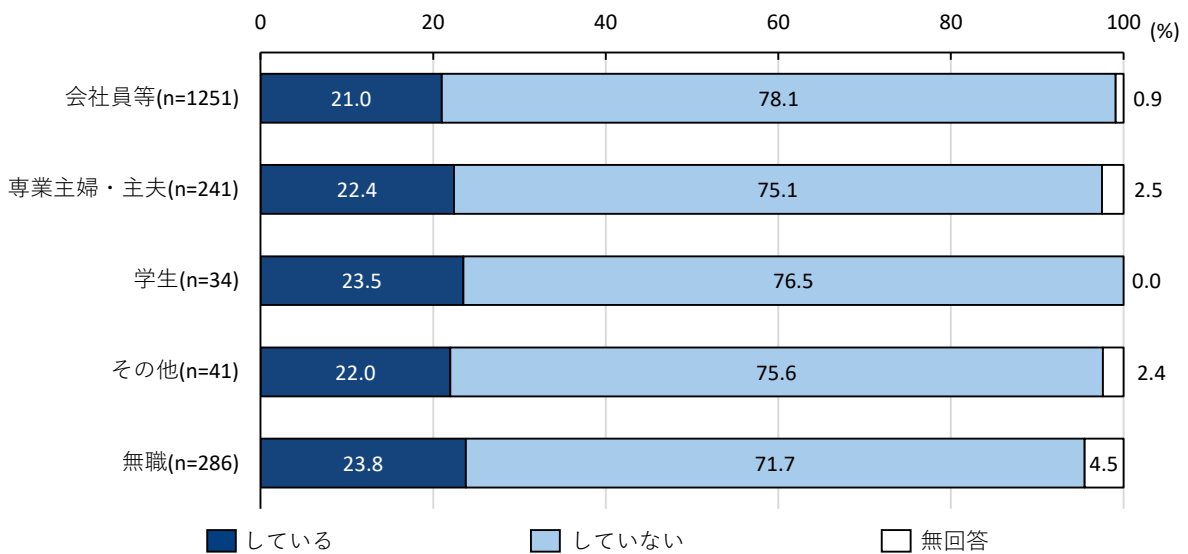
【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「していない」の割合が6～7割台となっており、「している」を上回っている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「していない」の割合が7割台となっており、「している」を上回っている。



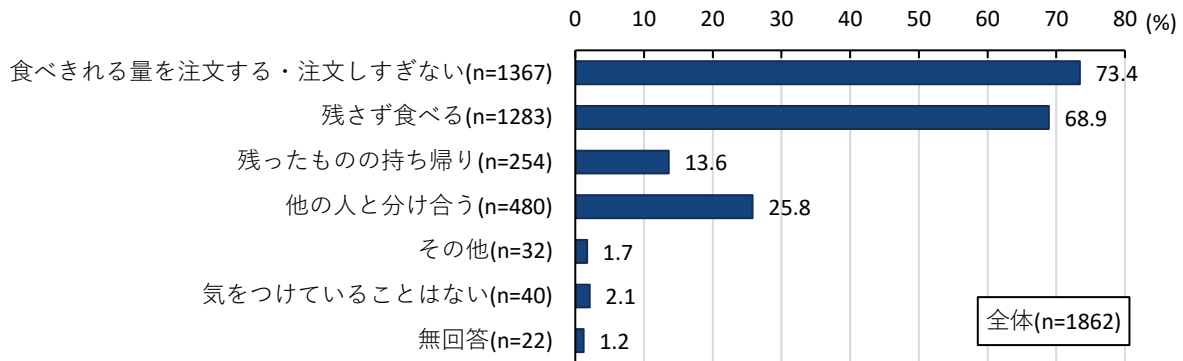
### Ⅲ. 調査結果

#### 4. 2 あなたは、外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

##### 【全体】

「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が73.4%で最も高く、次いで「残さず食べる」(68.9%)、「他の人と分け合う」(25.8%)などの順で続いている。

また、「気をつけていることはない」の割合は2.1%となっている。



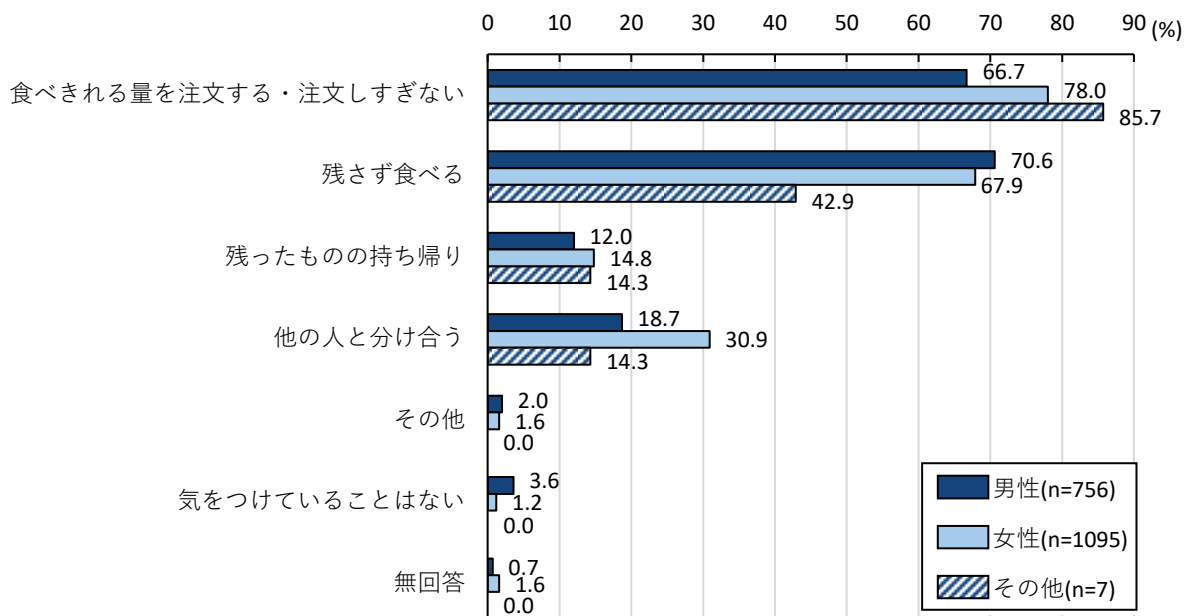
##### その他内容 (一部)

- 外食していない (男性/60～69 歳)
- デザートはメインを食べきった後に判断して注文 (女性/20～29 歳)

##### 【性別】

性別にみると、男性では「残さず食べる」の割合が70.6%で最も高く、次いで「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」(66.7%)、「他の人と分け合う」(18.7%)の順で続いている一方、女性では「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が78.0%で最も高く、次いで「残さず食べる」(67.9%)、「他の人と分け合う」(30.9%)の順となっている。

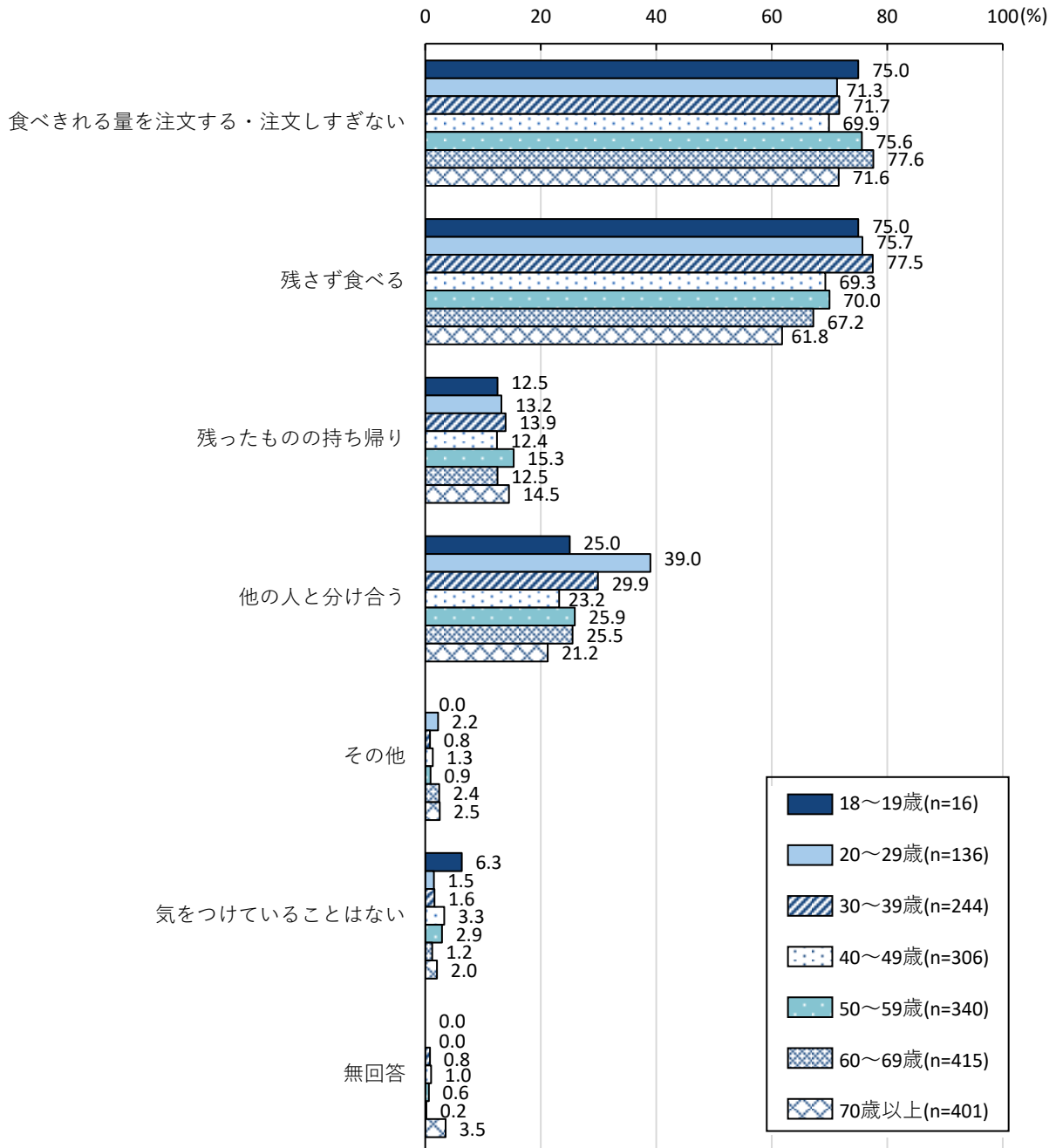
また、「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」および「他の人と分け合う」の割合は、いずれも女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。



【年齢別】

年齢別にみると、20～39歳では「残さず食べる」、40歳以上では「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が最も高くなっている。18～19歳ではこれら2項目が同率で最も高い割合となっている。

また、「他の人と分け合う」の割合は、20歳代（39.0%）が全体の割合（25.8%）を10.0ポイント以上上回っている。

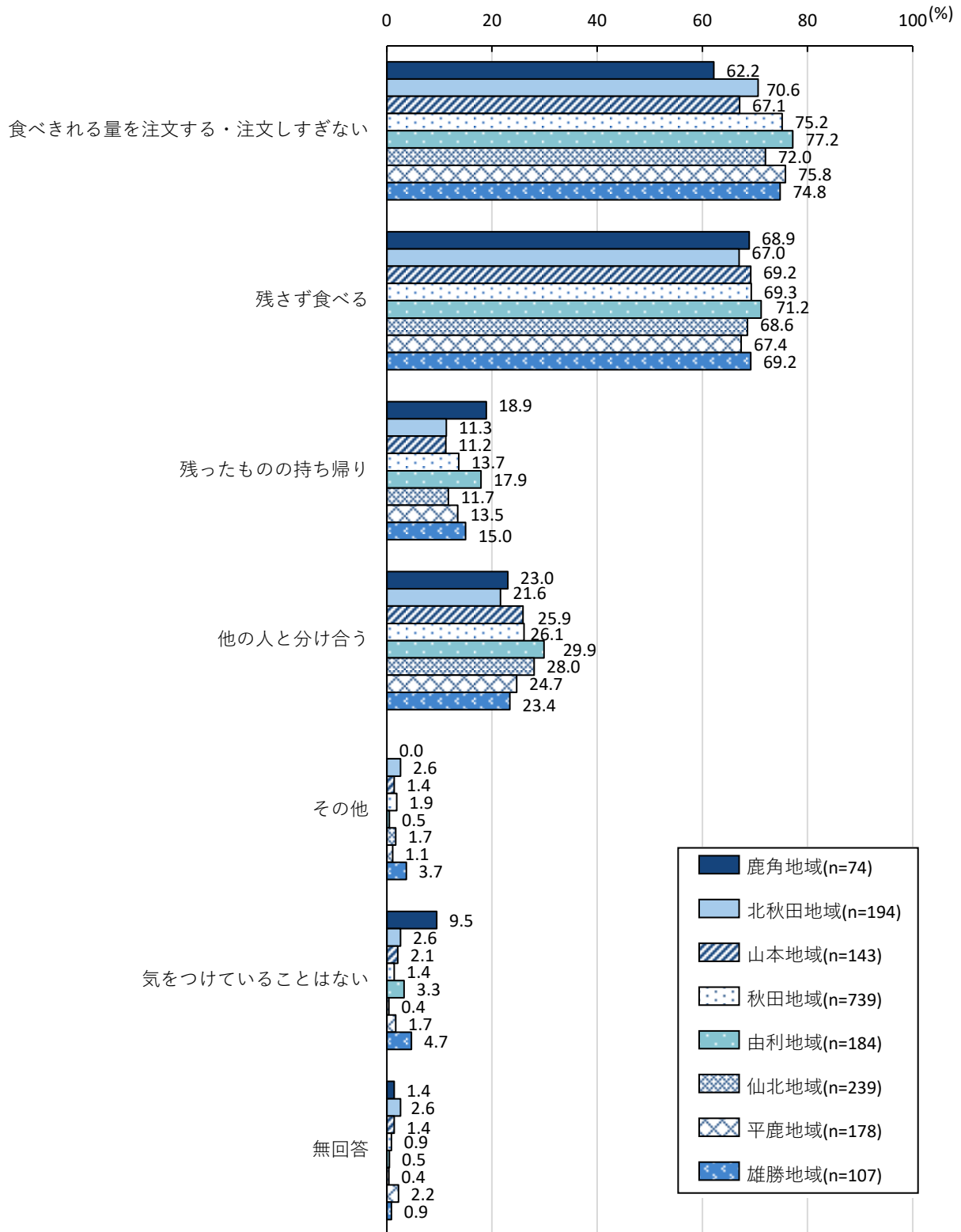


### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

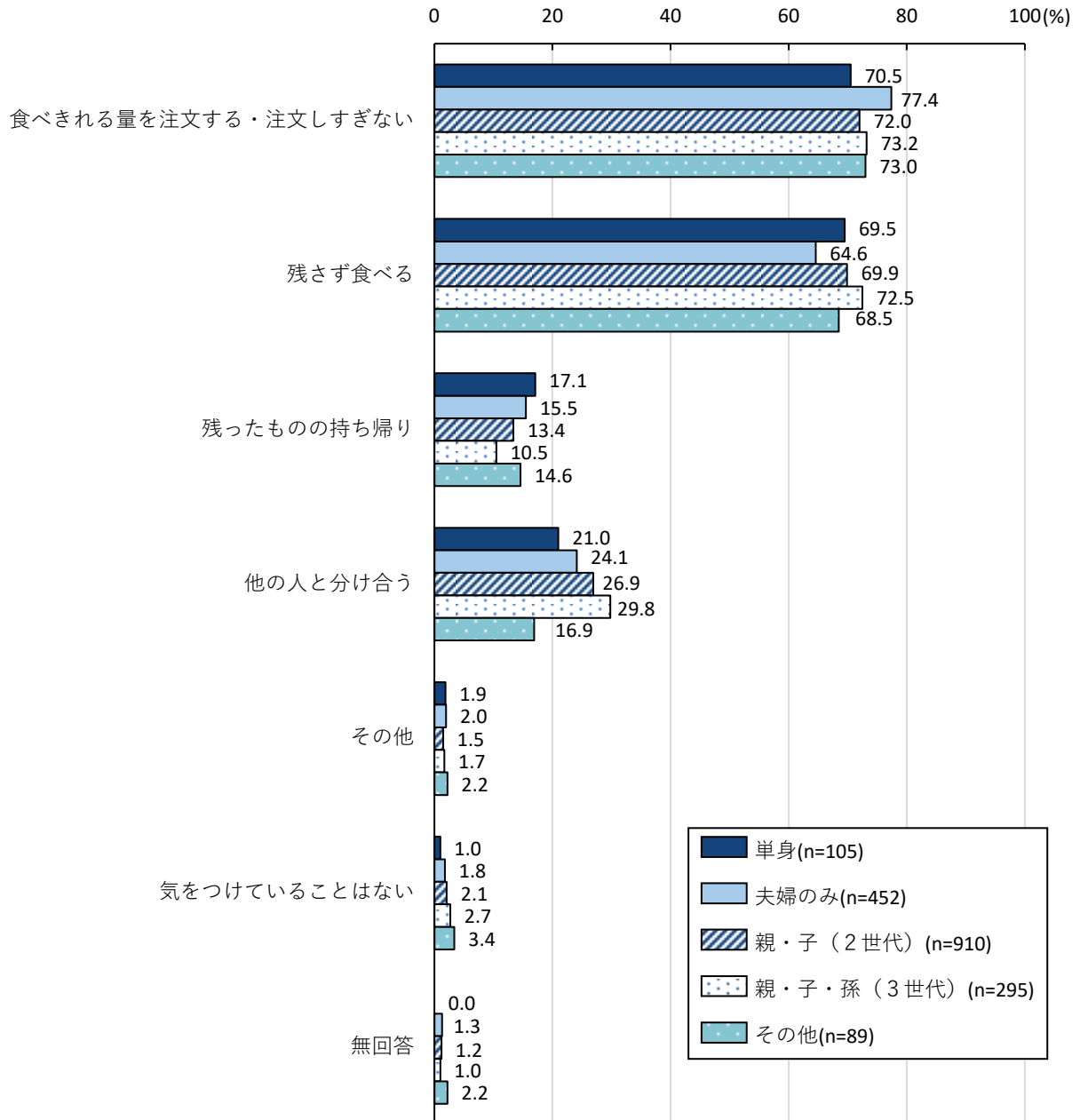
地域別にみると、鹿角地域および山本地域では「残さず食べる」の割合が最も高く、他6地域ではいずれも「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が最も高くなっている。

また、「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合は、鹿角地域（62.2%）が全体の割合（73.4%）を10.0ポイント以上下回っている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が最も高く、次いで「残さず食べる」、「他の人と分け合う」などの順で続いている。

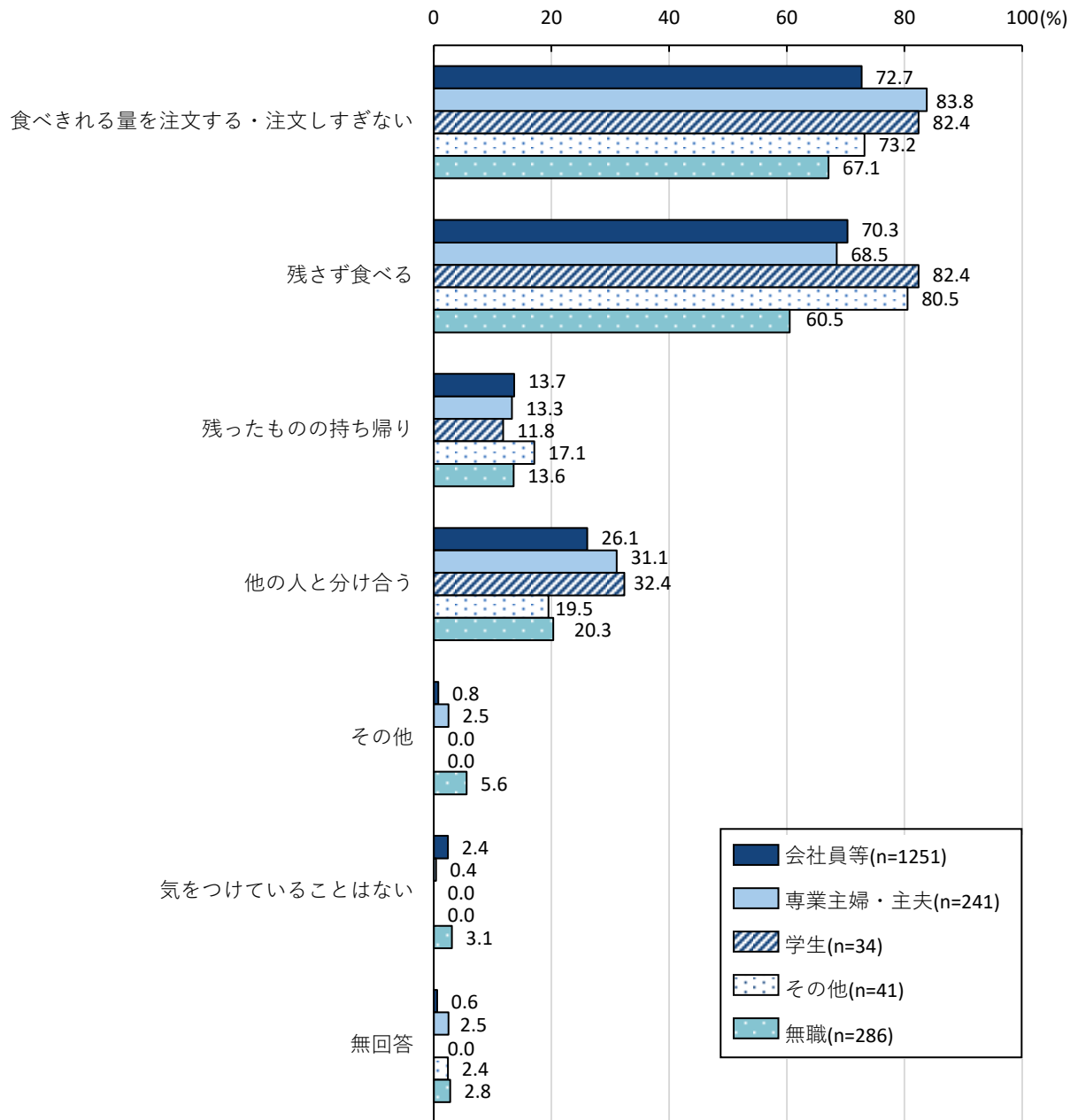


### Ⅲ. 調査結果

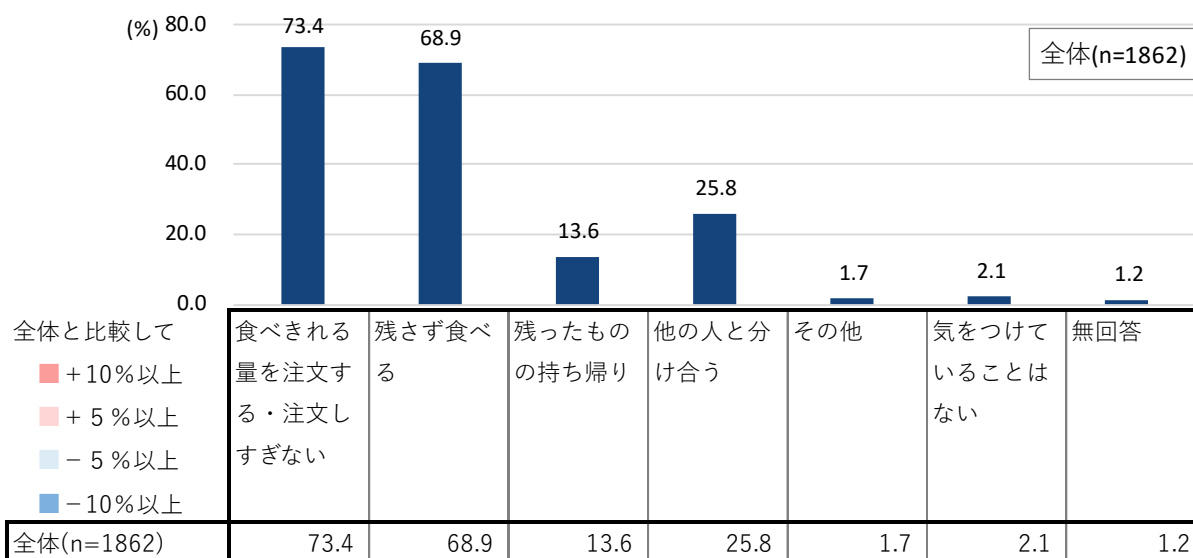
#### 【職業別】

職業別にみると、「残さず食べる」の割合は、学生（82.4%）およびその他（80.5%）で最も高く、ともに全体の割合（68.9%）を10.0ポイント以上上回っている。また、学生は「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」が同率で最も高くなっている。

他3区分では「食べきれる量を注文する・注文しすぎない」の割合が最も高く、特に専業主婦・主夫（83.8%）では、全体の割合（73.4%）を10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	66.7	70.6	12.0	18.7	2.0	3.6	0.7
女性(n=1095)	78.0	67.9	14.8	30.9	1.6	1.2	1.6
その他(n=7)	85.7	42.9	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	75.0	75.0	12.5	25.0	0.0	6.3	0.0
20～29歳(n=136)	71.3	75.7	13.2	39.0	2.2	1.5	0.0
30～39歳(n=244)	71.7	77.5	13.9	29.9	0.8	1.6	0.8
40～49歳(n=306)	69.9	69.3	12.4	23.2	1.3	3.3	1.0
50～59歳(n=340)	75.6	70.0	15.3	25.9	0.9	2.9	0.6
60～69歳(n=415)	77.6	67.2	12.5	25.5	2.4	1.2	0.2
70歳以上(n=401)	71.6	61.8	14.5	21.2	2.5	2.0	3.5

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	62.2	68.9	18.9	23.0	0.0	9.5	1.4
北秋田地域(n=194)	70.6	67.0	11.3	21.6	2.6	2.6	2.6
山本地域(n=143)	67.1	69.2	11.2	25.9	1.4	2.1	1.4
秋田地域(n=739)	75.2	69.3	13.7	26.1	1.9	1.4	0.9
由利地域(n=184)	77.2	71.2	17.9	29.9	0.5	3.3	0.5
仙北地域(n=239)	72.0	68.6	11.7	28.0	1.7	0.4	0.4
平鹿地域(n=178)	75.8	67.4	13.5	24.7	1.1	1.7	2.2
雄勝地域(n=107)	74.8	69.2	15.0	23.4	3.7	4.7	0.9

#### 家族構成別

単身(n=105)	70.5	69.5	17.1	21.0	1.9	1.0	0.0
夫婦のみ(n=452)	77.4	64.6	15.5	24.1	2.0	1.8	1.3
親・子(2世代)(n=910)	72.0	69.9	13.4	26.9	1.5	2.1	1.2
親・子・孫(3世代)(n=295)	73.2	72.5	10.5	29.8	1.7	2.7	1.0
その他(n=89)	73.0	68.5	14.6	16.9	2.2	3.4	2.2

#### 職業別

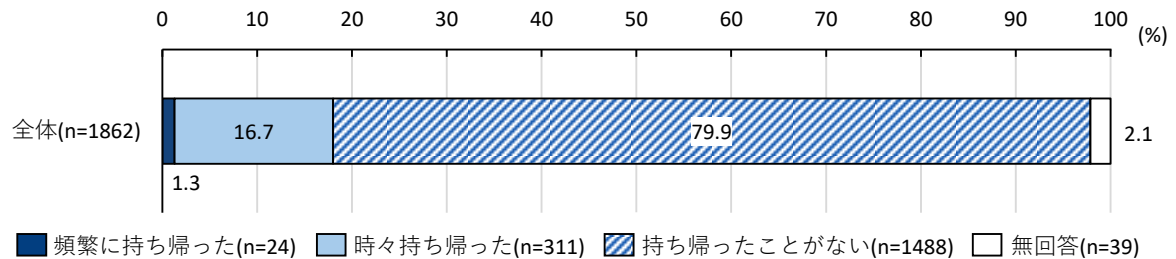
会社員等(n=1251)	72.7	70.3	13.7	26.1	0.8	2.4	0.6
専業主婦・主夫(n=241)	83.8	68.5	13.3	31.1	2.5	0.4	2.5
学生(n=34)	82.4	82.4	11.8	32.4	0.0	0.0	0.0
その他(n=41)	73.2	80.5	17.1	19.5	0.0	0.0	2.4
無職(n=286)	67.1	60.5	13.6	20.3	5.6	3.1	2.8

### Ⅲ. 調査結果

#### 4.3 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ったことはありますか。 (1つだけに○)

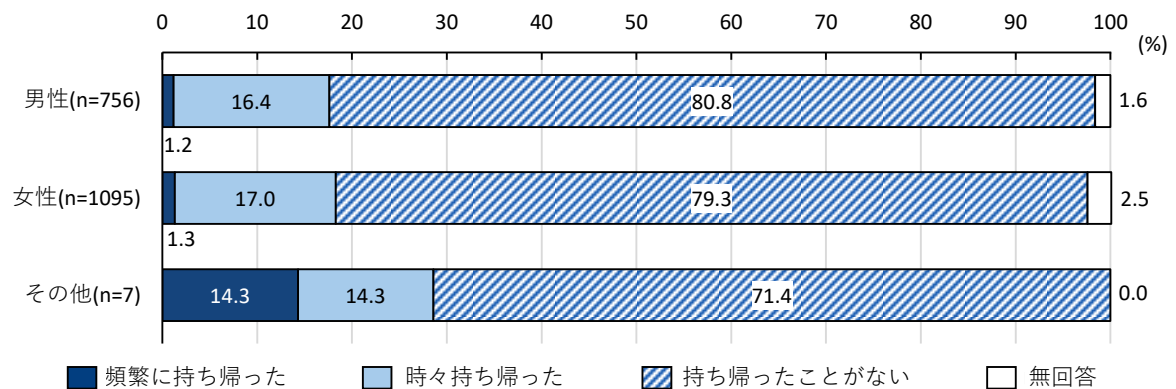
##### 【全体】

「持ち帰ったことがない」の割合が79.9%で最も高く、次いで「時々持ち帰った」(16.7%)、「頻繁に持ち帰った」(1.3%)の順で続いている。なお、「持ち帰ったことがない」と回答した1488人のうち、約7割(1015人)は次の設問で「食べきれなかったことがない」または「最近の1年間で飲食店を利用していない」と回答しており、残り3割(460人)\*が、飲食店で残した料理を持ち帰っていない。(詳細はP142) ※設問4.4で無回答であった人数を除く。



##### 【性別】

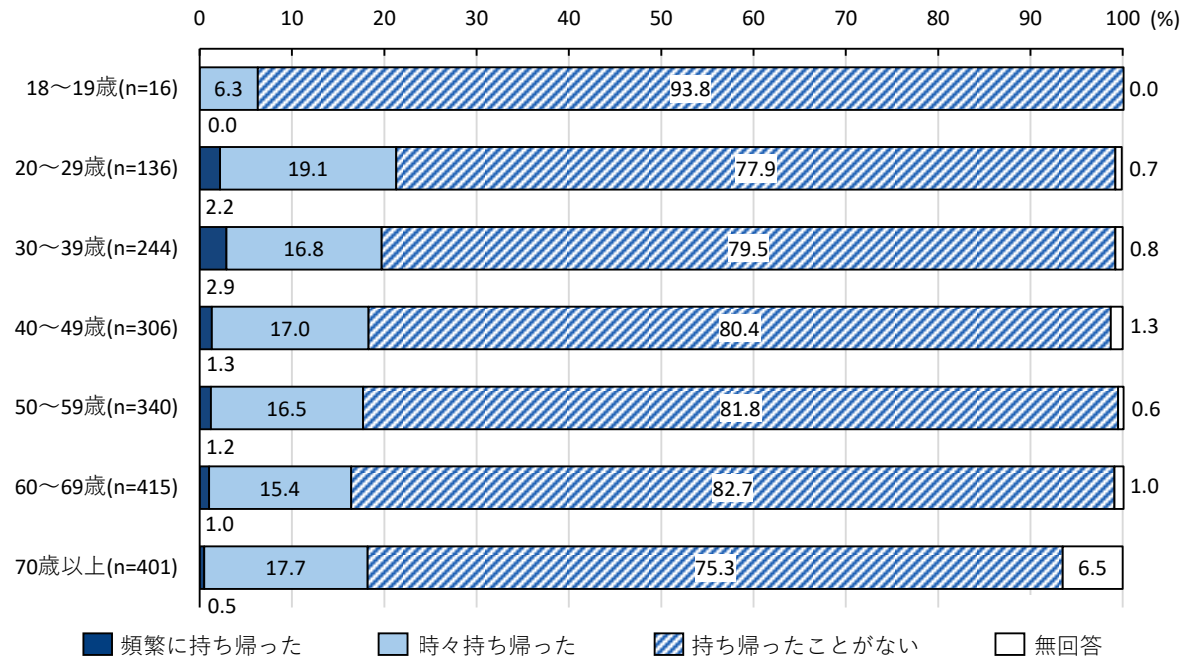
性別にみると、男女ともに「持ち帰ったことがない」の割合(男性:80.8%、女性:79.3%)が最も高く、次いで「時々持ち帰った」(男性:16.4%、女性:17.0%)、「頻繁に持ち帰った」(男性:1.2%、女性:1.3%)の順で続いている。性別による大きな差はみられない。



### Ⅲ. 調査結果

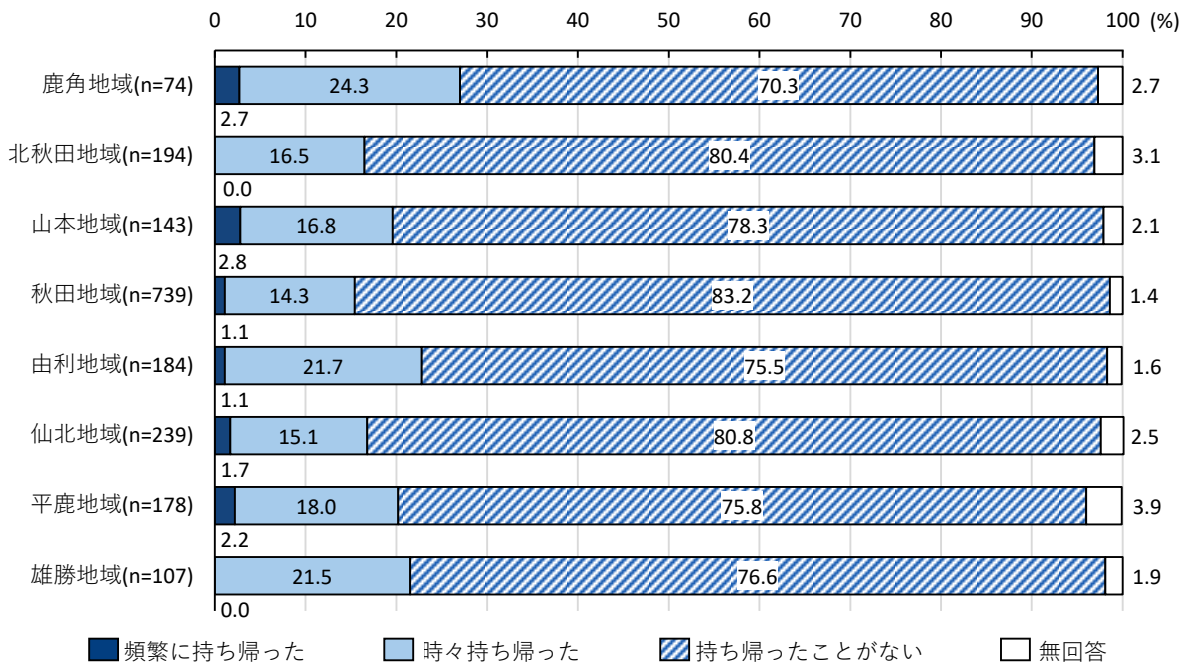
#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「持ち帰ったことがない」の割合が最も高く、次いで「時々持ち帰った」、「頻繁に持ち帰った」の順で続いている。



#### 【地域別】

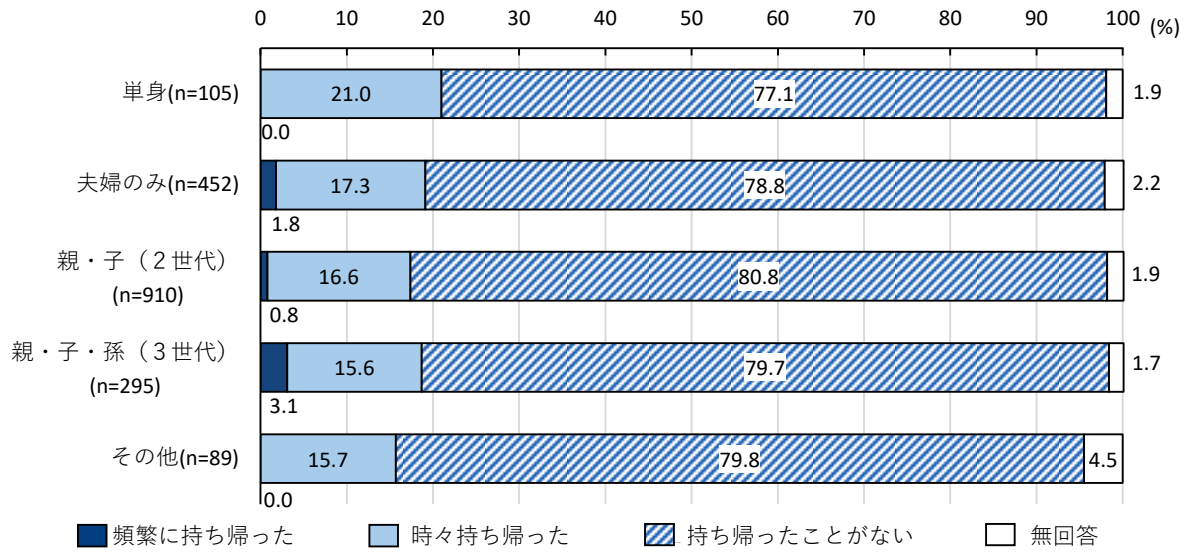
地域別にみると、いずれの地域においても「持ち帰ったことがない」の割合が最も高く、次いで「時々持ち帰った」、「頻繁に持ち帰った」の順で続いている。



### Ⅲ. 調査結果

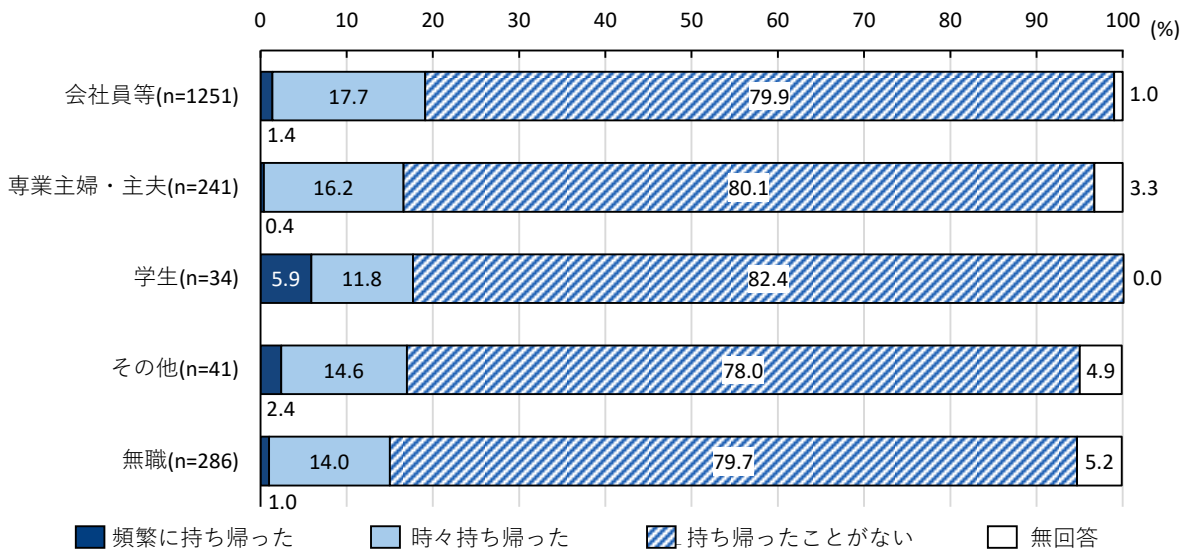
#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「持ち帰ったことがない」の割合が最も高く、次いで「時々持ち帰った」、「頻繁に持ち帰った」の順で続いている。



#### 【職業別】

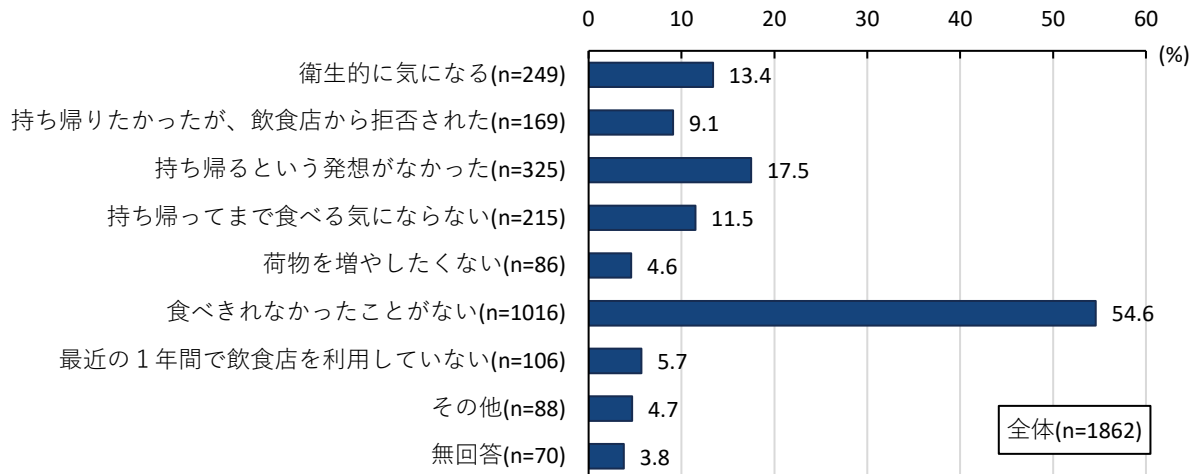
職業別にみると、いずれの職業においても「持ち帰ったことがない」の割合が最も高く、次いで「時々持ち帰った」、「頻繁に持ち帰った」の順で続いている。



4. 4 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由は次のどれにあたりますか。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「食べきれなかったことがない」の割合が54.6%で最も高く、次いで「持ち帰るという発想がなかった」(17.5%)、「衛生的に気になる」(13.4%)、「持ち帰ってまで食べる気にならない」(11.5%)などの順で続いている。



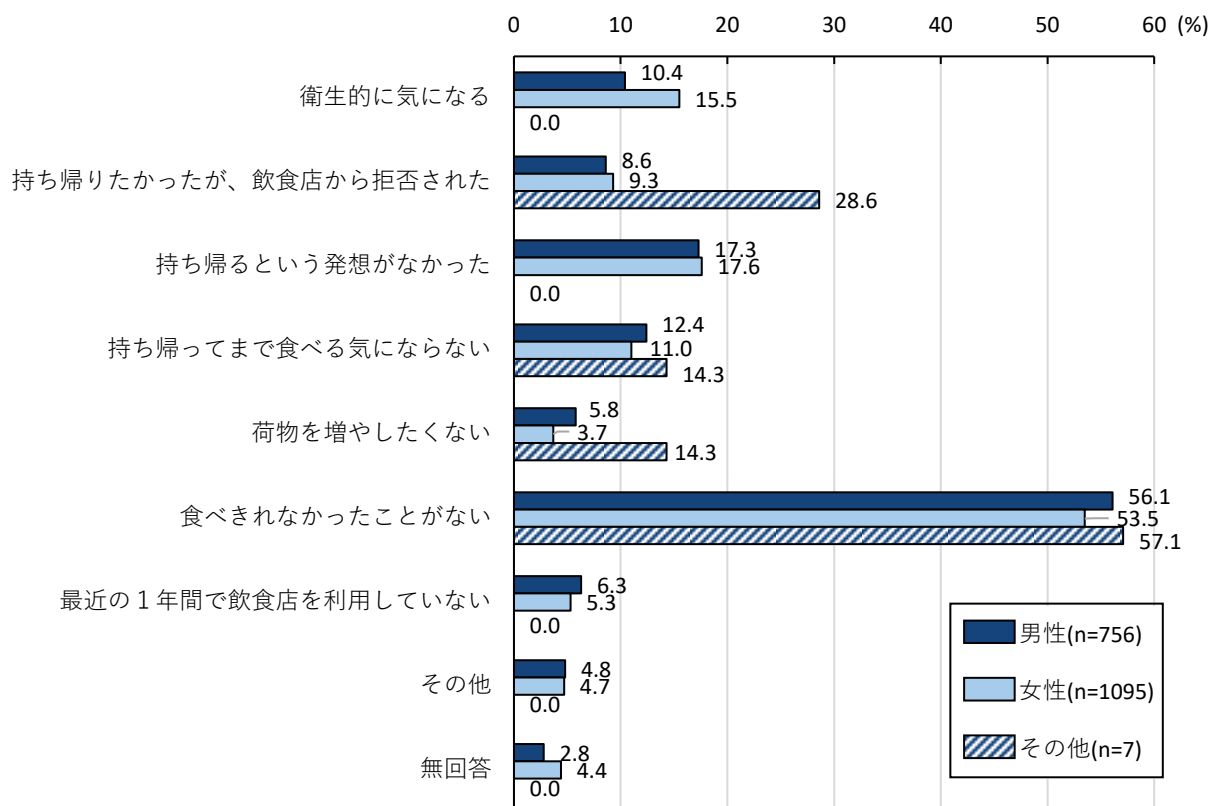
その他内容 (一部)

- 飲食店の手間になりそうで言えず (女性/30~39 歳)
- 大人数の集まりだった (女性/50~59 歳)
- 持ち帰るほどの量が残っていなかった (男性/60~69 歳)
- 持ち帰って良いのかわからないし店に言いにくい、容器やビニール袋もなかった (男性/60~69 歳)
- ラーメンなど持ち帰りのできないものだったから (女性/50~59 歳)
- 恥ずかしい (女性/40~49 歳)

### Ⅲ. 調査結果

#### 【性別】

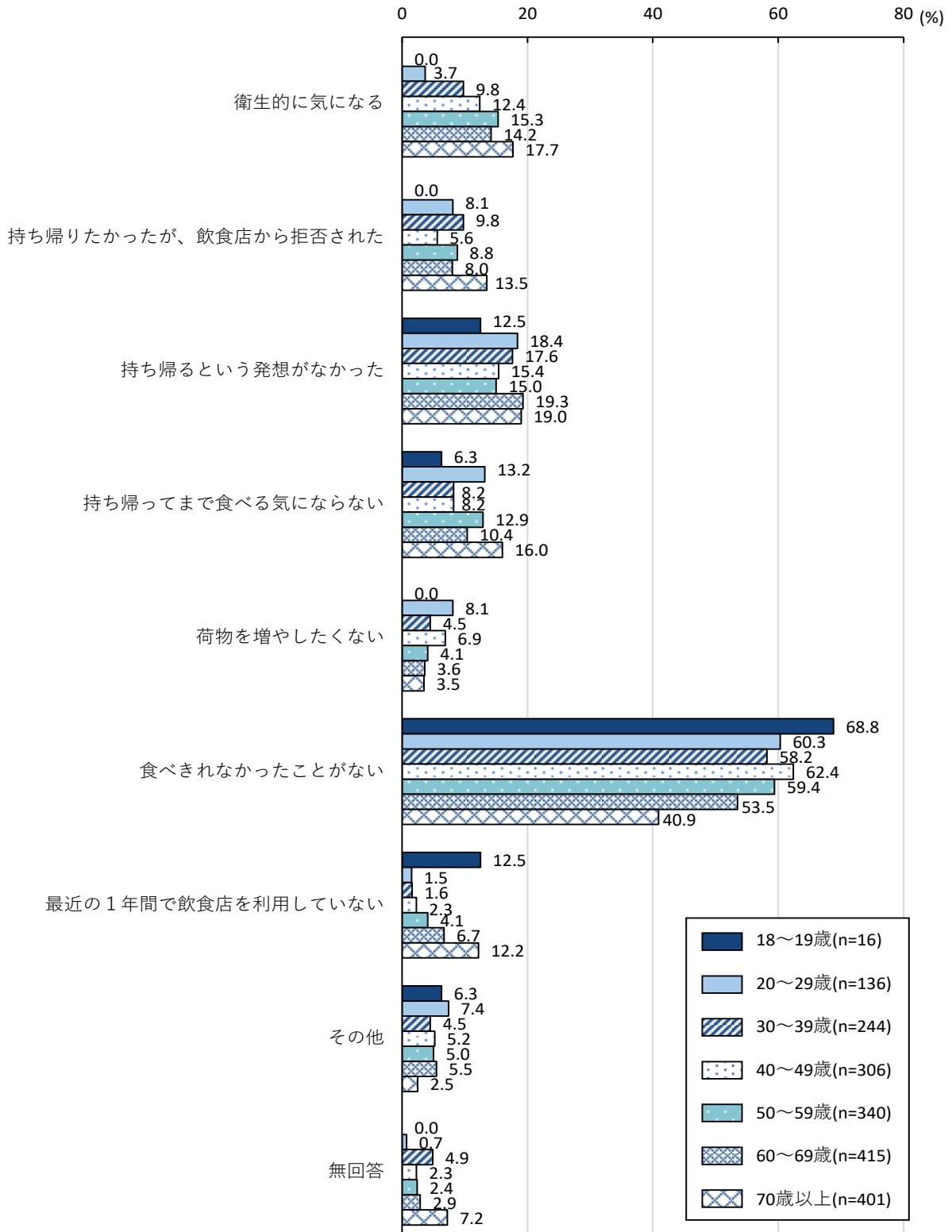
性別にみると、男女ともに「食べきれなかったことがない」の割合（男性：56.1%、女性：53.5%）が最も高く、次いで「持ち帰るといふ発想がなかった」（男性：17.3%、女性：17.6%）などの順で続いており、性別による大きな差はみられない。



【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「食べきれなかったことがない」の割合が最も高くなっている。

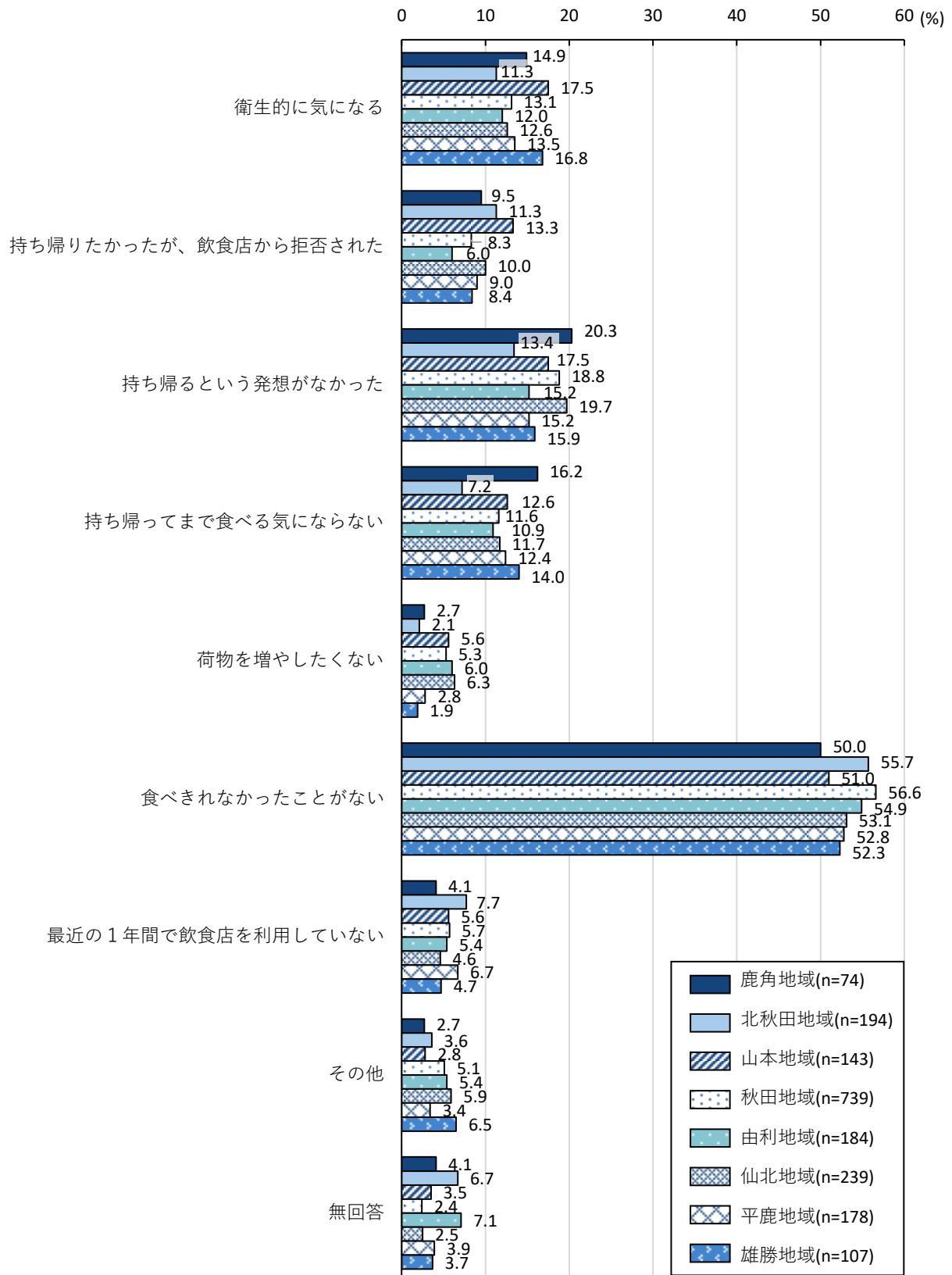
また、「衛生的に気になる」の割合は、18～39歳では1割未満、40歳以上では1割台となっており、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある一方、「食べきれなかったことがない」の割合は、18～19歳では6割台後半、20～59歳では6割前後、60歳代では5割台、70歳以上では4割台となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向にある。



### Ⅲ. 調査結果

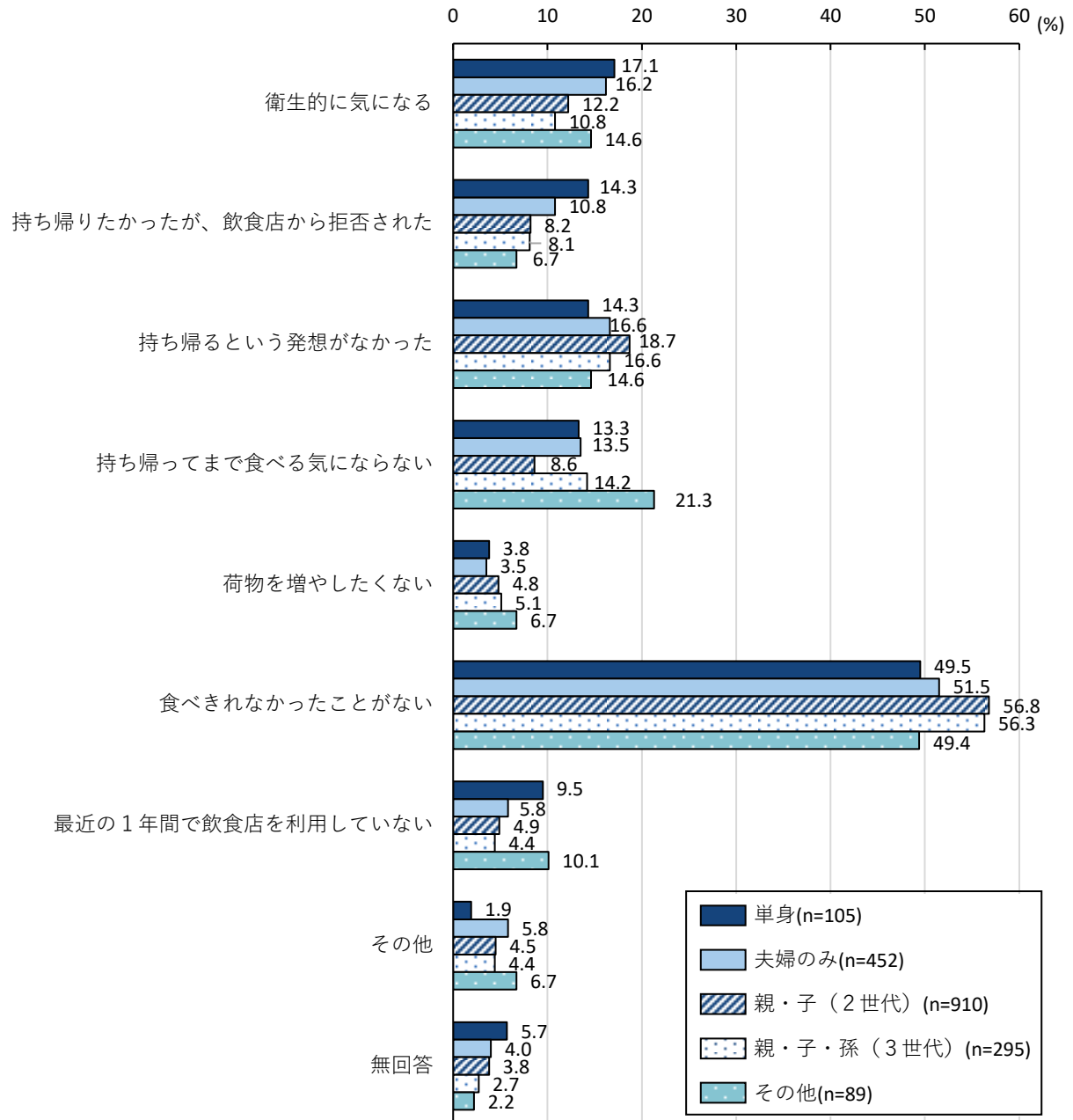
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「食べきれなかったことがない」の割合が5割台で最も高くなっている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「食べきれなかったことがない」の割合が4～5割台で最も高くなっている。

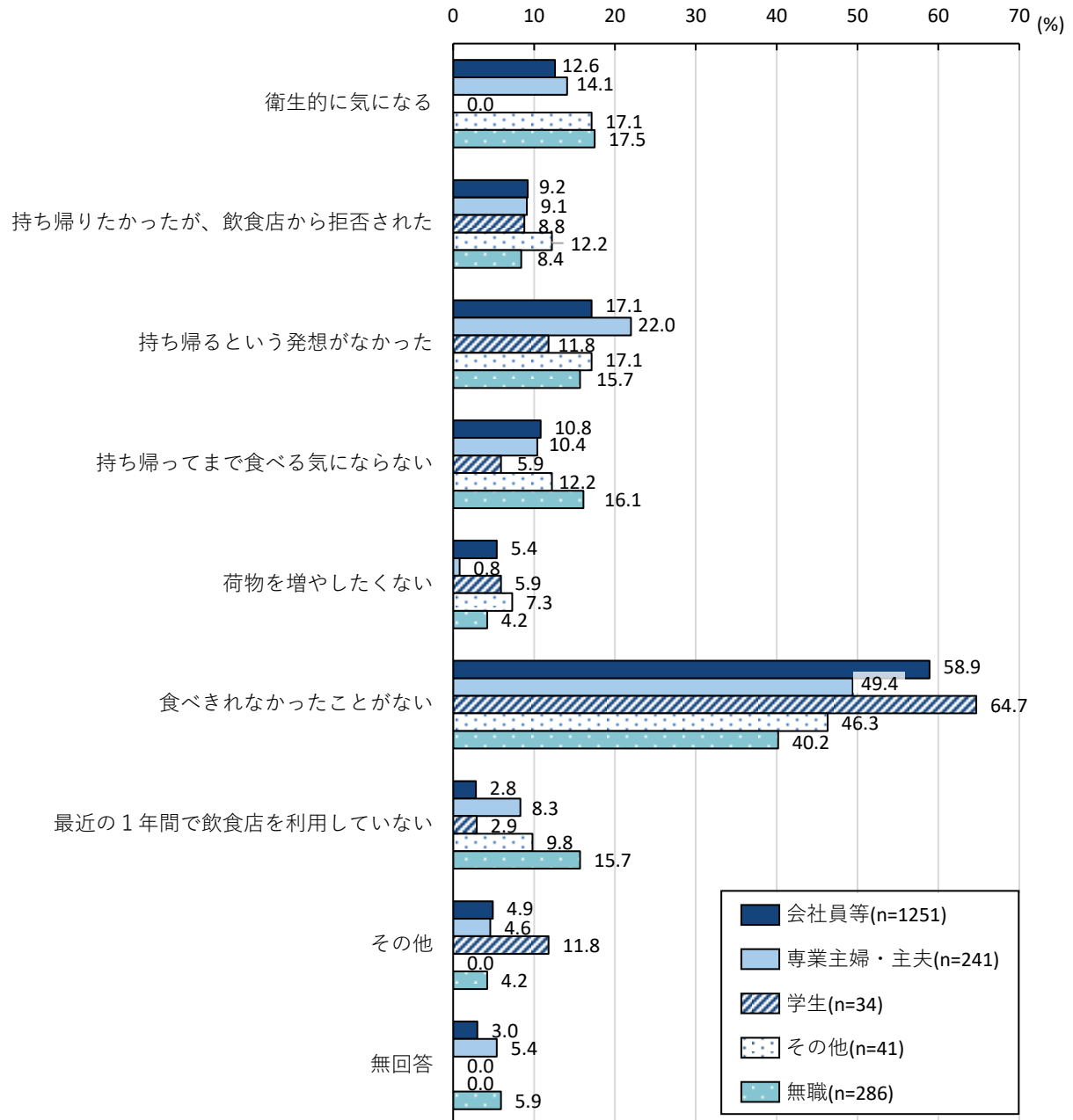


### Ⅲ. 調査結果

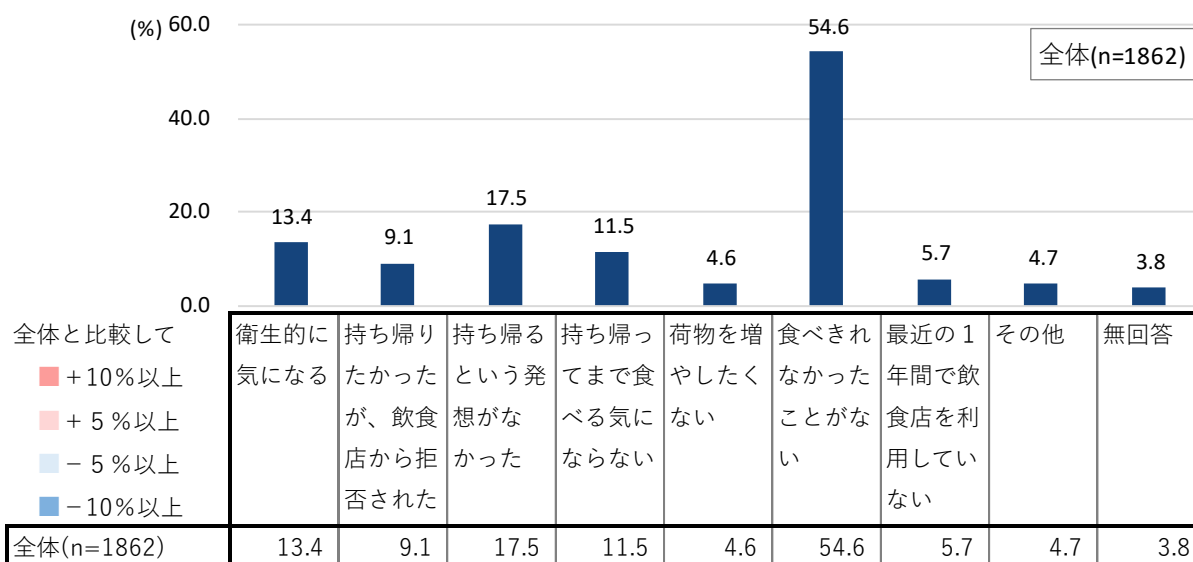
#### 【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「食べきれなかったことがない」の割合が4～6割台で最も高くなっている。特に、学生（64.7%）では全体の割合（54.6%）を10.0ポイント以上上回っている一方、無職（40.2%）では全体の割合を10.0ポイント以上下回っている。

また、「衛生的に気になる」の割合は、学生（0.0%）では全体の割合（13.4%）を10.0ポイント以上下回っている。



### Ⅲ. 調査結果



全体(n=1862)	13.4	9.1	17.5	11.5	4.6	54.6	5.7	4.7	3.8
------------	------	-----	------	------	-----	------	-----	-----	-----

性別									
男性(n=756)	10.4	8.6	17.3	12.4	5.8	56.1	6.3	4.8	2.8
女性(n=1095)	15.5	9.3	17.6	11.0	3.7	53.5	5.3	4.7	4.4
その他(n=7)	0.0	28.6	0.0	14.3	14.3	57.1	0.0	0.0	0.0

年齢別									
18～19歳(n=16)	0.0	0.0	12.5	6.3	0.0	68.8	12.5	6.3	0.0
20～29歳(n=136)	3.7	8.1	18.4	13.2	8.1	60.3	1.5	7.4	0.7
30～39歳(n=244)	9.8	9.8	17.6	8.2	4.5	58.2	1.6	4.5	4.9
40～49歳(n=306)	12.4	5.6	15.4	8.2	6.9	62.4	2.3	5.2	2.3
50～59歳(n=340)	15.3	8.8	15.0	12.9	4.1	59.4	4.1	5.0	2.4
60～69歳(n=415)	14.2	8.0	19.3	10.4	3.6	53.5	6.7	5.5	2.9
70歳以上(n=401)	17.7	13.5	19.0	16.0	3.5	40.9	12.2	2.5	7.2

地域別									
鹿角地域(n=74)	14.9	9.5	20.3	16.2	2.7	50.0	4.1	2.7	4.1
北秋田地域(n=194)	11.3	11.3	13.4	7.2	2.1	55.7	7.7	3.6	6.7
山本地域(n=143)	17.5	13.3	17.5	12.6	5.6	51.0	5.6	2.8	3.5
秋田地域(n=739)	13.1	8.3	18.8	11.6	5.3	56.6	5.7	5.1	2.4
由利地域(n=184)	12.0	6.0	15.2	10.9	6.0	54.9	5.4	5.4	7.1
仙北地域(n=239)	12.6	10.0	19.7	11.7	6.3	53.1	4.6	5.9	2.5
平鹿地域(n=178)	13.5	9.0	15.2	12.4	2.8	52.8	6.7	3.4	3.9
雄勝地域(n=107)	16.8	8.4	15.9	14.0	1.9	52.3	4.7	6.5	3.7

家族構成別									
単身(n=105)	17.1	14.3	14.3	13.3	3.8	49.5	9.5	1.9	5.7
夫婦のみ(n=452)	16.2	10.8	16.6	13.5	3.5	51.5	5.8	5.8	4.0
親・子(2世代)(n=910)	12.2	8.2	18.7	8.6	4.8	56.8	4.9	4.5	3.8
親・子・孫(3世代)(n=295)	10.8	8.1	16.6	14.2	5.1	56.3	4.4	4.4	2.7
その他(n=89)	14.6	6.7	14.6	21.3	6.7	49.4	10.1	6.7	2.2

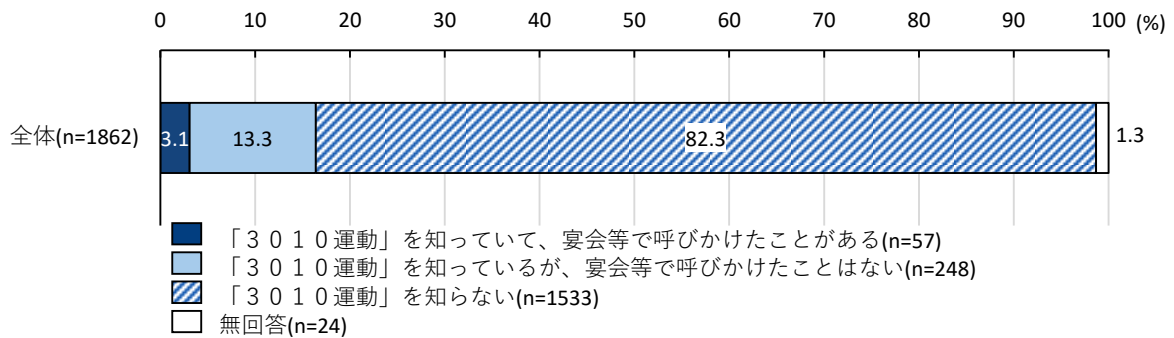
職業別									
会社員等(n=1251)	12.6	9.2	17.1	10.8	5.4	58.9	2.8	4.9	3.0
専業主婦・主夫(n=241)	14.1	9.1	22.0	10.4	0.8	49.4	8.3	4.6	5.4
学生(n=34)	0.0	8.8	11.8	5.9	5.9	64.7	2.9	11.8	0.0
その他(n=41)	17.1	12.2	17.1	12.2	7.3	46.3	9.8	0.0	0.0
無職(n=286)	17.5	8.4	15.7	16.1	4.2	40.2	15.7	4.2	5.9

### Ⅲ. 調査結果

4. 5 あなたは、宴会や会食において、最初の30分間と最後の10分間は離席せずに食事を楽しむ「3010運動」を知っていますか。また、宴会等で呼びかけたことはありますか。(1つだけに○)

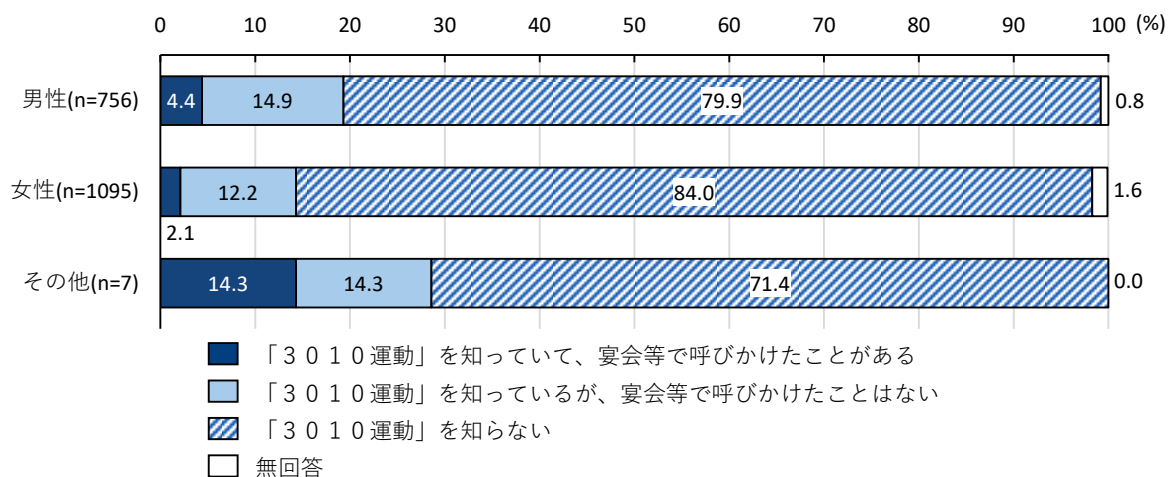
#### 【全体】

『「3010運動」を知らない』(以下『知らない』)の割合が82.3%で最も高く、次いで『「3010運動」を知っているが、宴会等で呼びかけたことはない』(以下『知っているが、呼びかけたことはない』)が13.3%、『「3010運動」を知っていて、宴会等で呼びかけたことがある』(以下『知っている、呼びかけたことがある』)が3.1%で続いている。



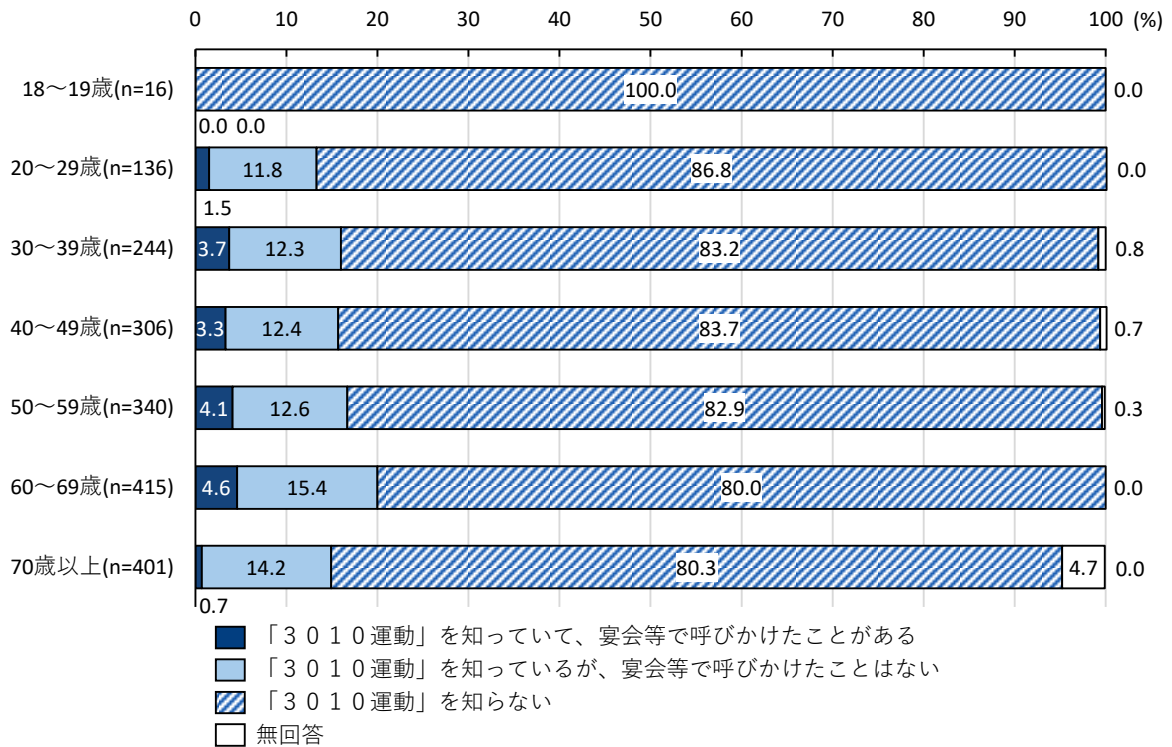
#### 【性別】

性別にみると、男女ともに『知らない』の割合(男性:79.9%、女性:84.0%)が最も高く、次いで『知っているが、呼びかけたことはない』(男性:14.9%、女性:12.2%)、『知っている、呼びかけたことがある』(男性:4.4%、女性:2.1%)の順で続いている、性別による大きな差はみられない。



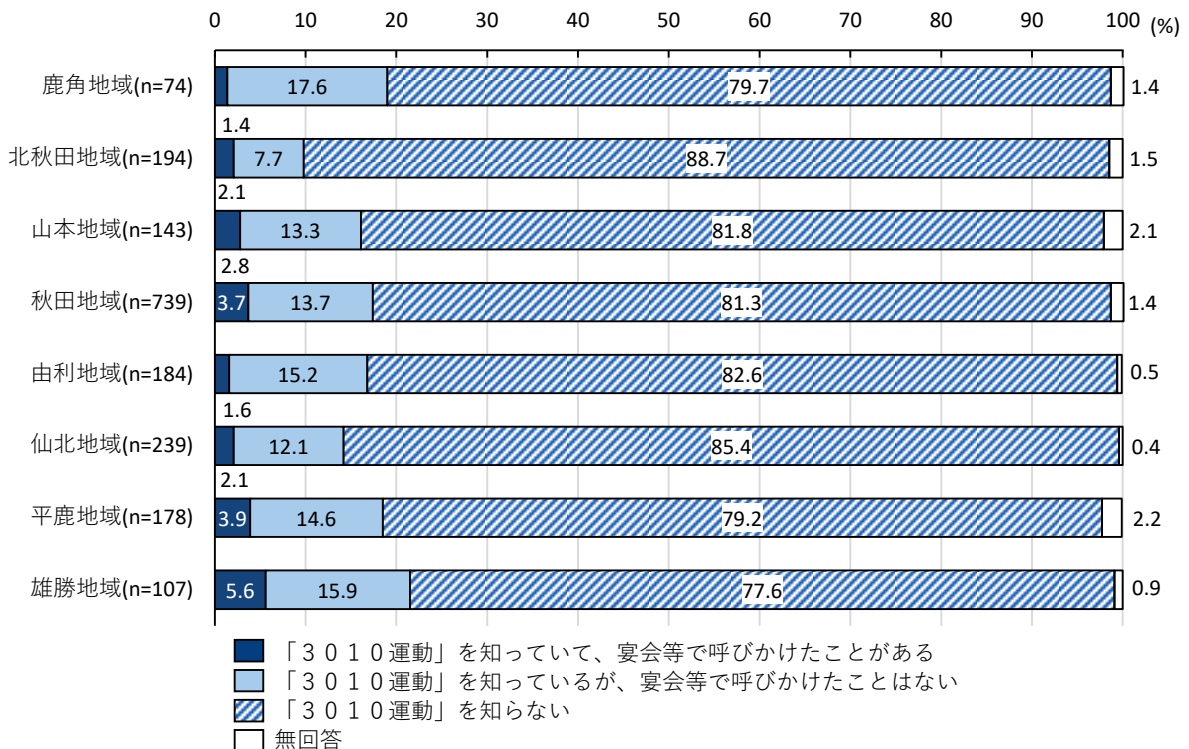
【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても『知らない』の割合が8割以上で最も高く、次いで『知っているが、呼びかけたことはない』、『知っている、呼びかけたことがある』の順で続いている。



【地域別】

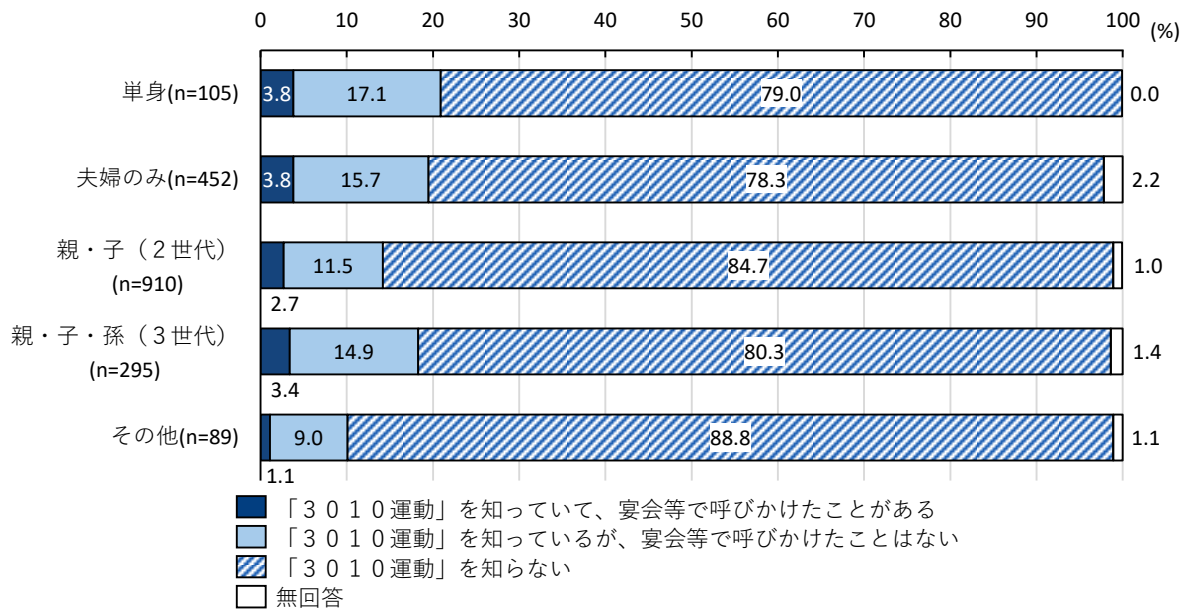
地域別にみると、いずれの地域においても『知らない』の割合が7～8割台で最も高く、次いで『知っているが、呼びかけたことはない』、『知っている、呼びかけたことがある』の順で続いている。



### Ⅲ. 調査結果

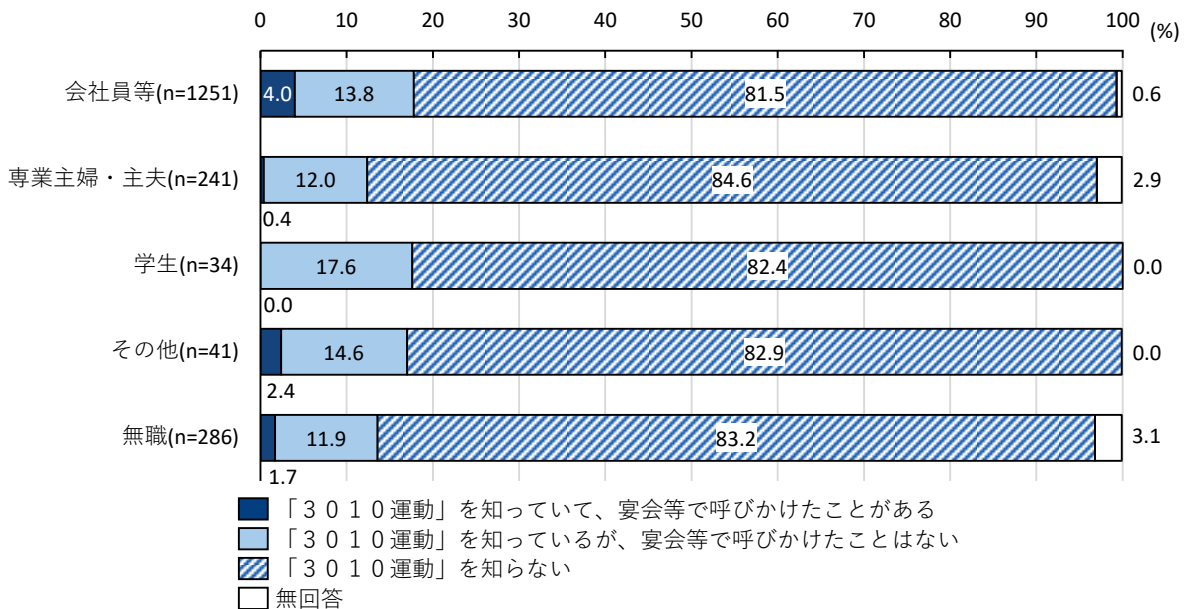
#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても『知らない』の割合が7～8割台で最も高く、次いで『知っているが、呼びかけたことはない』、『知っている、呼びかけたことがある』の順で続いている。



#### 【職業別】

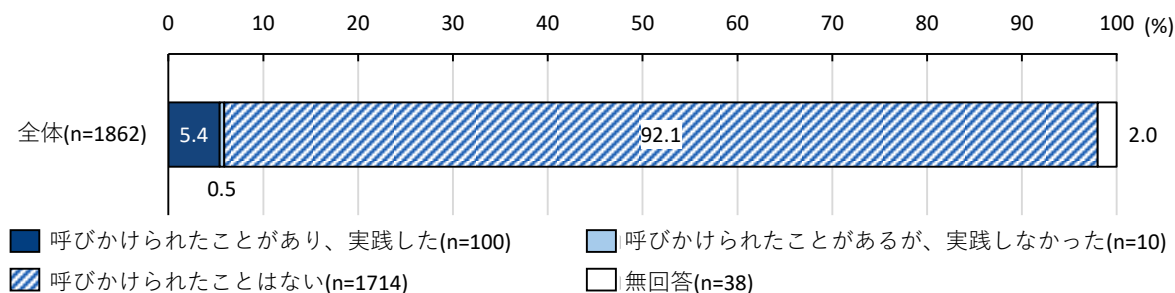
職業別にみると、いずれの職業においても『知らない』の割合が8割台で最も高く、次いで『知っているが、呼びかけたことはない』、『知っている、呼びかけたことがある』の順で続いている。



4. 6 最近の1年間において、宴会や会食において、「3010運動」を呼びかけられたことがありますか。また、呼びかけられたときは、実践しましたか。(1つだけに○)

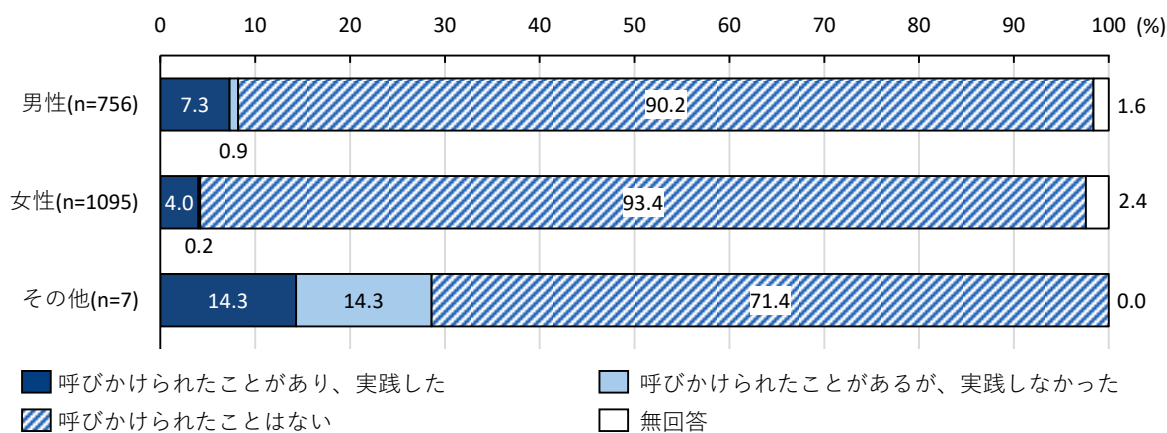
【全体】

「呼びかけられたことはない」の割合が92.1%で最も高く、次いで「呼びかけられたことがあり、実践した」(5.4%)、「呼びかけられたことがあるが、実践しなかった」(0.5%)の順で続いている。



【性別】

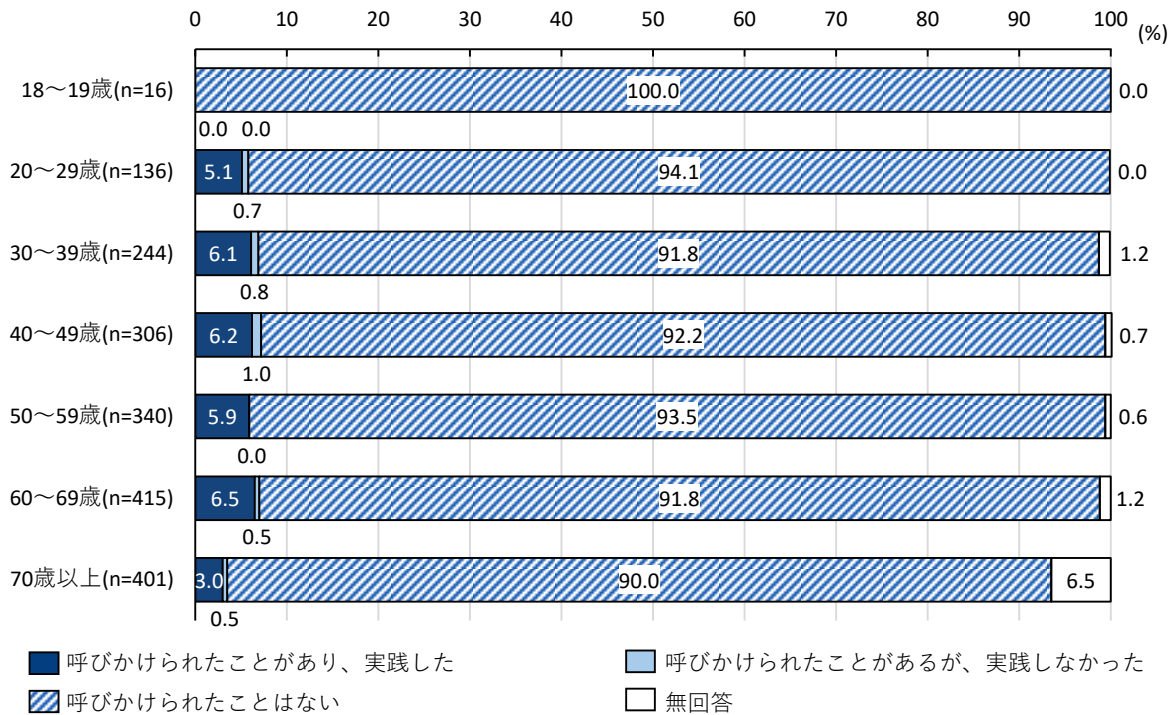
性別にみると、男女ともに「呼びかけられたことはない」の割合が9割を占めており（男性：90.2%、女性：93.4%）、性別による大きな差はみられない。



### Ⅲ. 調査結果

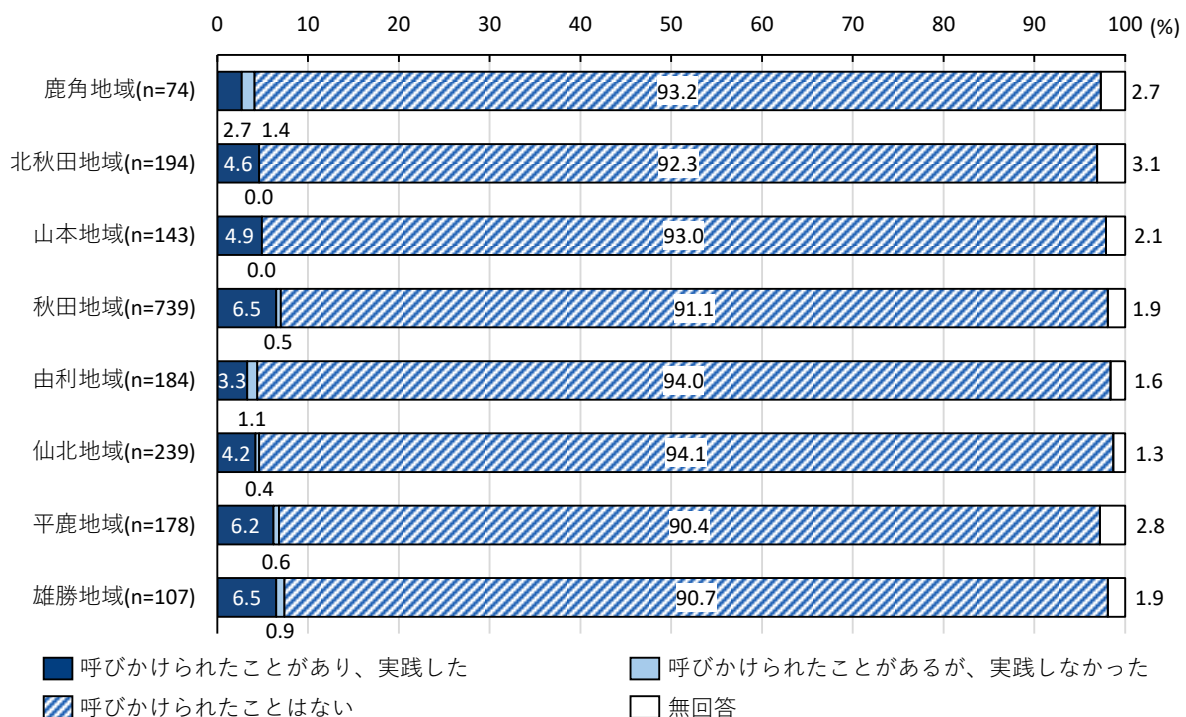
#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「呼びかけられたことはない」の割合が9割を超えている。



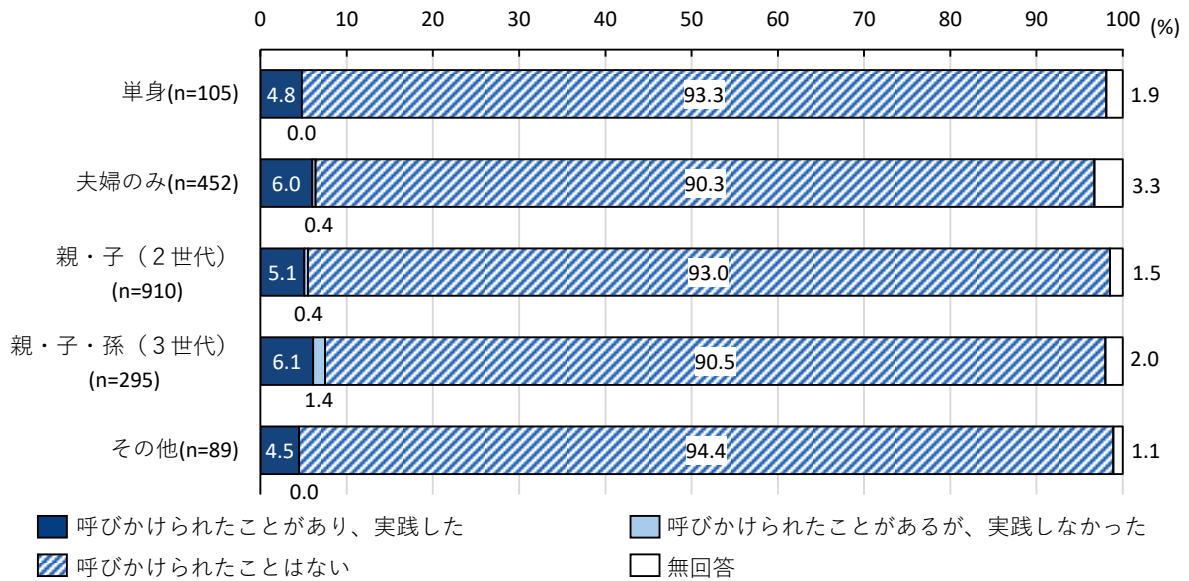
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「呼びかけられたことはない」の割合が9割を超えている。



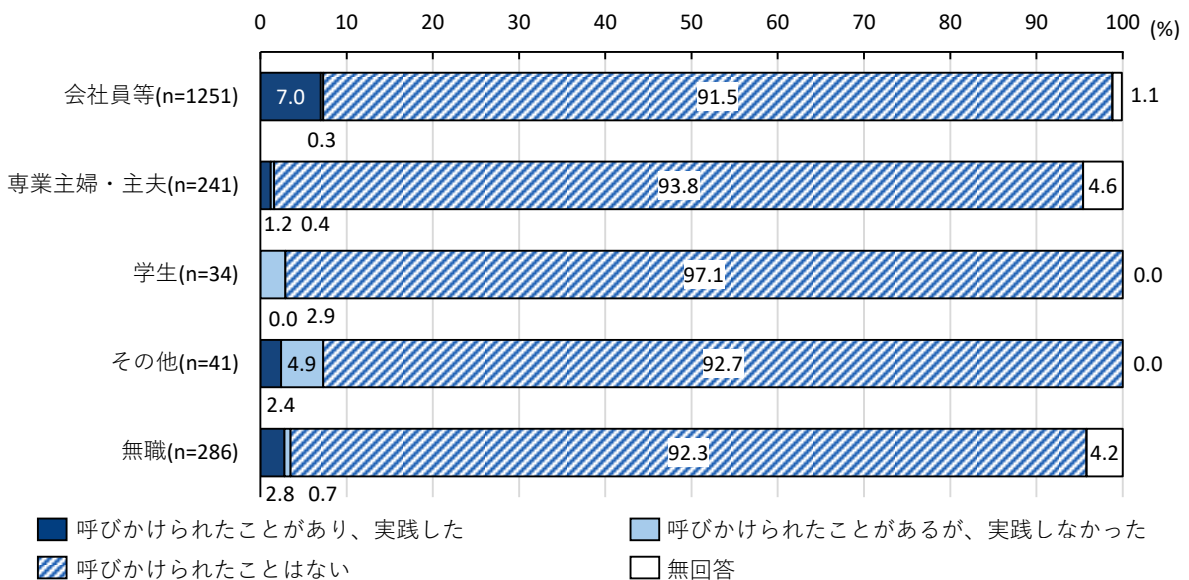
【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「呼びかけられたことはない」の割合が9割を超えている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「呼びかけられたことはない」の割合が9割を超えている。



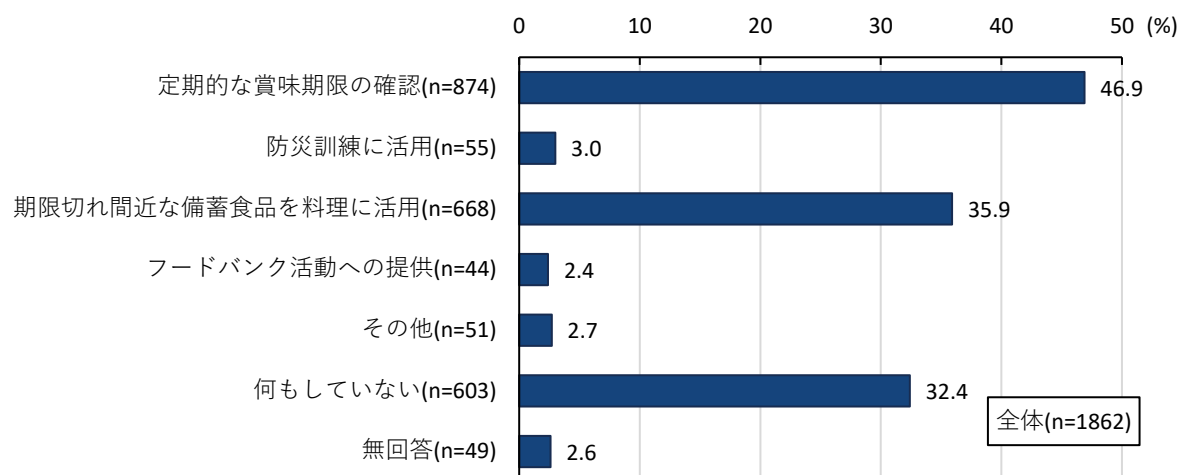
### Ⅲ. 調査結果

#### 5 災害に備えた備蓄食品の廃棄を防ぐ取組について

5. 1 あなたは、長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることはありますか。(当てはまるものすべてに○)

##### 【全体】

「定期的な賞味期限の確認」の割合が46.9%で最も高く、次いで「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」(35.9%)、「何もしていない」(32.4%)などの順で続いている。



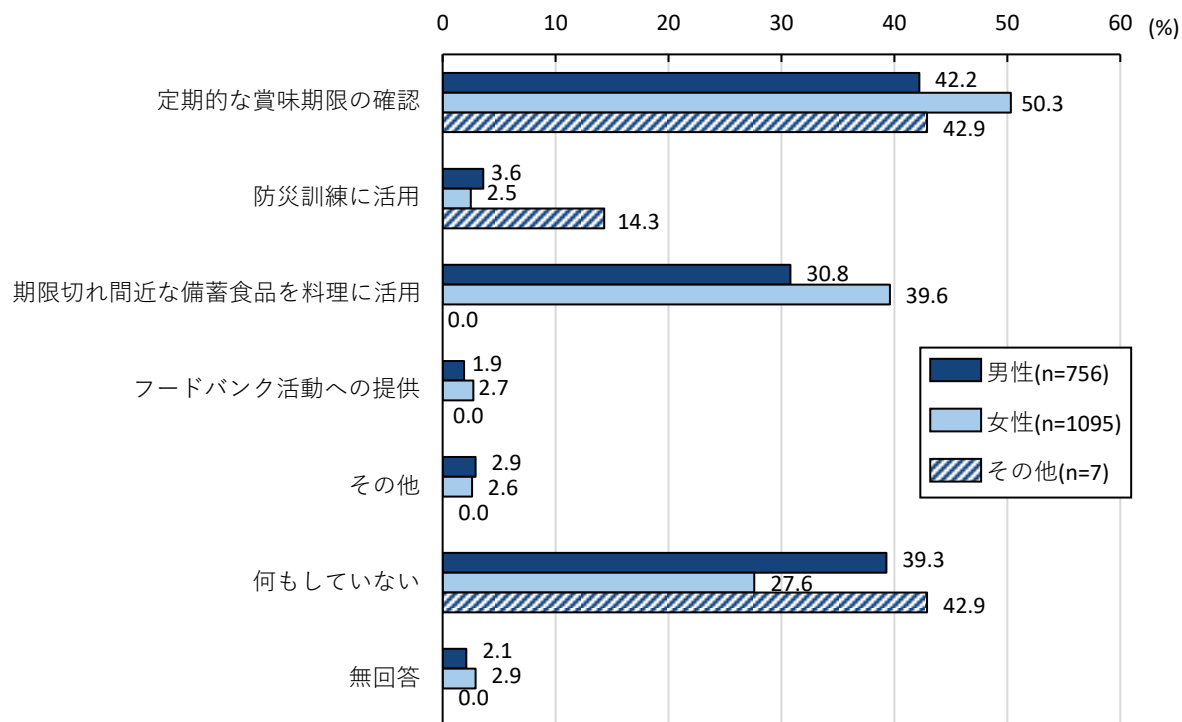
##### その他内容 (一部)

- 備蓄していない (男性/40~49 歳)
- ローリングストック (男性/50~59 歳)
- 食べきれなかったら友達にあげる (女性/50~59 歳)
- 冷凍可能なものは冷凍するようにしている (男性/70 歳以上)

【性別】

性別にみると、男女ともに「定期的な賞味期限の確認」の割合（男性：42.2%、女性 50.3%）が最も高く、次いで、男性では「何もしていない」（39.3%）、「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」（30.8%）の順で続いている一方、女性では「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」（39.6%）、「何もしていない」（27.6%）の順となっている。

また、「何もしていない」の割合は男性が女性を 10.0 ポイント以上上回っている。



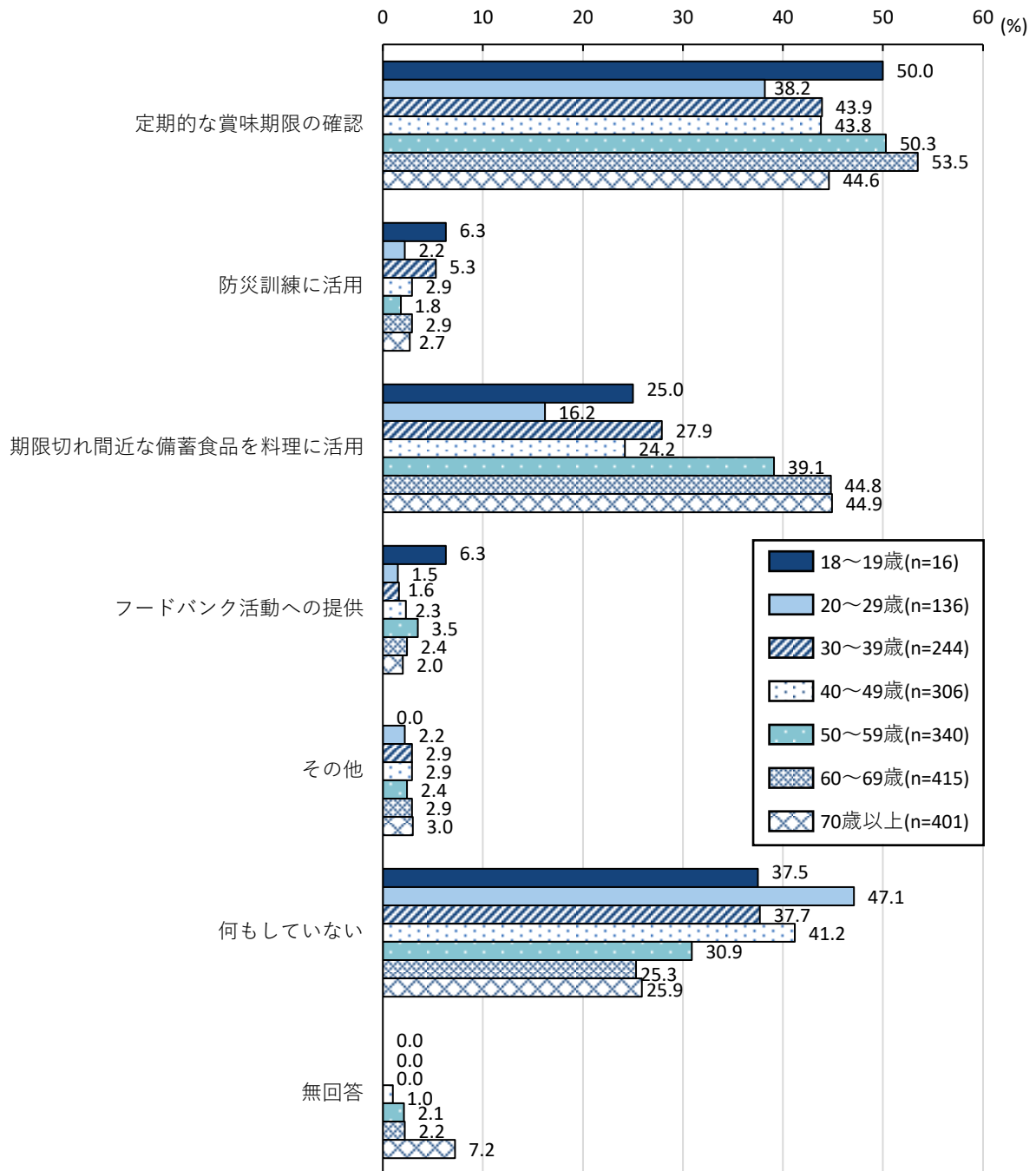
### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳および30～69歳では「定期的な賞味期限の確認」、20歳代では「何もしていない」、70歳以上では「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」の割合が最も高くなっている。

また、「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」の割合は、18～49歳では1～2割台、50歳代では3割台、60歳以上では4割台となっており、年齢が高い層ほど割合が高い傾向にある。

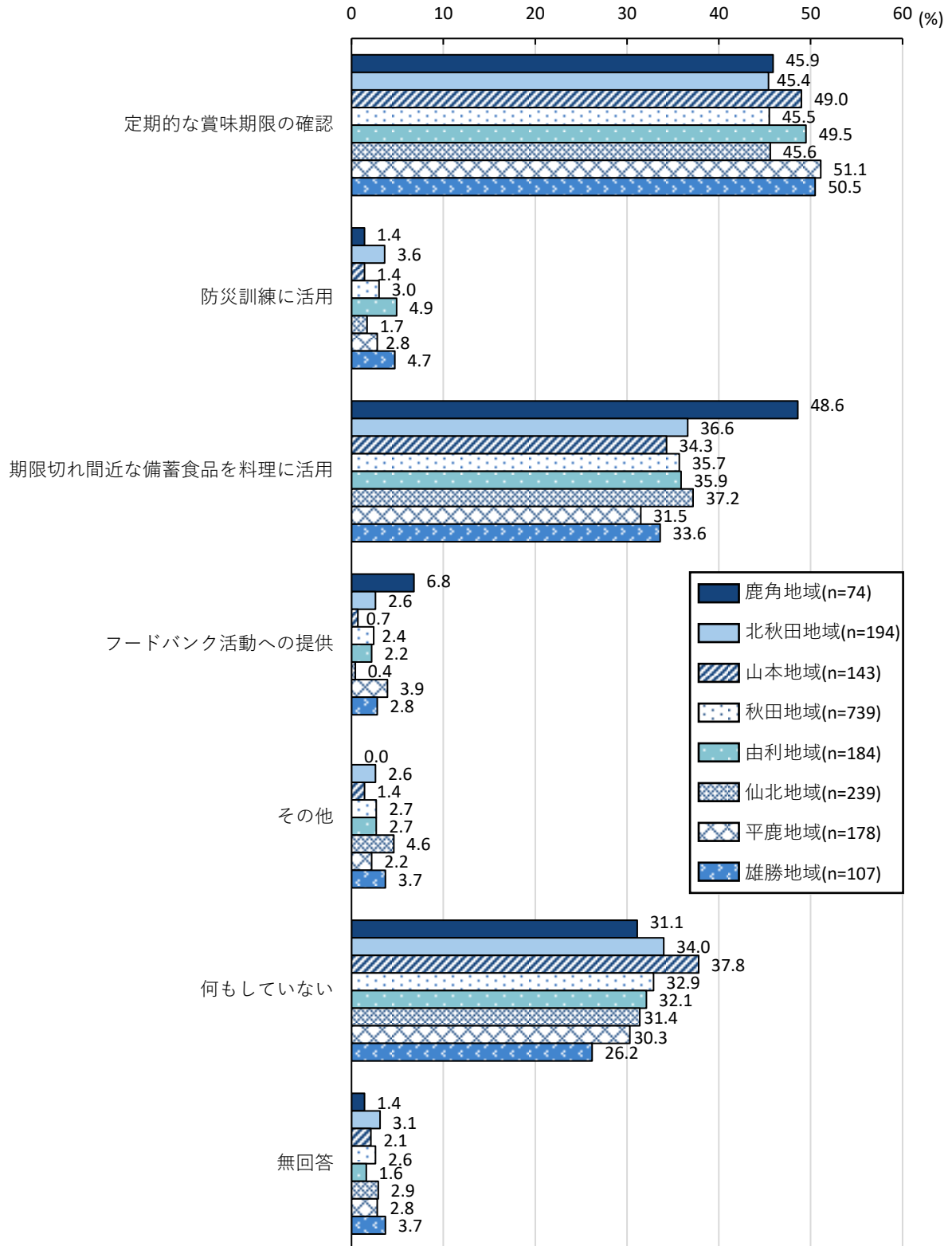
一方、「何もしていない」の割合は、18～49歳では3割台後半～4割台、50歳代では3割台、60歳以上では2割台となっており、年齢が低い層ほど割合が高い傾向がみられる。



【地域別】

地域別にみると、鹿角地域では「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」の割合（48.6%）が最も高く、全体の割合（35.9%）を10.0ポイント以上上回っている。

一方、他7地域ではいずれも「定期的な賞味期限の確認」の割合が4～5割台で最も高くなっている。

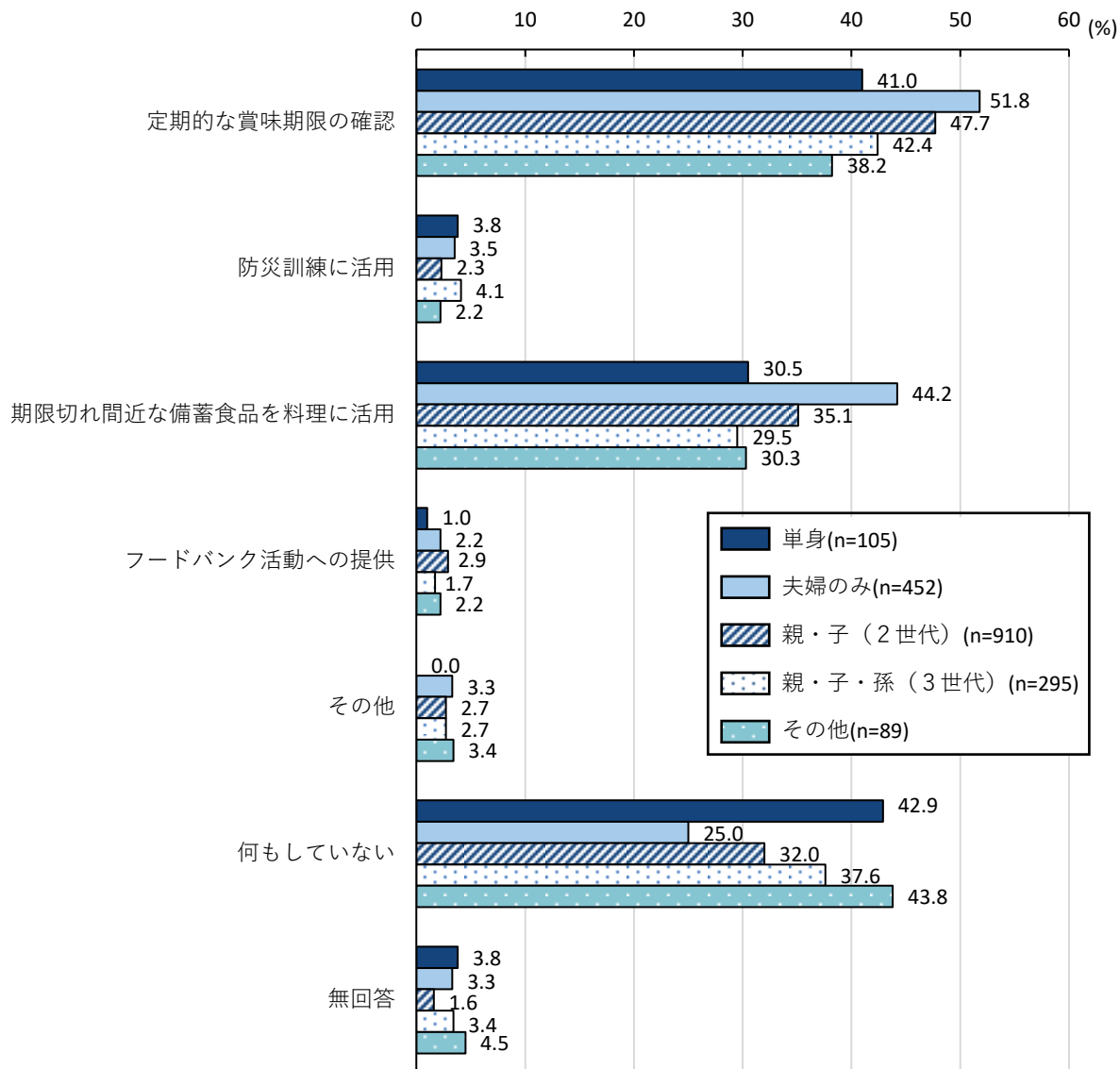


### Ⅲ. 調査結果

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、夫婦のみおよび親・子（2世代）、親・子・孫（3世代）では「定期的な賞味期限の確認」の割合が最も高くなっている。

一方、単身およびその他では「何もしていない」の割合が最も高く、これら割合はいずれも全体の割合（32.4%）を10.0ポイント以上上回っている。

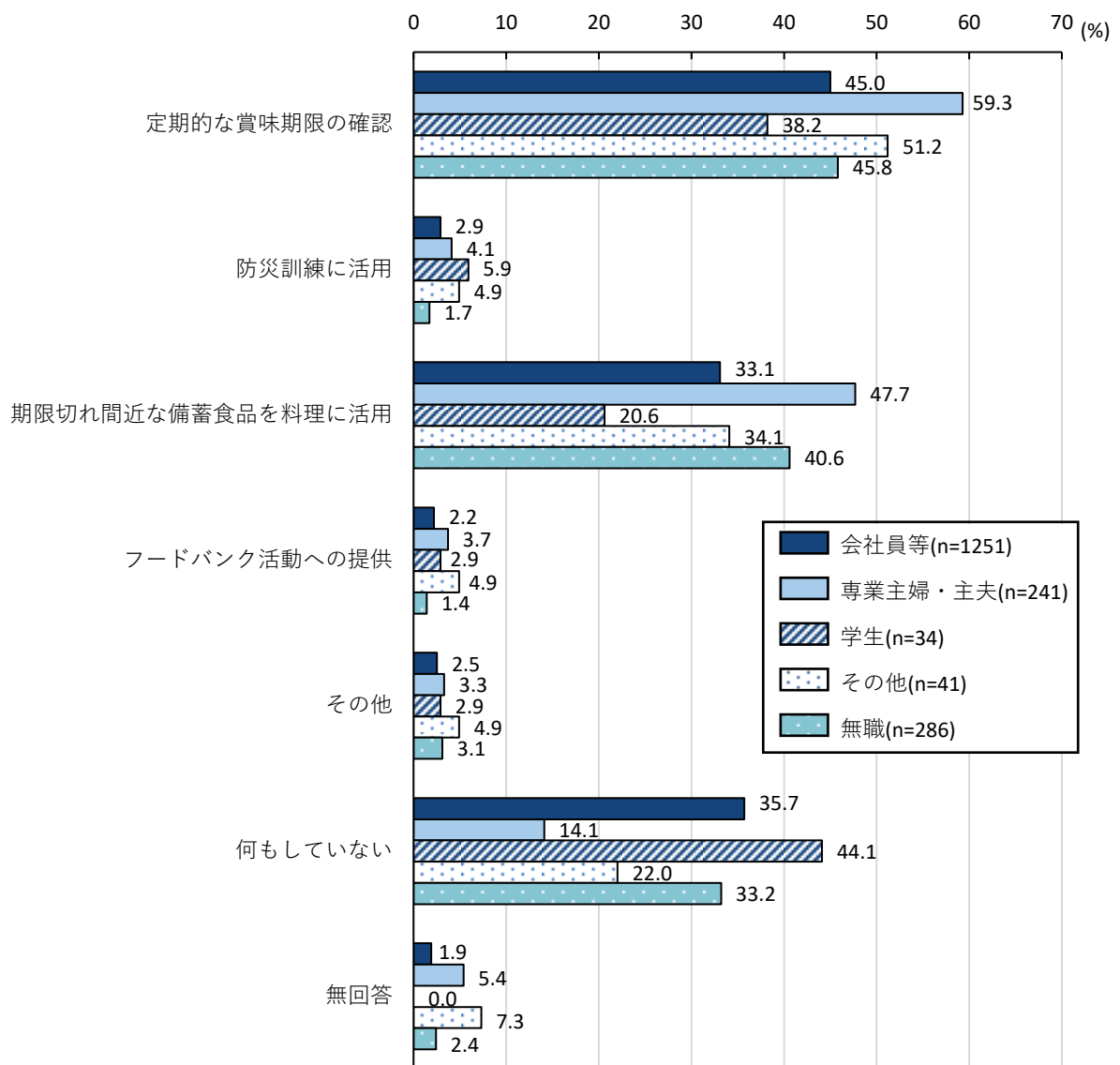


【職業別】

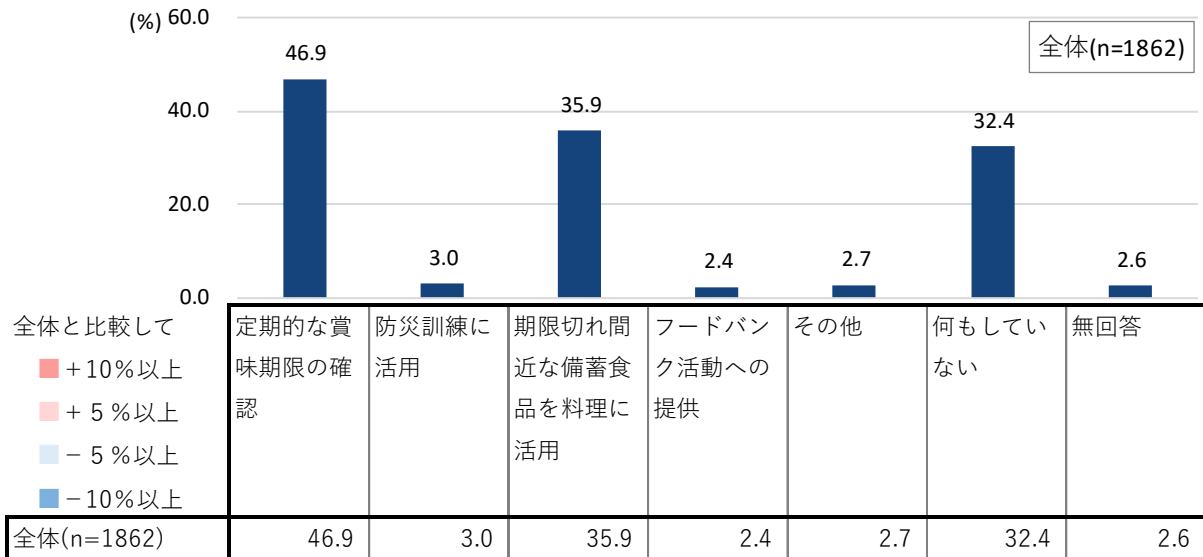
職業別にみると、学生では「何もしていない」の割合が最も高く、他4区分ではいずれも「定期的な賞味期限の確認」の割合が最も高くなっている。

また、「定期的な賞味期限の確認」の割合は、専業主婦・主夫（59.3%）が全体の割合（46.9%）を10.0ポイント以上上回っているほか、「期限切れ間近な備蓄食品を料理に活用」の割合は、専業主婦・主夫（59.3%）が全体の割合（46.9%）を10.0ポイント以上上回っている一方、学生（20.6%）では10.0ポイント以下回っている。

「何もしていない」の割合は、専業主婦・主夫（14.1%）およびその他（22.0%）では、全体の割合（32.4%）を10.0ポイント以上下回っている一方、学生（44.1%）では、10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	42.2	3.6	30.8	1.9	2.9	39.3	2.1
女性(n=1095)	50.3	2.5	39.6	2.7	2.6	27.6	2.9
その他(n=7)	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	42.9	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	50.0	6.3	25.0	6.3	0.0	37.5	0.0
20～29歳(n=136)	38.2	2.2	16.2	1.5	2.2	47.1	0.0
30～39歳(n=244)	43.9	5.3	27.9	1.6	2.9	37.7	0.0
40～49歳(n=306)	43.8	2.9	24.2	2.3	2.9	41.2	1.0
50～59歳(n=340)	50.3	1.8	39.1	3.5	2.4	30.9	2.1
60～69歳(n=415)	53.5	2.9	44.8	2.4	2.9	25.3	2.2
70歳以上(n=401)	44.6	2.7	44.9	2.0	3.0	25.9	7.2

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	45.9	1.4	48.6	6.8	0.0	31.1	1.4
北秋田地域(n=194)	45.4	3.6	36.6	2.6	2.6	34.0	3.1
山本地域(n=143)	49.0	1.4	34.3	0.7	1.4	37.8	2.1
秋田地域(n=739)	45.5	3.0	35.7	2.4	2.7	32.9	2.6
由利地域(n=184)	49.5	4.9	35.9	2.2	2.7	32.1	1.6
仙北地域(n=239)	45.6	1.7	37.2	0.4	4.6	31.4	2.9
平鹿地域(n=178)	51.1	2.8	31.5	3.9	2.2	30.3	2.8
雄勝地域(n=107)	50.5	4.7	33.6	2.8	3.7	26.2	3.7

#### 家族構成別

単身(n=105)	41.0	3.8	30.5	1.0	0.0	42.9	3.8
夫婦のみ(n=452)	51.8	3.5	44.2	2.2	3.3	25.0	3.3
親・子(2世代)(n=910)	47.7	2.3	35.1	2.9	2.7	32.0	1.6
親・子・孫(3世代)(n=295)	42.4	4.1	29.5	1.7	2.7	37.6	3.4
その他(n=89)	38.2	2.2	30.3	2.2	3.4	43.8	4.5

#### 職業別

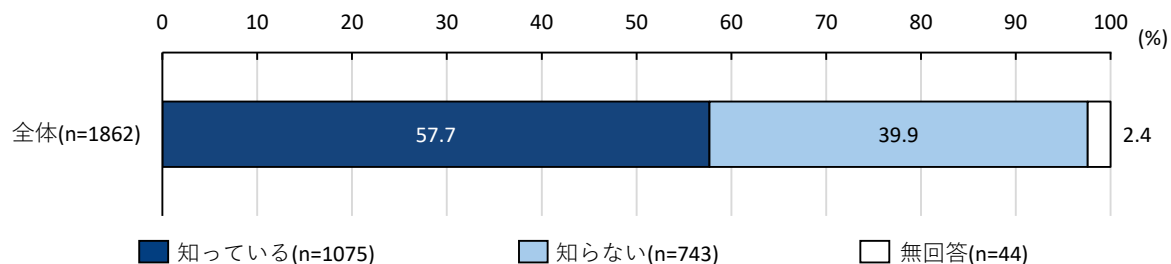
会社員等(n=1251)	45.0	2.9	33.1	2.2	2.5	35.7	1.9
専業主婦・主夫(n=241)	59.3	4.1	47.7	3.7	3.3	14.1	5.4
学生(n=34)	38.2	5.9	20.6	2.9	2.9	44.1	0.0
その他(n=41)	51.2	4.9	34.1	4.9	4.9	22.0	7.3
無職(n=286)	45.8	1.7	40.6	1.4	3.1	33.2	2.4

## 6 フードバンク活動などについて

6.1 あなたは、「フードバンク活動」や「フードドライブ」を知っていますか。(1つだけに○)

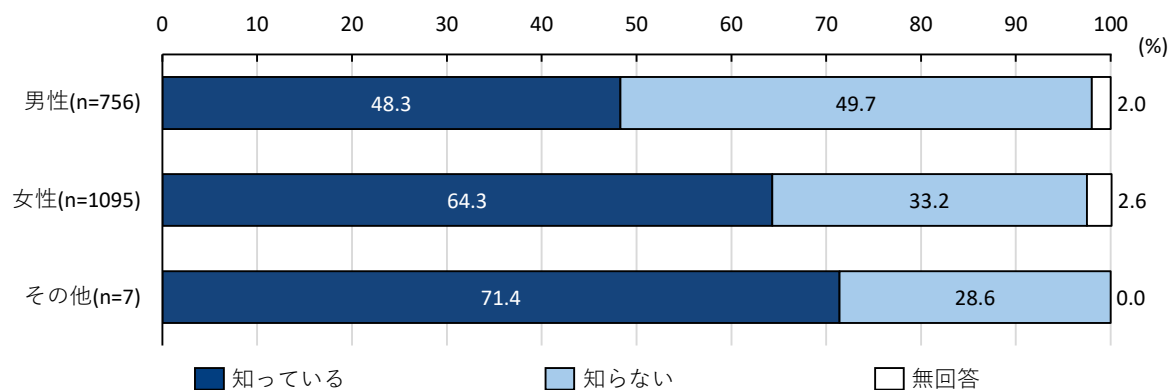
### 【全体】

「知っている」が57.7%、「知らない」が39.9%となっている。



### 【性別】

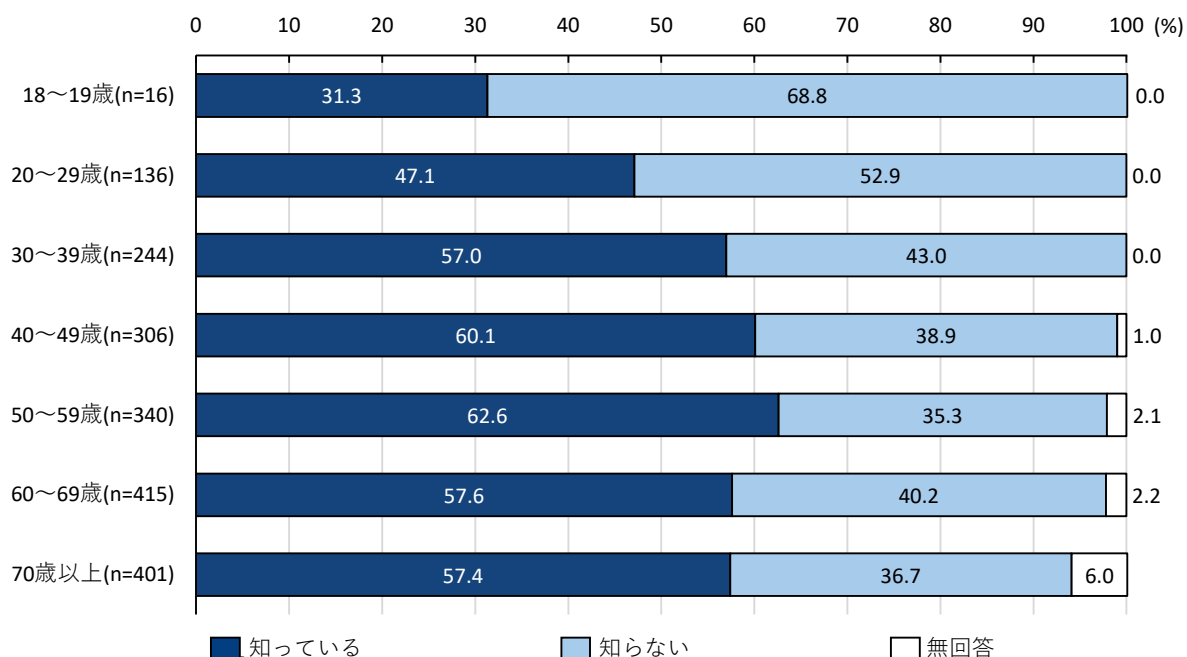
性別にみると、男性では「知らない」の割合(49.7%)が「知っている」(48.3%)を上回っている一方、女性では「知っている」の割合(64.3%)が「知らない」(33.2%)を上回っている。また、「知っている」の割合は、女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果

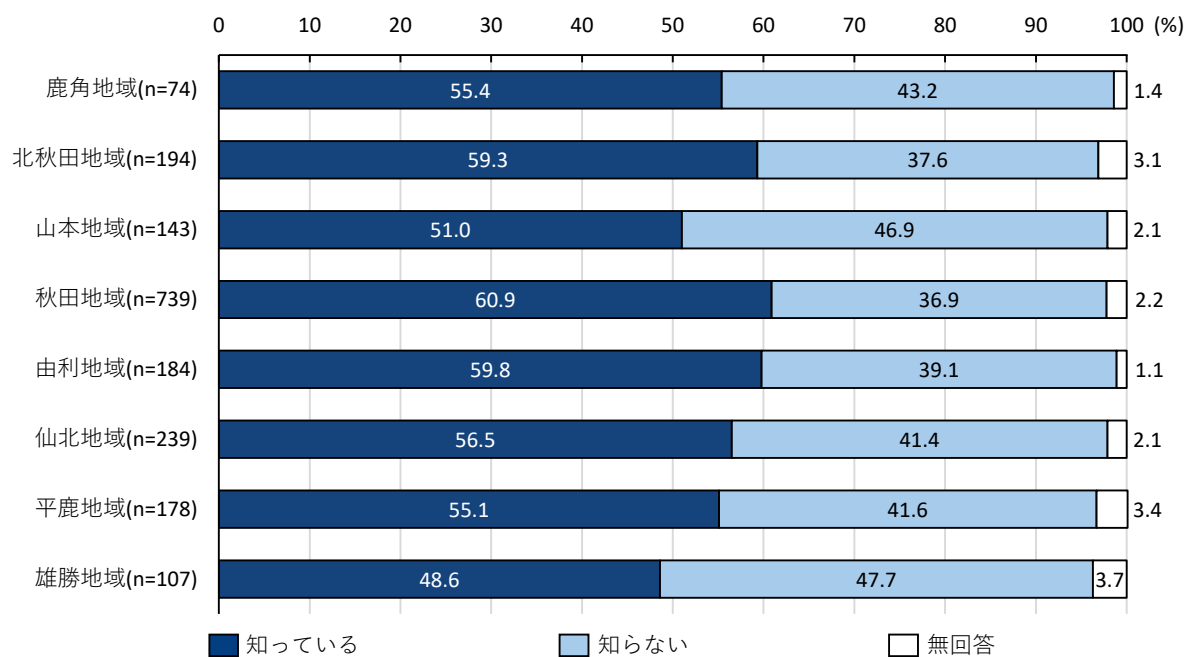
#### 【年齢別】

年齢別にみると、18～29歳では「知らない」の割合が「知っている」を上回っている一方、30歳以上では「知っている」の割合が「知らない」を上回っている。



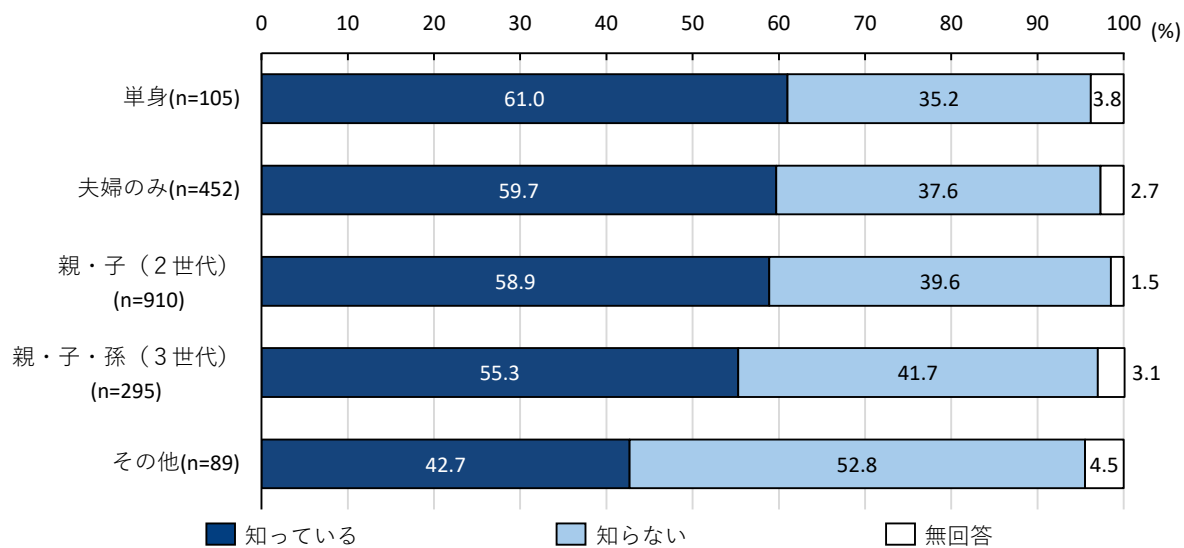
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「知っている」の割合が「知らない」を上回っている。



【家族構成別】

家族構成別にみると、その他を除くすべての区分で「知っている」の割合が「知らない」を上回っている。

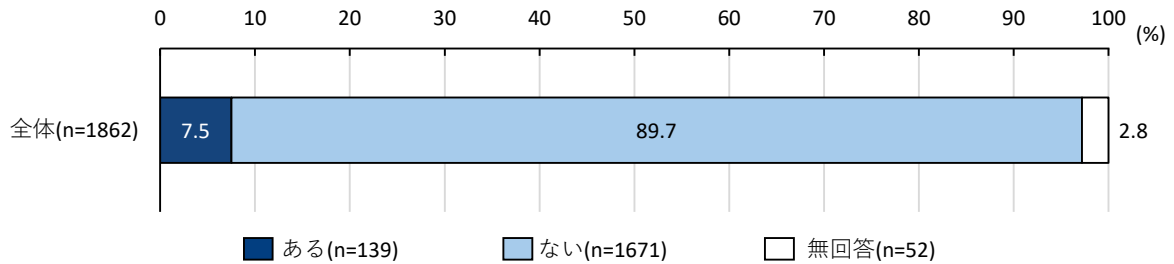


### Ⅲ. 調査結果

#### 6. 2 あなたは、フードバンク活動（フードドライブ）を実施している団体に対して、食料品の提供や支援をしたことがありますか。（1つだけに○）

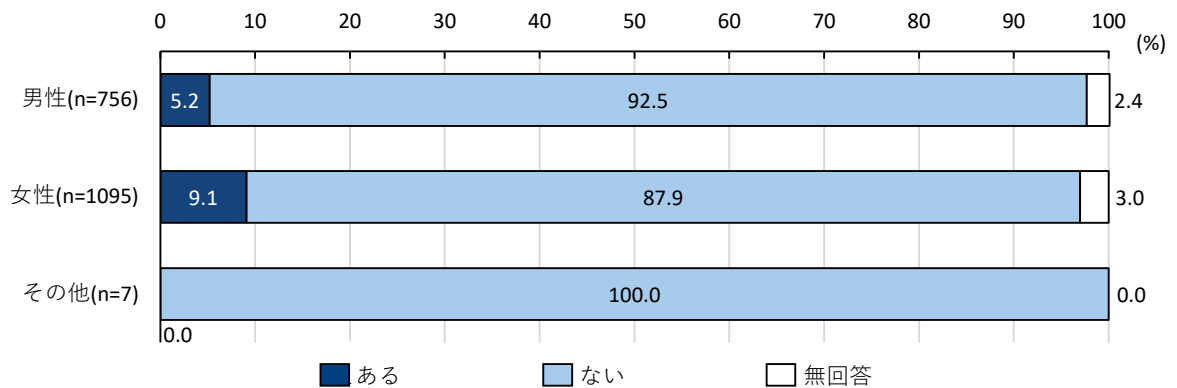
##### 【全体】

「ある」は7.5%、「ない」は89.7%となっている。



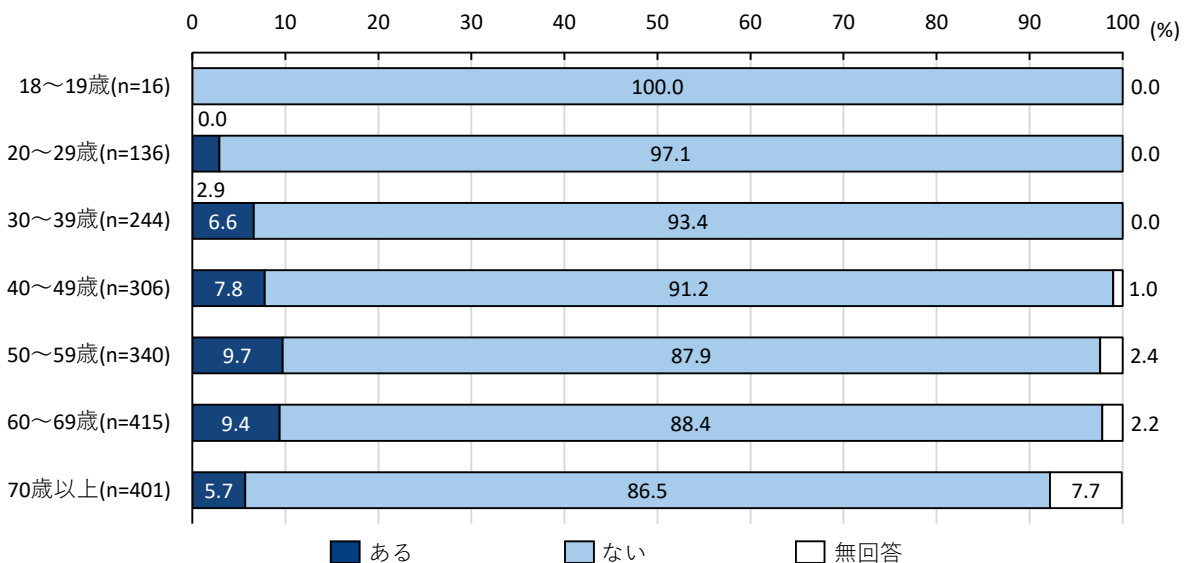
##### 【性別】

性別にみると、「ない」の割合は、男女ともに9割前後を占めており（男性:92.5%、女性:87.9%）、性別による大きな差はみられない。



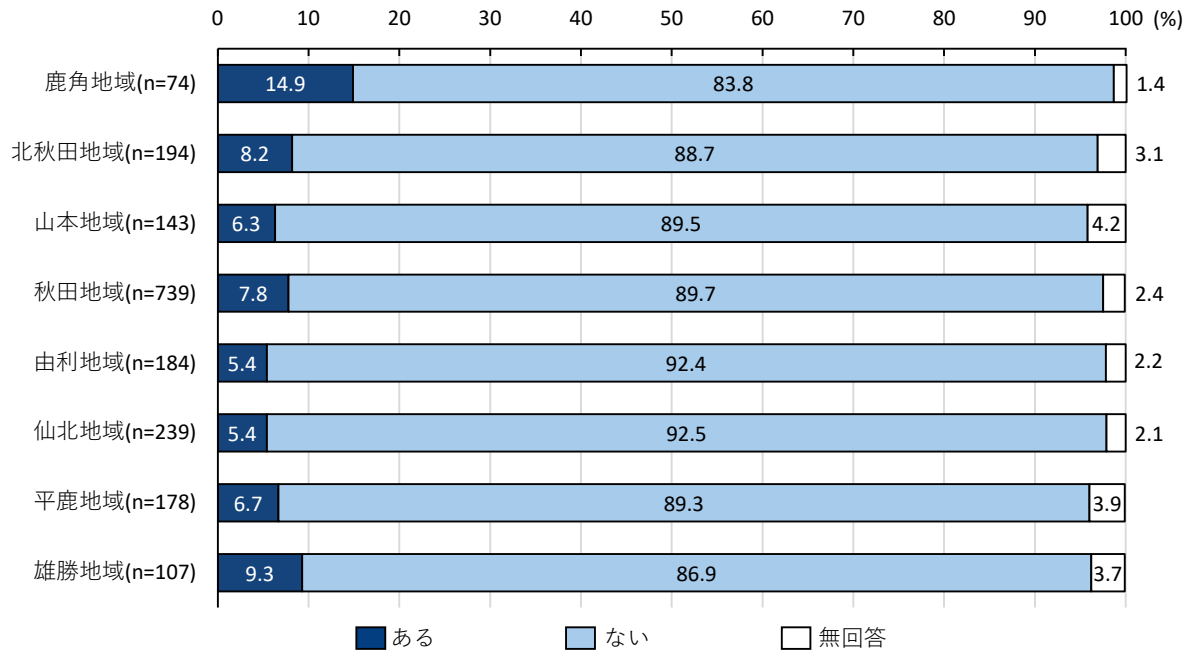
##### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「ない」の割合が8割以上となっており、「ある」を上回っている。



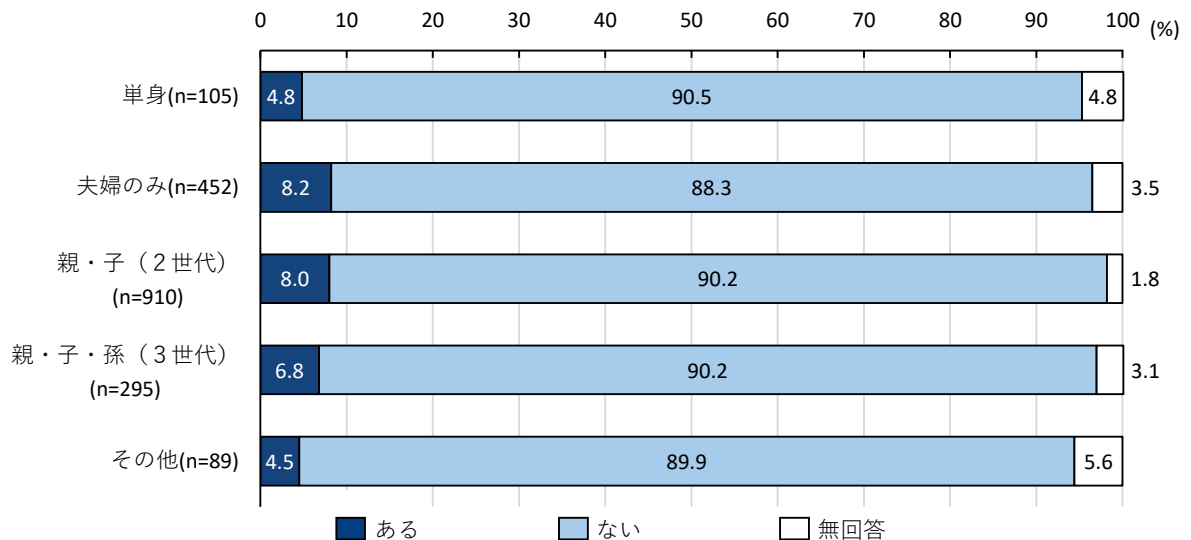
【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「ない」の割合が8～9割台で「ある」を上回っている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「ない」の割合が9割前後で「ある」を上回っている。



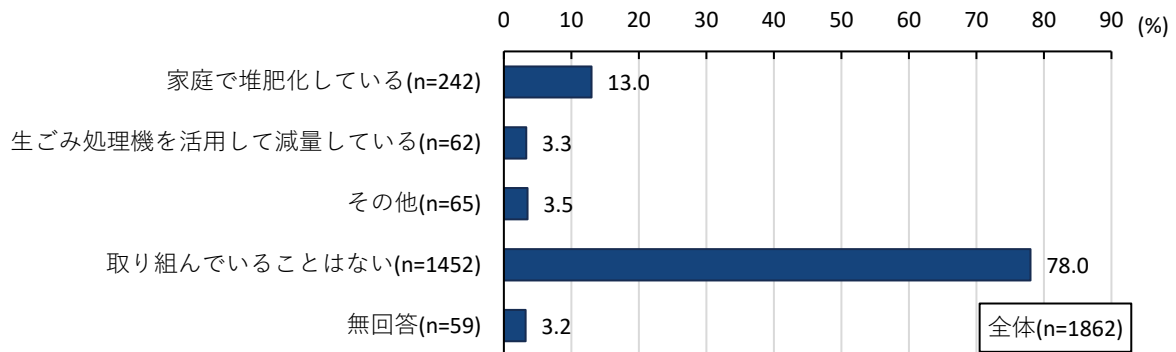
### Ⅲ. 調査結果

#### 7 資源やエネルギーの有効活用などについて

##### 7.1 食べ残したものについて有効利用等する取組を行っていただければ教えてください。(当てはまるものすべてに○)

###### 【全体】

「取り組んでいることはない」の割合が 78.0%で最も高く、次いで「家庭で堆肥化している」(13.0%)が続いている。

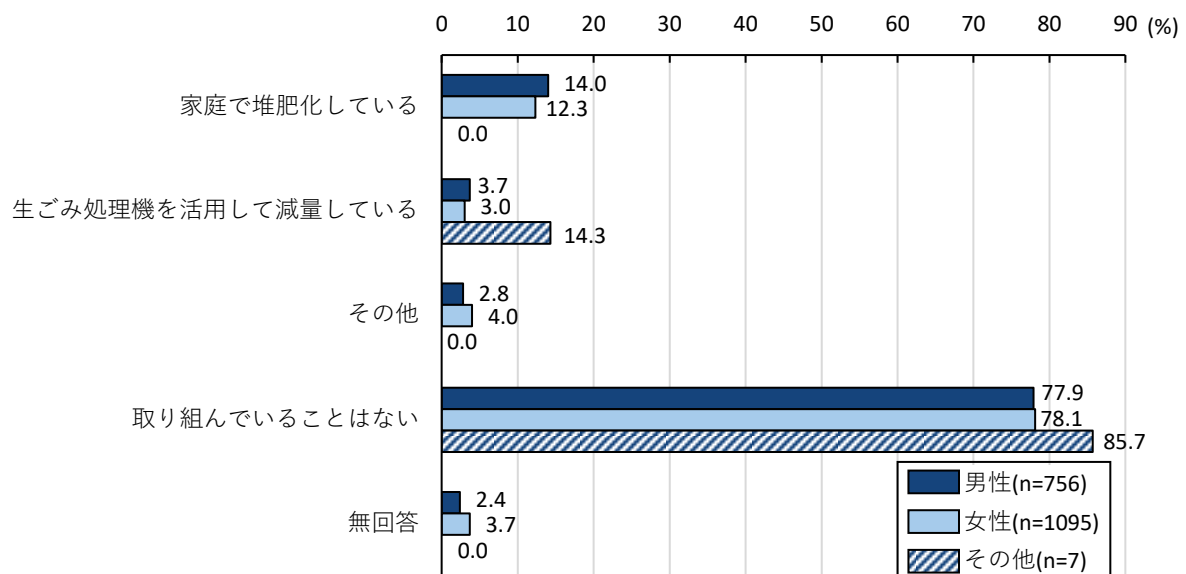


###### その他内容 (一部)

- 食べ残しがほとんどない (女性/50~59 歳)
- 食べ残しは次の食事に食べる (女性/70 歳以上)
- 料理のリメイク (女性/60~69 歳)
- ニワトリのえさにしている (女性/70 歳以上)

###### 【性別】

性別にみると、男女ともに「取り組んでいることはない」の割合 (男性: 77.9%、女性: 78.1%) が最も高く、次いで「家庭で堆肥化している」(男性: 14.0%、女性: 12.3%) の順で続いており、性別による大きな差はみられない。

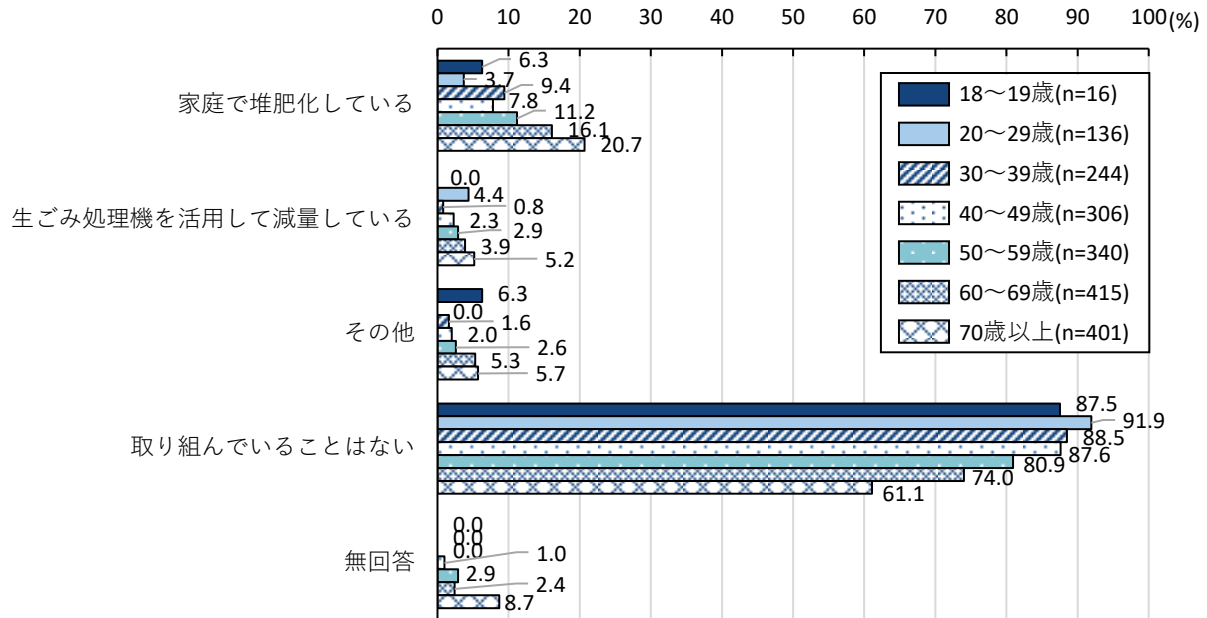


### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢層においても「取り組んでいることはない」の割合が最も高く、特に18～49歳では9割前後となっており、若年層で比較的高い割合となっている。

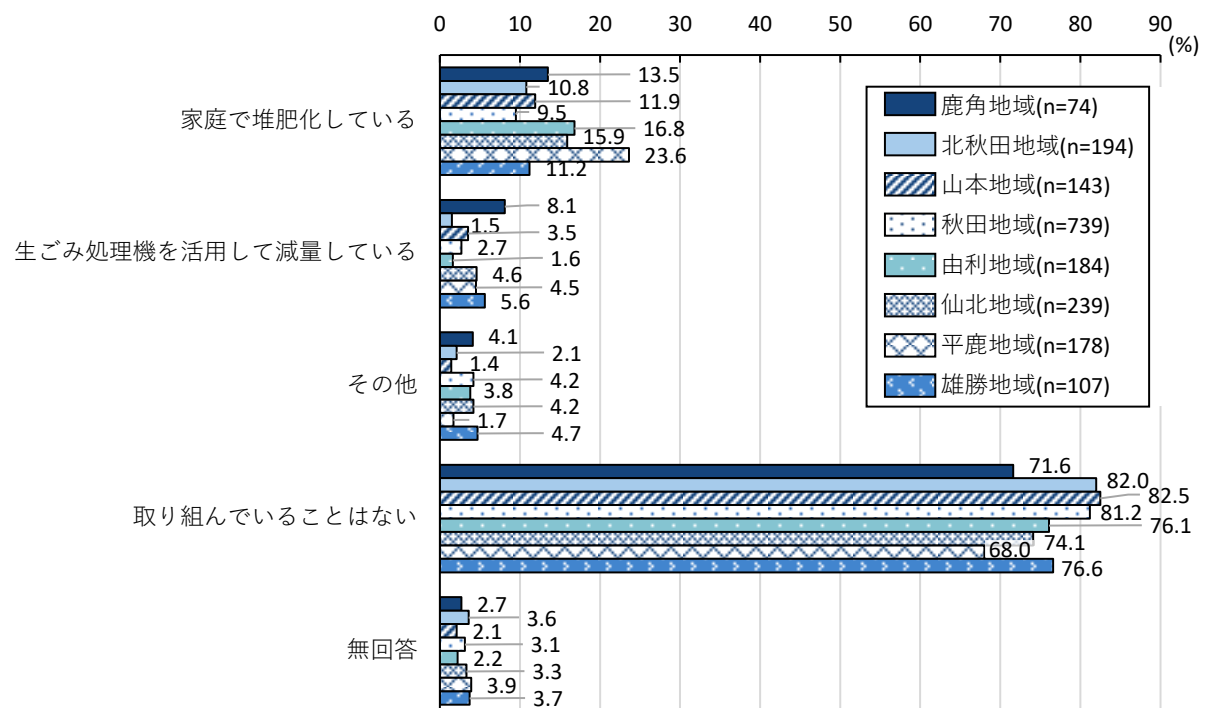
一方、「家庭で堆肥化している」の割合は、18～49歳では1割未満、50～69歳では1割台、70歳以上では2割台となっている。



#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「取り組んでいることはない」の割合が最も高くなっている。

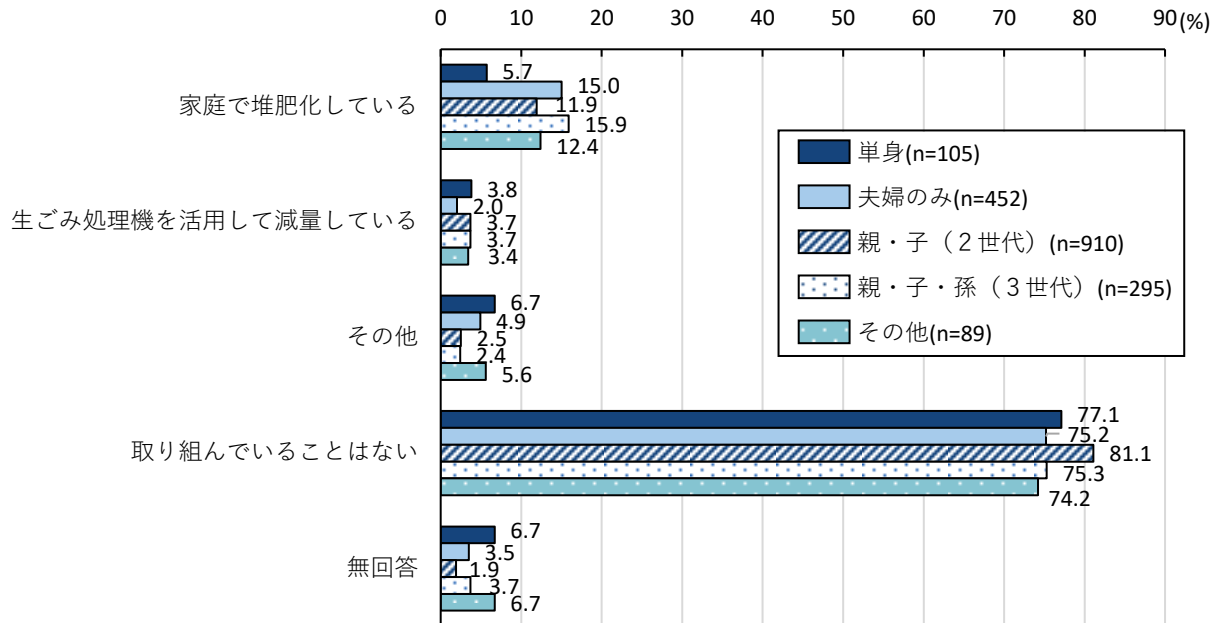
また、平鹿地域では、「取り組んでいることはない」の割合（68.0%）が全体の割合（78.0%）を10.0ポイント以上下回っている一方、「家庭で堆肥化している」の割合（23.6%）が全体の割合（13.0%）を10.0ポイント以上上回っている。



### Ⅲ. 調査結果

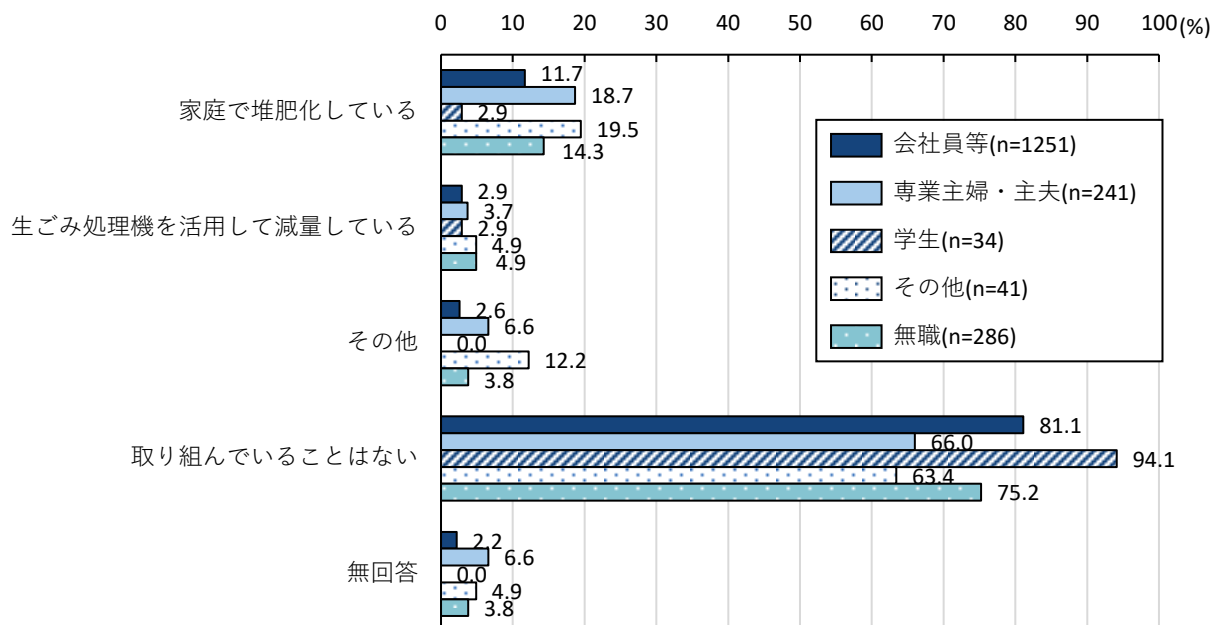
#### 【家族構成別】

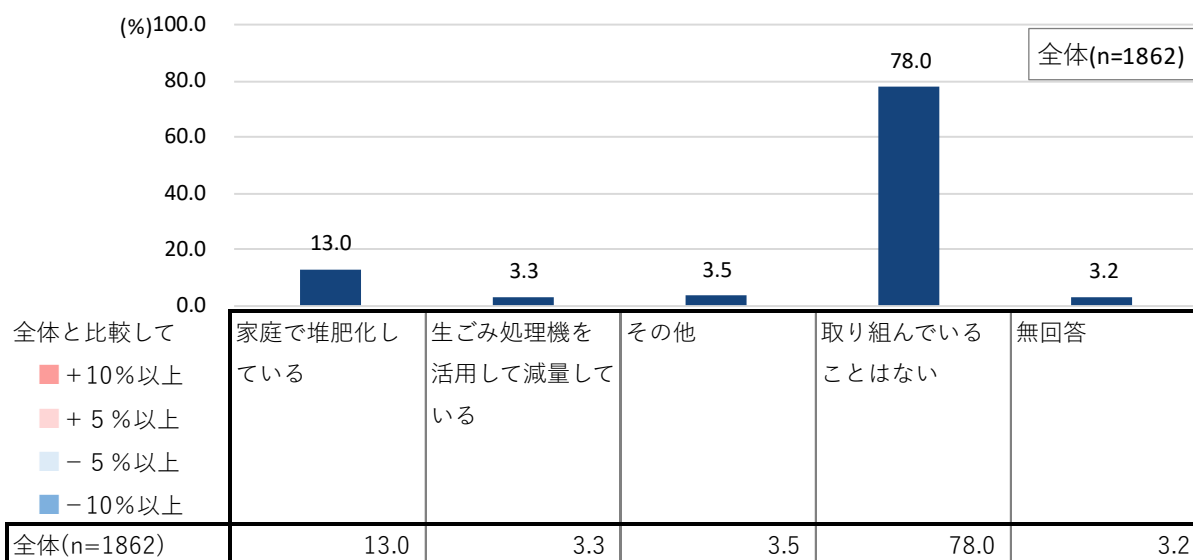
家族構成別にみると、いずれの区分においても「取り組んでいることはない」の割合が最も高くなっている。



#### 【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「取り組んでいることはない」の割合が最も高くなっている。特に学生の割合 (94.1%) は9割を超えており、全体の割合 (78.0%) を10.0ポイント以上上回っている一方、専業主婦・主夫 (66.0%) およびその他 (63.4%) では6割台となっており、全体の割合を10.0ポイント以上下回っている。





性別

男性(n=756)	14.0	3.7	2.8	77.9	2.4
女性(n=1095)	12.3	3.0	4.0	78.1	3.7
その他(n=7)	0.0	14.3	0.0	85.7	0.0

年齢別

18～19歳(n=16)	6.3	0.0	6.3	87.5	0.0
20～29歳(n=136)	3.7	4.4	0.0	91.9	0.0
30～39歳(n=244)	9.4	0.8	1.6	88.5	0.0
40～49歳(n=306)	7.8	2.3	2.0	87.6	1.0
50～59歳(n=340)	11.2	2.9	2.6	80.9	2.9
60～69歳(n=415)	16.1	3.9	5.3	74.0	2.4
70歳以上(n=401)	20.7	5.2	5.7	61.1	8.7

地域別

鹿角地域(n=74)	13.5	8.1	4.1	71.6	2.7
北秋田地域(n=194)	10.8	1.5	2.1	82.0	3.6
山本地域(n=143)	11.9	3.5	1.4	82.5	2.1
秋田地域(n=739)	9.5	2.7	4.2	81.2	3.1
由利地域(n=184)	16.8	1.6	3.8	76.1	2.2
仙北地域(n=239)	15.9	4.6	4.2	74.1	3.3
平鹿地域(n=178)	23.6	4.5	1.7	68.0	3.9
雄勝地域(n=107)	11.2	5.6	4.7	76.6	3.7

家族構成別

単身(n=105)	5.7	3.8	6.7	77.1	6.7
夫婦のみ(n=452)	15.0	2.0	4.9	75.2	3.5
親・子(2世代)(n=910)	11.9	3.7	2.5	81.1	1.9
親・子・孫(3世代)(n=295)	15.9	3.7	2.4	75.3	3.7
その他(n=89)	12.4	3.4	5.6	74.2	6.7

職業別

会社員等(n=1251)	11.7	2.9	2.6	81.1	2.2
専業主婦・主夫(n=241)	18.7	3.7	6.6	66.0	6.6
学生(n=34)	2.9	2.9	0.0	94.1	0.0
その他(n=41)	19.5	4.9	12.2	63.4	4.9
無職(n=286)	14.3	4.9	3.8	75.2	3.8

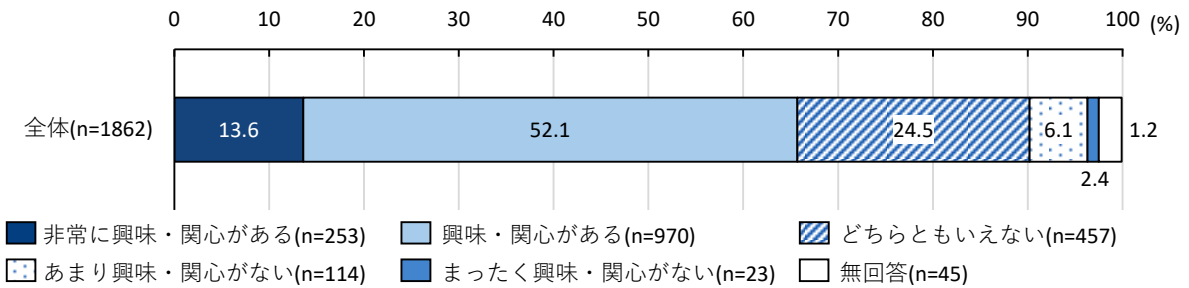
### Ⅲ. 調査結果

#### 7. 2 あなたは、地球温暖化についてどの程度、興味や関心がありますか。(1つだけに○)

##### 【全体】

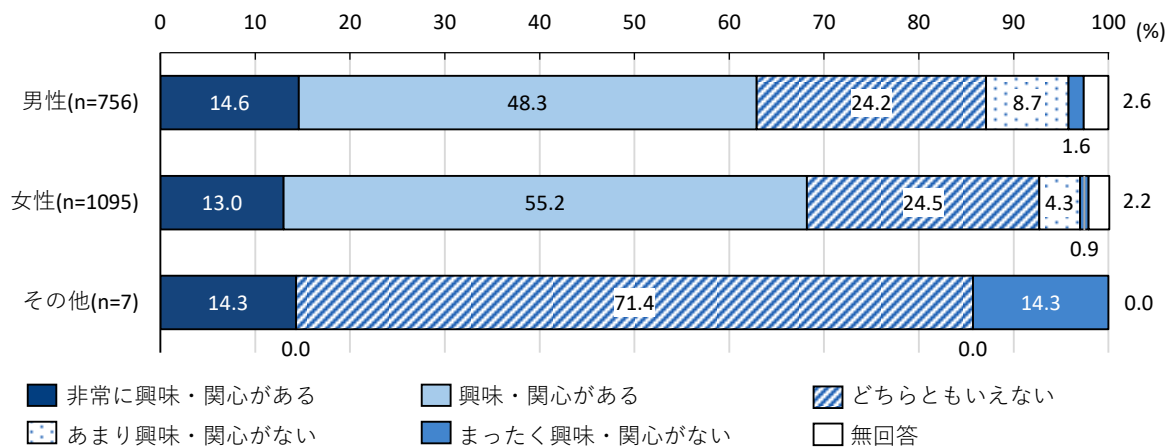
「興味・関心がある」の割合が 52.1%で最も高く、次いで「どちらともいえない」(24.5%)、「非常に興味・関心がある」(13.6%)の順で続いている。

また、「非常に興味・関心がある」と「興味・関心がある」を合わせた割合(以下『ある』)は 65.7%、「あまり興味・関心がない」と「まったく興味・関心がない」を合わせた割合(以下『ない』)は 8.5%であり、回答者の約 7割が地球温暖化について興味・関心がある。



##### 【性別】

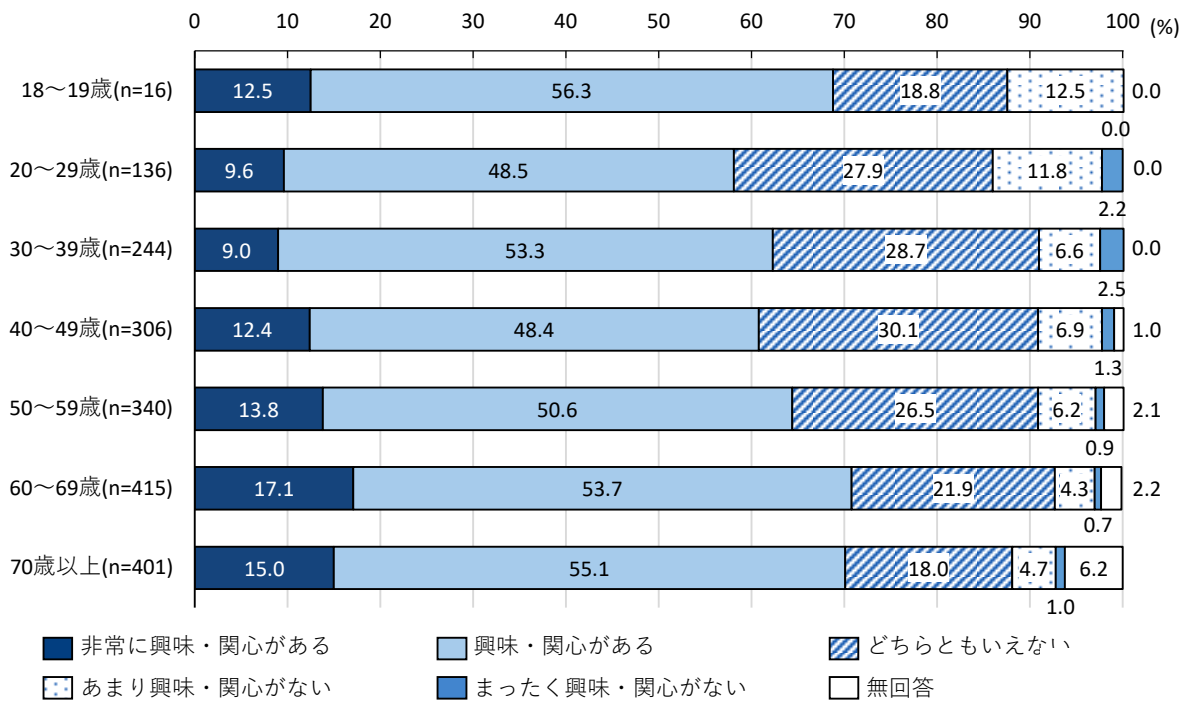
性別にみると、『ある』の割合は、男女ともに6割を占めており(男性:62.9%、女性:68.2%)、性別による大きな差はみられない。



【年齢別】

年齢にみると、いずれの年齢においても『ある』の割合が『ない』の割合を上回っている。

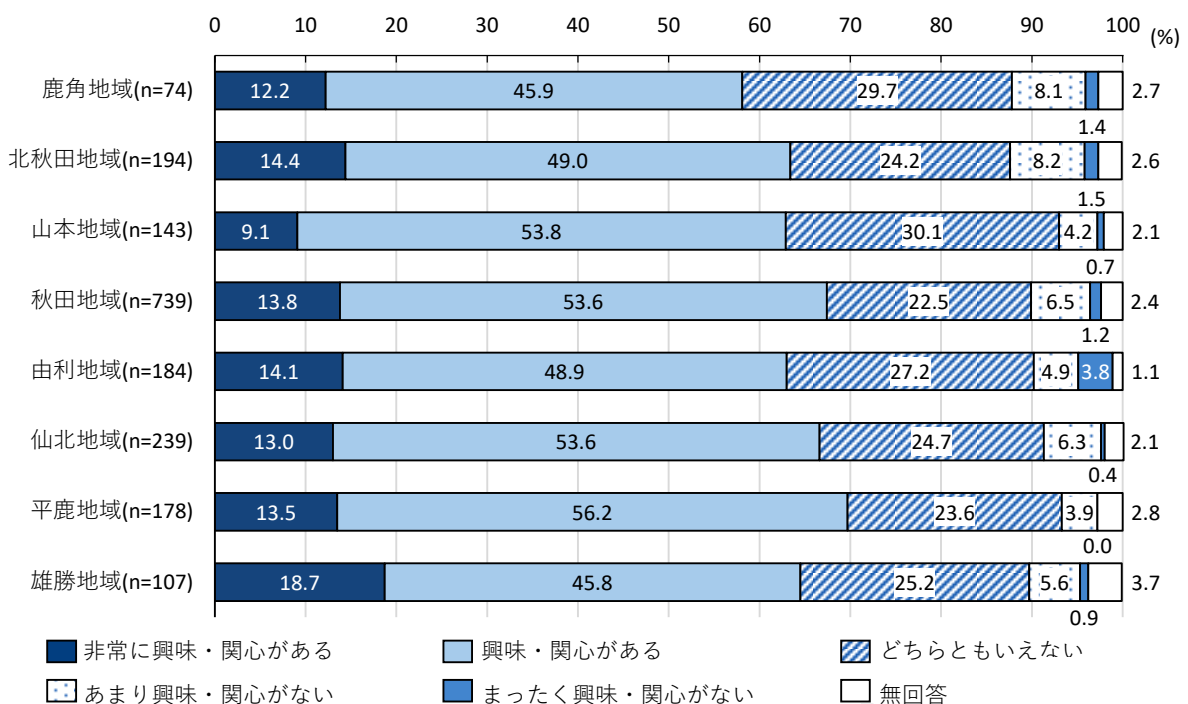
『ある』の割合は、20歳代では5割台、18～19歳および30～59歳では6割台、60歳以上では7割台となっている。



【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても『ある』の割合が『ない』の割合を上回っている。

『ある』の割合は、鹿角地域では5割台、他7地域ではいずれも6割台となっている。

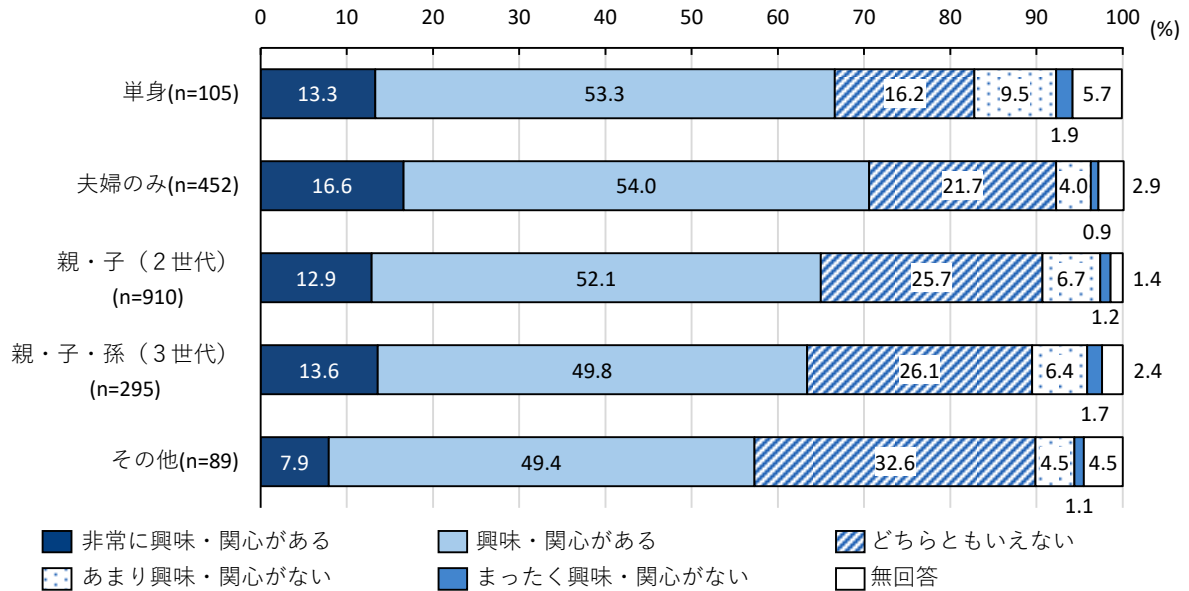


### Ⅲ. 調査結果

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても『ある』の割合が『ない』の割合を上回っている。

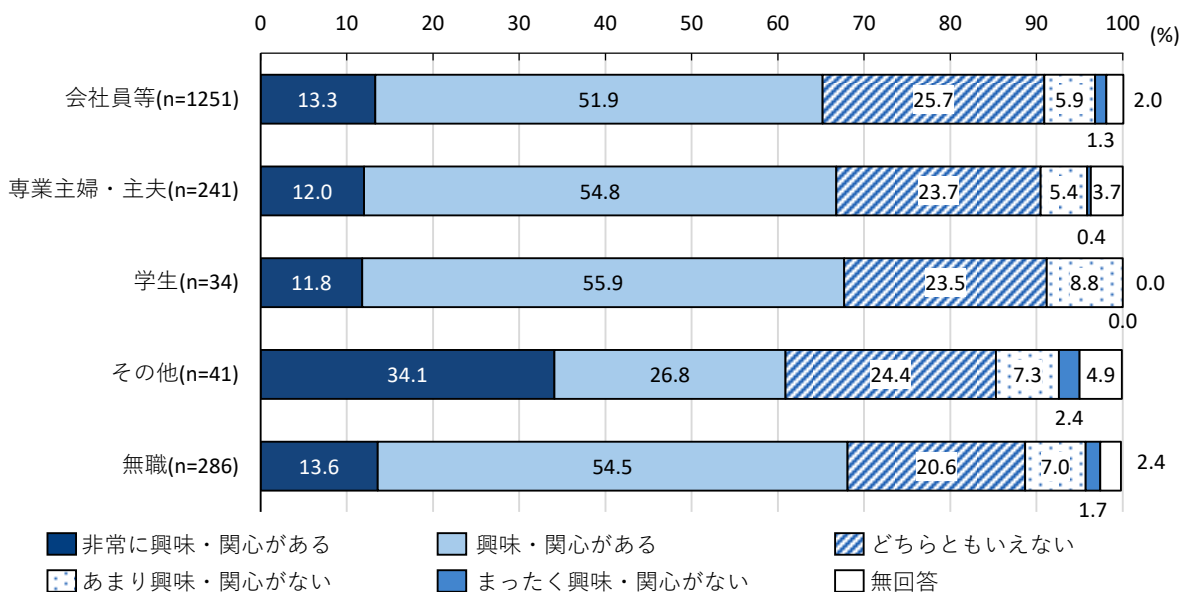
『ある』の割合は、夫婦のみでは7割台、その他では5割台、他3区分ではいずれも6割台となっている。



#### 【職業別】

職業別にみると、『ある』の割合は、いずれの職業においても6割台となっており、『ない』の割合を上回っている。

特に、その他では、「非常に興味・関心がある」の割合(34.1%)が全体の割合(13.6%)を10.0ポイント以上上回っている。

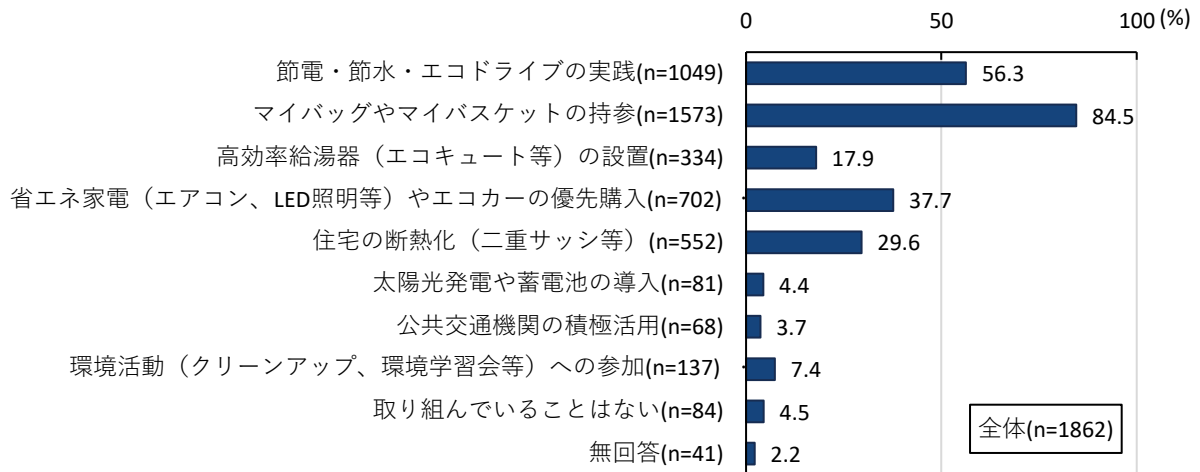


7.3 あなたが取り組んでいることについて教えてください。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合が84.5%で最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」(56.3%)、「省エネ家電(エアコン、LED照明等)やエコカーの優先購入」(以下『省エネ家電やエコカーの優先購入』)(37.7%)の順で続いている。

また、「取り組んでいることはない」の割合は4.5%となっている。

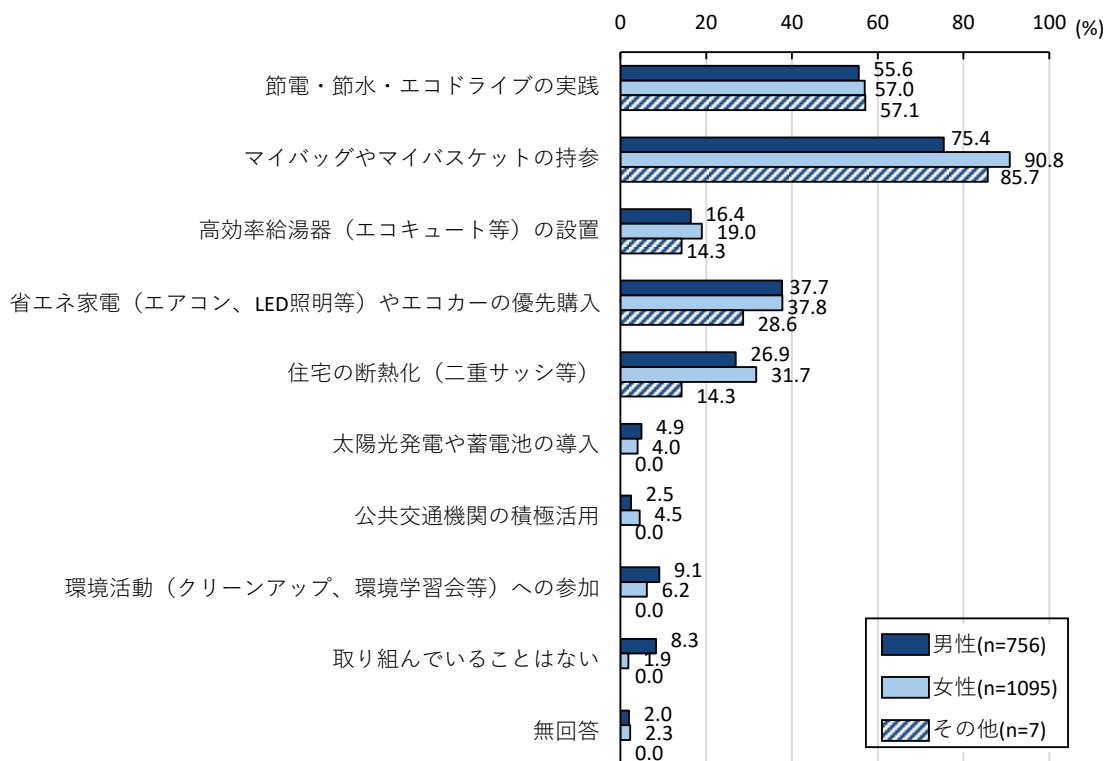


【性別】

性別にみると、男女ともに「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合(男性:75.4%、女性:90.8%)が最も高く、女性が男性を10.0ポイント以上上回っている。

次いで「節電・節水・エコドライブの実践」(男性:55.6%、女性:57.0%)、「省エネ家電やエコカーの優先購入」(男性:37.7%、女性:37.8%)の順で続いている。

また、「取り組んでいることはない」の割合は、男性では8.3%、女性では1.9%となっている。

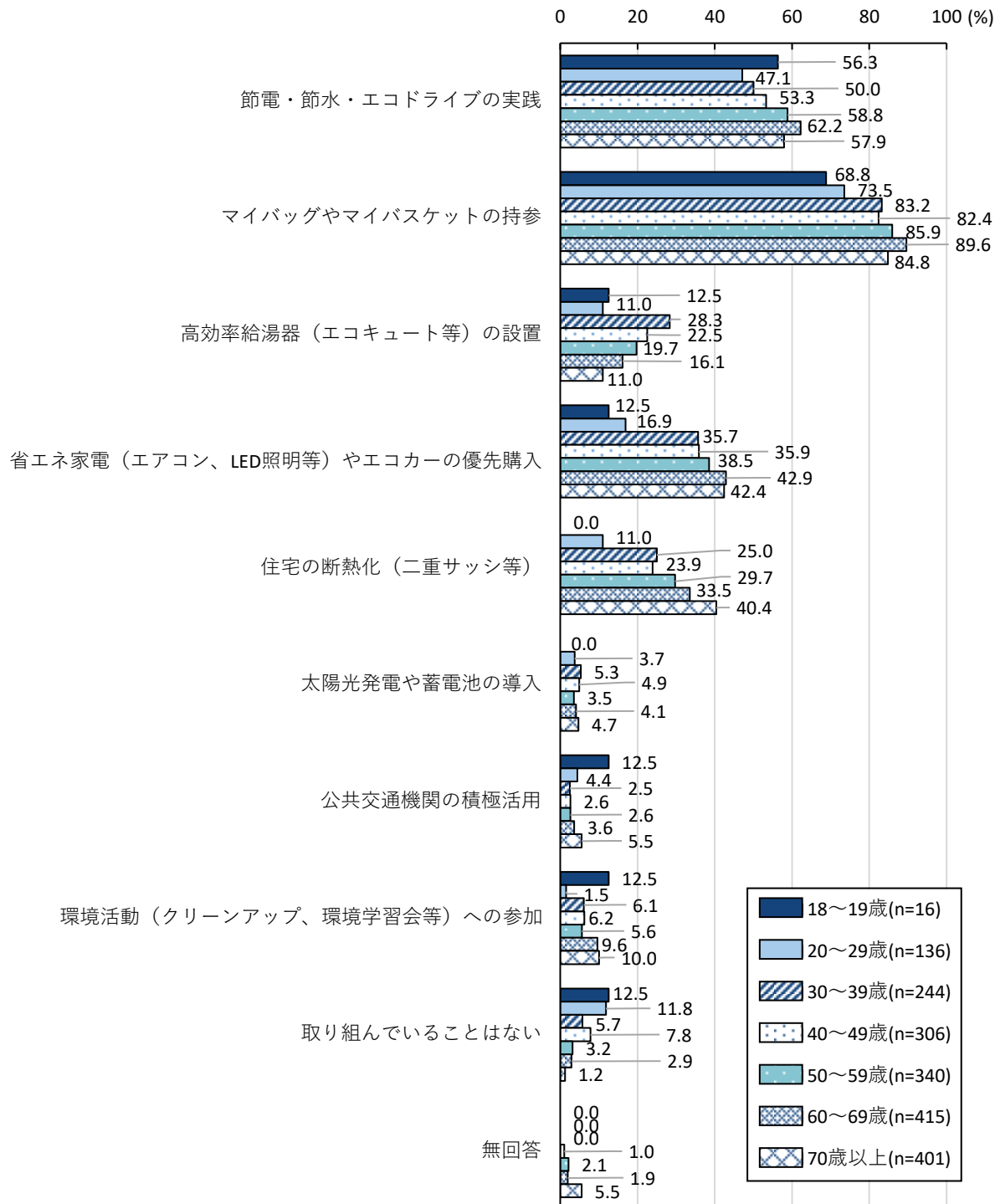


### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

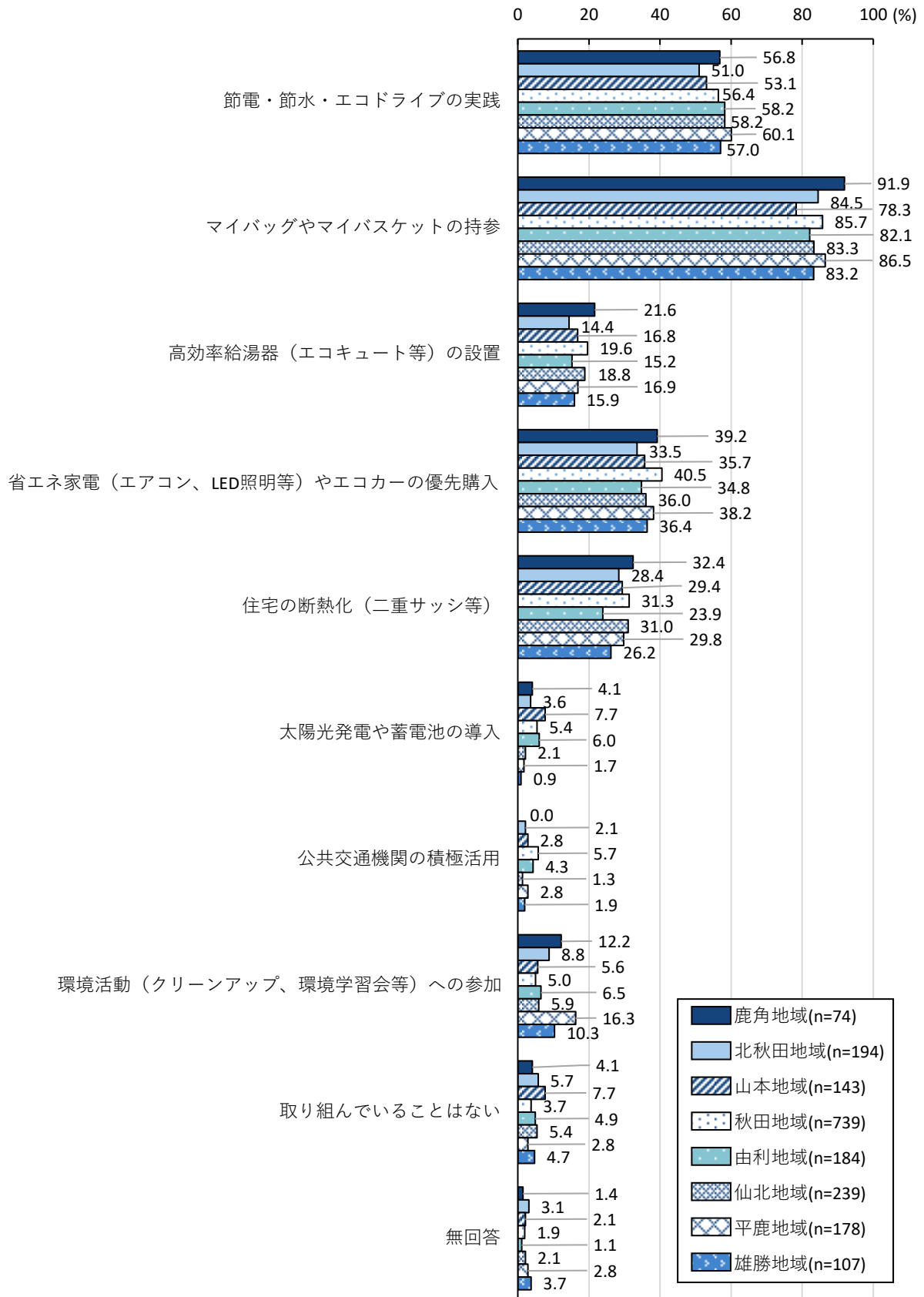
年齢別にみると、いずれの年齢においても「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合が最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」、「省エネ家電やエコカーの優先購入」などの順で続いている。

また、18～29歳では、「マイバッグやマイバスケットの持参」および「省エネ家電やエコカーの優先購入」、「住宅の断熱化（二重サッシ等）」の割合がいずれも全体の割合を10.0ポイント以上下回っている。一方、30歳代の「高効率給湯器（エコキュート等）の設置」および70歳以上の「住宅の断熱化（二重サッシ等）」は、いずれも全体の割合を10.0ポイント以上上回っている。



【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合が最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」、「省エネ家電やエコカーの優先購入」の順で続いている。



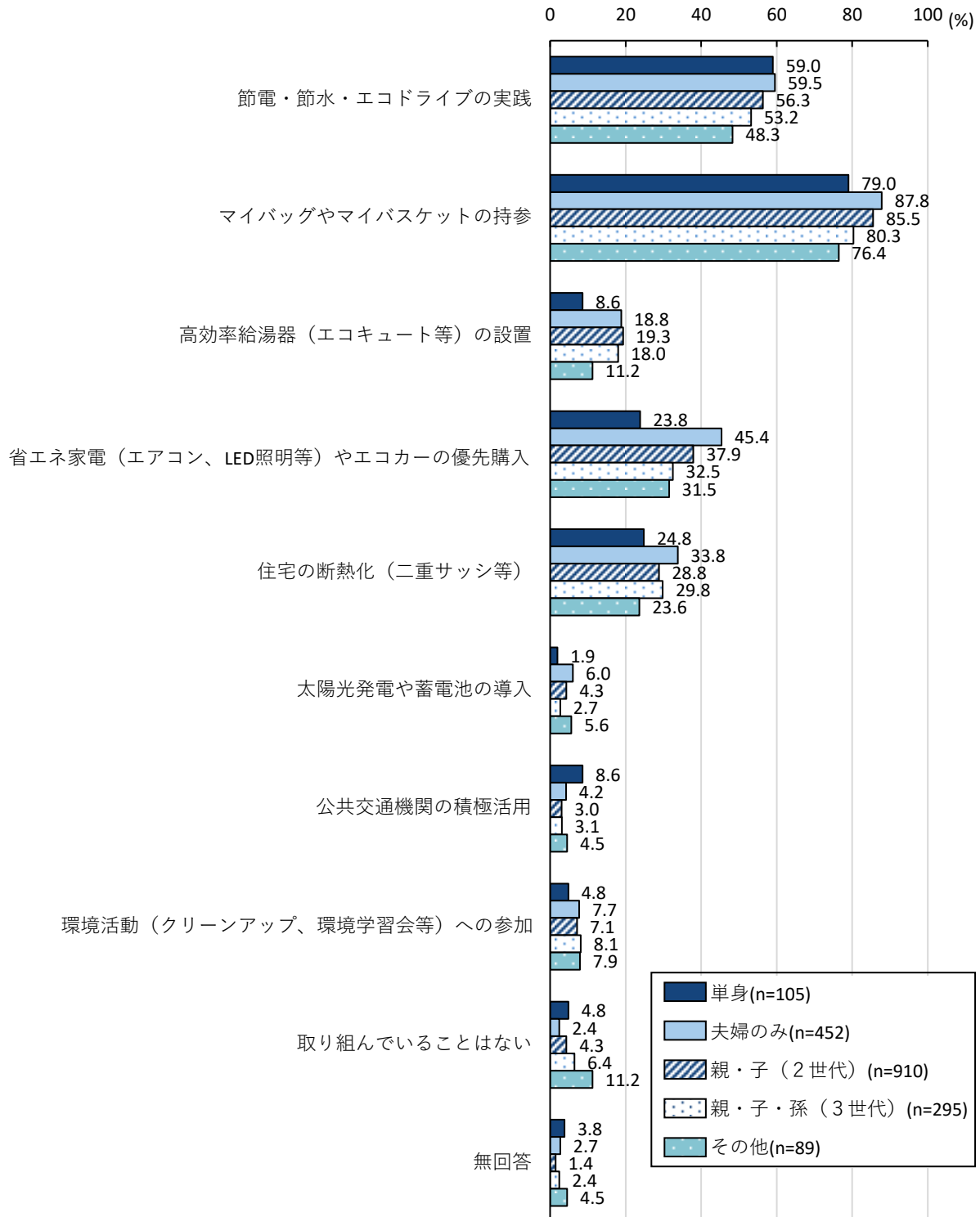
### Ⅲ. 調査結果

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合が最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」が続いている。

単身では、「住宅の断熱化（二重サッシ等）」の割合が3番目に高い一方、他4区分では、いずれも「省エネ家電やエコカーの優先購入」が3番目となっている。

また、単身では「省エネ家電やエコカーの優先購入」の割合（23.8%）が全体の割合（37.7%）を10.0ポイント以上下回っている。

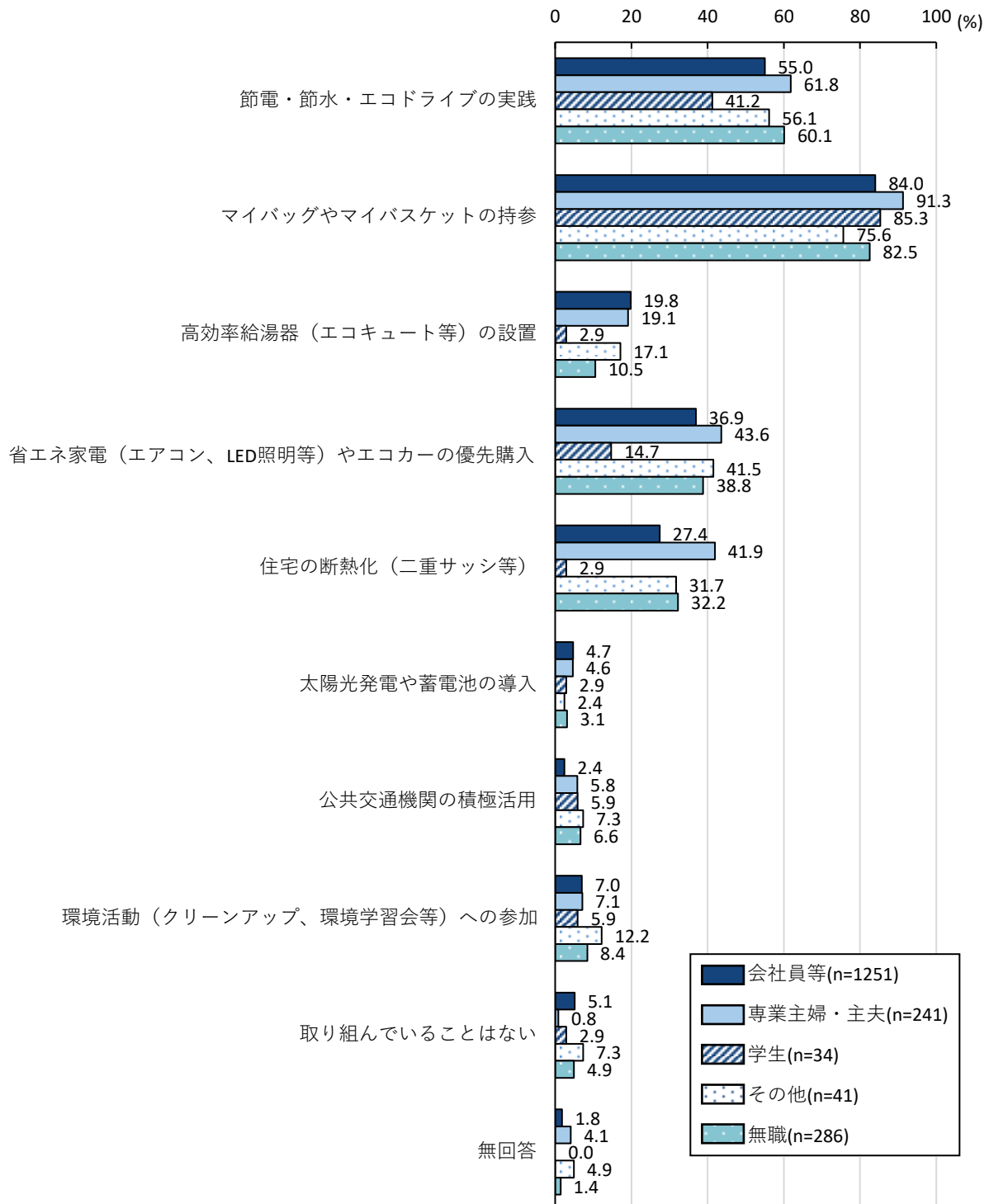


【職業別】

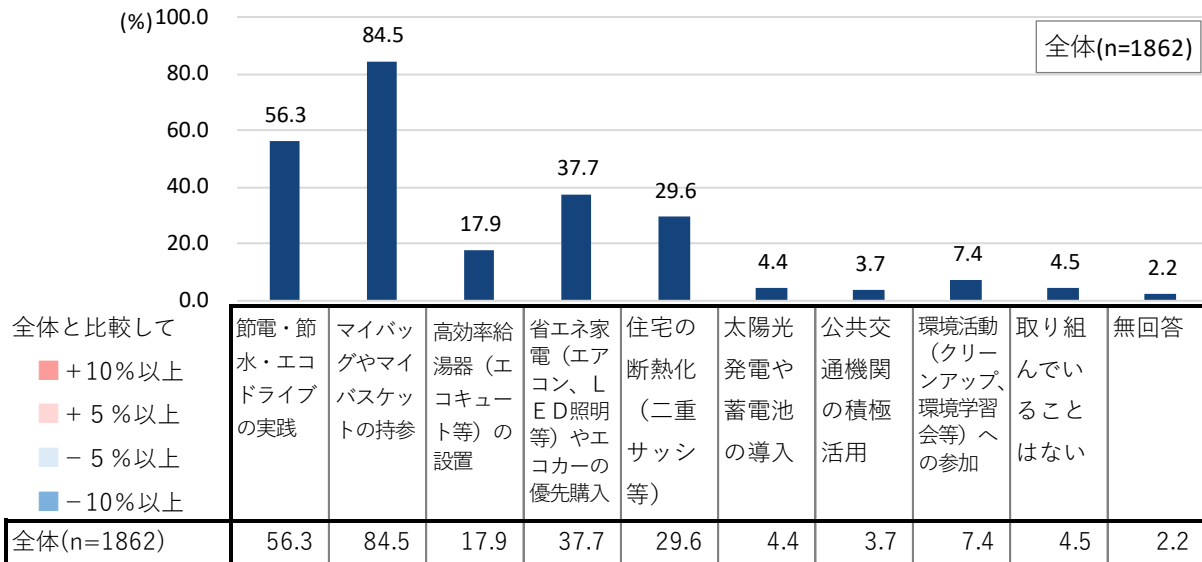
職業別にみると、いずれの職業においても「マイバッグやマイバスケットの持参」の割合が最も高く、次いで「節電・節水・エコドライブの実践」、「省エネ家電やエコカーの優先購入」の順で続いている。

また、専業主婦・主夫では「住宅の断熱化(二重サッシ等)」の割合(41.9%)が全体の割合(29.6%)を10.0ポイント以上上回っている。

一方、学生では「節電・節水・エコドライブの実践」、「高効率給湯器(エコキュート等)の設置」、「省エネ家電やエコカーの優先購入」、「住宅の断熱化(二重サッシ等)」において、いずれも全体の割合を10.0ポイント以上下回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	55.6	75.4	16.4	37.7	26.9	4.9	2.5	9.1	8.3	2.0
女性(n=1095)	57.0	90.8	19.0	37.8	31.7	4.0	4.5	6.2	1.9	2.3
その他(n=7)	57.1	85.7	14.3	28.6	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	56.3	68.8	12.5	12.5	0.0	0.0	12.5	12.5	12.5	0.0
20～29歳(n=136)	47.1	73.5	11.0	16.9	11.0	3.7	4.4	1.5	11.8	0.0
30～39歳(n=244)	50.0	83.2	28.3	35.7	25.0	5.3	2.5	6.1	5.7	0.0
40～49歳(n=306)	53.3	82.4	22.5	35.9	23.9	4.9	2.6	6.2	7.8	1.0
50～59歳(n=340)	58.8	85.9	19.7	38.5	29.7	3.5	2.6	5.6	3.2	2.1
60～69歳(n=415)	62.2	89.6	16.1	42.9	33.5	4.1	3.6	9.6	2.9	1.9
70歳以上(n=401)	57.9	84.8	11.0	42.4	40.4	4.7	5.5	10.0	1.2	5.5

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	56.8	91.9	21.6	39.2	32.4	4.1	0.0	12.2	4.1	1.4
北秋田地域(n=194)	51.0	84.5	14.4	33.5	28.4	3.6	2.1	8.8	5.7	3.1
山本地域(n=143)	53.1	78.3	16.8	35.7	29.4	7.7	2.8	5.6	7.7	2.1
秋田地域(n=739)	56.4	85.7	19.6	40.5	31.3	5.4	5.7	5.0	3.7	1.9
由利地域(n=184)	58.2	82.1	15.2	34.8	23.9	6.0	4.3	6.5	4.9	1.1
仙北地域(n=239)	58.2	83.3	18.8	36.0	31.0	2.1	1.3	5.9	5.4	2.1
平鹿地域(n=178)	60.1	86.5	16.9	38.2	29.8	1.7	2.8	16.3	2.8	2.8
雄勝地域(n=107)	57.0	83.2	15.9	36.4	26.2	0.9	1.9	10.3	4.7	3.7

#### 家族構成別

単身(n=105)	59.0	79.0	8.6	23.8	24.8	1.9	8.6	4.8	4.8	3.8
夫婦のみ(n=452)	59.5	87.8	18.8	45.4	33.8	6.0	4.2	7.7	2.4	2.7
親・子(2世代)(n=910)	56.3	85.5	19.3	37.9	28.8	4.3	3.0	7.1	4.3	1.4
親・子・孫(3世代)(n=295)	53.2	80.3	18.0	32.5	29.8	2.7	3.1	8.1	6.4	2.4
その他(n=89)	48.3	76.4	11.2	31.5	23.6	5.6	4.5	7.9	11.2	4.5

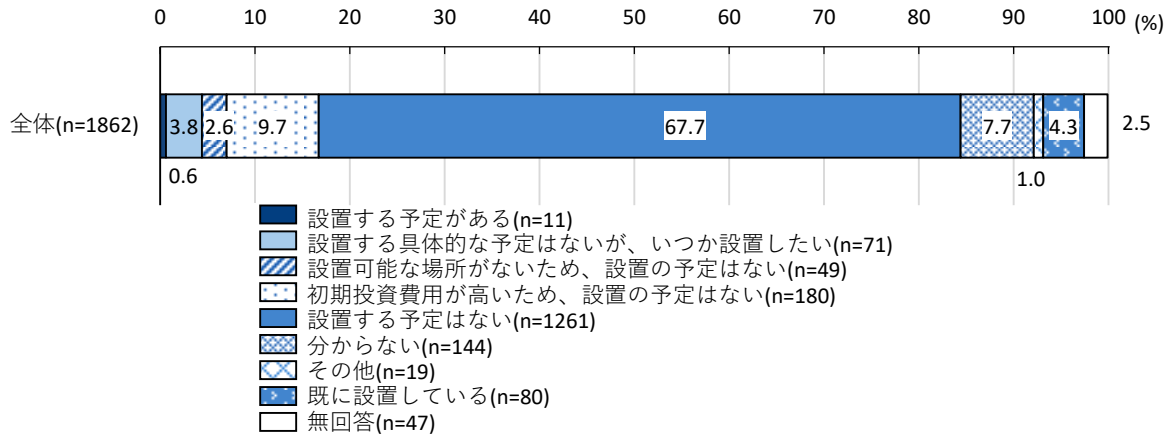
#### 職業別

会社員等(n=1251)	55.0	84.0	19.8	36.9	27.4	4.7	2.4	7.0	5.1	1.8
専業主婦・主夫(n=241)	61.8	91.3	19.1	43.6	41.9	4.6	5.8	7.1	0.8	4.1
学生(n=34)	41.2	85.3	2.9	14.7	2.9	2.9	5.9	5.9	2.9	0.0
その他(n=41)	56.1	75.6	17.1	41.5	31.7	2.4	7.3	12.2	7.3	4.9
無職(n=286)	60.1	82.5	10.5	38.8	32.2	3.1	6.6	8.4	4.9	1.4

7. 4 あなたは、住宅用太陽光発電設備を設置する予定がありますか。(1つだけに○)

【全体】

「設置する予定はない」の割合が67.7%で最も高く、次いで「初期投資費用が高いため、設置の予定はない」(9.7%)、「分からない」(7.7%)の順で続いている。

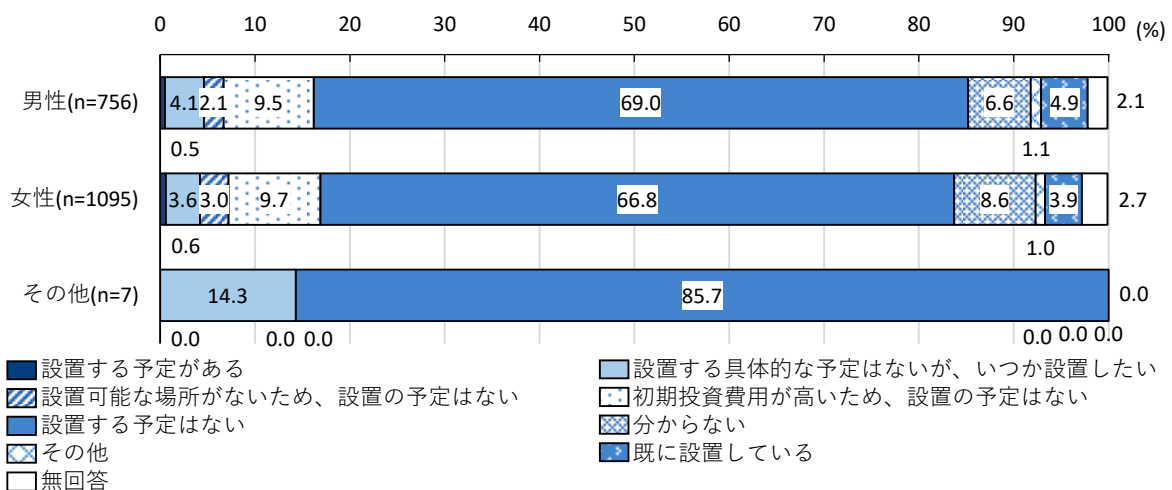


その他内容 (一部)

- 部品等交換、更新時の費用が高い (男性/50~59歳)
- 日当たりが悪い (女性/70歳以上)
- 借家 (女性/50~59歳)

【性別】

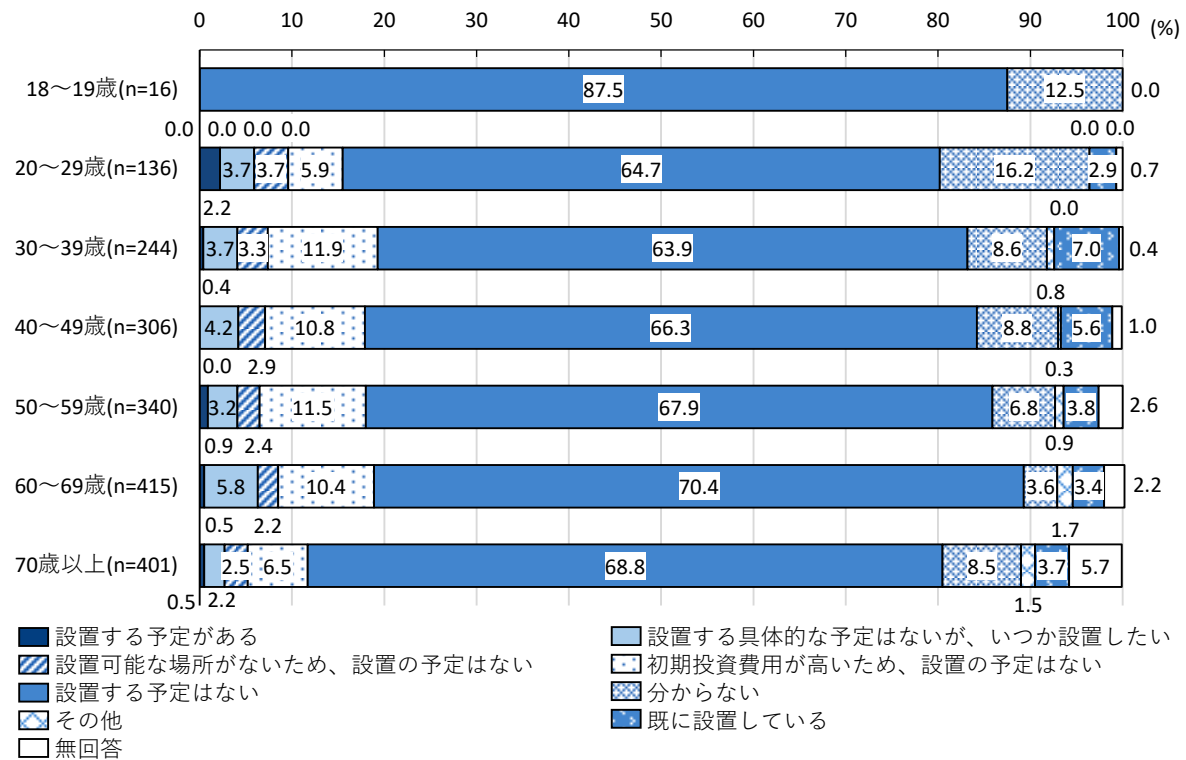
性別にみると、男女ともに「設置する予定はない」の割合(男性:69.0%、女性:66.8%)が最も高く、次いで「初期投資費用が高いため、設置の予定はない」(男性:9.5%、女性:9.7%)、「分からない」(男性:6.6%、女性:8.6%)の順で続いており、性別による大きな差はみられない。



### Ⅲ. 調査結果

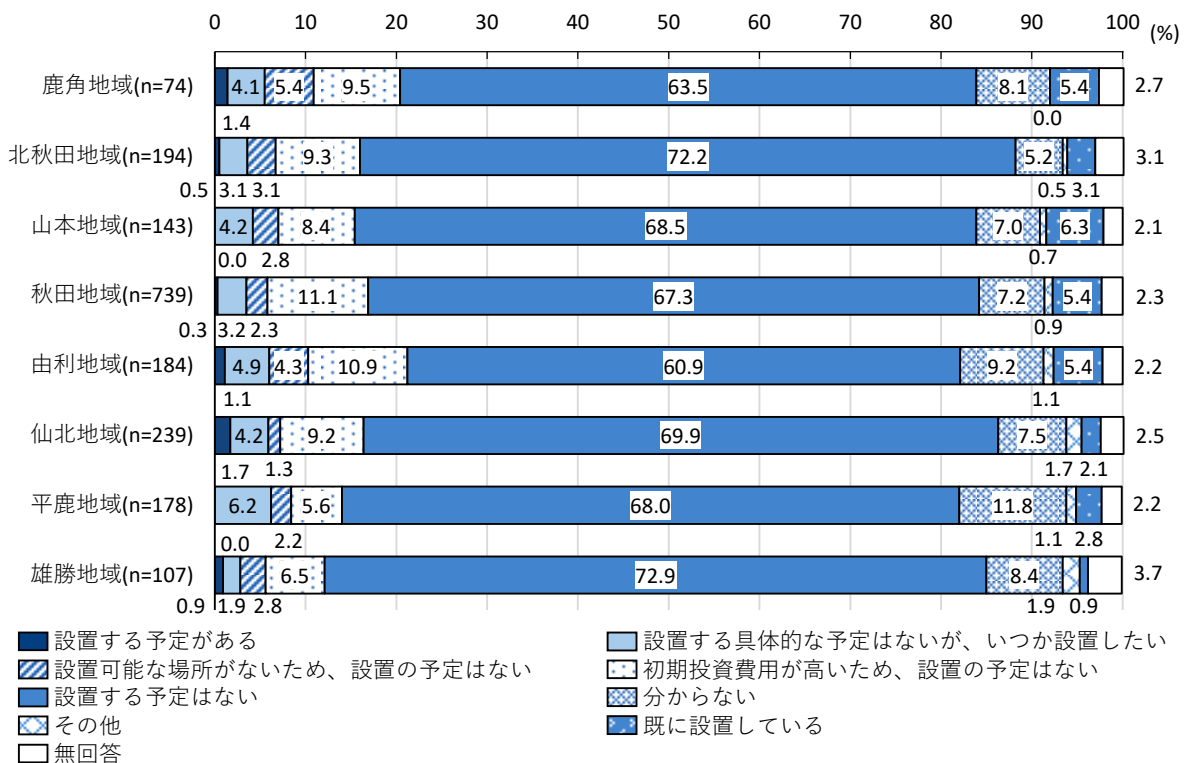
#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても「設置する予定はない」の割合が最も高く、18～19歳では8割台、60歳代では7割台、その他の年齢ではいずれも6割台となっている。



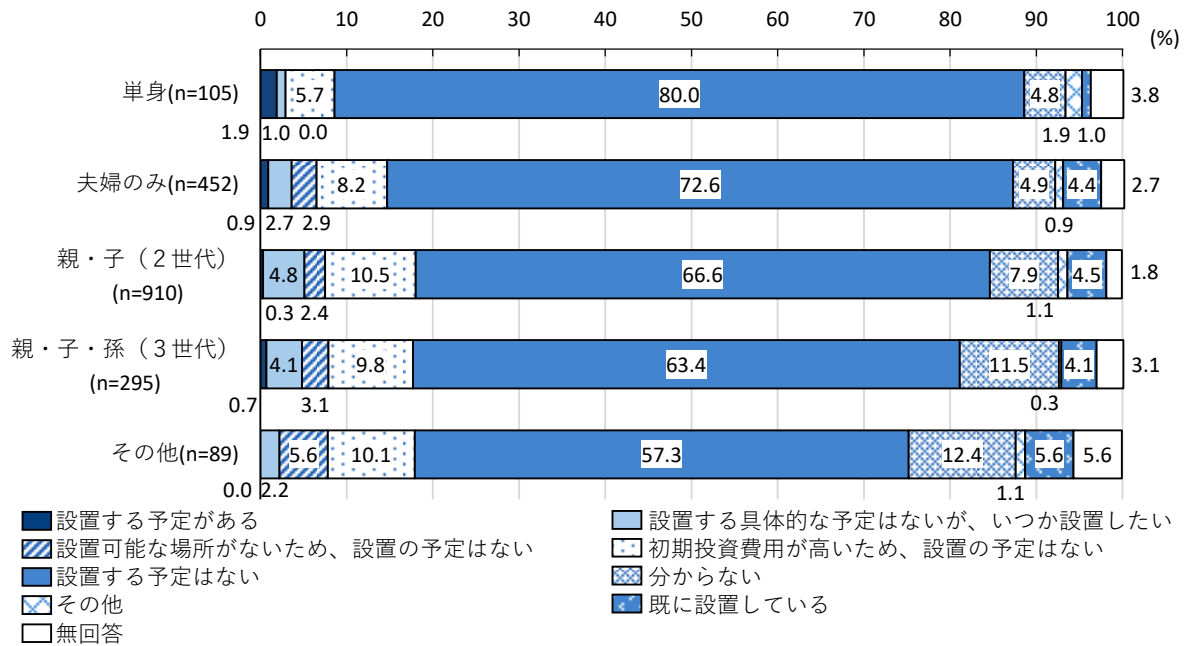
#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「設置する予定はない」の割合が最も高く、北秋田地域および雄勝地域では7割台、他6地域ではいずれも6割台となっている。



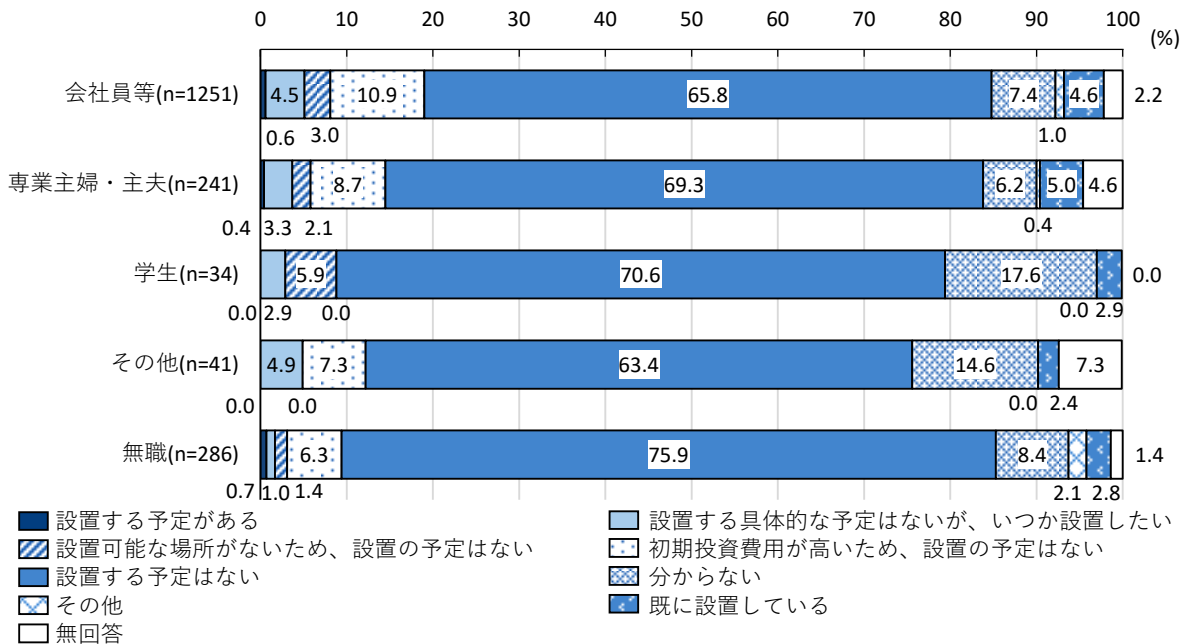
【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「設置する予定はない」の割合が最も高く、単身では8割台、夫婦のみでは7割台、親・子（2世代）および親・子・孫（3世代）では6割台、その他では5割台となっている。



【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「設置する予定はない」の割合が最も高く、学生および無職では7割台、他3区分ではいずれも6割台となっている。



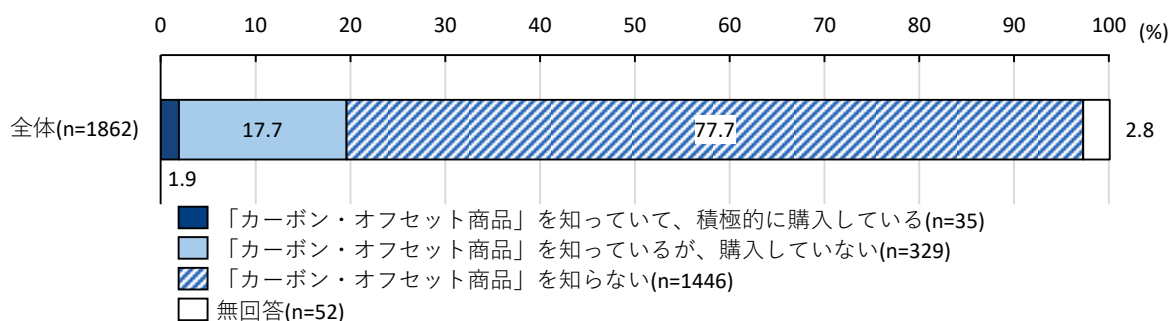
### Ⅲ. 調査結果

#### 7. 5 あなたは、環境に配慮した「カーボン・オフセット商品」※を購入したいと思いますか。 (1つだけに○)

##### 【全体】

『「カーボン・オフセット商品」を知らない』(以下『知らない』)の割合は77.7%で最も高く、次いで『「カーボン・オフセット商品」を知っているが、購入していない』(以下『知っているが、購入していない』)(17.7%)、『「カーボン・オフセット商品」を知っていて、積極的に購入している』(以下『知っている、購入している』)(1.9%)の順で続いている。

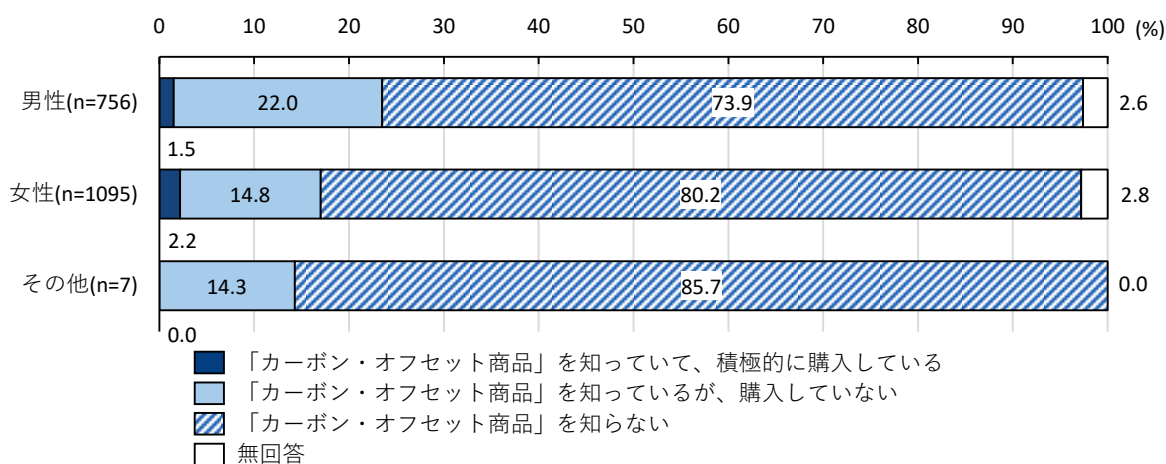
また、『知っている、購入している』と『知っているが、購入していない』を合わせた割合(以下『知っている』)は19.6%となっている。



##### 【性別】

性別にみると、男女ともに『知らない』の割合(男性:73.9%、女性:80.2%)が最も高く、次いで『知っているが、購入していない』(男性:22.0%、女性:14.8%)、『知っている、購入している』(男性:1.5%、女性:2.2%)の順で続いている、性別による大きな差はみられない。

また、『知っている』の割合は、男性では23.5%、女性では17.0%となっている。



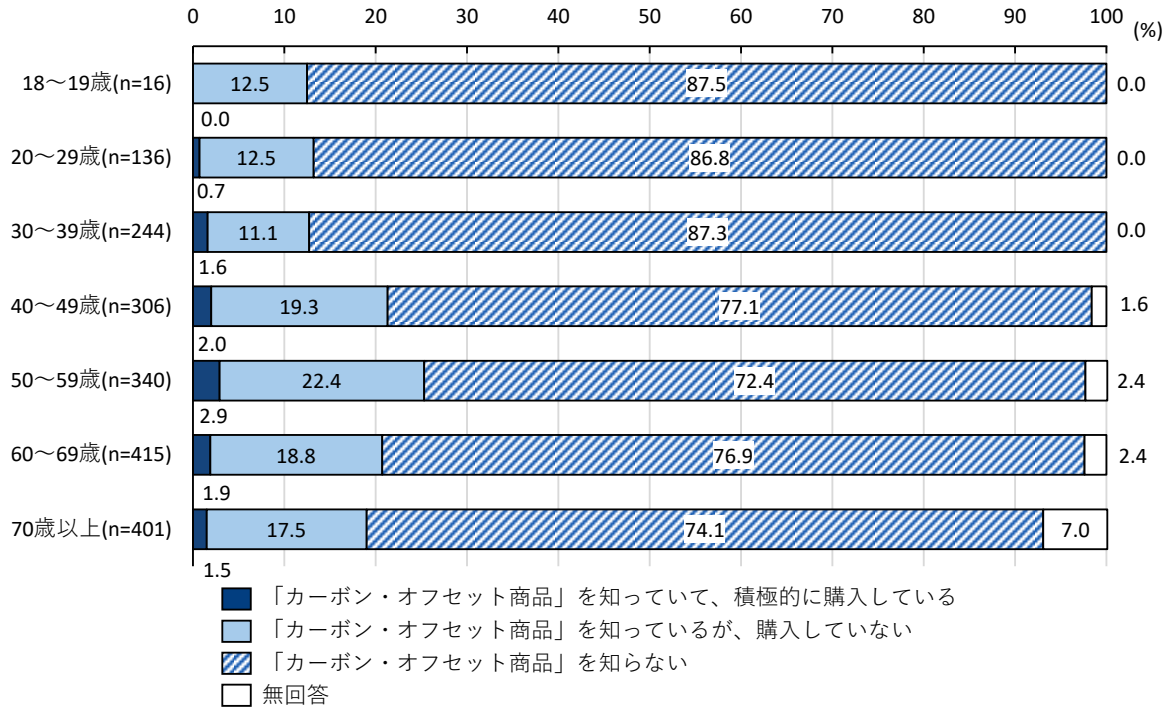
#### ※カーボン・オフセット商品とは

製品やサービスの提供過程で発生するCO<sub>2</sub>排出量をオフセット(二酸化炭素削減の活動に投資して埋め合わせ)している商品です。株式会社ファミリーマートのプライベートブランド「We Love Green」の紙コップ等や、搭乗区間のCO<sub>2</sub>の埋め合わせが可能である全日本空輸株式会社(ANA)の「ANAカーボンオフセットプログラム」等があります。

【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢においても『知らない』の割合が最も高く、次いで『知っているが、購入していない』、『知っている、購入している』の順で続いている。

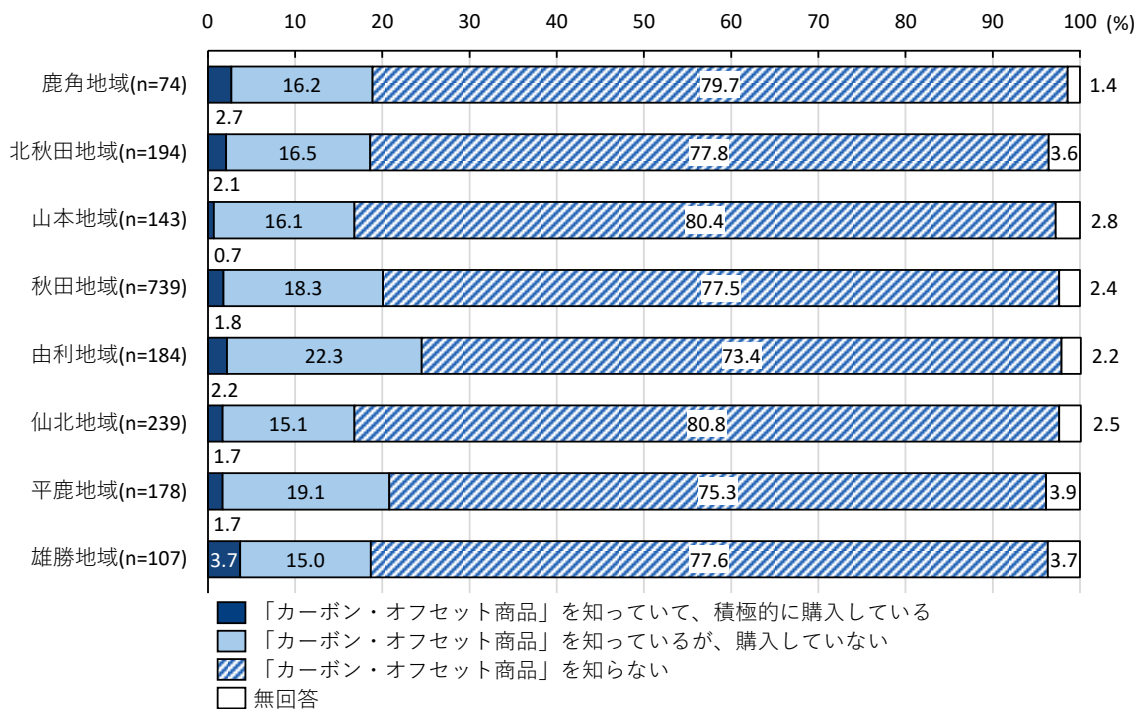
また、『知っている』の割合は、18～39歳および70歳以上では1割台、40～69歳では2割台となっている。



【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても『知らない』の割合が最も高く、次いで『知っているが、購入していない』、『知っている、購入している』の順で続いている。

また、『知っている』の割合は、秋田地域および由利地域、平鹿地域では2割台、他5地域では1割台となっている。

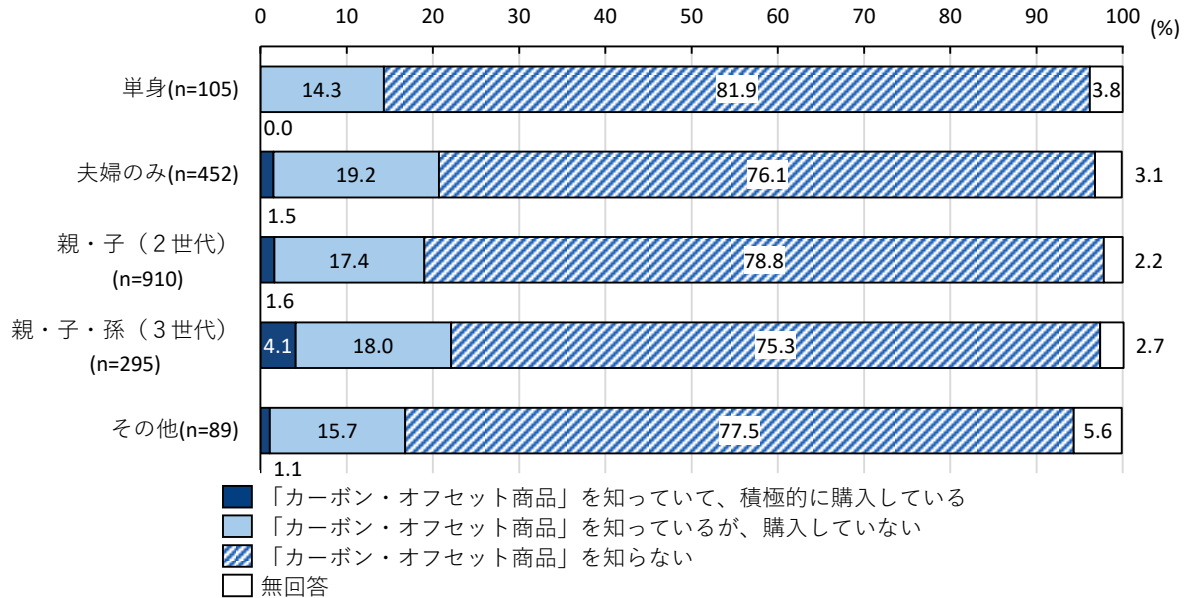


### Ⅲ. 調査結果

#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても『知らない』の割合が最も高く、次いで『知っているが、購入していない』、『知っている、購入している』の順で続いている。

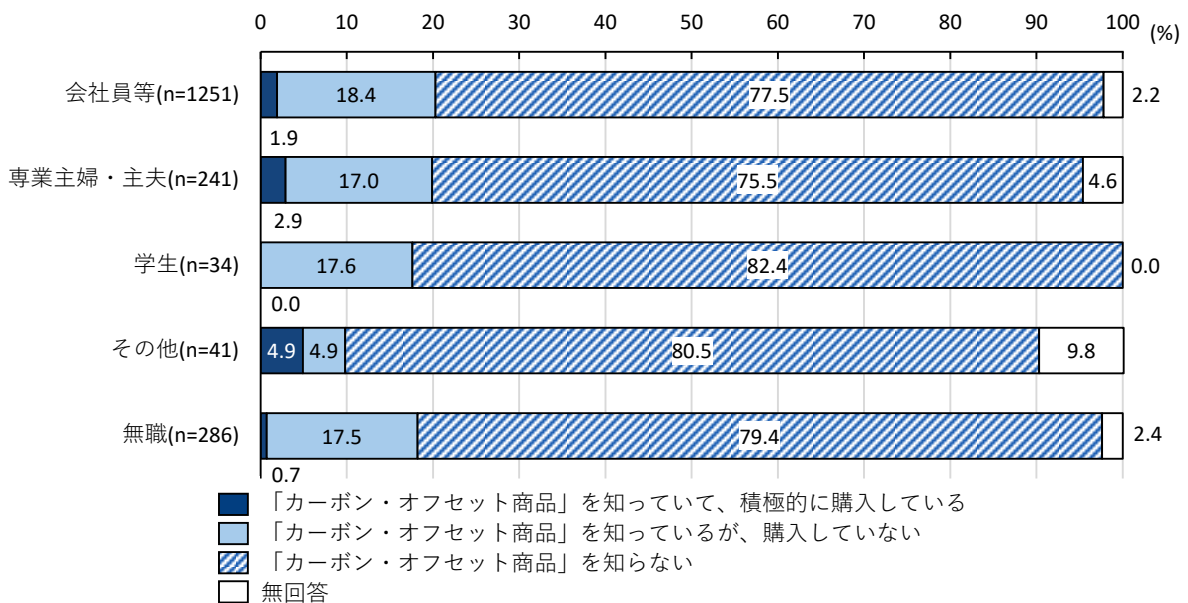
また、『知っている』の割合は、夫婦のみおよび親・子・孫（3世代）では2割台、他3区分では1割台となっている。



#### 【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても『知らない』の割合が最も高く、次いで『知っているが、購入していない』、『知っている、購入している』の順で続いている。

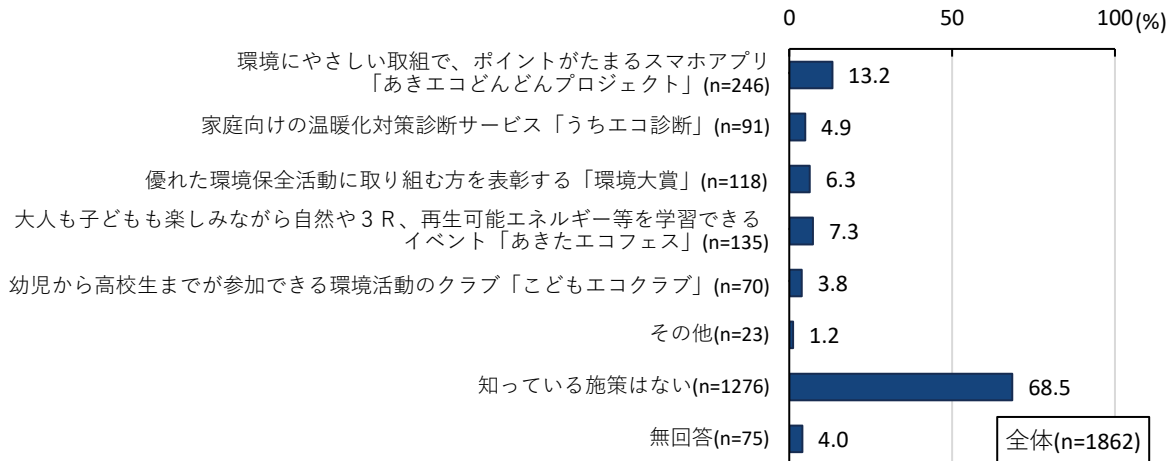
また、『知っている』の割合は、その他では1割未満、他4区分ではいずれも2割前後となっている。



7.6 あなたが知っている、秋田県温暖化対策課等の施策について教えてください。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「知っている施策はない」の割合が68.5%で最も高く、次いで「環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」(以下『あきエコどんどんプロジェクト』)が13.2%で続いている。

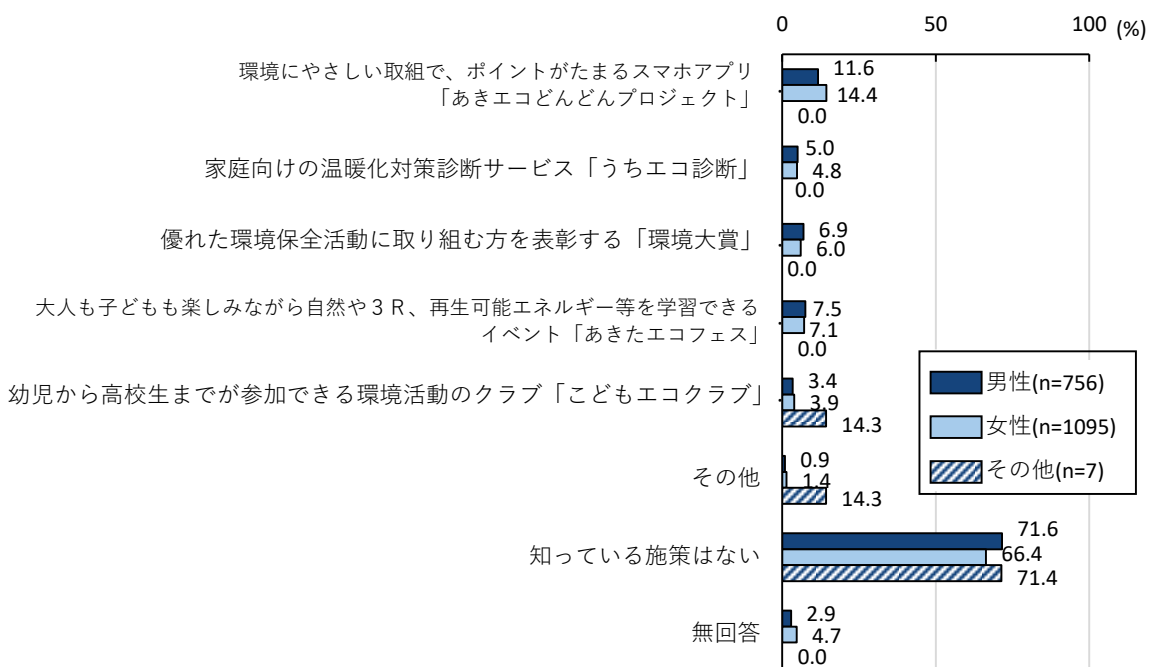


その他内容 (一部)

- あきた省エネ家電購入応援キャンペーン (男性/70歳以上)
- よくわからない (女性/70歳以上)

【性別】

性別にみると、男女ともに「知っている施策はない」の割合(男性:71.6%、女性:66.4%)が最も高く、次いで『あきエコどんどんプロジェクト』(男性:11.6%、女性:14.4%)が続いている。性別による大きな差はみられない。

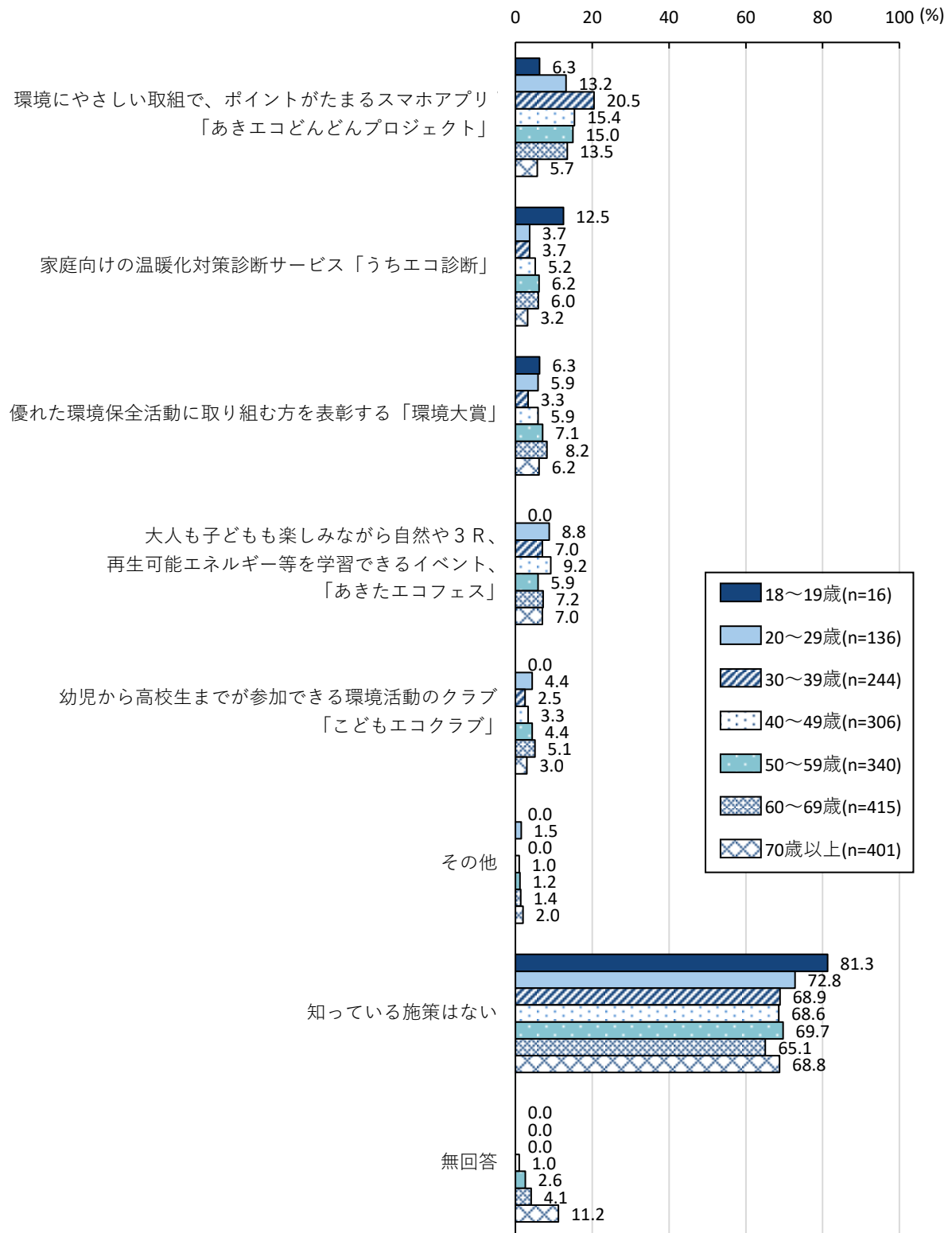


### Ⅲ. 調査結果

#### 【年齢別】

年齢別にみると、いずれの年齢層においても「知っている施策はない」の割合が最も高く、特に18～19歳（81.3%）では全体の割合（68.5%）を10.0ポイント以上上回っている。

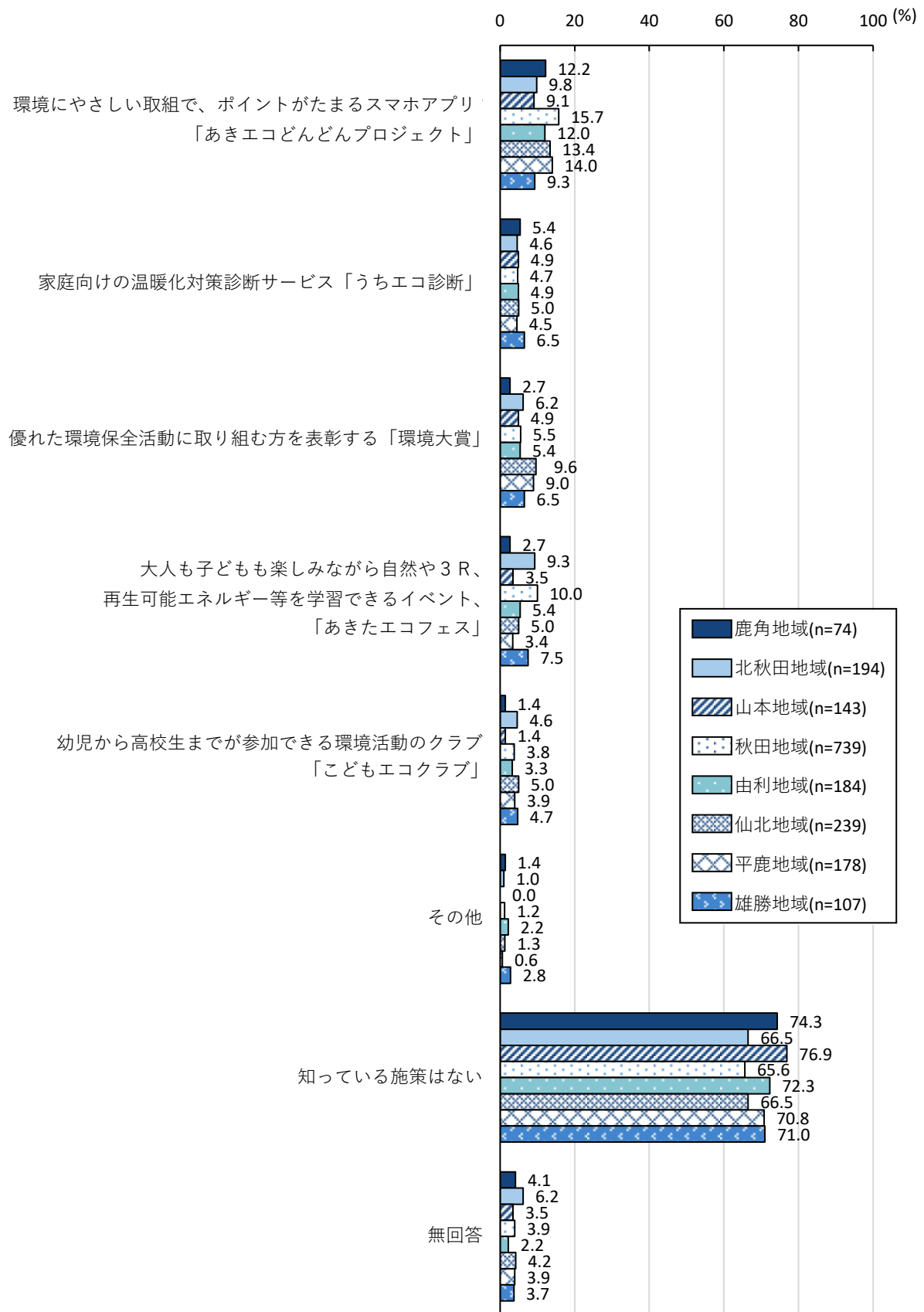
また、『あきエコどんどんプロジェクト』の割合は、30歳代では2割台、20～69歳ではいずれも1割台、18～19歳および70歳以上では1割未満となっている。



### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

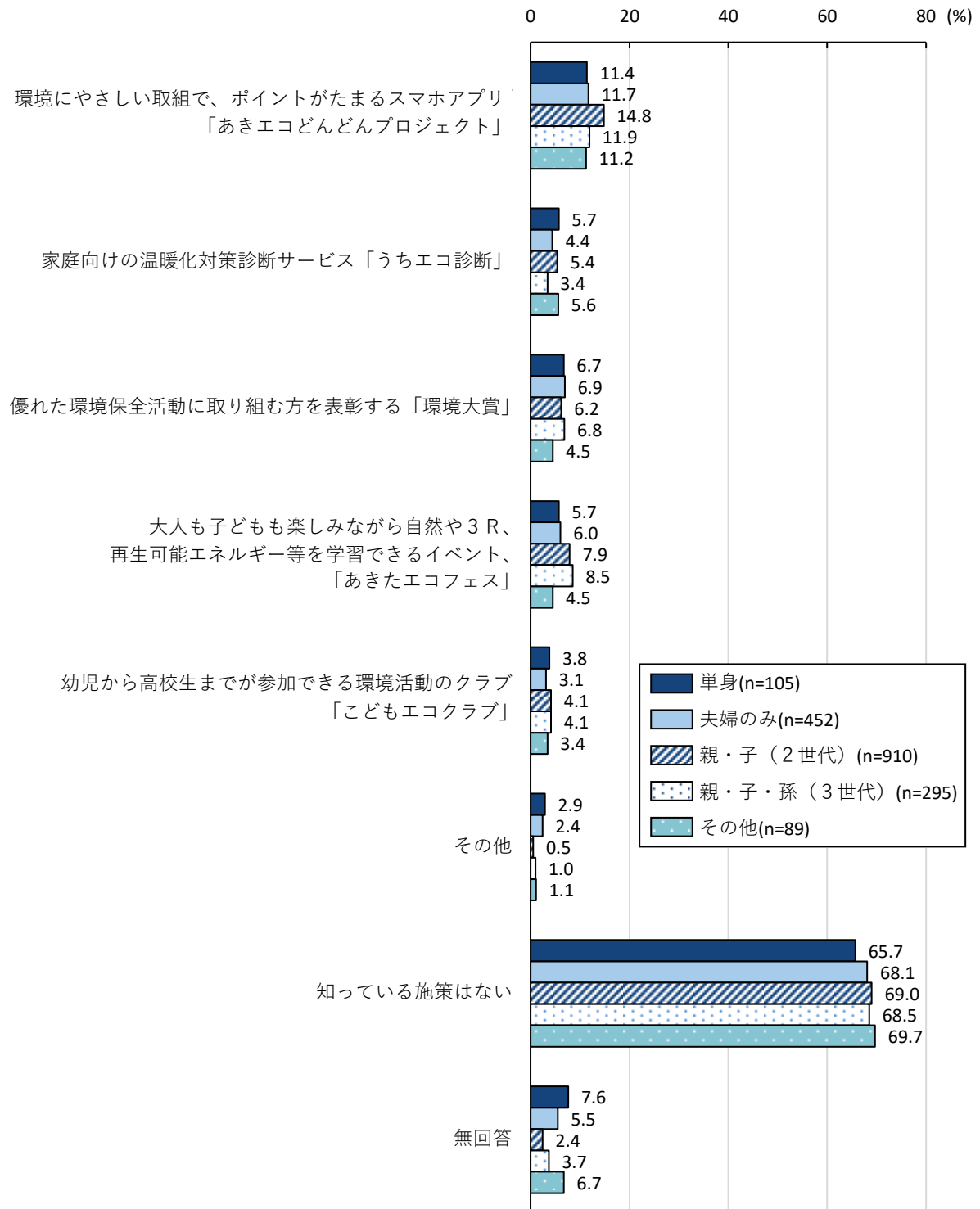
地域別にみると、いずれの地域においても「知っている施策はない」の割合が最も高く、北秋田地域および秋田地域、仙北地域では6割台、他5地域ではいずれも7割台となっている。



### Ⅲ. 調査結果

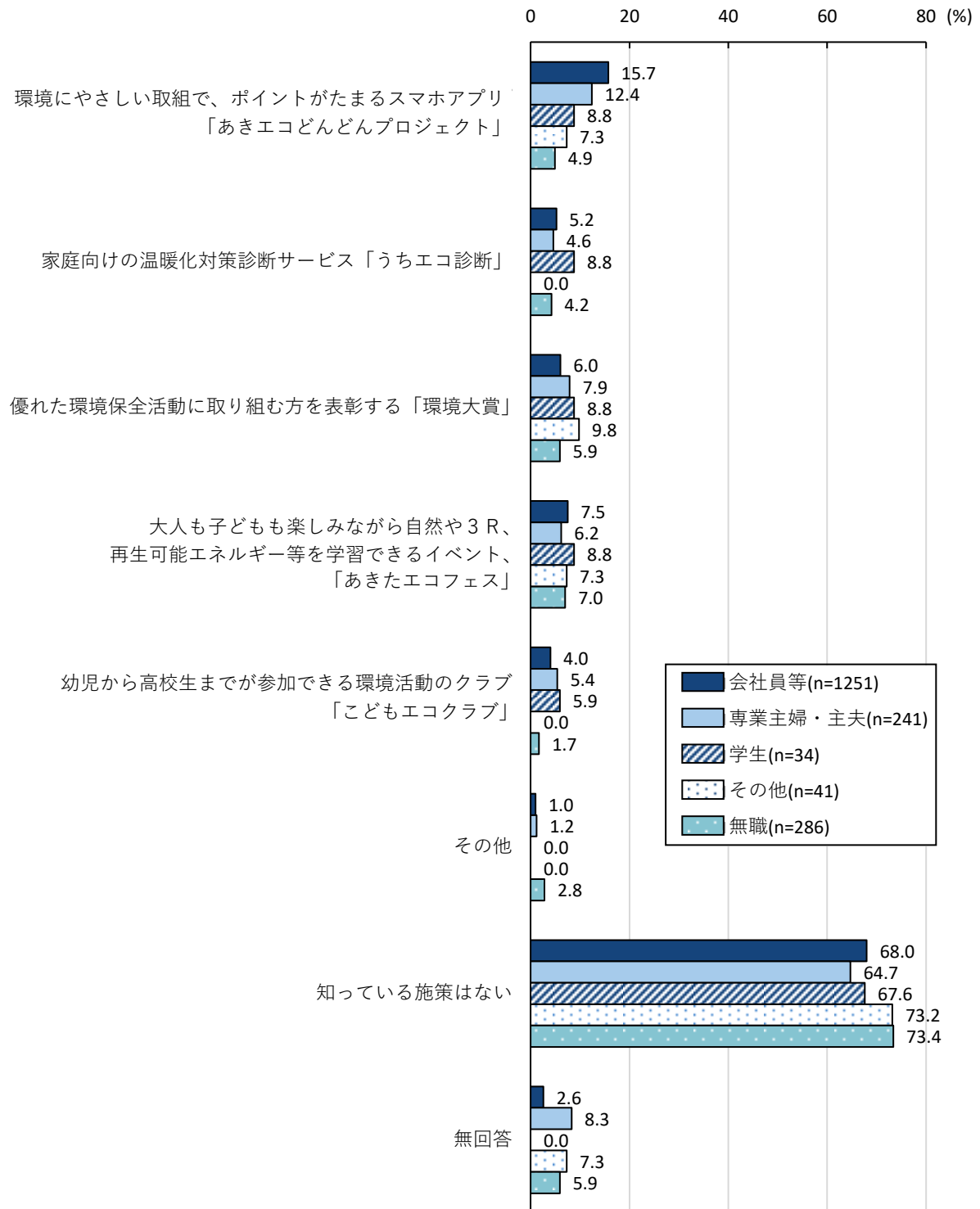
#### 【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「知っている施策はない」の割合が6割台で最も高くなっている。

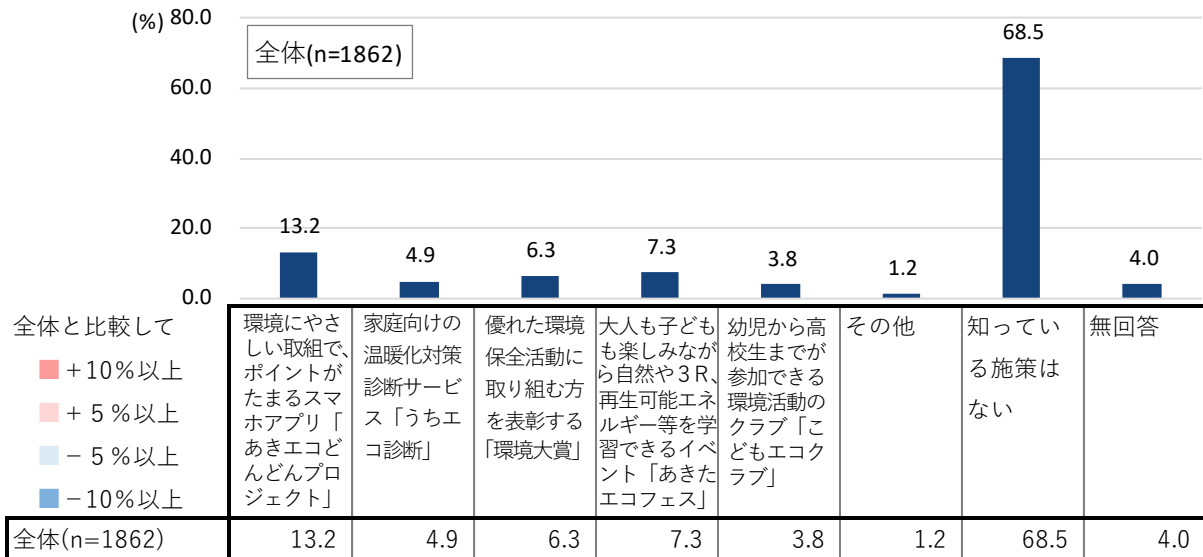


【職業別】

職業別にみると、いずれの職業においても「知っている施策はない」の割合が最も高く。会社員等および専業主婦・主夫、学生では6割台、他2区分では7割台となっている。



### Ⅲ. 調査結果



性別	環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」	家庭向けの温暖化対策診断サービス「うちエコ診断」	優れた環境保全活動に取り組む方を表彰する「環境大賞」	大人も子どもも楽しみながら自然や3R、再生可能エネルギー等を学習できるイベント「あきたエコフェス」	幼児から高校生までが参加できる環境活動のクラブ「こどもエコクラブ」	その他	知っている施策はない	無回答
男性(n=756)	11.6	5.0	6.9	7.5	3.4	0.9	71.6	2.9
女性(n=1095)	14.4	4.8	6.0	7.1	3.9	1.4	66.4	4.7
その他(n=7)	0.0	0.0	0.0	0.0	14.3	14.3	71.4	0.0

年齢別	環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」	家庭向けの温暖化対策診断サービス「うちエコ診断」	優れた環境保全活動に取り組む方を表彰する「環境大賞」	大人も子どもも楽しみながら自然や3R、再生可能エネルギー等を学習できるイベント「あきたエコフェス」	幼児から高校生までが参加できる環境活動のクラブ「こどもエコクラブ」	その他	知っている施策はない	無回答
18～19歳(n=16)	6.3	12.5	6.3	0.0	0.0	0.0	81.3	0.0
20～29歳(n=136)	13.2	3.7	5.9	8.8	4.4	1.5	72.8	0.0
30～39歳(n=244)	20.5	3.7	3.3	7.0	2.5	0.0	68.9	0.0
40～49歳(n=306)	15.4	5.2	5.9	9.2	3.3	1.0	68.6	1.0
50～59歳(n=340)	15.0	6.2	7.1	5.9	4.4	1.2	69.7	2.6
60～69歳(n=415)	13.5	6.0	8.2	7.2	5.1	1.4	65.1	4.1
70歳以上(n=401)	5.7	3.2	6.2	7.0	3.0	2.0	68.8	11.2

地域別	環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」	家庭向けの温暖化対策診断サービス「うちエコ診断」	優れた環境保全活動に取り組む方を表彰する「環境大賞」	大人も子どもも楽しみながら自然や3R、再生可能エネルギー等を学習できるイベント「あきたエコフェス」	幼児から高校生までが参加できる環境活動のクラブ「こどもエコクラブ」	その他	知っている施策はない	無回答
鹿角地域(n=74)	12.2	5.4	2.7	2.7	1.4	1.4	74.3	4.1
北秋田地域(n=194)	9.8	4.6	6.2	9.3	4.6	1.0	66.5	6.2
山本地域(n=143)	9.1	4.9	4.9	3.5	1.4	0.0	76.9	3.5
秋田地域(n=739)	15.7	4.7	5.5	10.0	3.8	1.2	65.6	3.9
由利地域(n=184)	12.0	4.9	5.4	5.4	3.3	2.2	72.3	2.2
仙北地域(n=239)	13.4	5.0	9.6	5.0	5.0	1.3	66.5	4.2
平鹿地域(n=178)	14.0	4.5	9.0	3.4	3.9	0.6	70.8	3.9
雄勝地域(n=107)	9.3	6.5	6.5	7.5	4.7	2.8	71.0	3.7

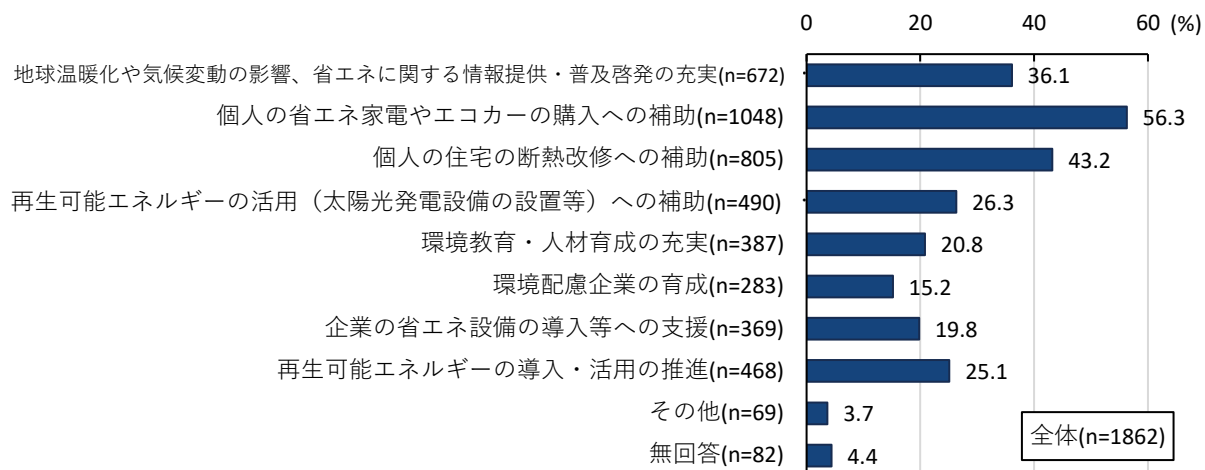
家族構成別	環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」	家庭向けの温暖化対策診断サービス「うちエコ診断」	優れた環境保全活動に取り組む方を表彰する「環境大賞」	大人も子どもも楽しみながら自然や3R、再生可能エネルギー等を学習できるイベント「あきたエコフェス」	幼児から高校生までが参加できる環境活動のクラブ「こどもエコクラブ」	その他	知っている施策はない	無回答
単身(n=105)	11.4	5.7	6.7	5.7	3.8	2.9	65.7	7.6
夫婦のみ(n=452)	11.7	4.4	6.9	6.0	3.1	2.4	68.1	5.5
親・子(2世代)(n=910)	14.8	5.4	6.2	7.9	4.1	0.5	69.0	2.4
親・子・孫(3世代)(n=295)	11.9	3.4	6.8	8.5	4.1	1.0	68.5	3.7
その他(n=89)	11.2	5.6	4.5	4.5	3.4	1.1	69.7	6.7

職業別	環境にやさしい取組で、ポイントがたまるスマホアプリ「あきエコどんどんプロジェクト」	家庭向けの温暖化対策診断サービス「うちエコ診断」	優れた環境保全活動に取り組む方を表彰する「環境大賞」	大人も子どもも楽しみながら自然や3R、再生可能エネルギー等を学習できるイベント「あきたエコフェス」	幼児から高校生までが参加できる環境活動のクラブ「こどもエコクラブ」	その他	知っている施策はない	無回答
会社員等(n=1251)	15.7	5.2	6.0	7.5	4.0	1.0	68.0	2.6
専業主婦・主夫(n=241)	12.4	4.6	7.9	6.2	5.4	1.2	64.7	8.3
学生(n=34)	8.8	8.8	8.8	8.8	5.9	0.0	67.6	0.0
その他(n=41)	7.3	0.0	9.8	7.3	0.0	0.0	73.2	7.3
無職(n=286)	4.9	4.2	5.9	7.0	1.7	2.8	73.4	5.9

7.7 あなたは、地球温暖化の防止に向けて、県にどのような取組を期待しますか。(当てはまるものすべてに○)

【全体】

「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合が56.3%で最も高く、次いで「個人の住宅の断熱改修への補助」(43.2%)、「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」(36.1%)の順で続いている。



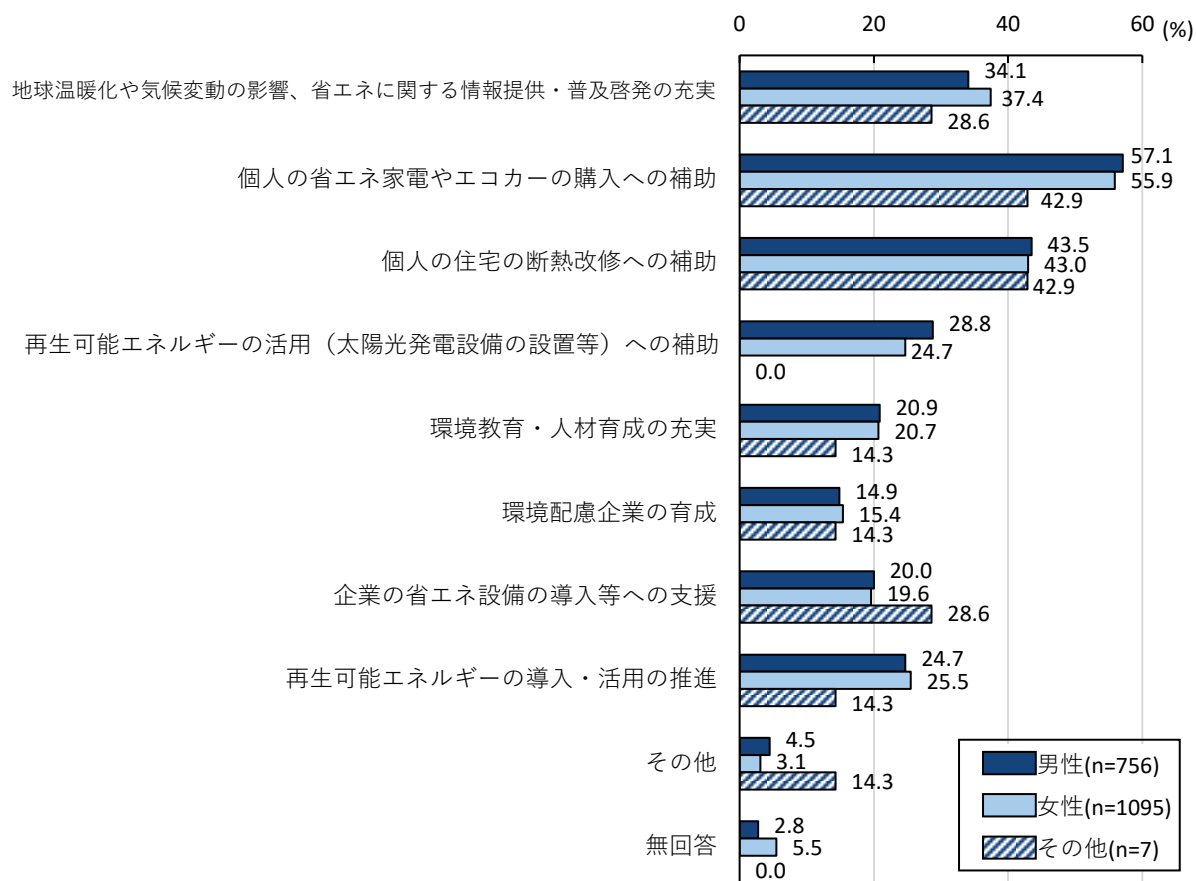
その他内容(一部)

- わからない(女性/70歳以上)
- 特に何も期待しない(男性/30~39歳)
- 農業の現場での規格外で廃棄される農産物への対策をしてほしい。ここに大変な食品ロスが存在しているので(女性/50~59歳)
- 地球温暖化の原因を決めつけるのではなく、省エネやエコ活動を推進すれば良いと思う(女性/40~49歳)

### Ⅲ. 調査結果

#### 【性別】

性別にみると、男女ともに「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合(男性:57.1%、女性:55.9%)が最も高く、次いで「個人の住宅の断熱改修への補助」(男性:43.5%、女性:43.0%)、「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」(男性:34.1%、女性:37.4%)の順で続いており、性別による大きな差はみられない。



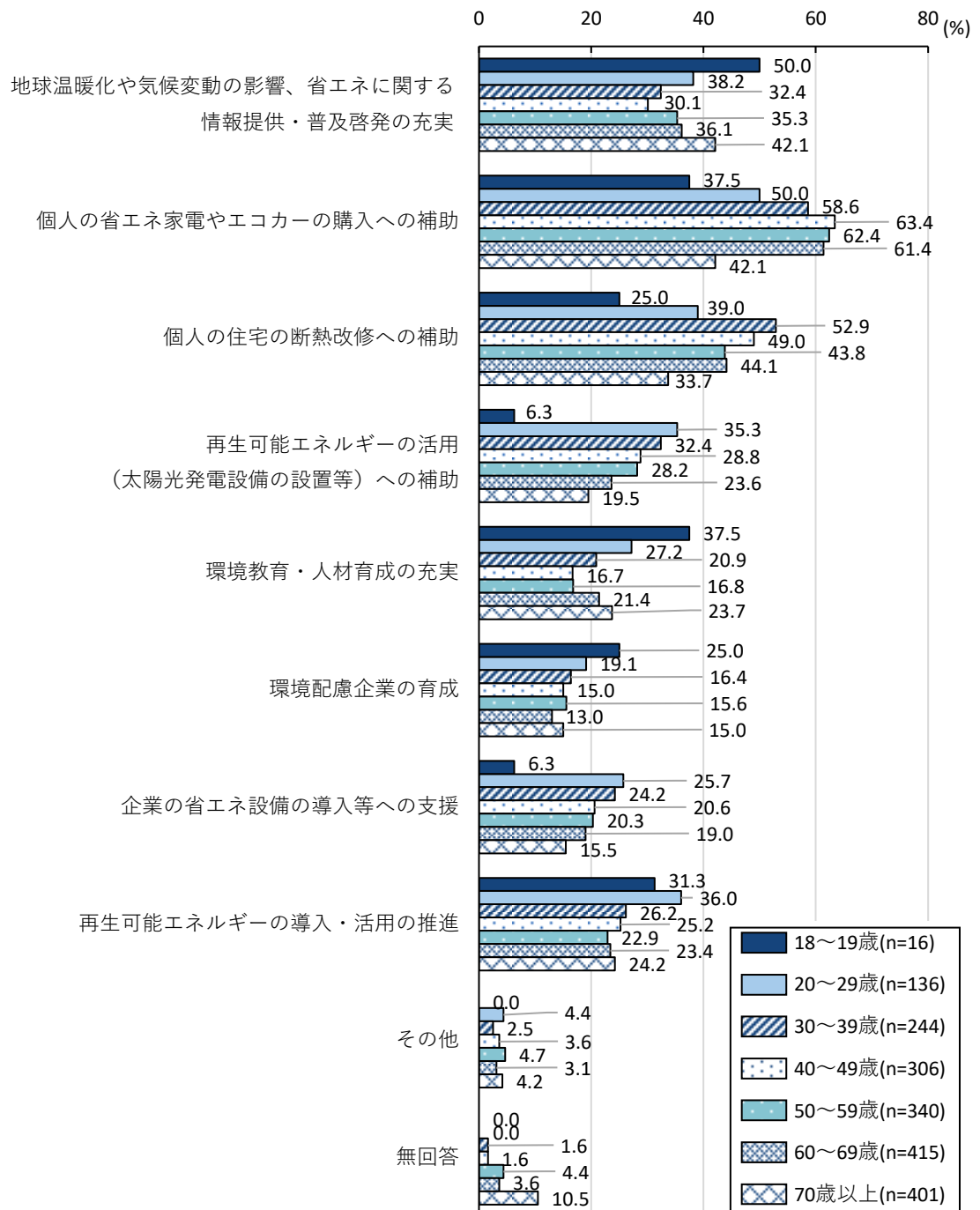
【年齢別】

年齢別にみると、18～19歳では「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」が最も高く、次いで「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」および「環境教育・人材育成の充実」が同率で続いている。

一方、20～69歳では、「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合が最も高く、次いで「個人の住宅の断熱改修への補助」が続いている。

70歳以上では、「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」および「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」が同率で最も高くなっている。

また、「再生可能エネルギーの導入・活用の推進」の割合は、20歳代（36.0%）が全体の割合（25.1%）を10.0ポイント以上上回っている。

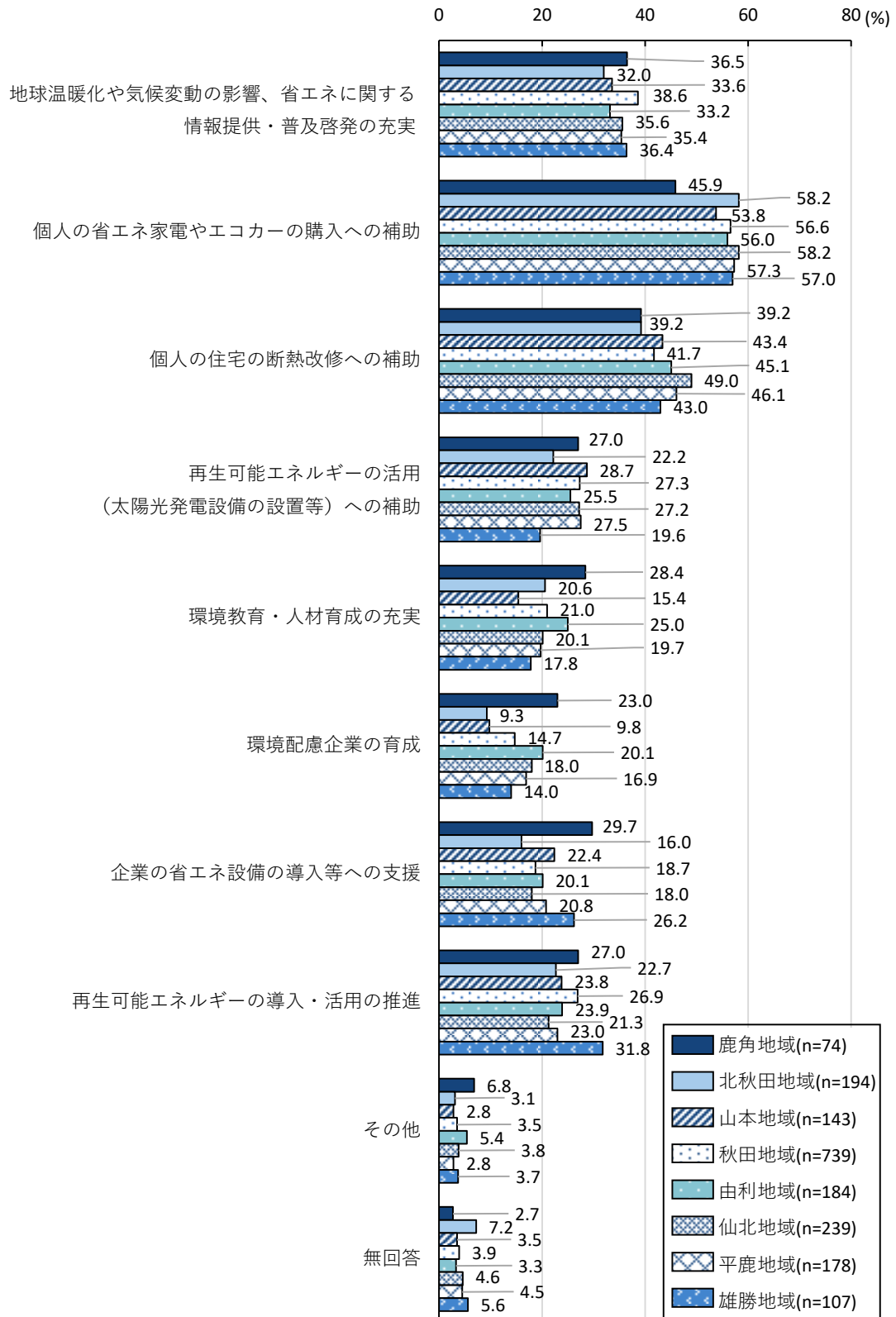


### Ⅲ. 調査結果

#### 【地域別】

地域別にみると、いずれの地域においても「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合が最も高く、次いで「個人の住宅の断熱改修への補助」、「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」の順で続いている。

また、「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合は、鹿角地域（45.9%）が全体の割合（56.3%）を10.0ポイント以上下回っている。

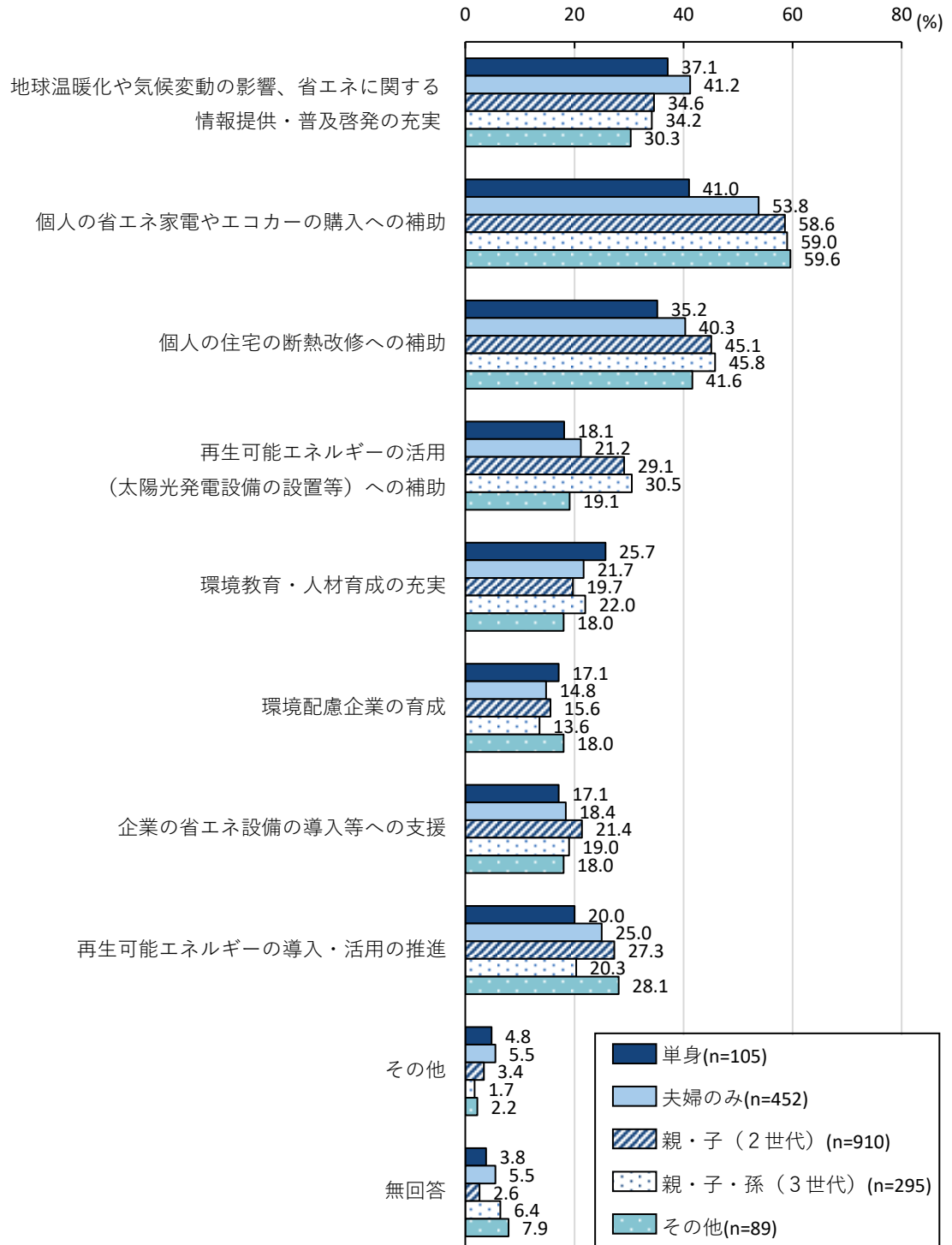


【家族構成別】

家族構成別にみると、いずれの区分においても「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合が最も高くなっている。

次いで、単身および夫婦のみでは「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」、「個人の住宅の断熱改修への補助」の順で続いている一方、他3区分では、「個人の住宅の断熱改修への補助」、「地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」の順となっている。

また、「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合は、単身（41.0%）が全体の割合（56.3%）を10.0ポイント以上下回っている。



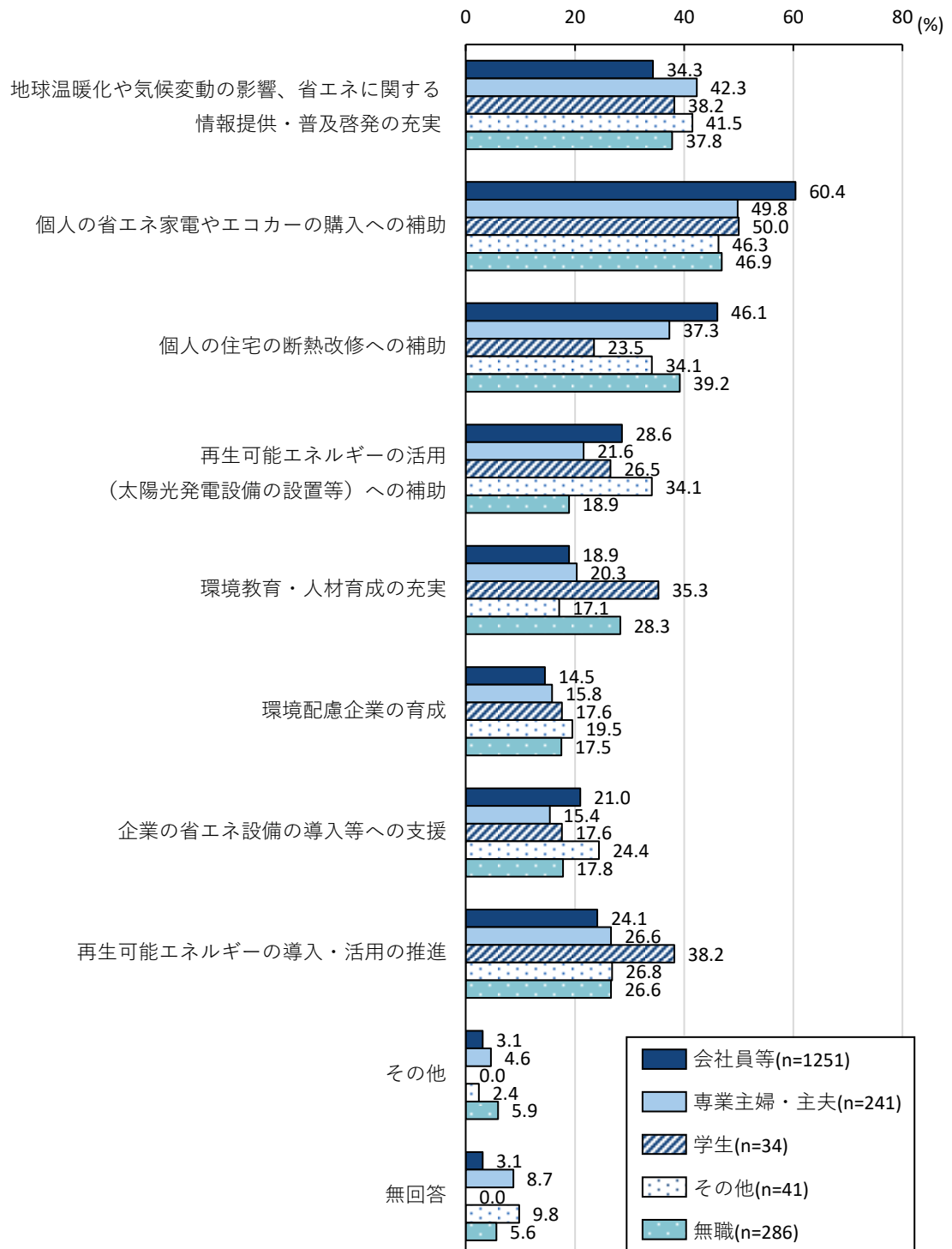
### Ⅲ. 調査結果

#### 【職業別】

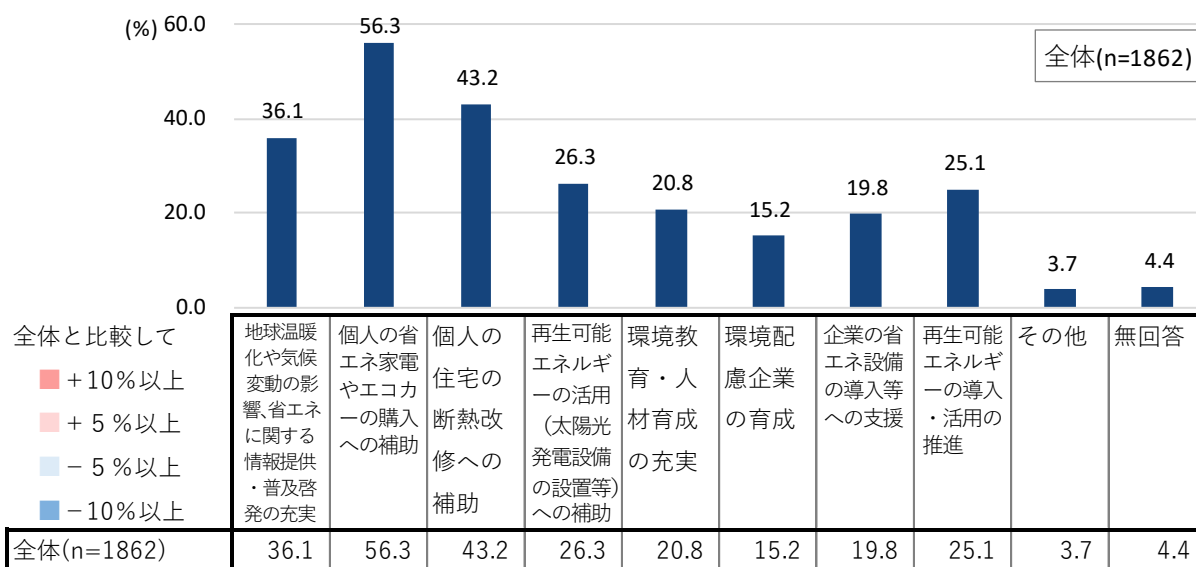
職業別にみると、いずれの職業においても「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」の割合が最も高くなっている。

次いで、会社員等および無職では「個人の住宅の断熱改修への補助」が続いている一方、他3区分では地球温暖化や気候変動の影響・省エネに関する情報提供・普及啓発の充実」が続いている。

また、学生では「環境教育・人材育成の充実」および「再生可能エネルギーの導入・活用の推進」の割合がいずれも全体の割合より10.0ポイント以上高い一方、「個人の住宅の断熱改修への補助」では全体を10.0ポイント以上下回っている。



### Ⅲ. 調査結果



#### 性別

男性(n=756)	34.1	57.1	43.5	28.8	20.9	14.9	20.0	24.7	4.5	2.8
女性(n=1095)	37.4	55.9	43.0	24.7	20.7	15.4	19.6	25.5	3.1	5.5
その他(n=7)	28.6	42.9	42.9	0.0	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	0.0

#### 年齢別

18～19歳(n=16)	50.0	37.5	25.0	6.3	37.5	25.0	6.3	31.3	0.0	0.0
20～29歳(n=136)	38.2	50.0	39.0	35.3	27.2	19.1	25.7	36.0	4.4	0.0
30～39歳(n=244)	32.4	58.6	52.9	32.4	20.9	16.4	24.2	26.2	2.5	1.6
40～49歳(n=306)	30.1	63.4	49.0	28.8	16.7	15.0	20.6	25.2	3.6	1.6
50～59歳(n=340)	35.3	62.4	43.8	28.2	16.8	15.6	20.3	22.9	4.7	4.4
60～69歳(n=415)	36.1	61.4	44.1	23.6	21.4	13.0	19.0	23.4	3.1	3.6
70歳以上(n=401)	42.1	42.1	33.7	19.5	23.7	15.0	15.5	24.2	4.2	10.5

#### 地域別

鹿角地域(n=74)	36.5	45.9	39.2	27.0	28.4	23.0	29.7	27.0	6.8	2.7
北秋田地域(n=194)	32.0	58.2	39.2	22.2	20.6	9.3	16.0	22.7	3.1	7.2
山本地域(n=143)	33.6	53.8	43.4	28.7	15.4	9.8	22.4	23.8	2.8	3.5
秋田地域(n=739)	38.6	56.6	41.7	27.3	21.0	14.7	18.7	26.9	3.5	3.9
由利地域(n=184)	33.2	56.0	45.1	25.5	25.0	20.1	20.1	23.9	5.4	3.3
仙北地域(n=239)	35.6	58.2	49.0	27.2	20.1	18.0	18.0	21.3	3.8	4.6
平鹿地域(n=178)	35.4	57.3	46.1	27.5	19.7	16.9	20.8	23.0	2.8	4.5
雄勝地域(n=107)	36.4	57.0	43.0	19.6	17.8	14.0	26.2	31.8	3.7	5.6

#### 家族構成別

単身(n=105)	37.1	41.0	35.2	18.1	25.7	17.1	17.1	20.0	4.8	3.8
夫婦のみ(n=452)	41.2	53.8	40.3	21.2	21.7	14.8	18.4	25.0	5.5	5.5
親・子(2世代)(n=910)	34.6	58.6	45.1	29.1	19.7	15.6	21.4	27.3	3.4	2.6
親・子・孫(3世代)(n=295)	34.2	59.0	45.8	30.5	22.0	13.6	19.0	20.3	1.7	6.4
その他(n=89)	30.3	59.6	41.6	19.1	18.0	18.0	18.0	28.1	2.2	7.9

#### 職業別

会社員等(n=1251)	34.3	60.4	46.1	28.6	18.9	14.5	21.0	24.1	3.1	3.1
専業主婦・主夫(n=241)	42.3	49.8	37.3	21.6	20.3	15.8	15.4	26.6	4.6	8.7
学生(n=34)	38.2	50.0	23.5	26.5	35.3	17.6	17.6	38.2	0.0	0.0
その他(n=41)	41.5	46.3	34.1	34.1	17.1	19.5	24.4	26.8	2.4	9.8
無職(n=286)	37.8	46.9	39.2	18.9	28.3	17.5	17.8	26.6	5.9	5.6

#### IV. クロス集計結果（参考）

#### IV. クロス集計結果（参考）

##### 問 1.1×問 1.3

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
1.3 あなたは、食生活などで「もったいない」と感じるのはどんなときですか。

「腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき」および「食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき」の割合は、『知っている』が『知らない』をいずれも 20.0 ポイント以上上回っているほか、「外出時に他人が食べ物を残したとき」においても『知っている』のほうが 10.0 ポイント以上高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、食生活などで“もったいない”と感じる割合が全般的に高くなっている。

問 1.1 \ 問 1.3	自分または家族が食べ物を残したとき	外出時に他人が食べ物を残したとき	腐敗や期限切れなどで食べ物を捨てるとき	食品廃棄に関するニュース（恵方巻きの廃棄等）を見たとき	感じたことはない
知っている(n=1730)	53.3%	41.4%	80.5%	63.3%	0.5%
知らない(n=114)	45.6%	29.8%	58.8%	37.7%	5.3%

##### 問 1.1×問 2.1

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
2.1 あなたは、料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気をつけていることや工夫していることはありますか。

「冷凍保存の活用」の割合は、『知っている』が『知らない』を 20.0 ポイント以上上回っているほか、「作り過ぎない」、「残った料理を別の料理に作り替える（リメイク）」、「端材を出さない・できるだけ活用する」においても『知っている』のほうが 10.0 ポイント以上高くなっている。

一方、「取り組んでいることはない」の割合は、『知らない』が『知っている』を 10.0 ポイント以上上回っており、食品ロス問題を認知している人ほど、家庭での食品ロス削減の実施率が全般的に高くなっている。

問 1.1 \ 問 2.1	作り過ぎない	残った料理を別の料理に作り替える（リメイク）	冷凍保存の活用	端材を出さない・できるだけ活用する	その他	取り組んでいることはない
知っている(n=1729)	58.6%	34.4%	72.4%	32.9%	3.2%	2.9%
知らない(n=113)	46.9%	21.2%	52.2%	19.5%	0.9%	13.3%

#### IV. クロス集計結果（参考）

##### 問 1.1×問 2.3

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
2.3 あなたは、食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。

「整理・収納の工夫（食品を重ねず見える化、同種の食品をまとめるなど）」の割合は、『知っている』が『知らない』を10.0ポイント以上上回っているほか、全般的に『知っている』のほうが割合が高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、日常的な食品管理の実施率が全般的に高くなっている。

問 2.3 \ 問 1.1	こまめに食材の種類・量・期限表示・鮮度を確認している	整理・収納の工夫（食品を重ねず見える化、同種の食品をまとめるなど）	「賞味期限」を過ぎても（鮮度が落ちても）すぐには捨てず、自分で食べられるか判断している	その他	取り組んでいることはない
知っている(n=1729)	52.2%	37.9%	72.5%	2.5%	3.7%
知らない(n=113)	44.2%	23.0%	62.8%	0.9%	8.8%

##### 問 1.1×問 3.3

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
3.3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか。

「買い物リストの作成」および「割引商品の購入」の割合は、『知っている』が『知らない』をいずれも10.0ポイント以上上回っているほか、全般的に『知っている』のほうが割合が高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、買い物をする際に食品ロス削減を心がけている割合が高くなっている。

問 3.3 \ 問 1.1	買い物リストの作成	小分け商品や少量パックなど食べきれ（丁度いい）量を購入	商品棚の手前に並べている賞味期限や消費期限の近い商品を購入	割引商品の購入	お買い得品などの衝動買いに注意する	その他	取り組んでいることはない
知っている(n=1715)	45.4%	46.6%	18.5%	64.6%	26.6%	1.5%	4.8%
知らない(n=113)	31.0%	38.1%	10.6%	54.0%	22.1%	0.9%	14.2%

#### IV. クロス集計結果（参考）

##### 問 1.1×問 4.2

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
4.2 あなたは、外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。

「食べきれぬ量を注文する・注文しすぎない」の割合は、『知っている』が『知らない』を10.0ポイント以上上回っているほか、全般的に『知っている』のほうが割合が高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、外食時に食品ロス削減を心がけている割合が高くなっている。

問 4.2 問 1.1	食べきれぬ量を注文する・注文しすぎない	残さず食べる	残ったものを持ち帰り	他の人と分け合う	その他	気をつけていることはない
知っている(n=1712)	75.4%	70.2%	14.2%	26.3%	1.7%	1.9%
知らない(n=113)	58.4%	61.1%	8.8%	23.0%	2.7%	6.2%

##### 問 1.1×問 7.3

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
7.3 あなたが取り組んでいることについて教えてください。

「節電・節水・エコドライブの実践」の割合は、『知っている』が『知らない』を20.0ポイント以上上回っているほか、「マイバッグやマイバスケットの持参」や「住宅の断熱化（二重サッシ等）」においても、『知っている』のほうが10.0ポイント以上高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、さまざまな環境配慮の実施率が全般的に高くなっている。

問 7.3 問 1.1	節電・節水・エコドライブの実践	マイバッグやマイバスケットの持参	高効率給湯器（エコキュート等）の設置	省エネ家電（エアコン、LED照明等）やエコカーの優先購入	住宅の断熱化（二重サッシ等）	太陽光発電や蓄電池の導入	公共交通機関の積極活用	環境活動（クリーンアップ、環境学習会等）への参加	取り組んでいることはない
知っている(n=1697)	59.2%	87.0%	18.7%	39.0%	31.3%	4.4%	3.7%	7.5%	4.2%
知らない(n=110)	36.4%	76.4%	15.5%	32.7%	16.4%	3.6%	4.5%	6.4%	10.0%

#### IV. クロス集計結果（参考）

##### 問 1.1×問 7.7

1.1 あなたは、食品ロス（食品廃棄物）が問題となっていることを知っていますか。
7.7 あなたは、地球温暖化の防止に向けて、県にどのような取組を期待しますか。

「個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助」や「個人の住宅の断熱改修への補助」の割合は、『知っている』が『知らない』をいずれも 10.0 ポイント以上上回っているほか、全般的に『知っている』のほうが割合が高くなっており、食品ロス問題を認知している人ほど、地球温暖化に向けて、県に様々な取組を期待していることがうかがえる。

問 7.7 \ 問 1.1	地球温暖化や気候変動の影響、省エネに関する情報提供・普及啓発の充実	個人の省エネ家電やエコカーの購入への補助	個人の住宅の断熱改修への補助	再生可能エネルギーの活用（太陽光発電設備の設置等）への補助	環境教育・人材育成の充実	環境配慮企業の育成	企業の省エネ設備の導入等への支援	再生可能エネルギーの導入・活用の推進	その他
知っている(n=1664)	38.3%	59.7%	46.2%	28.0%	21.9%	16.1%	21.0%	26.7%	3.7%
知らない(n=103)	29.1%	46.6%	31.1%	19.4%	18.4%	12.6%	15.5%	18.4%	6.8%

##### 問 3.1×問 3.3

3.1 あなたの買い物の頻度は、次のどれにあたりますか。
3.3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか。

買い物頻度別にみると、毎日～週 1 回程度の層では、買い物時における食品ロス削減行動の実施状況はおおむね共通しており、「割引商品の購入」や「小分け商品や少量パックなど食べきれない（丁度いい）量を購入」などの割合が比較的高い。一方、「買い物リストの作成」は、毎日買い物をする層よりも、週 1 回または週 3、4 回程度といったある程度まとめて買い物をする層で高い割合となっている。

また、数週間に 1 回程度の層では、各行動の実施率が全体的に低く、「取り組んでいることはない」が 3 割を超えており、他の層と比べて食品ロス削減行動が十分に定着していない。

問 3.3 \ 問 3.1	買い物リストの作成	小分け商品や少量パックなど食べきれない（丁度いい）量を購入	商品棚の手前に並べている賞味期限や消費期限の近い商品を購入	割引商品の購入	お買い得品などの衝動買いに注意する	その他	取り組んでいることはない
毎日(n=213)	31.5%	50.7%	23.0%	68.5%	20.2%	0.9%	4.7%
週 3、4 回程度(n=898)	45.3%	47.7%	18.4%	69.0%	28.3%	1.6%	2.8%
週 1 回程度(n=606)	49.3%	45.0%	16.5%	57.8%	26.2%	0.8%	6.8%
数週間に 1 回程度(n=46)	23.9%	28.3%	17.4%	32.6%	15.2%	2.2%	32.6%
その他(n=71)	40.8%	36.6%	12.7%	59.2%	26.8%	5.6%	15.5%

#### IV. クロス集計結果（参考）

問 4.3×問 4.4

4.3 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰ったことはありますか。
4.4 最近の1年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由は次のどれにあたりますか。

持ち帰り経験別にみると、頻繁または時々持ち帰った層では、「持ち帰りたかったが、飲食店から拒否された」の割合が最も高く、特に頻繁に持ち帰った層では57.1%に上っている。

一方、持ち帰ったことがない層では、「食べきれなかったことがない」（63.2%）の割合が最も高く、次いで「持ち帰るという発想がなかった」（20.3%）が続いており、持ち帰りを行わない背景には、そもそも食べ残しが発生していない場合や、持ち帰りが選択肢として認識されていないことがうかがえる。

また、「衛生的に気になる」や「持ち帰ってまで食べる気にならない」、「荷物を増やしたくない」といった理由はいずれの層でも1割以下にとどまっており、持ち帰りを行わない主な要因ではないことがうかがえる。

問 4.3 \ 問 4.4	衛生的に気になる	持ち帰りたかったが、飲食店から拒否された	持ち帰るという発想がなかった	持ち帰ってまで食べる気にならない	荷物を増やしたくない	食べきれなかったことがない	最近の1年間飲食店を利用していない	その他
頻繁に持ち帰った(n=21)	4.8%	57.1%	0.0%	4.8%	9.5%	14.3%	4.8%	14.3%
時々持ち帰った(n=279)	17.6%	30.8%	8.2%	14.3%	9.7%	27.2%	2.2%	11.8%
持ち帰ったことがない(n=1475)	13.5%	4.7%	20.3%	11.7%	3.9%	63.2%	6.2%	3.5%

問 7.2×問 7.3

7.2 あなたは、地球温暖化についてどの程度、興味や関心がありますか。
7.3 あなたが取り組んでいることについて教えてください。

地球温暖化への興味・関心別にみると、関心が高い層ほど、環境配慮の実施率が全体的に高い傾向がみられ、関心の低下に伴い段階的に低くなっている。特に、「節電・節水・エコドライブの実践」や「省エネ家電（エアコン、LED照明等）やエコカーの優先購入」、「住宅の断熱化（二重サッシ等）」などでは、関心の高さに応じた差がみられる。

一方、「マイバッグやマイバスケットの持参」は、関心の低い層においても4～6割と、他の項目と比べて比較的高い割合となっており、比較的広く浸透している行動であることがうかがえる。

また、「取り組んでいることはない」の割合は、まったく興味・関心がない層では4割を超えており、地球温暖化への興味・関心が低い層ほど、環境配慮の行動が未実施である傾向にある。

問 7.2 \ 問 7.3	節電・節水・エコドライブの実践	マイバッグやマイバスケットの持参	高効率給湯器（エコキュート等）の設置	省エネ家電（エアコン、LED照明等）やエコカーの優先購入	住宅の断熱化（二重サッシ等）	太陽光発電や蓄電池の導入	公共交通機関の積極活用	環境活動（クリーンアップ、環境学習会等）への参加	取り組んでいることはない
非常に興味・関心がある(n=253)	71.9%	87.4%	20.6%	50.6%	38.7%	7.5%	5.9%	15.8%	3.2%
興味・関心がある(n=970)	63.5%	90.2%	18.5%	42.3%	34.6%	4.4%	3.8%	7.9%	1.4%
どちらともいえない(n=456)	43.9%	84.6%	18.0%	29.4%	19.7%	3.5%	2.6%	4.4%	5.9%
あまり興味・関心がない(n=114)	35.1%	66.7%	15.8%	21.1%	19.3%	2.6%	3.5%	0.0%	21.9%
まったく興味・関心がない(n=23)	26.1%	43.5%	8.7%	8.7%	13.0%	0.0%	0.0%	0.0%	43.5%

#### IV. クロス集計結果（参考）

問 7.5×問 7.3

7.5 あなたは、環境に配慮した「カーボン・オフセット商品」を購入したいと思いますか。
7.3 あなたが取り組んでいることについて教えてください。

カーボン・オフセット商品の認知・購入状況別にみると、「節電・節水・エコドライブの実践」や「省エネ家電（エアコン、LED照明等）やエコカーの優先購入」、「住宅の断熱化（二重サッシ等）」、「環境活動（クリーンアップ、環境学習会等）への参加」といった行動は、購入している層で割合が最も高く、次いで、知っているが購入していない層、知らない層の順に、段階的に低くなっている。

問 7.5 \ 問 7.3	節電・節水・エコドライブの実践	マイバッグやマイバスケットの持参	高効率給湯器（エコキュート等）の設置	省エネ家電（エアコン、LED照明等）やエコカーの優先購入	住宅の断熱化（二重サッシ等）	太陽光発電や蓄電池の導入	公共交通機関の積極活用	環境活動（クリーンアップ、環境学習会等）への参加	取り組んでいることはない
「カーボン・オフセット商品」を知っていて、積極的に購入している(n=35)	80.0%	94.3%	28.6%	57.1%	60.0%	8.6%	5.7%	20.0%	0.0%
「カーボン・オフセット商品」を知っているが、購入していない(n=328)	67.7%	87.8%	20.1%	47.3%	35.4%	4.3%	5.8%	10.4%	2.1%
「カーボン・オフセット商品」を知らない(n=1445)	55.0%	86.0%	17.7%	36.1%	28.3%	4.4%	3.2%	6.6%	5.2%

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

問 1.4 あなたは、賞味期限を過ぎた食品をどのようにしていますか。

その他回答内容	性別	年齢
1日くらいなら食べている	女性	20～29歳
1日位は火を通して食べる	男性	70歳以上
2、3日目程度は食べる	女性	60～69歳
おいしく食べる事ができる期限なので一週間位は大丈夫と思ってたべてる。	女性	40～49歳
家族に食してもらう	女性	30～39歳
乾麺や冷凍食品は自分の判断できめる	女性	70歳以上
期間の程度と品物の種類で考える、食べるか捨てるかを。	女性	70歳以上
期限1日ぐらい過ぎた物はOK	女性	60～69歳
期限切れでも、数日経過であれば食べている	女性	70歳以上
期限に気をつけ食べている、すてることはない	女性	70歳以上
期限前に使用する	女性	70歳以上
消費期限が過ぎた物は注意して判断する	男性	60～69歳
消費期限は守っている	男性	70歳以上
賞味期限は参考程度にはしているが、臨機応変で	女性	70歳以上
賞味期限を過ぎても食べている2～3日くらいなら	男性	60～69歳
賞味期限を過ぎても食べられない訳ではないので早めに食べる	女性	40～49歳
賞味期限を余裕をもって買う、あまり多く買わない	男性	60～69歳
食品の種類によって判断	男性	70歳以上
数日なら食べている	女性	60～69歳
すぎた日数による。	女性	20～29歳
できるだけ早く食べている。	女性	70歳以上
時と場合によって食べたり捨てたりしてる	女性	20～29歳
母が管理しているので自分ではそうしたことについて、よく分らないです	男性	20～29歳
品ものによる BまたはC	女性	30～39歳
保管の場所で見ても判断している	女性	50～59歳
冷凍食品は食べます	男性	60～69歳
期限が切れる前までには食べている	女性	40～49歳
見た目や匂いが問題なければ味見をして判断する	女性	40～49歳
消費期限で判断	男性	60～69歳
焼けるものは、焼いて食べる	その他	40～49歳
食べれるので、食べる	女性	40～49歳
生物以外だったら賞味期限切れ後一ヶ月以内を目処に食べる	男性	70歳以上
風味が劣るぐらいなので自己判断で食べている	女性	30～39歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

問 2.1 あなたは、料理を作るときや料理を保存するとき、食品ロスを削減するために気を付けていることや工夫していることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
おすそわけする	女性	60～69 歳
近くの知人などに食べてもらう	女性	70 歳以上
知人にも利用してもらっている	女性	70 歳以上
友だちにわけてやる	女性	70 歳以上
近所にお裾分け	女性	40～49 歳
親や家族などに分ける	女性	30～39 歳
EM 菌による土壌への返かん	女性	60～69 歳
農家なので肥料にする	女性	60～69 歳
芽が出た芋を庭で植えると再生する	女性	50～59 歳
野菜のヘタや端・きのこの石づきなどは庭に埋めて肥料にしている	女性	40～49 歳
人参の皮はむかない 大根の皮も食べる ピーマンはまるごと調理	女性	60～69 歳
食べれる分だけつくる、又、次日の弁当にする	女性	60～69 歳
お弁当のおかずにあわす	男性	60～69 歳
極力食べ切るようにする	男性	30～39 歳
作った物は全て食べる	男性	60～69 歳
作った料理は食べきる	男性	20～29 歳
食べ切る	女性	40～49 歳
全部食べる	無回答	無回答
出された物を残さない	男性	30～39 歳
食べ切るようにしている	男性	40～49 歳
たべる	男性	50～59 歳
いっぱい食べる！	女性	20～29 歳
余ったものは次の日に食べる	男性	50～59 歳
次日に食べきるようにしている	女性	70 歳以上
残ったら次の日も食べる	女性	20～29 歳
残り物は次日食べその日は料理しない	男性	30～39 歳
残った料理をそのまま次に出す	女性	60～69 歳
翌日、再び食べる	男性	70 歳以上
次の日に食べる	男性	60～69 歳
残った料理は次の食事の際に食べ切る。	男性	60～69 歳
残った料理は冷蔵庫に保存して食べきるようにしている	女性	50～59 歳
冷蔵、冷凍共に真空保存にする	女性	70 歳以上
冷蔵庫活用	男性	60～69 歳
味噌汁などの汁物も冷蔵保存する	男性	50～59 歳
日持ちしないものは必要以上に買いこまない	男性	60～69 歳
買いすぎない、全部鍋にする	男性	40～49 歳
買いだめしない	女性	60～69 歳
買いすぎない	女性	60～69 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

買い物しすぎない	女性	40～49 歳
安いからと買いだめをしないこと	女性	50～59 歳
みだりに値引品を買わない	女性	50～59 歳
材料を使いきるよう献立を考える	女性	60～69 歳
料理はほとんどしない	男性	60～69 歳
料理をしたことがない	女性	20～29 歳
料理をしたことがない	男性	30～39 歳
料理作っていない	女性	20～29 歳
料理あまりしないのでわからない	男性	20～29 歳
料理しない	男性	20～29 歳
料理はつくらない。	男性	70 歳以上
料理をしない	男性	60～69 歳
調理はしません	男性	70 歳以上
自分はめったに料理しない	男性	40～49 歳
母はもともと冷蔵庫の中もストックしている所もシンプルに美しくしているのでロスとかなと思います。	男性	20～29 歳
できるだけ要望に応える	女性	30～39 歳
消費期限に注意する	男性	70 歳以上

問 2.2 あなたは、料理を食べるとき、食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
翌日以降も食べる様にしている	男性	60～69 歳
食べきれない時は次の日に食べる	女性	40～49 歳
残り物は翌日食べる	女性	60～69 歳
次の日も食べる、残った分	女性	70 歳以上
次の日にも食べきる	女性	50～59 歳
次の日に食べる	女性	60～69 歳
次の日、残りは食べる	女性	30～39 歳
次の食事時の為にラップかけて冷蔵庫に保存	女性	70 歳以上
残った料理は次の食事の際に食べ切る。	男性	60～69 歳
あとで食べる	男性	40～49 歳
何日間分ける	男性	30～39 歳
多い時は翌日の弁当用にする	女性	50～59 歳
保管しているものの把握	男性	30～39 歳
別に食品ロス削減のためではなく、純粹に捨てるほど食べ物を買う余裕がない	男性	30～39 歳
残ったら、冷凍する 食材はちょこっと残しはせずに、使い切り加工してしまう	女性	40～49 歳
冷凍にする	女性	70 歳以上
ふつうは捨てるが食べられるものは食べる（野菜の皮、エビの頭やしっぽなど）	男性	60～69 歳
1人分ずつ皿に盛り付ける	女性	60～69 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

残りそうなものは作らない	女性	20～29 歳
値引き品を買った場合、早めに食べる	女性	30～39 歳
仕出し弁当など、体調に合わずたべられないときの残りは、気温が高く食中毒意識して持ち帰らないようにしている	女性	70 歳以上
夏場の汁物は極力控える（すぐ悪くなる）	男性	50～59 歳
消費期限も気にせず食べる	男性	30～39 歳
家族の食べる量に合わせて盛り付けする	女性	60～69 歳
少なめに作る	女性	50～59 歳
人数分に分けると残さない	女性	60～69 歳
家族でわけあう	男性	60～69 歳
家族と一緒に食べれるものを選ぶ（共有）	女性	20～29 歳
スタッフに食べさせて残さない。	女性	70 歳以上
他の人に分ける	女性	60～69 歳

問 2.3 あなたは、食品ロスを削減するために冷蔵庫内の食品の管理で気をつけていることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
10日に1度くらいそうじしながら使いきる	男性	60～69 歳
週に一度冷蔵庫をほぼからにする	女性	50～59 歳
冷蔵庫を空にしてから買い物に行く	女性	30～39 歳
悪くなる前に全部食べる	女性	70 歳以上
同じ食品が数個あるときは、期限が早い方を手前にする	女性	30～39 歳
先入先出の徹底 日付順	男性	60～69 歳
開封した日付、料理を作った日にちをふせんを書いて、タッパーに貼り付ける。	女性	70 歳以上
レシートで食べ終えた食品をチェックする	女性	70 歳以上
なるべく使い切ってから補充する。	女性	50～59 歳
1週間で消費できるものしか買わない	男性	50～59 歳
食べきれる分の買い物をしている	女性	70 歳以上
自分達が食べ切れる分しか買わないようにしている。	女性	40～49 歳
消費できる分のみ購入する。	女性	30～39 歳
数日で食べ切れる量だけ買う	男性	40～49 歳
多く買わない	女性	50～59 歳
多くは買わない	女性	60～69 歳
買いすぎない	女性	40～49 歳
買いすぎない	男性	30～39 歳
買いすぎない	男性	30～39 歳
買いすぎない	男性	40～49 歳
買いすぎない	女性	30～39 歳
買いすぎない	女性	50～59 歳
食料を買い過ぎない	女性	60～69 歳
まとめ買いや大量買いをしないようにしている	女性	60～69 歳
正しい保存方法にする	女性	20～29 歳
冷蔵・冷凍庫内に入れすぎない	女性	50～59 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

買いだめしない、詰め込みすぎない、鍋を入れるスペースを確保	男性	50～59 歳
ラップをするなど保存方法に気をつける	女性	40～49 歳
エチレングラス吸収目的で、野菜は新聞紙に包んでから冷蔵庫に保管する	男性	60～69 歳
野菜を含めて冷凍できる物はほとんど冷凍している、使う時に都度解凍して使う	女性	50～59 歳
まとめ買いをした時は余分を小分けにして冷凍している	女性	30～39 歳
冷凍をするようにしてる（多いとき）	女性	70 歳以上
出来るものは冷凍する	女性	70 歳以上
買って来た時に火を通して冷蔵する。	女性	60～69 歳
自分は何もしてないですけど冷蔵庫内がぐちゃぐちゃしていたり、変な臭いがしたり一切ないので気を付けている以前に問題ないです。	男性	20～29 歳
管理は妻がしている。	男性	70 歳以上
嫁がやっている	男性	70 歳以上
家族が管理している	男性	40～49 歳
冷蔵庫の管理は妻です	男性	70 歳以上
冷蔵庫の管理はしていない	女性	20～29 歳
管理してない	男性	60～69 歳
母と娘が同じ物を買ってしまうこともある	女性	60～69 歳

問 2.4 最近の 1 か月間に捨ててしまった生鮮食品を教えてください。

その他回答内容	性別	年齢
かぼちゃ	女性	40～49 歳
かぼちゃ	女性	70 歳以上
ゴーヤ、カボチャ	女性	60～69 歳
小松菜、ゴーヤ	女性	20～29 歳
ゴーヤ、ズッキーニ	男性	60～69 歳
レンコン	女性	60～69 歳
大根	女性	60～69 歳
大根	女性	50～59 歳
かいわれ大根	女性	40～49 歳
白菜	女性	40～49 歳
白菜	女性	40～49 歳
ごぼう	女性	50～59 歳
アスパラ	女性	60～69 歳
アスパラガス	男性	70 歳以上
オクラ	男性	50～59 歳
アボガド	女性	60～69 歳
アボガド	女性	70 歳以上
にら	女性	40～49 歳
ニラ、コマツ菜	女性	70 歳以上
ブロッコリー	女性	30～39 歳
ブロッコリー、チーズ	女性	40～49 歳
ブロッコリーのしん	女性	40～49 歳
カット野菜	女性	40～49 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

カット野菜	女性	50～59 歳
枝豆	女性	60～69 歳
山菜	男性	40～49 歳
みょうが	男性	30～39 歳
みょうが、栗	女性	60～69 歳
ミョウガの梅酢漬け	男性	50～59 歳
にんにく	女性	20～29 歳
しょうがの切れはし	女性	50～59 歳
生姜	女性	60～69 歳
しそ	女性	50～59 歳
バジル	女性	60～69 歳
漬け物	男性	30～39 歳
漬物	女性	20～29 歳
パン	女性	30～39 歳
カビたパン	男性	60～69 歳
ごはん	女性	40～49 歳
ごぼう	女性	30～39 歳
おはぎ	男性	60～69 歳
おはぎ、いただき物のおもち	女性	50～59 歳
めん類	女性	20～29 歳
小麦粉	女性	50～59 歳
加工品	女性	60～69 歳
子供が食べなかったソーセージ	女性	30～39 歳
魚肉ソーセージ	女性	30～39 歳
カニカマ、ベーコン	女性	30～39 歳
ベーコン、つけもの	女性	40～49 歳
カマボコ類	女性	70 歳以上
キムチ	その他	40～49 歳
こんにやく	女性	20～29 歳
こんにやく	女性	60～69 歳
停電で冷凍庫の肉を廃棄	男性	60～69 歳
ドレッシング	女性	60～69 歳
ドレッシング	男性	60～69 歳
タレや調味料などの賞味期限の長い物	男性	60～69 歳
のりの佃煮しゅうゆ	女性	50～59 歳
なっとう	男性	40～49 歳
納豆	女性	20～29 歳
納豆	女性	50～59 歳
納豆	女性	50～59 歳
納豆	男性	60～69 歳
豆腐	女性	50～59 歳
豆腐、ハム	女性	18～19 歳
豆腐	女性	50～59 歳
豆腐	女性	60～69 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

豆腐	女性	60～69 歳
豆腐	女性	70 歳以上
とうふ、パン	女性	40～49 歳
大豆製品	女性	50～59 歳
ナッツ	男性	30～39 歳
ヨーグルト	女性	20～29 歳
ヨーグルト	女性	20～29 歳
乳製品	男性	40～49 歳
乳製品(ヤクルト)	女性	40～49 歳
無塩バター	女性	40～49 歳
牛乳	男性	40～49 歳
牛乳	女性	40～49 歳
牛乳	女性	60～69 歳
チーズ	女性	30～39 歳
ようかん1ヶ	男性	70 歳以上
惣菜	男性	50～59 歳
惣菜	男性	70 歳以上
惣菜等	男性	40～49 歳
コロッケ	男性	50～59 歳
料理した物	女性	60～69 歳
アサリの蒸し煮物	女性	60～69 歳
農家なので取ってきた物がいたんだ時	女性	70 歳以上
畑でできた野菜で、出来の悪い物を捨てました	女性	60～69 歳
ゴーヤ、畑で取れ過ぎて冷凍したが残った	女性	70 歳以上
自分で栽培しているため食べ切れないことがある	女性	70 歳以上
自家菜園でとれすぎた	女性	60～69 歳
自家栽培なので量が多すぎる	男性	70 歳以上
自家製採れすぎ野菜	女性	60～69 歳
きゅうり、トマト、ナス、ピーマンは畑にあるので悪い物は捨てる、買った物は捨てない	女性	60～69 歳
頂き物の野菜類	女性	40～49 歳
妻がやっている	男性	70 歳以上
妻にまかせてる	男性	70 歳以上
自分で作らない	男性	20～29 歳
分からない	男性	20～29 歳
食材としてはすてていない おいしくなくてすてた	女性	50～59 歳
たまに捨てる	男性	70 歳以上
購入ときれいだったが、すぐ切れ目を入れたら中が虫くっていた。(バラうり1個)	女性	70 歳以上
痛みが早いので	女性	70 歳以上

V. 参考資料：その他回答内容一覧

問 2.5 あなたは、未開封・未使用の食材・食品を捨ててしまったことはありますか。捨ててしまったときの理由を教えてください。

その他回答内容	性別	年齢
買った事自体を忘れていたため傷みすぎていた。	男性	70 歳以上
缶詰 類を日持ちするだろう と置いておいて、そのまま忘れてしまって 消費期限が過ぎてしまった	男性	60～69 歳
冷蔵庫の最下部、奥の野菜等	男性	70 歳以上
割引の食品から使うのを忘れた	女性	50～59 歳
保管収納していたが、日常の購入したものを食べており、保管しているものは、いずれ食べるつもりでいたがすでに期限が過ぎていた	男性	50～59 歳
もらった物の嫌い、または食べれない食べ物だった。	女性	30～39 歳
もらったものの食べない品だった	女性	50～59 歳
もらったものの、嫌いな食べ物だった	女性	70 歳以上
もらい物の粉末ダシ 忘れていた しまい忘れ	男性	60～69 歳
旅行に行く前にもらい傷んでしまった。	女性	70 歳以上
普段食べないものをお土産でもらい、結局食べずに捨てた	男性	40～49 歳
畑でピーマンがとれ過ぎた為	女性	70 歳以上
収穫量が多かった	女性	60～69 歳
多く収穫して	男性	70 歳以上
来客のため急にメニューの変更があり、使うはずだったキノコをくさらせた。	女性	50～59 歳
冷蔵庫が壊れていることに気づかず腐敗していた	男性	50～59 歳
腐っていた	男性	60～69 歳
パンを出しっぱなしでカビがはえた	女性	70 歳以上
今年夏、暑すぎて去年まで常温でも大丈夫だったのにダメだった、今年は品質かわってた	男性	20～29 歳
買ったなら 2 日位でいたんだ	女性	70 歳以上
残業で遅くなり、パッと食べられる刺身を買ってきたが疲れて寝てしまい翌朝捨ててしまった	女性	40～49 歳
仕事が忙しくなり、料理する時間がなくなって傷んでしまった	女性	50～59 歳
作る時間がなかった	女性	50～59 歳
猛暑の為、クーラー無い台所で料理したくても出来なかった。	女性	60～69 歳
購入した後、外出していたので古くなり捨てた。	女性	60～69 歳
製造から数年経過していた	男性	40～49 歳
賞味期限が切れて数ヶ月過ぎてしまっていた。	女性	40～49 歳
大事にしすぎてしまい消費期限が切れてしまっていた	女性	20～29 歳
冷凍保存ができない製品なのに冷凍されていた為	女性	70 歳以上
小分けにして日付が分からなかった	女性	30～39 歳
炊く前の生米に虫が卵を産み付けて、5 キロを泣く泣く廃棄しました。それ以降は 2 キロを買って冷蔵庫に入れてあります。	女性	40～49 歳
仏壇の供物	男性	50～59 歳
自分の好みでない品は寄付している	女性	60～69 歳
半額で 2 つ買ったのですが、1 つめを食べた時にあまりにもまずくて 2 つ目はとても食べれずに捨てました。マーボー豆腐の素でした。	女性	50～59 歳
仕事上、高齢者と接する為、危ない物を食べさせない為	男性	30～39 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

家族にすてられた	男性	70 歳以上
畑へ植えた野菜が高くて	女性	60～69 歳
多い時は友人におすそわけ	女性	70 歳以上
近所にやる	男性	70 歳以上
缶詰	女性	50～59 歳
妻が管理	男性	70 歳以上
捨てたことはないはず	女性	30～39 歳

問 3.3 あなたは、買い物をするとき、食品ロスを削減するために心がけていることや行っていることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
事前に家庭の冷蔵庫にあるものを確認	男性	30～39 歳
冷蔵庫の中に入っている物を確認していく	女性	50～59 歳
在庫分を確認してから買物に行く 買物商品がダブらない様に連絡とり合う	女性	70 歳以上
作るもの予定を立てる	女性	40～49 歳
献立を考えてから	女性	60～69 歳
料理内容を考えて買物をする	女性	70 歳以上
1 週間のうち夕食を作る日を自分や家族の予定を把握して献立を決め必要な材料を買うようにしている	女性	60～69 歳
その日に食べきる分を購入する	男性	50～59 歳
その日必要な物を買う	女性	40～49 歳
必要な時に必要なものを購入する	男性	70 歳以上
消費する分だけ購入する	男性	60～69 歳
決まったものしか買わない。地元のスーパーで買う。安物は買わない。	男性	40～49 歳
買うか買わないか迷った時は買わない	女性	60～69 歳
買いすぎない	女性	40～49 歳
日持ちしない商品は必要以上に買わない	男性	60～69 歳
食べきれぬ分の購入多い分は冷凍する	女性	70 歳以上
冷凍庫の活用	男性	40～49 歳
冷凍庫の活用	女性	70 歳以上
チラシをよく見ている	女性	60～69 歳
刺身は大根のツマが不要なので、入っていないのを買う。皆さん食べてる？捨てる？プラスチックの菊の花とか飾りもいらぬ。	女性	40～49 歳
色々なメニューに使えるものを選ぶ	女性	50～59 歳
ある程度量と値段を比較して購入する	男性	40～49 歳
Cは、すぐ食べるのは手前のをとる	女性	70 歳以上
奥の方から出す	女性	70 歳以上
家族と選んでいる	男性	70 歳以上
買物は妻がしているので…	男性	60～69 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

問 4.2 あなたは、外食をするときに食品ロスを削減するために気をつけていることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
外食していない	男性	60～69 歳
外食しない	男性	70 歳以上
外食しない	男性	60～69 歳
外食しない	女性	50～59 歳
外食しない	男性	50～59 歳
外食しない	女性	60～69 歳
外食しない	男性	70 歳以上
外食しない	女性	70 歳以上
外食することがない	女性	60～69 歳
外食なし	女性	70 歳以上
外食はしない	女性	30～39 歳
外食はしない	男性	60～69 歳
外食はしない	男性	70 歳以上
外食はほとんどしない	女性	40～49 歳
外食はほぼしない	女性	70 歳以上
外食をしてない	女性	70 歳以上
外食をしない	男性	40～49 歳
外食をしていない	女性	60～69 歳
外食をしない	男性	20～29 歳
外食をしない	男性	40～49 歳
ここ 3 年程外食なしです	女性	70 歳以上
ほぼ外食はしない	女性	70 歳以上
外食はしたことが無い。	男性	60～69 歳
主人に食べてもらうこともあります	女性	60～69 歳
食べきれなかったら人に食べてもらってる	女性	20～29 歳
二人でいく	男性	60～69 歳
グループで店に行った時に、なんとなくみんなが食べるだろうなとフライドポテトや唐揚げの盛り合わせを勝手に注文する人がいる。結局誰も食べないから、最初に自分が食べる分だけ注文するように釘を刺しておく！	女性	40～49 歳
デザートはメインを食べ切った後に判断して注文	女性	20～29 歳
食べる前に子供に食べさせる（食べたいだけ）	女性	50～59 歳
弁当	男性	70 歳以上
接客態度が悪かったり、まずいレストランには行かない	男性	60～69 歳
食品ロス削減のために気をつけてるわけではない	男性	30～39 歳

問 4.4 最近の 1 年間において、飲食店で食べきれなかった料理を持ち帰らなかった理由は次のどれにあたりますか。

その他回答内容	性別	年齢
家族が食べるので持ち帰った事がない	女性	50～59 歳
食べきれない場合には他の人と分け合う	女性	60～69 歳
大人数の集まりだった	女性	50～59 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

夫が嫌がる	女性	30～39 歳
飲酒して面倒	男性	60～69 歳
持ち帰りたいとお店側に言うのに抵抗がある	女性	30～39 歳
持ち帰りができるか聞くのが恥ずかしい。	女性	40～49 歳
恥ずかしい	女性	40～49 歳
持ち帰るのがはずかしかった	男性	20～29 歳
残さない、持ち帰るのは恥ずかしくて言えない	女性	20～29 歳
持ち帰りたいが他の人の目が気になる	女性	50～59 歳
お持ち帰りの出来る飲食店ではない	男性	40～49 歳
お店が持ち帰りを禁止していた	男性	40～49 歳
一年以内ではないが、お店から持ち帰りは駄目といわれた。	女性	40～49 歳
持ち帰り可の飲食店に行ったことがない	女性	30～39 歳
持ち帰る前に片付けられた	男性	60～69 歳
飲食店の手間になりそうで言えず	女性	30～39 歳
衛生面で店が嫌な事はしたくない	男性	50～59 歳
飲食店に迷惑をかけるから（食品衛生法上問題がある行為である気がする）	男性	30～39 歳
食べきれなかった事はないが、もしあっても店が OK かどうかわからないのでしない	女性	50～59 歳
持ち帰れるかわからない店だったから	女性	50～59 歳
持ち帰っていいかわからなかった。	女性	30～39 歳
基本的に飲食店からの持ち帰りはダメであろうという考えがあった	男性	30～39 歳
持ち帰って OK かどうかわからないし、あえて聞こうとは思わない	女性	40～49 歳
持ち帰り OK なお店が不明な為	女性	40～49 歳
持ち帰って良いのかわからないし店に言いにくい、容器やビニール袋などもなかった	男性	60～69 歳
適切な容器が無い	男性	60～69 歳
料理を持ち帰るというシステムがあまり普及、充実していないと思う	女性	20～29 歳
4. 3の理由で持ち帰ったら食べてる	女性	40～49 歳
他の人が持ち帰った	女性	50～59 歳
遠方だったため。	女性	70 歳以上
他に寄る所があったから。	女性	70 歳以上
汁物だったりした時	女性	70 歳以上
水分が多く持ち帰りづらい料理だった	女性	50～59 歳
持ち帰れないものとき（汁物他など）	女性	60～69 歳
持ち帰りに敵してないから	女性	50～59 歳
持ち帰りのできるものではなかった	女性	60～69 歳
持ち帰りのできないものだから。ラーメンなど	女性	50～59 歳
蕎麦やラーメンの汁を残すのは、食べ残しなんですかね？	女性	40～49 歳
持ち帰るほどの量が残っていなかった	男性	60～69 歳
持ち帰るような残し方、量ではない。カレーとかごはんのみ残すとか	女性	60～69 歳
持ち帰ってまで食べる料理がない	男性	70 歳以上
常に持ち帰っている（残った時は）	女性	50～59 歳
持ち帰っています	男性	30～39 歳
持ち帰らなかったことがない	女性	30～39 歳
持ち帰ったので、選択する項目がない	女性	50～59 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

食べきれなかったら持ち帰るようにしている。または持ち帰れなかったら頑張っておく。	女性	20～29 歳
食べきれなかった分は必ず持ち帰っている	女性	20～29 歳
食べきれなかった料理は持ち帰った	男性	70 歳以上
食べれないときは全て持ち帰った	女性	40～49 歳
つねにバックにビニール袋を入れていてそれに入れる	女性	60～69 歳
食べ切れなかった料理は持ち帰り、他は残さず食べた	女性	60～69 歳
持ち帰れる店であれば持ち帰り、でなければムリです	男性	70 歳以上
持ち帰ったので該当なし	男性	70 歳以上
ほとんど残さないが、店が持ち帰りをすすめた時だけ無理して食べず持ち帰った	女性	50～59 歳
残さないようにしている	男性	40～49 歳
食べきっているから	女性	20～29 歳
食べきれなかったことがない	女性	20～29 歳
食べ残ししない	男性	60～69 歳
食べ切っている為	女性	30～39 歳
すべて食べたから	男性	20～29 歳
全て食べるから	男性	40～49 歳
全て食べる為	男性	60～69 歳
全部食べたから	男性	18～19 歳
そもそも残さない	男性	40～49 歳
出されたものは残さず全部食べる	女性	60～69 歳
食べきれず、持ち帰らなかったことはない	男性	60～69 歳
かならず食べる	女性	50～59 歳
残さず食べるか持ち帰った。(宴会を除く。)	女性	50～59 歳
持ち帰りが出来ない時は食べきる。	女性	50～59 歳
のこす物が無い	女性	70 歳以上
ほとんど食べている	男性	20～29 歳
食べ切る、または持ち帰り食べる	男性	50～59 歳
設問がおかしい 食べ残しが前提の質問	男性	60～69 歳
コロナ以降、レストランの利用 頻度がめっきり下がったので残すこともなくなった	男性	60～69 歳
外食しない	男性	40～49 歳
家族で利用はお金かかる為、月に 1 回程度	女性	60～69 歳
飲食店で食事をしていない	男性	60～69 歳
行かなかった	女性	60～69 歳
飲食店に行ったことが無い。	男性	60～69 歳
持ち帰った物が無い。	男性	70 歳以上
持ち	男性	70 歳以上

問 5.1 あなたは、長期間にわたって保管している備蓄食品を無駄にしないために行っていることはありますか。

その他回答内容	性別	年齢
缶詰めだから期限切れでももっている	女性	70 歳以上

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

期限が切れていても冷凍になっていれば使う	女性	70歳以上
賞味期限を気にせず、食べれるかどうかを重視。匂い、味。	女性	30～39歳
ローリングストック	男性	50～59歳
ローリングストック	女性	60～69歳
ローリングストックが基本	女性	20～29歳
定期的に使って賞味期限が新しいものに買い直している	女性	30～39歳
交換する時に普通に食べる	男性	30～39歳
食材ないと使ってしまう	女性	60～69歳
食べる	女性	60～69歳
たまに見る	男性	70歳以上
冷凍可能な物はするようにしてる	男性	70歳以上
冷凍保存	男性	50～59歳
小分けして保存	男性	70歳以上
友だちにわけてやる	女性	70歳以上
食べ切れなかったら友達にあげる	女性	50～59歳
友人へ提供	女性	60～69歳
米、水以外ありません	女性	50～59歳
親がしているから	男性	20～29歳
所有していない	男性	30～39歳
長期間の備蓄品を置いていない	女性	60～69歳
備えておくこと自体行っていない	女性	40～49歳
災害に備えた食品の備蓄をしていない	男性	50～59歳
備蓄食品がない	男性	40～49歳
備蓄食品がないため	女性	30～39歳
備蓄食品はない	男性	70歳以上
備蓄していない	男性	40～49歳
備蓄していない	女性	40～49歳
備蓄していない	女性	60～69歳
備蓄していない	男性	70歳以上
備蓄してない	男性	50～59歳
備蓄していない	女性	50～59歳
備蓄していない	男性	60～69歳
備蓄していない	男性	70歳以上
備蓄していない	女性	40～49歳
備蓄していない	女性	20～29歳
備蓄していない	女性	40～49歳
備蓄していない	男性	60～69歳
備蓄していない。	男性	70歳以上
備蓄食品がない	男性	60～69歳
備蓄食品ない。	男性	30～39歳
備蓄食品はない	女性	70歳以上
備蓄食品はない	女性	60～69歳
備蓄食品を用意していない	女性	70歳以上
備蓄をやめた	女性	50～59歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

備蓄食品を買う余裕がないため家がない	女性	40～49 歳
備蓄に回す食品を買う余裕は無い	女性	30～39 歳

問 7.1 食べ残したものについて有効利用等する取組を行っていただければ教えてください。

その他回答内容	性別	年齢
野菜の皮などは乾かして乾燥させてから処分している。水分が多いとゴミ処理に余計な燃料かかるので。	女性	40～49 歳
果物、野菜の皮を干して軽くしてゴミの日に出す	女性	70 歳以上
分別ゴミで処理	男性	70 歳以上
ごみで出している	女性	70 歳以上
市のゴミに出す	女性	70 歳以上
市の燃えるゴミにだす	女性	70 歳以上
燃えるゴミとして出している	女性	70 歳以上
もえるごみに出す	女性	70 歳以上
再生野菜作り	女性	50～59 歳
植木等の根元にうめる	女性	70 歳以上
植物、家庭菜園などに細かく刻んだり、つぶしたりして土の中に混ぜるようにしている。	女性	70 歳以上
生ごみは全て堆肥へ	男性	40～49 歳
物によって堆肥してる	女性	60～69 歳
ニワトリのえさにしている	女性	70 歳以上
キャベツ等の葉、くきはゆでて犬にやっている	女性	70 歳以上
カラスにあげる	女性	70 歳以上
取組みたいがクマの件もあり出来ない	男性	70 歳以上
害獣被害が多いのに堆肥するメリットが無い	男性	60～69 歳
冷蔵庫に保存して、食べきる	男性	60～69 歳
食べ残しが出ないように料理している、もし食べ残しがある場合は他の家族が食べる。	女性	30～39 歳
料理を作った日に古いものから食べる	女性	60～69 歳
食べ残しは次の食事に食べる	女性	70 歳以上
翌日食べる	女性	60～69 歳
次の食事でたべる！	女性	60～69 歳
次の食事でも出す（食べ切る）	女性	60～69 歳
次の時に食べる	女性	70 歳以上
次の日などに食べる	女性	30～39 歳
すぐ次の日食べる…できるだけ!!	男性	70 歳以上
翌日でも食べる	男性	40～49 歳
別の日に食べる	女性	60～69 歳
食べ残しが出ても、翌日 消費するように努めているのでゴミとして排出することはない	男性	60～69 歳
残り物から食卓に出して食べる	女性	60～69 歳
手つかずであれば煮付けたり揚げたりして使う	女性	70 歳以上
次の日の朝や、弁当にしている	女性	50～59 歳
リメイクするなどして、翌日食べている	女性	50～59 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

料理のリメイク	女性	60～69 歳
翌日新たな料理に作り変える	女性	60～69 歳
メニューを変えて、新しいおかずにする	女性	70 歳以上
スープにしている	男性	60～69 歳
多く食べない	男性	60～69 歳
食べ残しがほとんどない	女性	50～59 歳
食べ残しは基本無し	男性	50～59 歳
食べ残しをしたことが無い。	男性	60～69 歳
残さず食べている	女性	60～69 歳
残さず食べます	女性	50～59 歳
残さない	男性	50～59 歳
殆んど食べ残しはない	男性	40～49 歳
食べきる	男性	70 歳以上
食べ残さない	男性	30～39 歳
食べ残さない	女性	40～49 歳
食べ残さない	女性	50～59 歳
食べ残さない	女性	60～69 歳
食べ残しが出ない様に気をつける	女性	70 歳以上
食べ残しがない	男性	60～69 歳
食べ残したことがないので分からない	男性	18～19 歳
食べ残しはしない	女性	50～59 歳
食べ残しはない	女性	60～69 歳
食べ残しは無い	女性	60～69 歳
食べ残すことはあまりしないように気をつけている	女性	70 歳以上
食べ残すことはない	女性	70 歳以上

問 7.4 あなたは、住宅用太陽光発電設備を設置する予定がありますか。

その他回答内容	性別	年齢
部品等交換、更新時の費用が高い	男性	50～59 歳
初期費用の他廃棄費用が高いので使用しない。	女性	30～39 歳
月々の光熱費と費用が同じくらいなら考える	男性	60～69 歳
具体的に費用を調べたことがないが関心はある	女性	60～69 歳
ペロブスカイトが低廉化したら設置	男性	60～69 歳
秋田県ではむずかしいのでは？日照時間が少ない	女性	50～59 歳
日当たりが悪い	女性	70 歳以上
家が古いので予定ない	女性	70 歳以上
新しく家を建てる時は設置したい	男性	70 歳以上
年齢が高いので設置する必要を考えてる	女性	70 歳以上
ソーラーパネルのリサイクルが可能なら検討したい	男性	60～69 歳
災害用に持っている	女性	60～69 歳
家に全空調設備をしている	女性	70 歳以上
借家で築 50 年以上たっているのでできないと思う	女性	70 歳以上
借家	女性	50～59 歳
借家	女性	60～69 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

個別対応は環境に悪いと思っているのでやらない。	男性	40～49 歳
雪でつぶれ放置されているのを見て環境破壊だと思っている	男性	30～39 歳
半導体開発技術者だった私からすると、太陽光発電がエコだというのはまやかしかだ。SDGS、温暖化防止を唄った企業は全てまやかしかで、商売の都合上そう言っているだけだ。	男性	60～69 歳

問 7.6 あなたが知っている、秋田県温暖化対策課等の施策について教えてください。

その他回答内容	性別	年齢
風力発電	女性	50～59 歳
省エネ家電購入時に補助金、コンポスト等	女性	60～69 歳
省エネ家電購入応援キャンペーン	女性	60～69 歳
省エネ家電	女性	50～59 歳
あきた省エネ家電購入応援キャンペーン	男性	70 歳以上
あきた省エネ家電購入応援キャンペーン	女性	60～69 歳
エネルギー消費量の少ない電気機器の購入など	女性	70 歳以上
根本が間違っている。まず、気候変動が現実に行き始めているのか、起きているとすればその最大要因は何であるか、の基礎研究に手厚い支援をするべきだ。CO2 の排出のせいで温暖化が起きていると短絡的に決めつけて、有象無象の団体に補助金をつけてやっつけ感を出しているのは 税金の無駄遣いだと思う。	男性	60～69 歳
聞いた事はあるが、考えた事はない。	男性	70 歳以上
あまりニュースを見ない	女性	20～29 歳
ずっと都内で暮らしていたので、秋田について知らないことが多いかもです。	男性	20～29 歳
知らない	その他	40～49 歳
環境保全の活動は良いと思うが温暖化対策というのは無意味だと思う	女性	60～69 歳
意味がわからない	女性	70 歳以上
内容がわからない	男性	40～49 歳
分からない	女性	40～49 歳
わからない	女性	50～59 歳
よくわからない	女性	70 歳以上
よくわからない	女性	70 歳以上

問 7.7 あなたは、地球温暖化の防止に向けて、県にどのような取組を期待しますか。

その他回答内容	性別	年齢
難しいことだと思いますが ①肉食しない。特に牛肉を食すことを少なくする。②衣類品などもリネンやコットンを使用すると燃やしてゴミにする時も、有害な空気にならないのかなど思います。③農薬を少なくする。母は自然栽培でお野菜を作ってます。④家庭の洗剤も薬品も強いもので水や空気を害しているので自然界に優しいのにする。	男性	20～29 歳
食品に含まれる酸化防止剤など身体に悪影響を及ぼすものへの学習などと共に小さい頃から、学校教育に環境問題をもっと身近な（食品などで）調査活動をとり入れてほしい	女性	60～69 歳
あげ油の処理にこまってるかたもおおいとおもうので、そちらで、何かしたらいいかと	その他	40～49 歳

## V. 参考資料：その他回答内容一覧

落ちていたらゴミを拾う等誰もが気づいたら行えるような身近な取り組み	女性	30～39 歳
農業に対する情報。栽培品目や時期の見直し等	女性	50～59 歳
農薬・肥料から出る亜酸化チッソガス (N2O) 削減	女性	60～69 歳
農業の現場での規格外で廃棄される農産物への対策をしてほしいです。ここに「大変な食品ロス」が存在しているので…。	女性	50～59 歳
太陽光発電した分をもう少し高く買ってほしいです。(発電した電気代) それだけでも設置する家庭が多くなると思います。	女性	50～59 歳
ソーラーパネル設置の制限、風力発電事業の撤廃、ハイブリットカーをなくす、自民党の打倒、中国資本を入れない。地球温暖化に対して正しく学び直して下さい。食品ロスと関係ない	男性	50～59 歳
ソーラーパネル (メガソーラー) をやめる	女性	20～29 歳
ソーラーが逆に高熱になって森林を壊していないかも調べてほしい	女性	50～59 歳
現行の太陽光パネル発電は禁止する事	男性	70 歳以上
風力発電の実施 洋上	男性	60～69 歳
洋上風力の責任のとり方	男性	50～59 歳
風力発電はエコではない 自然破壊だ、止めて欲しい “ビニール袋をお金で売るのも止めてほしい” マイバック、買い物かご 100%を目指そう!	女性	50～59 歳
役人・公務員の考えを排除 庶民目線での広報活動を期待	男性	60～69 歳
環境マフィアの野放図な活動の抑制と、気候変動に関する基礎研究に対しての補助金、関連学部の学生に対する手厚い奨学金	男性	60～69 歳
植林、山保全	男性	20～29 歳
広葉樹林の再生	男性	40～49 歳
地下資源の限りがあるためコンクリート、アスファルトでなく (庭) グリーン(緑・土) で地下への水の浸透を促す取組	女性	70 歳以上
何をとっても産業なので洋上風力、太陽光パネルも… CO2 とはいうが、森林を切り開いてやる意味がない。なぜ人口 GDP 減で電力が上がるのかが分らない。先進国が何かをすると汚れる国があることをきちんと教えて欲しい。何で昔から技術がないただただ活用されてるのが秋田	男性	30～39 歳
地球温暖化防止を掲げて環境破壊をするようなことがないようにしていただきたい。何かをすることにより結果別で不具合が出るようなら何もしない方がよい。	女性	40～49 歳
行きすぎた再エネルギーを抑制し、次世代原発に回帰、推進してほしい。	男性	50～59 歳
全インフラ整備に傾注	男性	70 歳以上
札幌市でやってるような気候市民会議を開催してはどうか。	男性	70 歳以上
個別モニター実施	女性	50～59 歳
A～H まですべてに○ですが特に力を入れてほしいのは災害の防止に地震・台風・大雨に力を入れてほしい。	男性	70 歳以上
罰則規定の設置	男性	60～69 歳
ブルシットジョブを世の中から排除する	男性	40～49 歳
オール電化の住宅は何か「サギ」にあったよう!	男性	70 歳以上
秋田県は全国最下県と思っている	男性	70 歳以上
自治体でなんとかできるレベルではない	男性	30～39 歳
意味ないからその予算を他へ	男性	40～49 歳
地球温暖化の原因を決めつけるのではなく、省エネやエコ活動を推進すれば良いと思う。	女性	40～49 歳

V. 参考資料：その他回答内容一覧

地球温暖化は温室効果ガスの影響によるものといわれているが、実際は温室効果ガスの排出の増減に限らず地球温暖化は起こりうるものであって、温室効果ガスを削減しようとする利害関係者への補助金をばら撒く施策ではないか、を明らかにしてほしい。	男性	20～29 歳
そもそも地球温暖化は CO2 だけの問題なのか？疑問 でも日中ひとりの時はストーブ、エアコンは使わないようにして、冬は厚着をし夏はペットボトルを凍らせて背中に入れしのいでいます。生ゴミ（特にスイカ、メロンなどの皮）は天日干ししてから生ゴミに出すようにしています（冬以外）	女性	60～69 歳
そもそも地球温暖化に CO2 が関係している事は無いと信じてます。CO2 はサギと信じている	男性	60～69 歳
地球温暖化は嘘	女性	40～49 歳
地球温暖化は CO2 のせいでは無いので。	男性	60～69 歳
温暖化否定	男性	50～59 歳
温暖化はしていないので別のことに期待したい	女性	60～69 歳
しなくてよい	男性	50～59 歳
あまり期待はしていない。	女性	40～49 歳
期待はしてない	男性	70 歳以上
期待しない	男性	60～69 歳
期待していない	女性	20～29 歳
期待していない	男性	60～69 歳
特に何も期待しない	男性	30～39 歳
期待することはない。SDGS が始まる前から取り組んでおけば！と思う。	女性	40～49 歳
特にない	女性	20～29 歳
特にありません	男性	70 歳以上
難しい問題、よくわからない…	女性	70 歳以上
わからない。	女性	70 歳以上
わからない	女性	70 歳以上
わからない	女性	50～59 歳
わからない	男性	70 歳以上
わからない	女性	70 歳以上
わからない	女性	50～59 歳
わからない	女性	50～59 歳
分からない	女性	30～39 歳
知らない	男性	30～39 歳



食品ロスに関する県民意識調査  
報 告 書  
令和 8 年 2 月

秋田県 生活環境部 温暖化対策課  
〒010-8570 秋田市山王四丁目 1 番 1 号  
電話 018-860-1560 FAX 018-860-3881

